

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第495集

みやざわはらした  
**宮沢原下遺跡発掘調査報告書**

平成17年度国営いさわ南部農地整備事業関連調査

2007

農林水産省東北農政局  
いさわ南部農地整備事業所

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

# 宮沢原下遺跡発掘調査報告書

平成17年度国営いさわ南部農地整備事業関連調査



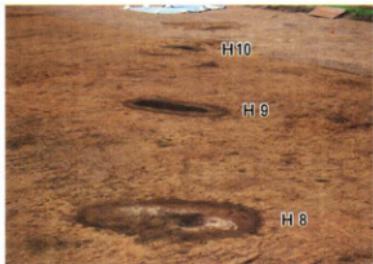
宮沢原下遺跡遠景（南東上空から 矢印が調査地点）



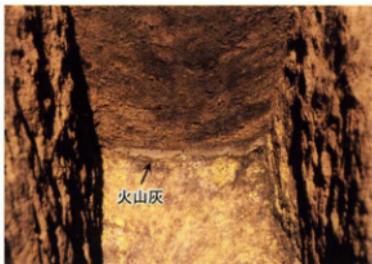
調査区全景（南上空から）



調査区全景（東上空から）



陥し穴状遺構検出状況（H 8～H10 南西から）



底面火山灰確認状況断面（H34陥し穴状遺構 南から）



底面火山灰確認状況平面（H80陥し穴状遺構 東から）



工具痕とみられる痕跡（H32陥し穴状遺構西壁 東から）

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す貴重な埋蔵文化財包蔵地が残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業團埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、国営いさわ南部農地整備事業に関連して平成17年度に発掘調査された奥州市(胆沢区)宮沢原下遺跡の調査成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代及び平安時代の陥し穴状造構が多数見つかったことから、当時の狩猟の場であったことが明らかになりました。陥し穴状造構の底面に十和田a火山灰が含まれているものがあるという成果は、これまでの陥し穴状造構研究において画期的な成果であるとともに、今回の調査において地域の歴史に新たな一ページを書き加えることができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所、奥州市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成19年1月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 武田牧雄

## 例　　言

- 1 本書は岩手県奥州市胆沢区若柳字宮沢原地内に所在する宮沢原下遺跡の調査成果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡台帳における本遺跡の登録番号は NE23-2347、調査略号は MHS 05である。
- 3 本遺跡の発掘調査は、国営いさわ南部農地整備事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所の委託を受けた財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
- 4 野外調査実施期間／実質調査面積／調査担当者（期間）は下記のとおりである。  
平成17年4月13日～8月31日／58,700m<sup>2</sup>  
　　／戸根貴之・村田 淳（4/13～8/31）、林 熊・米田 寛（4/13～5/31）  
　　丁葉正彦・丸山直美（4/22～5/18）、村上 拓・菅野 梢（5/19～6/30）
- 5 室内整理の期間／担当者（期間）は下記のとおりである。  
平成17年11月1日～平成18年3月31日／戸根貴之（11/1～3/31）、菅野 梢（3/1～3/31）
- 6 本文の執筆・編集等は全て戸根の総括の下で行った。ただし、Iについては農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所、附編については各委託機関に依頼した。
- 7 本書中に示した平面座標標は平面直角座標第X系（世界測地系）を用いている。なお、基準点測量業務は㈱東開技術に委託した。
- 8 野外調査では、農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所・奥州市教育委員会ならびに遺跡周辺住民の方々より多大なるご協力を得た。
- 9 各種分析・鑑定・保存処理は下記の方々・機関に委託した（敬称略）。  
放射性炭素年代測定：パリノ・サーヴェイ株式会社、（株）加速器分析研究所  
石質鑑定：花崗岩研究会  
炭化材同定：阿部 利吉（チャコールアドバイザー）  
火山灰分析：パリノ・サーヴェイ株式会社、柴 正敏（弘前大学理工学部）
- 10 陥し穴状遺構については佐藤宏之氏（東京大学大学院人文社会系研究科）から御指導頂いた。
- 11 野外調査では、以下の方々のご指導・ご協力をいただいた（敬称略）。  
佐々木いく子・朴沢志津江（奥州市教育委員会）、及川司（平泉町文化財センター）、酒井宗孝（花巻市立博物館）、木澤慎輔
- 12 本遺跡出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターで保管している。
- 13 今回の発掘調査による成果は岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第490集「平成17年度発掘調査報告書」（宮沢原下遺跡 第1次調査で収録）及び現地説明会（平成17年7月23日）などで公表しているが、本書を正式な報告とする。

## 目 次

I 調査にいたる経過	1	V 出 土 遺 物	105
II 立 地 と 環 境	2	1 土 器	105
1 遺跡の位置と立地	2	2 石 器	105
2 遺跡周辺の地形	2	VI 考 察	108
3 基 本 層 序	3	1 火山灰を含む陥し穴状遺構について	108
4 周 辺 の 遺 跡	5	(1) 火山灰の堆積状況について	108
III 野外調査と室内整理	7	(2) 火山灰を含んだ陥し穴状遺構の	109
1 野 外 調 査	7	形態について	109
(1) 調査区	7	(3) 年代について	109
(2) 調査経過	7	(4) 結論	110
(3) 調査体制	9	2 T.工具痕について	111
(4) 確認調査	9	3 文献にみられる陥し穴について	111
(5) グリッドの設定と基準点	10	VII ま と め	113
(6) 試掘・表土除去	11	附 編	114
(7) 遺構検出・精査	11	1 宮沢原下遺跡における土坑出土炭化	
(8) 遺構の名称	13	物の放射性炭素年代測定および火山	
(9) 実測	13	灰の分析	114
(10) 土層断面の分層と注記	13	2 放射性炭素年代測定の結果	117
(11) 写真撮影	14	3 宮沢原下遺跡出土の火山灰について	119
(12) 広報活動	14		
2 室 内 整 理	14	抄 錄	193
(1) 作業手順	14		
(2) 遺構	14		
(3) 遺物	14		
IV 検 出 遺 構	15		
1 調 査 の 概 要	15		
2 検 出 遺 構	15		
(1) 焼上遺構	15		
(2) 陥し穴状遺構	15		

## 図版目次

第1図 遺跡位置図	2	第21図 D区 陥し穴状遺構(2)	70
第2図 遺跡周辺の地形分類	3	第22図 D区 陥し穴状遺構(3)・	
第3図 基本土層柱状図	4	E区 陥し穴状遺構	71
第4図 宮沢原下遺跡周辺の地形及び遺跡分布	6	第23図 F区 陥し穴状遺構	72
第5図 調査区・は場整備工事計画	8	第24~29図 G区 陥し穴状遺構(1)~(6)	73~78
第6図 8月29日確認調査トレント配置図	10	第30~51図 H区 陥し穴状遺構(1)~(22)	79~100
第7図 グリッド配置図	12	第52図 H区 陥し穴状遺構(23)・	
第8図 G区 塗土遺構	15	1区 陥し穴状遺構(1)	101
第9図 陥し穴状遺構形態分類模式図	23	第53図 I区 陥し穴状遺構(2)	102
第10~15図 A区 陥し穴状遺構(1)~(6)	59~64	第54、55図 J区 陥し穴状遺構(1)、(2)	103~104
第16~19図 B区 陥し穴状遺構(1)~(4)	65~68	第56図 出土遺物	106
第20図 C区 陥し穴状遺構			
D区 陥し穴状遺構(1)	69		

## 表目次

第1表 宮沢原下遺跡周辺の遺跡	5	第6表 山土石器類觀察表	107
第2表 各区分別調査体制及び調査期間	9	第7表 宮沢原下遺跡における十和田a火山灰を含む陥し穴状遺構一覧	108
第3表 A区確認調査における検出遺構及び工事計画標示との関係	10	第8表 火山灰を含んだ陥し穴状遺構における放射性炭素年代測定結果	110
第4表 基準点座標一覧	11		
第5表 山土土器觀察表	107		

## 写真図版目次

写真図版1 航空写真	125	写真図版23 E区 陥し穴状遺構・調査終了状況	147
写真図版2 基本層序(1)	126	写真図版24 F区 調査前状況・調査終了状況・陥し穴状遺構	148
写真図版3 基本層序(2)、8/29確認調査状況	127	写真図版25 G区 調査前状況・陥し穴状遺構(1)	149
写真図版4 A区 調査前状況・確認調査状況・陥し穴状遺構(1)	128	写真図版26~32 G区 陥し穴状遺構(2)~(8)	150~156
写真図版5~11 A区 陥し穴状遺構(2)~(8)	129~135	写真図版33 G区 陥し穴状遺構(9)・塗土遺構・調査終了状況	157
写真図版12 A区 調査終了状況	136	写真図版34 H区 調査前状況・陥し穴状遺構(1)	158
写真図版13 B区 調査前状況・陥し穴状遺構(1)	137	写真図版35~59 H区 陥し穴状遺構(2)~(26)	159~183
写真図版14~16 B区 陥し穴状遺構(2)~(4)	138~140	写真図版60 H区 陥し穴状遺構(27)・調査終了状況(1)	184
写真図版17 B区 陥し穴状遺構(5)・調査終了状況	141	写真図版61 H区 調査終了状況(2)	185
写真図版18 C区 陥し穴状遺構(1)	142	写真図版62、63 I区 陥し穴状遺構(1)、(2)	186~187
写真図版19 C区 陥し穴状遺構(2)・調査終了状況	143	写真図版64~66 J区 陥し穴状遺構(1)~(3)	188~190
写真図版20 D区 調査前状況・陥し穴状遺構(1)	144	写真図版67 I区、J区 調査終了状況	191
写真図版21 D区 陥し穴状遺構(2)	145	写真図版68 出土遺物	192
写真図版22 D区 陥し穴状遺構(3)・調査終了状況	146		

## I 調査にいたる経過

国営いさわ南部農地整備事業実施地区は、岩手県の西南部に位置し、胆沢川から北上川にかけての扇状地の右辺部、標高110～210mの段丘上に立地している。

この地区的農業は、水田を主体とした経営により発展してきたものの、所有耕地が分散し区画形状は未整備もしくは昭和30年代に整備された10a区画がほとんどで、かんがい用水不足に加え、用排水路も未整備なことから、農業の近代化が困難なまま生産性の低い農業経営を余儀なくされている。

このため、農用地の効率的利用と、労働生産性の高い農業経営の展開が可能な生産基盤を形成するため、国営かんがい排水事業により基幹的な用排水施設を整備し、本事業では既耕地を再編整備する区画整理1,089haと地目変換による農地造成11haの地域を一體的に施工し、併せて担い手への農地利用の集積による経営規模の拡大と経営の合理化を図るとともに、土地利用の整序化を通じ農業の振興を基幹として本地域の活性化に資することを目的に、平成11年度より事業を進めてきた。

事業実施にあたっては、埋蔵文化財包蔵地の所在等の事前調査が必要になることから、この地区的埋蔵文化財包蔵地の所在について、平成8年度に岩手県教育委員会へ分布調査を依頼した。

この依頼を基に、岩手県教育委員会は平成8年度に分布調査を実施し、「上中沢1遺跡」ほか29遺跡を確認した。この中に宮沢原下遺跡も含まれている。

その結果に基づいて岩手県教育委員会は、農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所に対し事業予定等について照会した。

回答を受けた岩手県教育委員会は、農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所と協議を行い、確認調査を財團法人岩手県文化振興事業団の平成16年度受託事業とし、平成16年1月16日付け「教生第1667号」で財團法人岩手県文化振興事業団へ、平成16年3月8日付け「教生第1887号」により農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所長へそれぞれ通知した。

上記通知を受けた財團法人岩手県文化振興事業団は、「宮沢原下遺跡」ほか3遺跡について東北農政局いさわ南部農地整備事業所と協議のうえ委託契約を締結し、確認調査を平成16年10月1日から11月17日まで実施したところ、縄文時代の隆起穴状遺構などの遺構が検出された。

上記の回答を受けた岩手県教育委員会は、農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所と改めて協議を行い、発掘調査を財團法人岩手県文化振興事業団の平成17年度受託事業とし、平成17年1月17日付け「教生第1447号」により財團法人岩手県文化振興事業団へ、平成17年2月28日付け「教生第1645号」により農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所長へそれぞれ通知した。

上記の通知を受けた財團法人岩手県文化振興事業団は、宮沢原下遺跡について農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所と協議のうえ、平成17年3月30日に発掘調査に係る協定書を交わし、平成17年4月1日に委託契約を締結のうえ、発掘調査を実施することとなった。また、前年度確認調査が行えなかった調査区西端の確認調査も併せて行うこととなった。

(農林水産省東北農政局いさわ南部農地整備事業所)

## II 立地と環境

### 1 遺跡の位置と立地（第1図）

宮沢原下遺跡は岩手県奥州市胆沢区若柳字宮沢原地内に所在する遺跡である。

奥州市は、岩手県の南部に位置し、北に胆沢郡金ヶ崎町、北上市、花巻市、東に一関市、遠野市、気仙郡住田町、南は西磐井郡平泉町及び一関市、西は秋田県雄勝郡東成瀬村に接し、平成18年2月20日の旧水沢市、江刺市、胆沢町、前沢町、衣川村5市町村の合併によりできた市である。東西約57km、南北約37km、総面積993.35km<sup>2</sup>を測り、人口約13万人（平成18年2月現在）を有する。

遺跡はJR東北本線水沢駅の西南西約15km、奥州市の中北部に位置する。胆沢川と衣川に挟まれた胆沢扇状地に形成された段丘上に立地する。胆沢扇状地に形成される段丘は高位面から一首坂、上野原、横道、堀切、福原、水沢高位、水沢低位とあるが、宮沢原下遺跡はそのうちの堀切段丘の縁辺部に立地する。国土地理院発行の25,000分の1地形図「供養塚」NJ-54-13-16 1（盛岡16号-1）の図幅に含まれ、北緯39度6分57秒、東経141度0分41秒付近にある。標高は180～183m、胆沢川の現河道との比高は約30mを測る。調査開始前の状況は水田及び畠地である。

### 2 遺跡周辺の地形（第2図）

地形的に見ると、遺跡の所在する奥州市胆沢区は、西方にある奥羽山脈の山裾、胆沢川及び衣川によって形成された胆沢扇状地上に位置し、胆沢区域の大半はこの扇状地上に立地する。奥州市胆沢区の北辺を流れる胆沢川は胆沢区馬留付近から東に蛇行しながら流れるが、胆沢区出店付近で流路を北東方向へ変え、北上川に注ぐ。この胆沢川は奥州市胆沢区と胆沢郡金ヶ崎町との境界をなしている。

遺跡の所在する胆沢川右岸は、扇状地性の台地として発達している。宮沢原下遺跡はこのうちの中位段丘である堀切段丘の縁辺部に位置する。胆沢川が形成した河岸段丘については、氷河性海面変動ならびに各段丘面に堆積したテフラの分析を基軸とした形成年代の特定がある程度なされており、古い順に高位段丘（14万～45万年前に形成）、中位段丘（5～9万年前に形成）、低位段丘（3000～2万年前に形成）という分類がなされている。これらはさらにT1（大歩面）、T2（一首坂面）、T3（西根面）、H1（上野原面）、H2（横道面）、M1（堀切面）、M2（福原面）、L1（水沢高位面）、



第1図 遺跡位置図

L2(水沢低位面)の9面に細分される(大上・吉田 1984)。本遺跡の位置する堀切段丘は形成年代がやや古い中位段丘にあって、大歩、一首坂、西根、上野原、横道に次いで形成された段丘との見方がなされており、今から約8~9万年前に形成されたとされる(渡辺 1991)。次節で述べる各区の基本層序の標高を見てもわかるように、西から東に向かって高度を減じるとともに、段丘線近部に本遺跡は位置するため、北へ向かっては急激に高度を減じている。

さらに、本遺跡周辺は湿地帯になっていたところも多く、本来の地形は起伏が大きかったと思われる。本遺跡での遺構確認は後述する基本層序のⅢ層及びVa層が基本であるが、一部Va層を飛び越してVb層で確認される遺構があることは、本来の地形が平坦でなかったことが推定される。



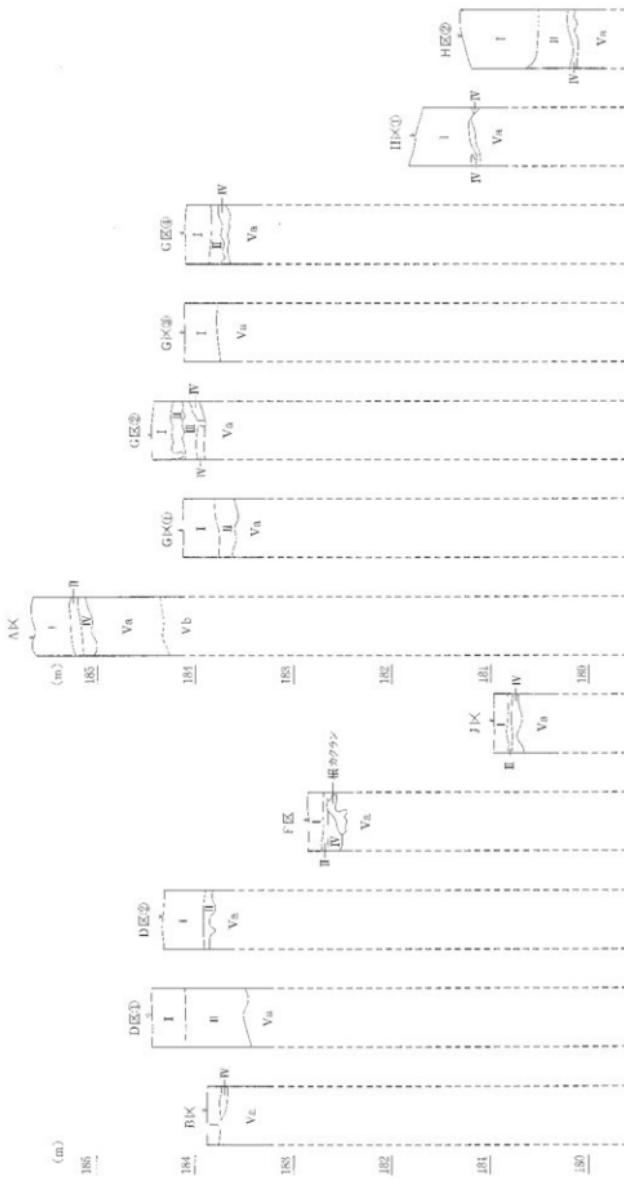
第2図 遺跡周辺の地形分類 ((財)岩手県文振文センター2005 を一部改変)

### 3 基本層序(第3図、写真図版2・3)

野外調査では、遺跡内に堆積する土層の新旧関係及び各層の時期を把握するよう努めた。第3図は宮沢原下遺跡の基本層序模式図である。

基本層序はおおよそ以下のように区分される。なお、本遺跡周辺は第二次世界大戦後の開拓及びかつての圃場整備等による削平を受けており、土層の残りは非常に良くない。

- I層 黒褐色～暗褐色シルト。層厚15~65cm。現在の耕作土及びかつての圃場整備の際の盛土。
- II層 黒～褐灰色シルト及び粘土。層厚0~50cm。かつての圃場整備の際に残った旧耕作土や盛土。
- III層 暗褐色シルト。層厚0~15cm。G区南西部のみに認められ、遺構確認面になる。ほとんどの地点では削平により残っていない。十和田a火山灰が窪地で堆積している例が観察される。
- IV層 暗褐色～にぶい黄褐色シルト及び粘土。層厚0~20cm。V層へむけての漸移層。残存状況は



第3図 基本土層柱状図

極めて不良。

Va層 褐色～黄橙色粘土(地山)。ローム状を呈する。黒沢尻火山灰相当の地山構成層。多くの遺構の遺構確認面。上位地山はこの層のことを指す。

Vb層 黄褐色浮石(地山)。前沢火山灰相当の地山構成層。一部Va層が削られ、この面で検出される遺構がある。下位地山はこの層のことを指す。

#### 4 周辺の遺跡(第4図、第1表)

岩手県教育委員会のまとめによると、平成17年3月末現在で、岩手県内には11,822ヶ所の遺跡が確認されている。奥州市には1,064ヶ所の遺跡が確認されており、このうち胆沢区内には、184ヶ所の遺跡が登録されている。宮沢原下遺跡周辺を概観すると、縄文時代の遺跡を中心に確認され、散発的に古代や中世の遺跡が確認されている。宮沢原下遺跡周辺の主な遺跡の位置及び一覧表が第4図、第1表である。なお、宮沢原下遺跡の所属する主な時期が縄文時代及び平安時代であることから、今回掲載したものは縄文時代・古代が関係する遺跡のみに限定している。

このうち、周辺で発掘調査が行われている主な遺跡について略述する。

宮沢原遺跡(遺跡番号1)は、宮沢原下遺跡の西北西約1.5kmに位置する。胆沢町史ではA～F地点に分かれているが、現在は一連の遺跡として扱われている。昭和36年以降数回の発掘調査が行われており、縄文時代前期から晩期まで続く集落跡である。竪穴住居跡や環状列石、土坑などが見つかっており、多量の土器、石器、石製品、土製品が出土している。

赤糸遺跡(遺跡番号4)は、宮沢原下遺跡の北約0.5kmに位置する。昭和48年に胆沢町教育委員会による発掘調査が行われており、縄文時代後期～晩期の土器、土製品、石器などが出土している。

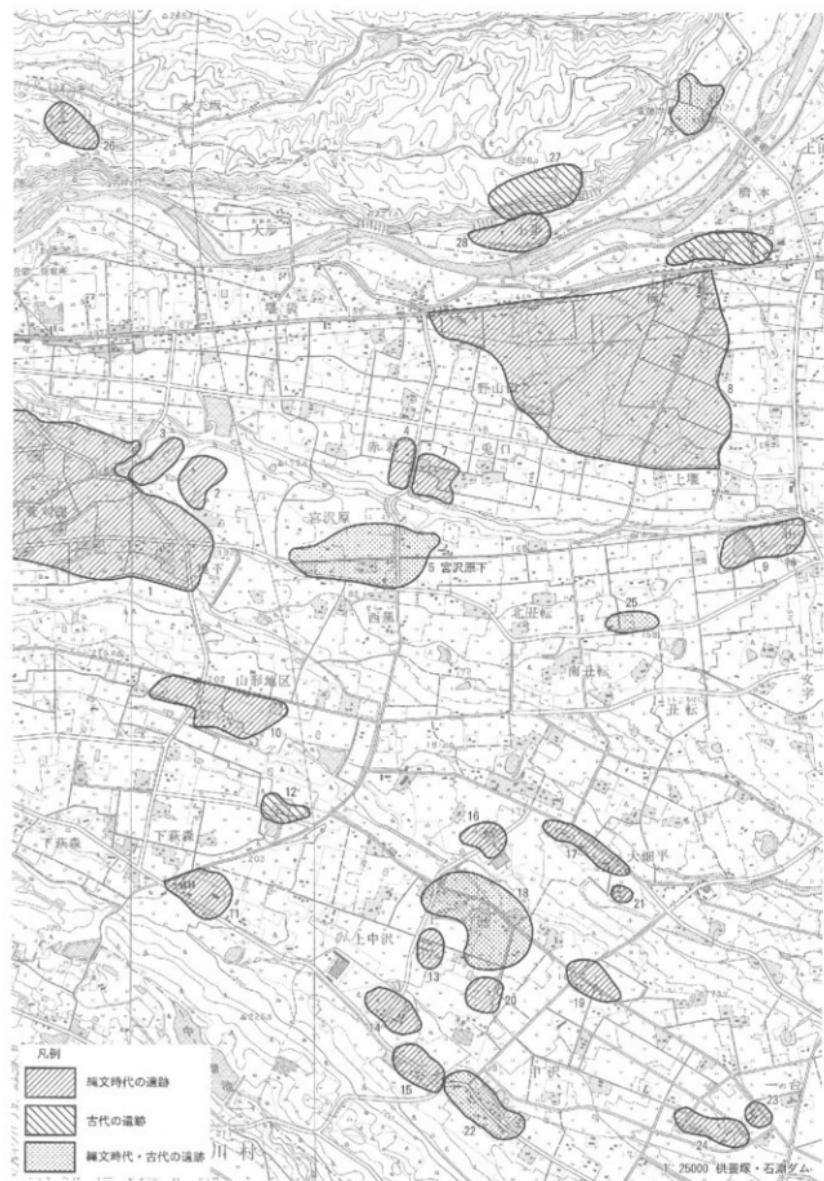
下中沢II遺跡(遺跡番号24)は、宮沢原下遺跡の南南東約3.5kmに位置する。平成12年に岩手県教育委員会による発掘調査が行われており、縄文時代中期の竪穴住居跡、土坑、陥し穴状構造が見つかっている。縄文土器、石器が出土している。

この他に、山の神、北佐軒、上大畠平I～III等の遺跡で当事業に伴う確認調査が行われている。

第1表 宮沢原下遺跡周辺の遺跡

名	市町村名	遺跡名	立地	種別	時代	主な構	重要文化財、史跡
1	奥州市(胆沢区)	奥沢原	みやざわら	先史地	古墳	石室式古墳	史跡「赤井川古墳群」(536.79ha) 村谷、544.42ha(552ha) 町野
2	赤糸町(赤糸村)	赤糸原	なりあわら	古墳地	古墳	石室式古墳	
3	赤糸町(赤糸村)	赤糸原成跡	みやざわらなりあわら	古墳地	古墳	石室式古墳	
4	赤糸町(赤糸村)	赤糸原	みやざわら	古墳地	古墳	石室式古墳	S48 史跡
5	奥州市(胆沢区)	三谷城下	みやざわらこうじした	古墳地・河岸地	古墳	古墳式古墳	史跡「赤井川古墳群」(510ha) 佐原、III7 史跡
6	赤糸町(赤糸村)	赤糸原	みやざわら	古墳地	古墳	石室式古墳	
7	赤糸町(赤糸村)	赤糸原	みやざわら	古墳地	古墳	石室式古墳	
8	赤糸町(赤糸村)	赤糸原	みやざわら	古墳地	古墳	石室式古墳	
9	奥州市(胆沢区)	山の神	やまのかみ	古墳地	古墳	石室式古墳	III11 史跡
10	赤糸町(赤糸村)	二ノ森	じゅうさん	古墳地	古墳	石室式古墳	
11	赤糸町(赤糸村)	小高寺跡	おだかじ	古墳地	古墳	石室式古墳	
12	赤糸町(赤糸村)	野中	のなか	古墳地	古墳	石室式古墳	
13	赤糸町(赤糸村)	二ノ森	いののき	古墳地	古墳	石室式古墳	
14	赤糸町(赤糸村)	上大畠	じょうだい	古墳地	古墳	石室式古墳	
15	赤糸町(赤糸村)	上大畠	じょうだい	古墳地	古墳	石室式古墳	
16	赤糸町(赤糸村)	上大畠半平	じょうだいはんぺい	古墳地	古墳	石室式古墳	
17	赤糸町(赤糸村)	上大畠半平	じょうだいはんぺい	古墳地	古墳	石室式古墳	
18	赤糸町(赤糸村)	山の神	やまのかみ	古墳地	古墳	石室式古墳	
19	赤糸町(赤糸村)	山の神	やまのかみ	古墳地	古墳	石室式古墳	
20	赤糸町(赤糸村)	山の台	やまのだい	古墳地	古墳	石室式古墳	
21	赤糸町(赤糸村)	上大畠半平	じょうだいはんぺい	古墳地	古墳	石室式古墳	
22	赤糸町(赤糸村)	わく	わく	古墳地	古墳	石室式古墳	
23	赤糸町(赤糸村)	わく	わく	古墳地	古墳	石室式古墳	
24	赤糸町(赤糸村)	わくII	わくII	古墳地	古墳	石室式古墳	
25	赤糸町(赤糸村)	わくII	わくII	古墳地	古墳	石室式古墳	
26	赤糸町(赤糸村)	わくII	わくII	古墳地	古墳	石室式古墳	
27	赤糸町(赤糸村)	赤糸原(赤糸原)	あかねだ	古墳地	古墳	石室式古墳	
28	赤糸町(赤糸村)	八字	やまと	古墳地	古墳	石室式古墳	
29	赤糸町(赤糸村)	赤糸原	あかねだ	古墳地	古墳	石室式古墳	

凡例：S：史跡 H：古墳 番号：河手郡赤井川村 古墳：横浜市御前山古墳(534ha) 史跡：御前山古墳(534ha) 史跡：岩手縣史跡事務局御前山古墳文化財センター



### III 野外調査と室内整理

#### 1. 野外調査

##### (1) 調査区(第5図①、②)

宮沢原下遺跡は、東西に向かって長軸が延びた不整規円形状の形をした範囲をもつ遺跡である。長軸約800m、短軸約350m、面積にして約173,000m<sup>2</sup>に及ぶ広大なものである。今回の調査では、国营いさわ南部農地整備事業によって削平を受ける範囲のうち、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課(以下生文課とする)及び当センターによる試掘・確認調査の結果から本調査を要すると判断された、生文課からの調整による面積24,000m<sup>2</sup>、契約締結時面積52,000m<sup>2</sup>が当初対象となった。市道上上橋上中沢線、堰袋・宮沢原線、下萱刈窪・鶴田線で囲まれた範囲がこれに当たる。調査前の現況は、水田及び転作が行われている畠水田である。ほ場整備に伴う土の盛り切りの関係で、調査区が10地点に分かれていることから、原則西から東へA区、B区、C区……とした。そして後述するが、8月2日の終了確認の際に追加となったF区の東に隣接する調査区をI区、J区とした(第5図①)。

なお、田面標高や構造物の位置により、精査を実施した部分、確認調査にとどめた部分があるため、当該区域における工事計画図も付した(第5図②)。

##### (2) 調査経過

今回の発掘調査は、平成17年1月14日付け教生第1447号文書に基づいて、期間は平成17年4月13日(水)から8月18日(木)まで、生文課からの調整による対象面積は24,000m<sup>2</sup>、契約締結時における対象面積は52,000m<sup>2</sup>の予定で開始した。その後、調査の進展に伴う指導や協議等により、最終的に期間は8月31日(水)まで、面積は58,700m<sup>2</sup>を調査対象とすることになった。

調査経過は以下のとおりである。

- 4月13日 調査開始。A区南東端800m<sup>2</sup>が増になる可能性がある旨委託者から連絡がある。その後生文課・当センターで協議の結果、追加となる。
- 4月22日 藤沢町十文字遺跡から丸山調査員・千葉調査員合流。
- 4月26～27日 基準点測量(1回目)実施。
- 5月13日 A区西側6,500m<sup>2</sup>部分終了確認実施。
- 5月18日 丸山調査員・千葉調査員、二戸市(旧淨法寺町)館II遺跡へ移動。
- 5月19日 花巻市(旧石鳥谷町)中村遺跡から村上調査員・菅野調査員合流。
- 5月31日 米田調査員・林調査員、田野畠村千足南遺跡へ移動。
- 6月1～2日 基準点測量(2回目)実施。
- 6月21日 H区北東側において、遺構が東へ延びる可能性が浮上したため、現地協議実施。1,400m<sup>2</sup>分が追加となる。
- 6月30日 村上調査員・菅野調査員、奥州市(前沢区)道上遺跡へ移動。
- 7月13日 A～H区重機による表土除去終了。
- 7月14～15日 生文課確認調査実施。(のちのI区・J区分となる。)
- 7月23日 現地説明会開催(参加者79名)。
- 8月2日 初期調査区(A～H区)終了確認実施。7月14～15日に生文課で確認調査した範囲(I

1. 野外調査



①調査区



②ほ場整備工事計画

第5図 調査区・ほ場整備工事計画

- 区・J区）について、委託者から調査要望があがる。
- 8月4日 8月2日に要望のあったI区・J区（4,200m<sup>2</sup>）について全面追加となり、終了予定が8月18日から8月31日に延長となる。
- 8月9日 航空写真撮影実施。I区・J区調査開始。
- 8月12～17日 お盆休みのため現場閉鎖。
- 8月16日 宮城県南部地震発生（奥州市胆沢区は震度5弱）。
- 8月19日 当初調査区引渡しにかかる協議。平面検出のみの保護造構等があるため、当初区終了は8月24日までとなる。
- 8月25日 I区・J区終了確認実施。現場事務所前のゴミ集積所部分について、事業予定地になるため、確認調査立会いの指導を生文課より受ける。
- 8月29日 現場事務所前ゴミ集積所部分の確認調査立会。
- 8月31日 撤収。
- 9月7日 生文課から24,000m<sup>2</sup>から58,700m<sup>2</sup>への調査面積変更通知文書（教生第905号）到着。

### （3）調査体制（第2表）

宮沢原下遺跡の調査は、4月13日から8月18日までの、当初予定で52,000m<sup>2</sup>に及ぶ大規模面積の調査となった。そこで、調査区をA～Hの8区に分け、調査区分担制による調査を行うこととした（のちにI・J区が追加となつたため、最終的には10区、対象面積は58,700m<sup>2</sup>となった）。体制及び各区における調査期間は第2表のとおりである。

第2表 各区別調査体制及び調査期間

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	備考
A区	耕作	1 25	1 15	1 15	1 15	1 15	9,550m <sup>2</sup>
B区	田園・林		●				2,250m <sup>2</sup>
C区	田園			●			3,900m <sup>2</sup>
D区	林				●		50m <sup>2</sup>
E区	田園・林		●	●	●		5,100m <sup>2</sup>
F区	竹林			●			40m <sup>2</sup>
G区	竹林			●			1,280m <sup>2</sup>
H区	山林・千葉		●				6,500m <sup>2</sup>
I区	声無・木暮・林・樹木・藪野		●	●	●	●	27,700m <sup>2</sup>
J区	灌木・竹林			●			1,800m <sup>2</sup>
計	耕作・林						2,400m <sup>2</sup>
既知櫛柱既知確認	芦場						100m <sup>2</sup>

### （4）確認調査

今回の宮沢原下遺跡の調査には、2回の確認調査が含まれている。本項では確認調査の結果について報告する。

#### 1. A区西側（付図1、第3表、写真図版4）

A区西側に確認を要する部分があり、当初契約の段階で当センターが確認調査を行うこととされ、造構が確認された場合、その周辺を拡張して本調査することとされていた。

そのため、4月14～15日に確認調査を実施した。対象面積3,250m<sup>2</sup>に幅2mのトレンチを6本設定（T1～T6）し、造構の有無を確認した。調査面積は614m<sup>2</sup>である。

基本層序は、1層 水田耕作土（厚さ30～35cm）、2層 黄褐色シルト【地山・造構確認面】（層厚不明）である。

調査の結果、一番東側のT1で東西方向にはじる溝状の陥し穴状造構を1基（本文中のA1陥し穴状造構）検出した。造構検出面及び工事計画標高との関係は第3表のとおりである。

なお、すべてのトレンチで、北側に向かうにつれ地山が下がっていく様子が認められる。トレンチ北側は黄褐色の地山であっても水成堆積の様相を呈している。

T3では、トレンチの一番南側でも水成堆積の様相を呈していた。

西側田面のT4の一番南側では再び水成堆積を呈さない地山が確認されており、これらのことから、T3付近及び田面北側で沢の存在が想定される。

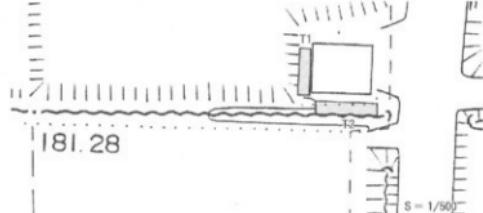
この結果を踏まえ、委託者・岩手県教育委員会・当センターで協議を行った結果、陥し穴状遺構の確認された周辺500m<sup>2</sup>についてA区として拡張のうえ、本調査を行うこととした。

## 2. ゴミ集積所周辺（第6図、写真図版3）

8月25日の追加調査区（I・J区）の終了確認の際に、ゴミ集積所の部分（H区北東端）について、追加で事業予定地になることから、確認調査について委託者から依頼があった。本来であれば文化財保護部局である岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が行うべきものであるが、短期間での日程調整が難しいこと、当センターの調査が8月31日までであることから、委託者・当センター・生涯学習文化課の協議のうえ、当センターで立ち会うこととなり、8月29日に調査を実施した。

調査対象区域100m<sup>2</sup>にトレンチを2本設定（T1～T2）し、遺構の有無を確認した。調査面積は23m<sup>2</sup>である。なお、ゴミ集積所の上層構造物が残っていることからトレンチは構造物の周囲に設定した。

基本層序は、1層 黒褐色土【現表土】（層厚10cm前後）、2層 暗褐色シルトと黄褐色粘土の混合層【盛上】（層厚15～20cm）、3層 黒褐色シルト【炭化物を僅かに含む。旧表土か。】（層厚0～10cm）、4層 黄褐色粘土【地山・遺構確認面】である。調査の結果、T2東側で盛土の下に僅かに旧表土と見られる黒褐色シルトが見つかったが、基本的に現表土及び盛土の下で遺構確認面となる黄褐色粘土層が検出された。遺構・遺物は確認されなかった。この回答を生涯学習文化課に送付した。



第6図 8/29確認調査トレンチ配置図

## （5）グリッドの設定と基準点（第7図、第4表）

検出される各種遺構・遺物の詳細な座標値を記録するため、調査区を覆う碁盤目状のグリッドを設定した。

今回の調査区は広大な遺跡範囲の中に点在している。そのため、各調査区の位置関係を明確に示し、かつ、本遺跡範囲において将来同様の調査が行われる際にそのまま用いることができるよう配慮して、今回の調査区全域を網羅するグリッドを配置した。

グリッドの設定は、平面直角座標（第X系）【世界測地系】に従い、基準点を2点、補助点を12点設定した。

グリッドは、100m四方を単位にして等分した大グリッドを設定する。大グリッドは、X=-98140m、Y=14800mを基準とする。西から東へI、II……、北から南へA、B、C……とし、数字と英字の組み合わせによって名称を付与する（第7図）。その後、大グリッドを4m単位で等分し、西から

東へJ～Zまでの名称を、北から南へa～yまでの名称を付与し、小グリッドを設定する。すなわち、X=98,140m、Y=14,800mの基準点のグリッド名称は、IA1aとなる。現地では各小グリッドの北西隅に位置する杭にその小グリッドの名称を表記して用いた。本書中のグリッド表記では、原則として、小グリッドの北西隅に位置する杭を表記しているが、造構平面の位置が小グリッドの杭から著しく離れている場合、小グリッド+方角+距離で示している場合がある。IA21c+E2 mの場合、IA21eの杭から東に2m離れていることを示す。すなわち北西隅が小グリッド名で対応できる場合は、方角+距離については表記していない。

上記のグリッドを実際に調査区に割り付けるため、現地には基準杭とこれを補う区画割付杭を打設した。

基準杭及び区画割付杭の第X系座標値(X、Y)と標高値(H)、及び対応するグリッド杭名は第4表のとおりである。

第4表 基準点座標一覧(世界測地系による)

測点グリッド区	X(m)	Y(m)	H(m)	測点グリッド区	X(m)	Y(m)	H(m)		
基準点1 II B21a	A	98140.000	15080.000	185.490	補点6 IV B1a	G	98140.000	15200.000	183.850
基準点2 IV A1u	G	-98120.000	15200.000	183.999	補点7 IV B11p	D	98200.000	15240.000	183.926
補点1 II B21f	A	-98160.000	15080.000	185.631	補点8 IV B11u	D	98220.000	15240.000	184.002
補点2 IV A1k	G	-98080.000	15200.000	184.054	補点9 VA6u	H	-98120.000	15320.000	182.759
補点3 III A21u	G	-98120.000	15180.000	184.093	補点10 VA16u	H	-98120.000	15360.000	182.311
補点4 V A1p	H	-98100.000	15300.000	183.069	補点11 VI A1u	H	-98120.000	15400.000	182.258
補点5 V A1u	H	-98120.000	15300.000	183.032	補点12 VI A11u	H	-98120.000	15440.000	181.693

## (6) 試掘・表土除去

調査は、調査区をA～Jの計10区に分けた。その後、各区で試掘トレンチを設定し、土層の堆積状況を確認後、表土を重機で除去した。平成16年度に当センターで実施した試掘調査の際の深掘りトレーニチ等で基本層序の確認を行うとともに、人力による造構検出を行った。ただし、バックホー等の機械類、調査員の配置等の関係で、一斉に調査区全面に対して調査員を配置できないことから、最初にA・D・G区において、試掘・表土除去・精査を行い、当該調査区の調査が終了後、順次B・C・E・F・H・I・J区へ入り、上記の工程により調査を行った。つまり、各区において、試掘→表土除去→精査という流れで調査を行った。

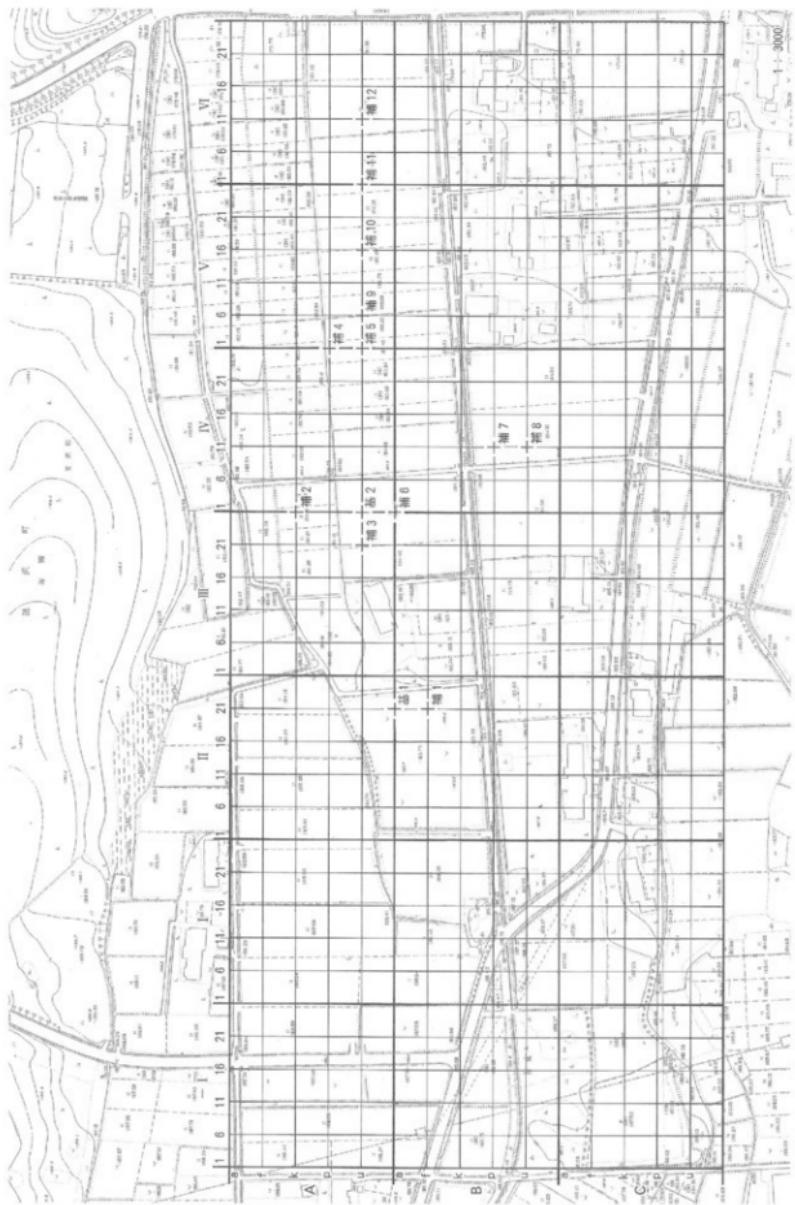
調査では、まず対象区域に任意にトレーニチを設定し、バックホー掘削によって土層の堆積状況と造構の存否を把握した。試掘及び昨年度当センターで実施した確認調査により造構・遺物が確認されなかつた範囲については、これをもって調査終了とした。一方、造構が確認された場合は、その上面を面的に広げるように上層を除去した。この際、バックホー・キャリアダンプ等の重機を積極的に用いたが、検出面までの上層が薄い場合など、重機の使用が適切でないと判断した区域では、人力による掘削を行った。

なお、H区については対象面積が27,100m<sup>2</sup>と非常に広大であることから、調査前の田面1枚を1つのトレーニチとし、1枚おきに表土除去を行った。

## (7) 造構検出・精査

表土除去の後、<sup>じかん</sup>漁簾・両刃草削り・移植ベラを用いて、造構検出を行い、必要に応じてスプレー塗料による白線で造構プランにマーキングを施した。

精査では造構の規模に応じて2分法・4分法を使い分け、土層断面を観察しながら、埋土を除去し



第7図 グリッド配置図

た。検出時に遺構の重複が認められた場合、なるべく平面観察で新旧関係を把握するように努め、原則として新期のものから順に埋土の掘削を行った。この場合、両者を縦断する断面を設定し上層の堆積状況からも併せて新旧関係を検討した。また、平面プランの確定や埋土の解釈が困難な場合には、積極的にサブトレントを活用して、これらの確認に努めた。これにより、光掘段階には平面プランの一部がサブトレントで壊された状態になったものも多い。出土した遺物は、遺構名やグリッド名及び出土層位を記録して取り上げ、必要に応じて出土状況記録として実測・撮影を行った。

なお、A区西側（確認調査区を除く）、B区南側については、平成16年度に実施した確認調査のトレントの間にトレントを設定し、遺構が確認されなかったことから、トレント調査のみで終了とした。

### （8）遺構の名称

#### ①野外調査中の仮名称

遺構名は、遺構の種類毎に、次のような記号を定め、数字をつけ、遺構名の前に調査区名を付して仮番号とした。

SK1、SK2、SK3、～：上坑（陥し穴を含む） SX1、SX2、SX3、～：その他遺構

（例）A-SK1 A区の1号上坑

以上の仮名称は、室内整理段階でも作業用遺構名としてそのまま使用した。

#### ②木書中の掲載名称

遺構は掲載にあたって仮名称を変更し、区毎に1からの連番とした（A1陥し穴状遺構など）。

### （9）実測

遺構・出土状況等の平面実測は、光波トランシットを用いて行った。縮尺は1/20とした。トレント位置図・遺構配置図・現況地形図等の作成も光波トランシットを用いて行った。

断面図は水平に設定した水系を基準にして実測・作図した。縮尺は1/20を基本とし、細部表現を要する場合には、1/10図も作成した。

### （10）上層断面の分層と注記

遺構やトレントなどの土層断面は慎重に観察し堆積状況を把握するように努めた。分層は堆積過程を表現するのに必要と思われた場合は細部にも配慮したが、薄層が連続的に互層をなす部分や、偶然の結果と思われる混入物の偏りなどは徒に細分せず、有意と思われるまとまりの境界を表現するよう努めた。

この分層の根拠を示すため、各層の性状を記録し、色調・土性・混入物・粘性・締まりの程度等を記載した。また、解釈可能な場合は、その層の持つ性格を想定し付記した。

七色の表記は新版標準土色帳（農林水産省農林水産技術会議事務局）に準じたが、調査員が受ける層間の印象の差が土色名の違いとして反映されない場合も多くあった。このため、各層の記録には調査員個人の主觀による相対的な層全体の印象（明暗や色味の差）も併記した。例えば、「○層よりも明るい」・「號上含み全体に赤味」・「炭化物多く黒み強」・「地山含み黄味がかる」等の表現がこれにあたる。また、混入物の量について「極微」・「やや多」等の表記としたが、調査員の主觀的基準を土色帳に示されているバーセント表記に置き換えれば、概ね下記のとおりとなる。

極微(1～2%)・微(3～5%)・少(5～10%)・やや多(15～30%)・多(30～50%)・大量(50%以上)

なお、調査体制で前述したように、今回の宮沢原下追跡は調査区分担制による調査したことから、分層・注記においては、各調査員間でばらつきがあることをあらかじめ承認したい。

### (11) 写 真 摄 影

野外調査では、 $6 \times 7\text{ cm}$ 判カメラ（モノクロ）、 $35\text{mm}$ 判カメラ（カラーリバーサル・モノクロ）、デジタルカメラを用い、各種遺構の全景・土層断面・遺物出土状況等を撮影した。撮影に際しては、撮影状況を記したカードをその都度写し込み、現像後これを元に整理した。撮影は $35\text{mm}$ 判カメラ・デジタルカメラを基本とし、必要に応じて $6 \times 7\text{ cm}$ 判カメラを使用した。また、省略したカットや不手際により必要なカットを撮影できなかつたものもある。また、これらとは別に、8月9日（火）にセスナ機による遺跡の航空写真撮影を行った。

### (12) 広 報 活 動

埋蔵文化財に対する啓蒙活動の一環として、平成17年7月23日に調査成果を公開する現地説明会を開催した（参加者数79名）。

## 2 室 内 整 理

### (1) 作 業 手 順

野外調査終了後、室内において遺物洗浄、地点別の仕分・分類、土器の接合・復元作業を行い、随時掲載資料の選別・登録を行った。その後写真撮影、実測図作成・拓影作成・トレイスの順に作業を進めた。調査員はこれらの作業の統括と並行して図面合成・遺物観察表作成・原稿執筆を行った。

### (2) 遺 構

各遺構は第2原図を作成し、トレイス後図版を作成した。図中には縮尺を示すスケールを付し、また、方位マークにより座標北を示した。本書に記載の造構実測図に付した方位は、平面直角座標第X系（世界測地系）による座標北を示す。土層注記は、基本土層にローマ数字、造構埋土にアラビア数字を用いた。

### (3) 遺 物

土器は山土地点・遺構別に分けた後、各々の集合の内容を代表資料を選抜し、実測作業対象とした。

石器は、いわゆる定形的な石器に加え、細部加工剥離または微細な剥離をもつ剥片類に対しては番号を付して登録し、実測等の作業対象とした。微細な剥離をもたない剥片類及び疊類等については番号を付して登録するものの、写真掲載のみとした。

全ての遺物には掲載番号・出土地点・計測値・觀察事項等を記載した一覧表を作成した。本来であればあらゆる觀察事項を網羅すべきだが、実測図から読みとれる属性については、記載を省略したものも多い。

実測図の縮尺は、土器1/2、石器2/3を原則とし、図版毎にスケールを付した。写真図版は土器・石器は実測図と同縮尺を原則としている。写真掲載のみのものがある石器剥片及び疊についても同様とした。ただし、法量の大小等により、原則の縮尺とは異なる場合は、遺物の脇に当該スケールを記している。

なお、法量については、石器は残存値を示した。土器は小片のため、口径・底径は算出できないので、器高のみ示した。ただし、残存値よりも高くなることしか示せないので、不等号を用いて残存値よりも高くなるということを示した（3.0くであれば、3.0cmよりも高いことを示す）。

## IV 検出遺構

### 1 調査の概要

本遺跡は、面積にして約173,000m<sup>2</sup>に及び、岩手県遺跡台帳には縄文時代の遺物を包含する遺跡として登録されている。今回調査対象となった10地点（A～J区）は、この広大な遺跡範囲の約1/3にあたる。今回の調査では、10地点すべてにおいてほぼ類似性のある遺構が検出され、本遺跡の性格が明らかになった。

### 2 検出遺構

本遺跡で検出された遺構は焼土遺構1基と陥し穴状遺構206基である。以下その内容について詳述する。

#### （1）焼土遺構（第8図・写真図版33）

【位置・検出状況】G区のIVB2b+E2mグリッドに位置する。Va層上面で中央が赤褐色、周縁が黒褐色の不整形なプランを確認した。

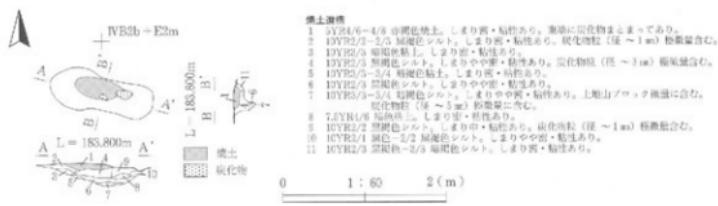
【規模・形状】平面形は長軸129cm×短軸50cmの中央がくびれた楕円形状を呈する。底面までの残存深度は27cmである。

【埋土と堆積状況】埋土には炭化物や焼土粒子を含んでいる。おおむねレンズ状堆積を呈している。

【重複】なし。

【出土遺物】なし。

【所属時期】出土遺物がないので、時期は不明である。



第8図 G区焼土遺構

#### （2）陥し穴状遺構

今回の調査において検出された遺構のほとんどは陥し穴状遺構であり、調査区全域で206基確認された。

平面の形態として円形、溝状、楕円形の3種に大別される。なお、溝状については、短軸の幅が広いものと狭いものの2種に、溝状のうち短軸幅が広いものと楕円形については底面の形状で3種類、大きさにより2種にさらに細分される。ほとんどの遺構は、地山構成層となる黄褐色粘土（基本層序

のVa層)で検出しているが、G区南西隅の一部の遺構ではその上に堆積していた暗褐色シルト(基本層序のⅢ層)で、H区北東側の一部の遺構では地山構成層であるが下位にあたる黄褐色浮石層(基本層序のVb層)で検出している。

以下では形態別に概要を詳述する。なお、各遺構の規模、形状、図版表示等の記述については24ページ以降の表により代用することとし、記載方法については、22~23ページのとおりとする。

#### ①円筒形の陥し穴状遺構(Ⅰ類)

**【検出数】**54基。底面に杭穴を有するもの(b類)が40基、有さないもの(d類)が14基である。

**【分布状況】**A区以外の調査区全域で認められる。

**【検出面における平均規模】**長軸90cm×短軸83cm、深さ95cmである。

**【断面形状及び検出数】**ビーカー状(b類)が43基、漏斗状(c類)が5基、その他(d、e類)6基であり、ビーカー状をしたものが多い。

**【埋土と堆積状況】**黒色、黒褐色、暗褐色のシルト及び粘土を主体として堆積するものを基本とする。下部には黄褐色系の粘土が含まれるものもあるが、これは地山が崩落した際に堆積したものと考えられ、主体の土である黒色、黒褐色、暗褐色の土を狹在することが多い。底部に黒褐色土や褐灰色土、水成堆積を呈する黄褐色系の土が堆積することもある。ほとんどが自然堆積によるものと考えられる。  
**【杭穴】**杭穴を有する場合、認められる杭穴の数は1個のものが大多数であるが、稀に2個あるものもある。底部の中央付近に認められ、壁際では認められない。

**【その他】**J5、J9、J10の各陥し穴状遺構では、埋土中で火山灰と思われるものが見つかり、火山灰分析を実施したところ、十和田aという結果が出た。また、G29陥し穴状遺構、J5陥し穴状遺構では放射性炭素年代測定(AMS法)を行っている。

**【所属時期】**今までの研究成果及び放射性炭素年代測定の結果から、多くのものは縄文時代前期になるものと思われる。ただし、十和田aとみられる灰白色火山灰が含まれているものも出てきており、一部には平安時代に属するものもある。

#### ②溝状の陥し穴状遺構

開口部短軸の狭いもの(Ⅱ類)と広いもの(Ⅲ類)の2種に分けられる。

##### a 短軸が狭い陥し穴状遺構(Ⅱ類)

**【検出数】**41基。底面に杭穴を有さないもの(d類)がほとんどであるが、1基のみ(H19陥し穴状遺構)杭穴の穴が認められるもの(b類)がある。

**【分布状況】**調査区全域で認められる。

**【検出面における平均規模】**長軸314cm×短軸44cm、深さ91cmである。

**【断面形状及び検出数】**断面形は全てがU字形である。

**【埋土と堆積状況】**黒色、黒褐色、暗褐色のシルト及び粘土と地山崩落に伴う黄褐色系粘土での構成を基本とする。ほとんどが自然堆積によるものと考えられる。

**【長軸方向】**まちまちではあるが、真北から東西それぞれ20度ずつの範囲で傾いているものが多い。

**【杭穴】**唯一杭穴を確認しているH19陥し穴状遺構では、中央に1個認められる。壁際では認められない。

**【その他】**A25陥し穴状遺構の底面から縄文時代前期と考えられる上器片が出土している。G23陥し穴状遺構では底面に有機質遺物?が残っており、放射性炭素年代測定(AMS法)を行っている。

**【所属時期】**A25陥し穴状遺構底面から出土した上器では縄文時代前期になるが、出土遺物の時期が遺構所属の時期とは一致しないことがある陥し穴状遺構がもつ特性を考えると一概には前期と決定は

できない。G29陥し穴状遺構底面有機質遺物？で行った放射性炭素年代測定結果では3870±40yrBPという結果が出ている。さらに今までの研究成果等を勘案すると、縄文時代中～後期になるものと思われる。

#### b 短軸が広い陥し穴状遺構（Ⅲ類）

調査区全域で計36基確認された。分布はA、B、G、H区で認められる。底面が方形状を呈するもの（1類）と橢円状になるもの（3類）の2種に分けられ、さらに杭穴の位置で底面の端部にあるもの（a類）、底面の中央にあるもの（b類）、中央・端部の両方にあるもの（c類）、確認できないものの（d類）に細分される。

##### 底面が方形状を呈し、端部に杭穴を持つ陥し穴状遺構（Ⅲ1a類）

【検出数】20基。

【分布状況】A、G、H区で認められる。

【検出面における平均規模】長軸206cm×短軸90cm、深さ117cmである。

【断面形状及び検出数】断面形は漏斗状のもの（c類）が13基、ビーカー状（b類）が5基、その他が2基である。

【埋土と堆積状況】上部に黒色土、黒褐色土、暗褐色土、下部に黒褐色土などを挟在した黄褐色粘土が堆積することを基本とする。検出面で十和田aとみられる灰白色火山灰が見つかることが多いが、まれに底面で灰白色火山灰が見つかることもある。ほとんどが自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】まちまちであるが、真北、東20度前後、西20度前後に傾くまとまりがある。

【杭穴】1～6個あるが、平均3個ある。

【その他】H9、H34、H57の各陥し穴状遺構で火山灰分析を実施している。

【所属時期】底面において灰白色火山灰が確認されているものは平安時代に属する。これ以外の埋土上部に灰白色火山灰があるものや火山灰が確認できないものでも、形態や埋土の特徴等から、平安時代に属する可能性が高い。

##### 底面が方形状を呈し、中央に杭穴を持つ陥し穴状遺構（Ⅲ1b類）

【検出数】6基。

【分布状況】A、B、H区で確認される。

【検出面における平均規模】長軸212cm×短軸86cm、深さ83cmである。

【断面形状及び検出数】断面形はビーカー状が4基、漏斗状、その他が1基ずつである。

【埋土と堆積状況】上部は黒色または黒褐色土、下部は褐色ないしは黄褐色土で構成されることを基本とする。底面に褐色土を含むものもある。火山灰の堆積は認められない。ほとんどが自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】真北から西へ50度前後に傾いたものが多い。

【杭穴】杭穴は2個前後だが、中には8個あるものもある。

【所属時期】今までの研究から、縄文時代のものと考えられる。

##### 底面が方形状を呈し、中央・端部両方に杭穴を持つ陥し穴状遺構（Ⅲ1c類）

【検出数】2基（H4、H12陥し穴状遺構）。

【分布状況】H区で確認される。

【検出面における平均規模】長軸237cm×短軸110cm、深さ127cmである。

【断面形状及び検出数】断面形はビーカー状、漏斗状各1基である。

【埋土と堆積状況】H4陥し穴状遺構は、上部が黒褐色土を挟在した黄褐色土、下部は灰褐色土、底

面が黒色土で構成される。1層に十和田aとみられる灰白色火山灰が堆積する。H12陥し穴状遺構では、上部は地山崩落に伴う黄褐色系土を狭在した黒褐色、暗褐色のシルト、下部は黄褐色系の粘土質シルトで構成される。ほとんどが自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】H4陥し穴状遺構は真北から西へ53度、H12陥し穴状遺構は70度傾いている。

【杭穴】4ないしは6個である。いずれも底面に対して斜方向に打ち込まれている。

【所属時期】埋土に十和田a火山灰があること、遺構形態、杭穴の状況、埋土の特徴等から、平安時代の可能性が高い。

**底面が方形形状を呈するが、杭穴を持たない陥し穴状遺構（Ⅲ1d類）**

【検出数】3基（B9、G4、G20陥し穴状遺構）。

【分布状況】B、G区で確認される。

【検出面における平均規模】長軸214cm×短軸92cm、深さ105cmである。

【断面形状及び検出数】断面形は全て漏斗状を尾する。

【埋土と堆積状況】黒色または黒褐色土で構成されることを基本とする。地山崩落に伴う黄褐色土が下部に入ることもある。底面や上部に灰白色火山灰が堆積するものもある。ほとんどが自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】ばらつきがある。

【その他】B9陥し穴状遺構では火山灰の分析、および火山灰堆積層の上下で見つかった炭化物を用いた放射性炭素年代測定を実施している。

【所属時期】埋土に十和田a火山灰があること、遺構形態等から、平安時代の可能性がある。底面の端部に杭穴を持つⅢ1a類の系譜をひくものと考えられる。

**底面が橢円形を呈し、端部に杭穴を有する陥し穴状遺構（Ⅲ3a類）**

【検出数】2基（A9、A13陥し穴状遺構）。

【分布状況】A区で確認される。

【検出面における平均規模】長軸240cm×短軸115cm、深さ107cmである。

【断面形状】ビーカー状を呈する。

【埋土と堆積状況】上部に黒色土、黒褐色土、暗褐色土、下部に黒褐色土などを狭在した黄褐色粘土が堆積することを基本とする。埋土上部で十和田aとみられる灰白色火山灰が見つかることが多い。ほとんどが自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】A9陥し穴状遺構は真北から西へ68度、A13陥し穴状遺構は真北から東へ24度傾いている。

【杭穴】6個。

【その他】いずれも火山灰が確認されていることから分析を行ったところ、十和田aが含まれていることが明らかになった。

【所属時期】遺物が出土していないので詳細は不明だが、遺構の形態や火山灰をはじめとした埋土の堆積状況から、平安時代に属する可能性が高い。

**底面が橢円形を呈し、中央に杭穴を有する陥し穴状遺構（Ⅲ3b類）**

【検出数】1基（B10陥し穴状遺構）。

【分布状況】B区で確認される。

【検出面における平均規模】長軸206cm×短軸73cm、深さ89cmである。

【断面形状】U字形を呈する。

**【埋上と堆積状況】**上部は黒褐色および暗褐色のシルト、下部は黄褐色系のシルト、底面は水成堆積の様相を呈する褐灰色シルトで構成される。自然堆積によるものと考えられる。

**【長軸方向】**真北から西へ56度傾く。

**【杭穴】**2個。

**【所属時期】**今までの研究成果から、縄文時代のものと考えられる。

上記のほかに、平面検出のみ等により分類できないものが2基ある。

### ③橿円形の陥し穴状遺構（IV類）

76基確認された。分布は調査区全域で認められる。さらにこれらは底面の形状により、方形（隅丸方形を含む）（1類）のもの、菱形をしたもの（2類）、楕円形のもの（3類）という3種類に細分でき、さらに底面に打たれた杭穴の位置及び開口部の大きさによってさらに細分される。うち4基は工事計画の関係で平面検出及び一部のみ掘削しているため、底面施設についてははっきりしない。

底面が方形を呈し、杭穴が底面端部にある陥し穴状遺構（IV1a類）

**【検出数】**28基。

**【分布状況】**調査区のほぼ全域で確認される。

**【検出面における平均規模】**長軸203cm×短軸120cm、深さは124cmである。

**【断面形状】**漏斗形をしたもの21基、ビーカー状2基、逆台形状などがある基である。漏斗型以外のものは、本来漏斗型をしたもののが、戦後の開拓等による削平や自然崩落等により、変形したものと考えられる。

**【埋上と堆積状況】**上部は黒色または黒褐色土、下部は黒色および黒褐色土を挟在した黄褐色系土で構成されるものを基本とする。埋土上部または底部に灰白色火山灰が堆積することが多い。埋土の上～中位に分布するものと下位及び底面に分布するものがある。底面に分布する場合、堆積は水成堆積の様相を呈する場合が多い。全て自然堆積によるものと考えられる。

**【長軸方向】**真北～真北から西へ20度の範囲で傾いているものが多い。

**【杭穴】**1～7個にまで及ぶ。

**【その他】**掘削する際に残った工具？の痕跡を残すもの（II32陥し穴状遺構、II90陥し穴状遺構など）もある。H50陥し穴状遺構で放射性炭素年代測定を行っている。また、B6陥し穴状遺構をはじめとした多くの陥し穴状遺構から火山灰が出ていたため、火山灰分析を行ったところ、青森県の十和田湖で爆発した際に降下した十和田aを起源とするものという結果が出ている。

**【所属時期】**埋土中から遺物が出土していないため、詳細は不明な部分が多いが、放射性炭素年代測定（AMS法）の結果や灰白色火山灰の出土状況などにより、平安時代に属するものと考えられる。底面が方形を呈し、杭穴が中央にある陥し穴状遺構（IV1b類）

**【検出数】**12席。

**【分布状況】**A、B、G、II、Jの各区で確認される。

**【検出面における平均規模】**長軸158cm×短軸99cm、深さは89cmである。底面端部に杭穴を持つIV1a類と比べ大きさは小さくなる。

**【断面形状】**断面形はビーカー状をしたもの10基、漏斗型2基である。

**【埋土と堆積状況】**黒色または黒褐色の土と黒褐色土を挟在した黄褐色系の土で構成されることを基本とする。底面に水成堆積の様相を呈した褐灰色土や黄褐色系の土が含まれることもある。埋土中に火山灰を含まないことが多いが、J1陥し穴状遺構では埋土下部に火山灰が堆積している。全て自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】真北から西へ10度前後に傾いた範囲までのものが多い。

【杭穴】1～9個にまで及ぶ。

【その他】H54陥し穴状遺構で放射性炭素年代測定を行った。また、J 1陥し穴状遺構では火山灰とみられるものが確認されたことから、火山灰分析を行った。

【所属時期】埋土中から遺物が出土していないため、詳細は不明な部分が多いが、今までの研究や放射性炭素年代測定（AMS法）の結果などにより、多くのものは縄文時代に属するものと考えられる。

ただし、J 1については、埋土下位でト和田aとみられる火山灰を確認しており、平安時代に下るものも含まれる可能性がある。

底面が方形を呈し、底面の端部と中央両方に杭穴が確認された陥し穴状遺構（IV1c類）

【検出数】1基（A17陥し穴状遺構）

【分布状況】A区で確認される。

【検出面における平均規模】長軸220cm前後×短軸178cm、深さは114cmである。

【断面形状】逆台形を呈する。

【埋土と堆積状況】暗褐色・褐色・黄褐色の粘土で構成される。自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】東北とほぼ直交する。

【杭穴】13個。

【その他】上部はA30陥し穴状遺構に切られる。

【所属時期】埋土中から遺物が出土していないため、詳細は不明であるが、III d類とみられるA30陥し穴状遺構より新しいことは確かである。

底面が方形を呈するが、杭穴が確認されなかった陥し穴状遺構（IV1d類）

【検出数】8基。

【分布状況】A、B、D、F、G、Hの各区で確認される。

【検出面における平均規模】検出面における長軸で170cmを境として大形のもの5基と小形のもの3基に分けられる。大形のものは、長軸210cm×短軸128cm、深さ117cm、小形のものは、長軸138cm×短軸88cm、深さ83cmである。

【断面形状・検出数】大形のものの断面形は漏斗状4基、ビーカー状1基、小形のものはビーカー状2基、漏斗状1基である。

【埋土と堆積状況】大形のものは、上部が黒色ないしは黒褐色上、下部が黒褐色土を挟みした黄褐色土で構成されるものが多く、底面にト和田aとみられる灰白色火山灰を含むものもある。小形のものも大形のものと埋土構成はあまり変わらないが、灰白色火山灰は確認されず、底面に黒褐色シルトなどが堆積していることもある。全て自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】ばらつきがある。

【その他】形態及び埋土の状況等から、大形のものはIV1a類、小形のものはIV1b類の系譜をひくものと考えられる。

【所属時期】大形のものは平安時代に、小形のものは縄文時代に属するものと考えられる。

底面が橢形を呈し、中央に杭穴を有する陥し穴状遺構（IV2b類）

【検出数】8基。

【分布状況】B、G、H区で確認される。

【検出面における平均規模】長軸127cm×短軸74cm、深さは81cmである。

【断面形状・検出数】断面形はビーカー形6基、漏斗型2基である。

【埋上と堆積状況】上部は黒色及び黒褐色のシルト、下部は黄褐色系の土、底面に暗褐色や褐灰色の土の構成を基本とする。埋上中に火山灰は含まれない。全て自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】ばらつきはあるが、真北から西へ80度前後に傾くものがまとまっている傾向がある。

【杭穴】1～5個。

【所属時期】埋上中から遺物が出土していないため、詳細は不明である。

底面が擦形を呈し、杭穴の確認できない陥し穴状遺構（IV2d類）

【検出数】5基。

【分布状況】H区で確認される。

【検出面における平均規模】長軸137cm×短軸82cm、深さは75cmである。

【断面形状・検出数】断面形はビーカー形3基、漏斗型2基である。

【埋上と堆積状況】上部は黒色及び黒褐色のシルト、下部は黄褐色土で構成されることが多く、底面に暗褐色や褐灰色の粘土質シルトが入ることもある。埋上中に火山灰は含まれない。全て自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】ばらつきはあるが、真北から西へ20度前後に傾くものがまとまっている傾向がある。

【その他】H54陥し穴状遺構で炭化材が出土しており、放射性炭素年代測定（AMS法）を行っている。

【所属時期】埋上中から遺物が出土していないため、詳細は不明であるが、放射性炭素年代測定（AMS法）の結果を考慮すると、縄文時代の可能性がある。

底面が稍円で底面端部に杭穴を残す陥し穴状遺構（IV3a類）

【検出数】2基（A7、A23陥し穴状遺構）。

【分布状況】A区で確認される。

【検出面における平均規模】長軸218cm×短軸130cm、深さは107cmである。

【断面形状・検出数】断面形はビーカー状、逆台形が各1基ずつである。

【埋上と堆積状況】上部に黒褐色土、下部に黒褐色土を挟在した黄褐色土、底面に水成堆積の様相を呈する褐色土での構成を基本とする。火山灰は含まれない。いずれも自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】真北から西へ15度及び23度傾く。

【杭穴】6～8個有する。底面に対し斜方向に打たれる。

【その他】ASK23陥し穴状遺構で放射性炭素年代測定（AMS法）を実施している。大きさ、埋土や杭穴の特徴などから、IV1a類の変形したものと見ることができそうである。

【所属時期】埋上中から遺物が出土していないため、詳細は不明であるが、A24陥し穴状遺構の放射性炭素年代測定の結果や形態をあわせて考えると、平安時代の可能性がある。

底面が稍円で底面中央に杭穴を残す陥し穴状遺構（IV3b類）

【検出数】4基（H66、H67、H92、II94各陥し穴状遺構）。

【分布状況】H区で確認される。

【検出面における平均規模】長軸113cm×短軸83cm、深さは75cmである。

【断面形状・検出数】断面形は全てビーカー状である。

【埋上と堆積状況】上部に黒褐色及び暗褐色土、下部に挟在する層のない褐色・黄褐色土、底面に水成堆積の様相を呈する褐灰色・黄褐色土での構成を基本とする。火山灰は含まれない。いずれも自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】ばらつきがある。

【杭穴】1~2個。底面に対し垂直方向に打たれる。

【その他】大きさ、埋土や杭穴の特徴などから、IV1b類の変形したものと見ることができそうである。

【所属時期】埋土中から遺物が出土していないため、詳細は不明である。

底面が楕円で杭穴が確認できない陥し穴状遺構 (IV3d類)

【検出数】3基 (G2、H43、H58各陥し穴状遺構)。

【分布状況】G、H区で確認される。

【検出面における平均規模】大きさにより、開口部長軸が200cm以上の大形のもの1基と、200cm以下の小形のもの2基に細分される。大形のものは長軸237cm×短軸161cm、深さ143cm、小形のものの平均規模は、長軸127cm×短軸87cm、深さ70cmである。

【断面形状・検出数】大形は漏斗状、小形は2基ともビーカー状を呈する。大形のものは漏斗状をしているが、フラスコ状にかなり近い。

【埋土と堆積状況】黒色、黒褐色、暗褐色シルトでの構成を基本とする。II58陥し穴状遺構では所々に崩落した地山褐色粘土が、H43陥し穴状遺構では下部は黄褐色系粘質シルトが堆積し、12層より下は水成堆積の様相を呈する。G2陥し穴状遺構では、下部に地山崩落の褐色粘土を鉛在した黒褐色・暗褐色のシルトが堆積する。いずれも自然堆積によるものと考えられる。

【長軸方向】大形のものは真北から西へ51度傾く。小形のものはばらつきがある。

【その他】大きさ、埋土の特徴などから、H43陥し穴状遺構はIV1d類の変形したものと見ることができそうである。大形のG2陥し穴状遺構と小形のH58陥し穴状遺構は他の陥し穴状遺構とは若干様相を異にする。

【所属時期】埋土中から遺物が出土していないため、詳細は不明である。

### 陥し穴状遺構一覧表の記載方法

#### 1 造構名・登録遺構名

造構名は各区1からの通し番号による名称、登録遺構名は野外調査時に付した名称を示す。

#### 2 位置・検出状況・重複関係

当該遺構が位置するグリッド名、検出された状況、重複する遺構・カラン等の状況を示す。

#### 3 形状

平面形状・断面形状は大局的に下記のように示す。

平面形状：開口部、底面形状、杭穴位置の3つの要素を組み合わせて表記する。

(例) IV1a…開口部は楕円形、底面は方形を呈し、短軸端に杭穴を持つものを示す。)

開口部：I類……円形を呈するもの。開口部の長軸／短軸の値が1.25未満のもの。

II類……溝状を呈するもの。開口部の長軸／短軸の値が4以上のもの。

III類……溝状を呈するが、開口部の長軸／短軸の値が2以上4未満のもの。

IV類……楕円形を呈するもの。開口部の長軸／短軸の値が1.25以上2未満のもの。

\*IV類については開口部長軸170cmより大形のものをA、小形のものをBと細分する。

底面形状 (III・IV類のみ) :

1類…方形のもの (隅丸のものを含む) 2類…撥形のもの 3類…楕円形のもの。

杭穴位置：a類…端部にあるもの。 b類…中央部にあるもの。

c 類…端部・中央双方にあるもの。 d 類…杭穴を作わないもの。

断面形状：a 類…U字形をしたもの。 b 類…ピーカー状の形をしたもの。

c 類…漏斗状の形をしたもの。

d 類…逆台形をしたもの。 b 類と c 類との分類が困難なもの。 e 類…その他のもの。

#### 4 規模

開口部及び底部の長軸×短軸の長さ及び検出面からの深さを示す。

#### 5 長軸方向

長軸の真北からのぶれを示す。

#### 6 埋上

まず自然堆積、人為堆積の別を示し、後に構成される埋上及び特徴的事項（水成堆積、火山灰等）を記載する。構成される埋土は、堆積順の記載とは限らないことをあらかじめお断りしておく。

#### 7 杭穴数

底部で見つかった杭穴の数を示す。詳細な分布状況は特記事項で記載する。

#### 8 底面

くぼみや凹凸等の底面の状況を示す。

#### 9 図・写真図版

図版・写真図版の番号を示す。

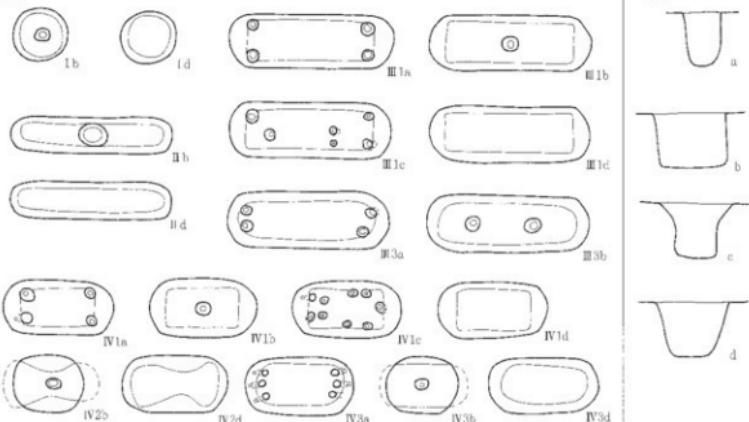
#### 10 特記事項

杭穴の分布状況や打設方向、出土遺物、自然科学分析結果、その他特記事項について記載する。

自然科学分析等の結果の記載も本項目で行う（詳細は附編1～3を参照のこと）。分析機関等を示す略号は次のとおり。

【加】…（株）加速器分析研究所 【バ】…パリノ・サーヴェイ（株） 【弘】…弘前大学  
なお、弘前大学による火山灰分析の類型は、1類：To a テフラのみからなる試料、2類：To-a テフラと基盤土の混合物、3類：To-a をほとんど含まない基盤土、とする。

平面



第9図 陥し穴状造構形態分類模式図

造構名	A 1 陥し穴状造構	A 2 陥し穴状造構	A 3 陥し穴状造構
登録造構	A-SK1	A-SK2	A-SK3
位置	I B 7 f ~ g	I B 7 e ~ f	I B 8 f
検出状況	IV層で検出。	IV ~ V a 層で検出。	V a 層で検出。南側の一部で旧水路に伴うカクランを受ける。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置	II d	II d
	断面形	a	a
規模	開口部径 (cm)	304×48	306×43
	底部径 (cm)	306×22	290×10
	深さ (cm)	81	70
長軸方向	N - 60° - W	N - 2° - W	N - 65° - W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色粘土、下部は暗褐色粘土及び地山崩落のにぶい黄褐色粘土で構成される。	自然堆積。上部は黒褐色シルト及び粘土、暗褐色粘土上、下部は黒褐色粘土を挟在する地山崩落の暗褐色及びにぶい黄褐色粘土で構成される。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は暗褐色・黄褐色系粘土上で構成される。上部は擾乱を受けている可能性がある。
杭穴数	0	0	0
底面	中央付近がややくぼむ。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	10	10	10
写真図版	4	4	5
特記事項			6層は初水により粘性が強くなかったか。

造構名	A 4 陥し穴状造構	A 5 陥し穴状造構	A 6 陥し穴状造構
登録造構	A-SK4	A-SK5	A-SK7
位置	I B 9 g ~ h	I B 8 g	I B 10 i ~ j
検出状況	V a 層で検出。	V a 層で検出。	V b 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置	II d	II d
	断面形	a	a
規模	開口部径 (cm)	339×24	258×20
	底部径 (cm)	306×11	234×11
	深さ (cm)	72	42
長軸方向	N - 27° - W	N - 10° - W	N - 54° - W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は地山崩落のにぶい黄褐色粘土で構成される。	自然堆積。黒褐色シルトを主体とし、地山崩落である褐色粘土を挟在する。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色シルト、下部は黒褐色・暗褐色粘土を挟在したにぶい黄褐色粘土上で構成される。
杭穴数	0	0	6
底面	南東側が若干上がる。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	10	10	11
写真図版	5	5	5
特記事項			〈杭穴〉北西側・南東側各3個ある。北西側は分散するが、南東側は密集傾向。底面に対してやや斜方向に入る。

造構名	A 7 陥し穴状造構	A 8 陥し穴状造構	A 9 陥し穴状造構
登録造構	A-SK8	A-SK9	A SK10
位置	II B13 i	II B14 h ~ i	II B13 ~ 14 h
検山状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	A10 陥し穴状造構より新しい。
形状	平面形・杭穴位図	IV A 3 a b	III 3 a b
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm) 深さ (cm)	205×111 182×97 78	273×38 281×15 48
長袖方向	埋土	N - 57° - W 自然堆積。最上部は黒褐色シルト、下部は暗褐色粘土を挟在した地山崩落土を含んだ黄褐色粘土、底部は水成堆積の様相を呈する褐色粘土で構成される。	N - 15° - W 自然堆積。上部は暗褐色粘土、下部はぶい黄褐色粘土及び地山崩落による黄褐色粘土で構成される。
杭穴数	6	0	6
底面	ほぼ平坦。	両端が若干上がる。	北西側がやや下がる。
図	11	11	11
写真図版	6	6	7
特記事項	〈杭穴〉北西側・南東側各3個ある。底面に對していずれも斜方向に入る。	〈杭穴〉北西側・南東側各3個ある。底面に對して斜方向に入る。 〈火山灰分析〉 6層:3類、8層:1類【弘】	〈杭穴〉北西側・南東側各3個ある。底面に對して斜方向に入る。
造構名	A10 陥し穴状造構	A11 陥し穴状造構	A12 陥し穴状造構
登録造構	A-SK11	A-SK12	A SK13
位置	II B14 h	II B14 ~ 15 f	II B15 e ~ f
検山状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	A 9 陥し穴状造構より古い。	A12 陥し穴状造構より古い。	A11 陥し穴状造構より新しい。
形状	平面形・杭穴位図	II d a	III 1 a b
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm) 深さ (cm)	239前後×72 132以上×31 104	331×33 346×6 74
長袖方向	埋土	N - 59° - W 自然堆積。上部に灰白色火山灰を含んだ暗褐色シルト、下部は褐色・黄褐色系の粘土で構成される。	N - 10° - E 自然堆積。褐色及び地山崩落に伴う黄褐色の粘土で構成される。底部に黒色シルトが堆積する。
杭穴数	0	0	5
底面	凹凸が著しい。	北が下がっている。	中央がわずかにくぼむ。
図	11	12	12
写真図版	7	6	6
特記事項	〈その他〉中央付近に比べ両端の幅が広い。轍の計測値は中央付近の値。	〈杭穴〉北側に4個、南側に1個ある。底面に對して斜方向に入る。	

遺構名	A13陥し穴状遺構	A14陥し穴状遺構	A15陥し穴状遺構
登録遺構	A-SK14	A-SK15	A-SK16
位置	II B15 f	II B18 j ~ k	II B19 i
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし。	なし。	A16陥し穴状遺構と接する。
形状 平面形・杭穴位置	III 3 a	III 1 b	IV A 1 b
断面形	b	b	b
開口部径 (cm)	245×119	188×64	172×100
規模 底部径 (cm)	198×83	174×73	158×70
深さ (cm)	107	68	73
長軸方向	N 24° E	N 54° W	N 18° W
埋土	自然堆積。2枚の黒褐色シルトを挟在した暗褐色、褐色、黄褐色の粘土及びシルトで構成される。4層に地山と混じった灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は暗褐色、褐色、黄褐色の粘土で構成される。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は褐色・黄褐色系の粘土で構成される。
杭穴数	6	8	8
底面	北側に凹凸あり。	ほぼ平坦。	北が若干低い。
図	12	12	12
写真図版	7	8	8
特記事項	〈杭穴〉北側に3個、南側に2個、中央に1個ある。中央の穴は開口部が50cm近くになる。底面に対して斜方角に入る。 〈火山灰分析〉4層：2類【4】	〈杭穴〉中央を境にして東半・西半の中央付近に4個ずつある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近に集中する。南北隙隙はない。底面に対して垂直に入る。
遺構名	A16陥し穴状遺構	A17陥し穴状遺構	A18陥し穴状遺構
登録遺構	A-SK17	A-SK18	A-SK19
位置	II B19 h ~ i	II B18 f ~ g	II B19 ~ 20f, 20g
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	A15陥し穴状遺構と接する。	A30陥し穴状遺構より占い。	なし
形状 平面形・杭穴位置	IV A 2 b	III A 1 c	II d
断面形	b	d	a
開口部径 (cm)	188×103	220前後×178	310×36
規模 底部径 (cm)	162×77	252×91	288×20
深さ (cm)	76	114	83
長軸方向	N -58° W	N -90° E	N -22° W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は暗褐色・褐色・黄褐色の粘土で構成される。上部はA30陥し穴状遺構に切られる。	自然堆積。暗褐色・褐色・黄褐色の粘土で構成される。上部はA30陥し穴状遺構に切られる。	自然堆積。上部は暗褐色シルト、下部は黒色シルトを挟在した黄褐色・褐色の粘土で構成される。
杭穴数	9	13	0
底面	ほぼ平坦。	凹凸が著しい。	ほぼ平坦。
図	13	13	13
写真図版	8	8	9
特記事項	〈杭穴〉中央を境として西中央に4個、東中央に5個ある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉北に6個、南側に7個ある。北の杭穴は密集し、南の杭穴は分散傾向。	

遺構名	A19陥し穴状遺構	A20陥し穴状遺構	A21陥し穴状遺構
登録遺構	A-SK20	A-SK21	A-SK22
位置	II A20~21f, 21g	II B22 g ~ h	II B16~17d
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 II d	III 1a	IV A 1a
	断面形 a	c	b
規模	開口部径 (cm) 416×36	228×101	208×115
	底部径 (cm) 418×8	205×29	192×64
	深さ (cm)	94	130
長軸方向	N 15° W	N -15° W	N 41° W
埋土	自然堆積。上部は暗褐色・褐色のシルト、下部は黄褐色・暗褐色の粘土で構成される。	自然堆積。にぶい黄褐色の粘土及びシルト、暗褐色・褐色・黄褐色の粘土で構成される。	自然堆積。上部は黒色及び褐色のシルト、下部は黒褐色や暗褐色の粘土・シルト等を狭在した褐色・黄褐色系の粘土で構成される。
杭穴数	0	4	7
底面	北側が上がる。	凹凸著しい。	南東側若干上がる。
図	13	13	14
写真図版	9	9	9
特記事項	〈遺物〉底面から繩文上器片(1)。	〈杭穴〉南側に3個、北側に1個ある。底面に対して斜方向に入る。	〈杭穴〉南東側に5個、北西側に2個ある。底面に対して斜方向に入る。
遺構名	A22陥し穴状遺構	A23陥し穴状遺構	A24陥し穴状遺構
登録遺構	A-SK23	A-SK24	A-SK25
位置	II B22b	II B23b	II A23 x ~ y
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 III 2 b	IV A 3 a	II d
	断面形 b	d	a
規模	開口部径 (cm) 224×80	231×149	257×38
	底部径 (cm) 210×71	183×88	245×18
	深さ (cm)	71	136
長軸方向	N -52° W	N -31° E	N -23° W
埋土	自然堆積。上部は黒色シルト、下部は褐色・にぶい黄褐色・地山崩落に伴う黄褐色の粘土で構成される。	自然堆積。上部は黒色上、下部は3枚の黒褐色シルトを挟在する褐色・黄褐色系の粘土で構成される。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黄褐色系の粘土で構成される。
杭穴数	2	8	0
底面	中央部が若干盛り上がる。	凹凸著しい。	南側中央より若干くぼむが、両壁寄りは上がる。
図	14	14	14
写真図版	10	10	10
特記事項	〈杭穴〉2個とも中央付近にある。底面に対して垂直に入る。 〈その他〉平面は中央付近にくびれがある。	〈杭穴〉北西側、南東側各4箇ずつある。各1箇ずつは中央に寄る。底面に対して斜方向に入る。 〈C1年代測定〉 6層: 1130±30yrBP【加】	〈杭穴〉北西側、南東側各4箇ずつある。各1箇ずつは中央に寄る。底面に対して斜方向に入る。 〈C1年代測定〉 6層: 1130±30yrBP【加】

遺構名	A25陥し穴状遺構	A26陥し穴状遺構	A27陥し穴状遺構
登録遺構	A SK26	A-SK27	A-SK28
位置	II A19x ~ y	II A15v ~ w	II A17u
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	II d a	II d a	II d a
断面形			
開口部径 (cm)	469×49	251×43	234×54
規模 底部径 (cm)	469×12	239×14	260×14
深さ (cm)	105	84	99
長軸方向	N -8° - E	N -3° - W	N 6° E
埋土	自然堆積。黒褐色粘土及びシルト、褐色粘土で構成される。	自然堆積。上位は黒褐色粘土・シルト、下位は暗褐色・褐色・にぶい黄褐色の粘土で構成される。	自然堆積。上位は黒褐色粘土からシルト、下位は暗褐色・褐色・にぶい黄褐色の粘土上で構成される。
杭穴数	0	0	0
底面	中央付近若干盛り上がる。	北側が下がる。	ほぼ平坦。
図	15	15	15
写真図版	10	11	11
特記事項	〈遺物〉底面から縄文土器片(2、3)。		

遺構名	A28陥し穴状遺構	A29陥し穴状遺構	A30陥し穴状遺構
登録遺構	A SK29	A-SK30	A-SK31
位置	II A19s ~ t	II A16~17t	II B18f ~ g
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	A17陥し穴状遺構より新しい。 III d
形状 平面形・杭穴位置	III la c	II d a	d
断面形			
開口部径 (cm)	240×104	496×70	42以上×132程度
規模 底部径 (cm)	173×31	473×16	42以上×不明
深さ (cm)	127	97	70
長軸方向	N -2° - E	N 38° W	N -16° -7 E
埋土	自然堆積。上部は黑色粘土、及び黒褐色粘土、下部は黄褐色をなした黒褐色粘土及び黄褐色粘土で構成される。1層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部は墨色粘土、下部は黄褐色・明黄褐色粘土で構成される。底面に黒褐色粘土を伏せた暗褐色・褐色シルトが堆積する。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色のシルト、下部は黒褐色粘土で構成される。底面に黒褐色・黄褐色系の粘土で構成される。
杭穴数	1	0	0
底面	ほぼ平坦。	北西側が上がる。	ほぼ平坦。
図	15	15	13
写真図版	11	11	8
特記事項	〈杭穴〉南側にある。底面に対して垂直に入るが、深さは浅い。		〈その他〉A17陥し穴状遺構を構築後、拡張するためA30陥し穴状遺構を作ったと考えられる。A30陥し穴状遺構の正確な規模は不明。このため、長軸方向も推定になる。

遺構名	B 1 陥し穴状遺構	B 2 陥し穴状遺構	B 3 陥し穴状遺構
登録遺構	B-SK01	B-SK02	B-SK03
位置	II B20 u	II B19~20 s	II B21 s
検出状況	Va 層から検出。	Va 層から検出。	Va 層から検出。 南北方向に搅乱を受ける。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	I b	IVB 2 b	IVB 1 b
断面形	b	b	b
開口部径 (cm)	125×110	135×94	165×110
規模 底部径 (cm)	97×68	115×61	135×71
深さ (cm)	102	90	93
長軸方向	N -8° W	N 13° - W	N -50° E
埋土	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色・褐色のシルト、下部は黄褐色系のシルトで構成される。19層のにない黄褐色粘質土は水成堆積の様相を呈する。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黄褐色系のシルトで構成される。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色シルト、下部は黒褐色などのシルト、底面は水成堆積の様相を呈する褐色粘質土で構成される。
杭穴数	1	1	1
底面	ほぼ平坦。	南側が若干下がる。	ほぼ平坦。
図	16	16	16
写真図版	13	13	13
特記事項	〈杭穴〉ほぼ中央にある。 〈遺物〉底面から罐(56)。	〈杭穴〉中央からやや南にある。底面に対して東側に入る。	〈杭穴〉中央からやや北東側にある。底面に対して東西に入る。
遺構名	B 4 陥し穴状遺構	B 5 陥し穴状遺構	B 6 陥し穴状遺構
登録遺構	B-SK04	B-SK05	B-SK06
位置	II B24 p	II B22 r ~ s	II B23 r ~ s, 22 r
検出状況	Va 層から検出。	東端上面搅乱を受ける。	西端上面及び中央上面搅乱を受ける。
重複関係	B 7 陥し穴状遺構より新し い。	B 6 陥し穴状遺構より古い。	B 5 陥し穴状遺構より新しい。
形状 平面形・杭穴位置	I b	I b	IVA 1 a
断面形	b	b	d
開口部径 (cm)	115×102	89×88	237×141
規模 底部径 (cm)	84×82	84×75	227×71
深さ (cm)	105	105	129
長軸方向	—	—	N -36° - W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は暗褐色シルトを挟在した黄褐色系のシルト、底面は黒褐色シルトで構成される。14層の灰黃褐色土は水成堆積の様相を呈する可能性がある。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色のシルト、下部は底面及び埋土中部は黒褐色シルトが混じるもの、黒褐色～暗褐色シルトで、下部は黒褐色シルトを挟在した黄褐色系のシルト及び粒上に構成される。2層に纖土状粒子を極微量含む。	自然堆積。上部は一部に褐色及び明黄褐色のシルトが混じるもの、黒褐色～暗褐色シルトで、下部は黒褐色シルトを挟在した黄褐色系のシルト及び粒上に構成される。2層に纖土状粒子を極微量含む。
杭穴数	1	1	4
底面	やや凹凸あり。	ほぼ平坦。	北西側がやや高くなる。
図	16	17	17
写真図版	14	14	14
特記事項	〈杭穴〉ほぼ中央にある。 底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央にある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉北西端際、南東壁際に各2側ある。底面に対して斜方向に入る。 〈火山灰分析〉 6層・13層：2種〔弘〕

遺構名	B7陥し穴状遺構	B8陥し穴状遺構	B9陥し穴状遺構
登録遺構	B-SK07	B-SK08	B-SK09
位置	II B24~25p	III BMr ~ s	III B5q
検出状況	Va層から検出。	Va層から検出。	Va層から検出。
重複関係	B4陥し穴状遺構より古い。	なし。	なし
形状	平面形・杭穴位置 Ⅲ 1a	IV A 1d	Ⅲ 1d
	断面形 b	c	c
規模	開口部径 (cm) 204×76	296×158	225×111
	底部径 (cm) 223×62	238×87	210×68
	深さ (cm) 86	120	92
長軸方向	N -53° - W	N - 47° - W	N 38° - W
埋土	自然堆積。上位は黒褐色・暗褐色のシルト、下位は黄褐色系のシルト及び粘質土で構成される。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色シルト、下部は黒褐色・暗褐色のシルトを挟在した褐色・黄褐色系シルトで構成される。18及び33層に灰白色火山灰が堆積する。埋土上部に塊土粒を含む。	自然堆積。上部には黒褐色・暗褐色シルト、下部は暗褐色シルトを挟在した黄褐色系のシルトで構成される。検出面東側及び底面に灰白色火山灰が堆積する。埋土上部に塊土粒を極微量含む。
杭穴数	1	0	0
底面	ほぼ平坦。	北西・南東両端がやや上がる。	凹凸著しい。
図	16	17	18
写真図版	14	15	15
特記事項	〈杭穴〉中央からやや北西にある。底面に対して垂直に入る。 C14年代測定 8層: 1110±30【加】 23層: 1140±33【バ】 〈火山灰分析〉 33層: 田和田【バ】 18層・19層・33層: 2類【弘】	〈C14年代測定〉 16~18層: 1070±40【加】 底面灰分析: 2780±40【加】 〈火山灰分析〉 検出面西側・検出面東側・底面: 2類【弘】	〈C14年代測定〉 16~18層: 1070±40【加】 底面灰分析: 2780±40【加】 〈火山灰分析〉 検出面西側・検出面東側・底面: 2類【弘】
遺構名	B10陥し穴状遺構	B11陥し穴状遺構	B12陥し穴状遺構
登録遺構	B-SK10	B-SK11	B-SK12
位置	II B22q	III B5r	II B23~24s
検出状況	Va層から検出。	Va層から検出。	Va層から検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 Ⅲ 3 b	IV B 1 b	IV B 1 b
	断面形 a	b	b
規模	開口部径 (cm) 206×73	145×84	156×114
	底部径 (cm) 205×46	172×80	148×83
	深さ (cm) 89	73	87
長軸方向	N 56° - W	N -3° - E	N -1° - E
埋土	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色シルト、下部は黄褐色系のシルト、底面付近は水成堆積の様相を呈する褐色シルトで構成される。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色・褐色、下部は褐色・黄褐色系のシルトで構成される。	自然堆積。上部に黒褐色シルト、下部は黒褐色・暗褐色シルトを挟在した黄褐色系シルトで構成される。底面は水成堆積の様相を呈する灰褐色粘質土で構成される。
杭穴数	2	1	1
底面	西側凹凸著しい。	ほぼ平坦。	北端・南端が下がり気味。
図	18	18	19
写真図版	16	16	16
特記事項	〈杭穴〉2側とも中央付近にある。底面に対して垂直に入る。 〈その他〉壁面は著しく抉られている。	〈杭穴〉中央からやや北にある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央からやや北にある。底面に対し垂直に入る。

遺構名	B13陥し穴状遺構	B14陥し穴状遺構	B15陥し穴状遺構
登録遺構	B-SK13	B-SK14	B-SK15
位置	II B23 b	III B2 r ~ s	II B25 o
検出状況	Va層から検出。	Va層から検出。	Va層から検出。

重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	III 1 b b	IVB 1 b b	III 1 b d
断面形			
規模 開口部径 (cm)	193×77	165×115	211×97
底面径 (cm)	213×49~70	165×92	243×58
深さ (cm)	79	96	89
長軸方向	N -28° - W	N -4° - W	N -45° - W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色シルト、下部は暗褐色シルトを挟在した黄褐色系シルトで構成される。5層以下ではほとんど混和物はみられない。	自然堆積。上部は黒褐色シルト及び火山灰と見られる灰白色ブロックが混じった暗褐色シルト、暗褐色シルト、下部は黒褐色・暗褐色シルトを挟在した黄褐色系シルト及び粘質土で構成される。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黒褐色シルトまたは暗褐色粘土を伏在した黄褐色系シルト、底面は水成堆積の様相を呈した褐灰色粘質土で構成される。
杭穴数	2	1	2
底面	南側がくぼむ。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。南側は抉られる。
図	19	19	19
写真図版	16	17	17
特記事項	〈杭穴〉2個とも中央付近にある。底面に対して垂直に入る。 〈その他〉南北壁面は抉られる。	〈杭穴〉ほぼ中央にある。 底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉ほぼ中央に2個ある。底面に対して垂直に入る。

遺構名	C 1 陥し穴状遺構	C 2 陥し穴状遺構	C 3 陥し穴状遺構
登録遺構	C-SK01	C-SK02	C-SK03
位置	III C 9 e	III C19a	IV C 1 f ~ g
検出状況	Va層から検出。	Va層から検出。	Va層から検出。

重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	II ? d	I d	II ? d
断面形	d	b	a
規模 開口部径 (cm)	54以上×50以上	85×86以上	126以上×54
底面径 (cm)	44以上×18	62×51以上	126以上×19
深さ (cm)	78	131	104
長軸方向	N -45° - W	—	N -31° - W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黒褐色シルトを挟在した黄褐色系シルトで構成される。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色のシルト、下部は2枚の黒色・黒褐色シルトを挟在した黄褐色系シルトで構成される。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色シルト、下部は黒褐色シルト・暗褐色シルトを挟在した黄褐色系シルトと水成堆積の様相を呈する暗褐色シルトで構成される。 6層の黒褐色土は、1回目の地山崩落後に堆積を内側したものであろう。
杭穴数	0	0	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	20	20	20
写真図版	18	18	18, 19
特記事項	〈その他〉水路部分のため、全体規模は不明。	〈その他〉東側は調査区城外。	〈その他〉水路部分のため、全体規模は不明。

遺構名	D 4 陥し穴状遺構	D 1 陥し穴状遺構	D 2 陥し穴状遺構
登録遺構	C-SK04	D-SK01	D-SK02
位置	III B12a	IV B11v	IV B14n ~ o
検出状況	Va層から検出。	Va層から検出。	Va層から検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・坑穴位置 II d a	II d a	II d a
規模	開口部径 (cm) 215以上×48以上 底部径 (cm) 203以上×23以上 深さ (cm) 111	303×50 308×19 109	327×55 309×11~19 102
長軸方向	N-68°-W	N-51°-E	N-10°-W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黄褐色系シルトと褐色灰色シルトで構成される。	自然堆積。上部には黒褐色シルト、下部は底面および7層に黒褐色土を挟在した黄褐色系シルトで構成される。	自然堆積。上部と底面は黒褐色シルト、下部は黄褐色系シルトで構成される。
杭穴数	0	0	0
底面	ほぼ平坦。	北東側が若干下がる。	ほぼ平坦。
図	20	20	20
写真図版	18	20	20
特記事項	〈その他〉水路部分のため、全体規模は不明。	〈遺物〉検出面から石器(31)。 〈その他〉底面中央付近は狭い。	〈遺物〉底面中央付近は狭い。
遺構名	D 3 陥し穴状遺構	D 4 陥し穴状遺構	D 5 陥し穴状遺構
登録遺構	D-SK4	D-SK05	D-SK06
位置	IV C11b	IV C13e	IV C13e
検出状況	Va層から検出。	Va層から検出。	Va層から検出。
重複関係	なし	なし。D 5 陥し穴状遺構に近接。	なし。D 4 陥し穴状遺構に近接。
形状	平面形・坑穴位置 II d a	II d a	II d a
規模	開口部径 (cm) 348×35 底部径 (cm) 370×16 深さ (cm) 70	328×46 326×6~16 147	318×39 324×14 98
長軸方向	N-45°-W	N-46°-E	N-81°-E
埋土	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黄褐色系シルトで構成される。	自然堆積。上部は黒色及び黒褐色シルト、下部は黒色粘質シルトを挟在した黄褐色系粘質シルトで構成される。	自然堆積。上部は黒色粘質シルト、下部は黄褐色系粘質シルトで構成される。
杭穴数	0	0	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	若干中央がくぼむ。
図	21	21	21
写真図版	20	21	21
特記事項	〈その他〉底面中央付近は狭い。		

遺構名	D 6 陥し穴状遺構	D 7 陥し穴状遺構	D 8 陥し穴状遺構
登録遺構	D-SK07	D-SK08	D-SK09
位置	IVB15n ~ o	IVB12l ~ m	IVC10d
検出状況	Va 層から検出。	Va 層から検出。	Va 層から検出。
重複関係	なし	なし	なし
形狀	平面形・杭穴位置	IV A 1 a	IV A 1 a
	断面形	c	c
	開口部径 (cm)	210×121	185×101
規模	底部径 (cm)	164×32	149×36
	深さ (cm)	137	121
長軸方向	N 15° - E	N - 34° - E	N - 2° - W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色のシルト、下部は黒褐色粘質シルトを挟在した褐色の粘質シルトで構成される。2層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色のシルト、下部は黒褐色粘質シルトを挟在した褐色の粘質シルトで構成される。2層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部は黒褐色及び黒褐色シルト、下部は黄褐色系のシルトで構成される。底面に黒褐色粘質シルトが堆積する。
杭穴数	3	3	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	21	21	22
写真図版	21	21	22
特記事項	〈杭穴〉北側に2個、南側に1個ある。南側の杭穴形状は不整形。底面に対して垂直からやや斜方向に入る。	〈杭穴〉北側に2個、南側に1個ある。底面に対して斜方向に入る。	
遺構名	D 9 陥し穴状遺構	D 10 陥し穴状遺構	E 1 陥し穴状遺構
登録遺構	D-P01	D-P02	E-SK01
位置	IVC15c ~ d	IVC16d	IVC24~25 j
検出状況	Va 層から検出。	Va 層から検出。	Va 層から検出。
重複関係	なし	なし	なし
形狀	平面形・杭穴位置	I d	I d
	断面形	b	c
	開口部径 (cm)	74×73	75×72
規模	底部径 (cm)	66×60	64×58
	深さ (cm)	99	111
長軸方向			N - 20° - E
埋土	自然堆積。上部は黒褐色の粘質シルト、下部は2枚の黒褐色シルトを挟在した黄褐色系シルトで構成される。	自然堆積。上部に黒褐色シルト、下部は2枚の黒褐色シルトを挟在した黄褐色系シルトで構成される。	自然堆積。黒褐色と黄褐色系シルトで構成される。
杭穴数	0	0	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	—
図	22	22	22
写真図版	22	22	23
特記事項	—	—	〈その他〉水路部分のため、全体規模は不明。

造構名	E 2 陥し穴状造構	F 1 陥し穴状造構	F 2 陥し穴状造構
登録造構	E-SK02	F-SK01	F-SK03
位置	IVB25k	VC10 c ~ d	VC 6 d
検出状況	Va 層から検出。	Va 層から検出。	Va 層から検出。

重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置	II d	IV A 1 d
	断面形	a	c
規模	開口部径 (cm)	256以上×52以上	180×108
	底部径 (cm)	244以上×15	189×44
	深さ (cm)	112	158
長軸方向	N -7° - E	N -19° - W	N -6° - W
埋土	自然堆積。黄褐色系シルトを主体とし、底面に黒褐色シルト、最上部に黒色シルトが堆積する。	自然堆積。黄褐色系シルトを主体とし、数次の黒褐色シルトが狹在する。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黒褐色シルトで構成される。底部に黒色シルトが堆積している。
杭穴数	0	0	2
底面	—	南側が若干上がる。中央付近にくぼみあり。平面で閑化できるほどではない。	若干南側が下がる。
岡	22	23	23
写真図版	23	24	24
特記事項	〈その他〉北東側は調査区外。	〈杭穴〉南側、北側各1個ある。底面に対して斜方向に入る。 〈その他〉底面のほかに壁面にもくぼみがある。	

造構名	F 3 陥し穴状造構	G 1 陥し穴状造構	G 2 陥し穴状造構
登録造構	F-SK04	G-SK1	G-SK2
位置	VC4 j ~ k	III B16~17 f ~ g	III B16~17 d
検出状況	Va 層から検出。	III層で検出。	III層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置	II d	II d
	断面形	a	a
規模	開口部径 (cm)	276×34	329×58
	底部径 (cm)	295×10~31	312×12
	深さ (cm)	92~121	104
長軸方向	N -3° - W	N -38° - E	N -51° - W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黄褐色系の粘土及びシルトで構成される。	自然堆積。黒色・黒褐色のシルト、黒色・黒褐色・暗褐色の粘質土で構成される。	自然堆積。上部に黒色シルト、下部は地山崩落の褐色粘土が狹在した黒褐色・暗褐色のシルトで構成される。
杭穴数	0	0	0
底面	北側が波打っている。	ほぼ平坦。	中央がくぼみ、両端が若干上がる。
岡	23	24	24
写真図版	24	25	25
特記事項	〈その他〉北側の底面が広くなっているとともに波打っている。抉られている。	〈その他〉調査区西端。	

透構名	G 3 陥し穴状透構	G 4 陥し穴状透構	G 5 陥し穴状透構
登録透構	G-SK4	G-SK7	G-SK8
位置	III B18g	III A18t ~ u	III A19t
検出状況	III 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	III 1a	III 1d	II d
断面形	c	c	a
開口部径 (cm)	200×97	207×90	401×51
規模 底部径 (cm)	155×33	179×29	390×18
深さ (cm)	135	121	104
長軸方向	N 19° - W	N 12° E	N 7° E
埋土	自然堆積。黒色・黒褐色・暗褐色のシルトを主体とし、地山崩落の褐色粘土を伏在する。2、3、6層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。黒色・黒褐色・暗褐色のシルトを主体とし、地山崩落の褐色粘土を伏在する。1層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色のシルト、下部は褐色粘土で構成される。底面に黒褐色シルトが堆積する。
杭穴数	2	0	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	両端はやや低いが、ほぼ平坦。
図	24	24	25
写真図版	25	26	26
特記事項	〈杭穴〉北側に2個ある。 〈その他〉試掘で掘り下げた際に断面で2層の灰白色火山灰を確認した。		

透構名	G 6 陥し穴状透構	G 7 陥し穴状透構	G 8 陥し穴状透構
登録透構	G-SK9	G-SK10	G-SK11
位置	III A21u	III A17q	III A14~15o
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	III 1a	I b	IVB 2 b
断面形	c	b	b
開口部径 (cm)	191×86	73×70	132×79
規模 底部径 (cm)	161×28	64×62	123×60
深さ (cm)	105	81	40
長軸方向	N -36° - W		N -60° - W
埋土	自然堆積。黒褐色・暗褐色のシルトで構成される。間に地山ロームの崩落土を伏在する。	自然堆積。黒褐色及び暗褐色粘土を主体とする。間に数回の地山崩落が観察される。	自然堆積。上部は黒褐色粘土、下部は暗褐色・褐色のシルトで構成される。
杭穴数	3	1	1
底面	凹凸あり。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	25	25	25
写真図版	26	26	27
特記事項	〈杭穴〉北西側に2個、南東側に1個ある。底面に対し斜方向に入る。	〈杭穴〉中央からやや東寄りにある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対して垂直に入る。

遺構名	G 9 陥し穴状遺構	G10 陥し穴状遺構	G11 陥し穴状遺構
登録遺構	G-SK12	G-SK13	G-SK14
位置	III A 16m	IV A 1g ~ h	IV A 1v
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。

重複関係	なし	なし	旧水川の水路に切られる。
形状 平面形・杭穴位置	III 1 a	II d	III 1 a
断面形	b	a	c
規模 開口部径 (cm)	195×96	338×29	202×82
底部径 (cm)	186×54	(333)×18	167×31
深さ (cm)	103	34	112
長軸方向	N - 44° E	N - 26° W	N - 29° W
埋土	自然堆積。黒色・暗褐色のシルト及び褐色粘土で構成される。	自然堆積。黒褐色・暗褐色のシルト、地山崩落の褐色粘土で構成される。	自然堆積。黒色・黒褐色・暗褐色のシルトで構成される。1層に灰白色火山灰が堆積する。
杭穴数	4	0	3
底面	やや凹凸あり。	若干凹凸あるがほぼ平坦。	凹凸あり。
図	25	26	26
写真図版	27	27	27
特記事項	〈杭穴〉北東側、南西側各2個ある。底面に対して斜方向に入る。 〈その他〉調査時点では明らかではなかったが、調査の進行につれ、II層が灰白色火山灰であった可能性がある。	〈その他〉南側は掘りすぎ。	〈杭穴〉北西側に2個、南東側に1個ある。底面に対して斜方向に入る。

遺構名	G12 陥し穴状遺構	G13 陥し穴状遺構	G14 陥し穴状遺構
登録遺構	G-SK15	G-SK16	G-SK17
位置	IV A 4 w	IV A 6 x	IV A 3 x ~ y
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。

重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	IV A 1 a	III 1 a	II d
断面形	c	c	a
規模 開口部径 (cm)	216×116	238×82	321×38
底部径 (cm)	170×40	(217)×29	339×15~32
深さ (cm)	144	103	68
長軸方向	N - 25° E	N - 24° E	N - 6° E
埋土	自然堆積。黒色・黒褐色土及びシルトで構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。2層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。黒褐色・暗褐色の粘土及びシルトで構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。1層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。黒褐色・暗褐色のシルト及び粘土で構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。
杭穴数	3	1以上	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	全体が若干波うつ。
図	26	26	26
写真図版	28	28	28
特記事項	〈杭穴〉北東側に2個、南西側に1個ある。底面に対して斜方向に入る。	〈杭穴〉北東側にある。底面に対して斜方向に入る。 〈その他〉H 1 区との境界に位置する。南西側掘りすぎ。	〈その他〉地山崩落土を地山と誤認したため、画面写真が2枚に分かれている。

遺構名	G15陥し穴状遺構	G16陥し穴状遺構	G17陥し穴状遺構	
登録遺構	G-SK18	G-SK21	G-SK22	
位置	IVA 2 ~ 3 y	IVB 5 a ~ b	III B25g ~ h	
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。	
重複関係	なし	なし	なし	
形状	平面形・杭穴位置 断面形 開口部径 (cm)	IVA 1 a c 211×149	IVA 1 d d 228×152	III 1 a c 169×71
規模	底部径 (cm)	175×78	176×68	160×30
	深さ (cm)	111	118	100
長軸方向	N-34° E	N-9° W	N-16° W	
埋土	自然堆積。黒褐色・暗褐色のシルトで構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。	自然堆積。黒褐色・暗褐色のシルト及び粘土質シルトで構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。	自然堆積。黒色・黒褐色・暗褐色のシルトで構成され、地山崩落による褐色粘土を挟在する。	
杭穴数	4	0	3	
底面	ほぼ平坦。	若干波打つ。	南側が若干下がる。	
図	27	27	27	
写真図版	29	29	29	
特記事項	〈杭穴〉北東側・南西側に各2個ある。底面に対して斜方向に入る。	〈杭穴〉南側に1個、北側に2個ある。底面に対して斜方向に入る。	〈杭穴〉南側に1個、北側に2個ある。底面に対して斜方向に入る。	

遺構名	G18陥し穴状遺構	G19陥し穴状遺構	G20陥し穴状遺構	
登録遺構	G-SK23	G-SK24	G-SK25	
位置	IVB 3 g ~ h	III B22a	III A16t ~ u	
検出状況	Va層で検出。	III層で検出。	Va層で検出。	
重複関係	なし	なし	なし	
形状	平面形・杭穴位置 断面形 開口部径 (cm)	IVA 1 a c 194×99	IVA 1 a d 218×152	III 1 d c 210×76
規模	底部径 (cm)	161×39	170×79	187×33
	深さ (cm)	127	122	101
長軸方向	N-18° W	N-6° W	N-23° W	
埋土	自然堆積。黒褐色・暗褐色のシルトで構成され、地山崩落の褐色系粘土を挟在する。1層に灰白色火山灰が堆積する。	上部は黒褐色のシルト、下部は暗褐色のシルトで構成される。6層に灰白色火山灰が堆積する。上部は自然堆積だが、20~32層及び42層以下の下部は人為的に埋めた可能性もある。	自然堆積。黒褐色・暗褐色の粘土質で構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。	
杭穴数	3	2	0	
底面	やや凹凸がある。	若干凹凸はあるが、ほぼ平坦。	ほぼ平坦だが、南側に凹凸がある。	
図	27	28	28	
写真図版	29	30	30	
特記事項	〈杭穴〉北西側に2個、南東側に1個ある。底面に対して斜方向に入る。	〈杭穴〉北側・南側各1個ある。底面に対して斜方向に入る。	〈杭穴〉北側・南側各1個ある。底面に対して斜方向に入る。	

遺構名	G21陥し穴状遺構	G22陥し穴状遺構	G23陥し穴状遺構
登録遺構	G-SK26	G-SK28	G-SK29
位置	III A16r	III A13l	III A17~18m
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 I b	I ?	II d
断面形	b		a
規模	開口部径 (cm) 78×77	—	365×24~40
	底部径 (cm) 78×73	—	431×20
	深さ (cm) 86	63以上	90
長軸方向		N-44°-W	
埋土	自然堆積。黒褐色・暗褐色の粘質土で構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。	自然堆積。黒褐色・暗褐色のシルトで構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。	自然堆積。黒色・黒褐色・暗褐色のシルトで構成され、地山崩落の褐色系粘土を挟在する。13層に有機質が混じった土壌があった。
杭穴数	1	—	0
底面	ほぼ平坦。		若干凹凸あり。
図	28	28	29
写真図版	30	31	31
特記事項	〈杭穴〉中央付近にある。 底面に対して垂直に入る。	〈その他〉ほとんどが調査区外のため、詳細は不明である。	〈C14年代測定〉 13層: 3870±10yrBP【加】 〈その他〉表面の凸凹が著しい。
遺構名	G24陥し穴状遺構	G25陥し穴状遺構	G26陥し穴状遺構
登録遺構	G-SK30	G-SK31	G-SK32
位置	III A14~15i	III A14i	III A19~20h
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 III A	III B	III A
断面形	—	—	—
規模	開口部径 (cm) 273×142	160×70	197×127
	底部径 (cm) —	—	—
	深さ (cm) —	—	—
長軸方向	N-55°-W	N-46°-E	N-54°-W
埋土	—	—	—
杭穴数	—	—	—
底面	—	—	—
図	—	—	—
写真図版	31	31	31
特記事項	〈その他〉計画標高の関係から平面のみ記録。	〈その他〉計画標高の関係から平面のみ記録。	〈その他〉計画標高の関係から平面のみ記録。

遺構名	G27陥し穴状遺構	G28陥し穴状遺構	G29陥し穴状遺構
登録遺構	G-SK33	G-SK36	G-SK37
位置	III A19~20 g~h	III A19~k	IVA 2o
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。

重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	IIIA	IV A 1 b b	I b b
断面形	—	—	—
規模 開口部径 (cm)	193×125	184×100	77×64
底面径 (cm)	—	155×62	63×50
深さ (cm)	—	84	94
長軸方向	N-89° E	N-27-W	—
埋土	—	自然堆積。黒褐色シルト、暗褐色の粘土・シルトで構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。	自然堆積。上部は黒色・黒褐色・暗褐色のシルト、下部は地山崩落の褐色系粘土を挟在した暗褐色のシルト及び粘土で構成される。
杭穴数	—	4	1
底面	—	ほぼ平坦。	凹凸あり。
図	—	29	29
写真図版	31	32	32
特記事項	〈その他〉計画標高の関係から平面のみ記録。	〈杭穴〉北側に3個、南側に1個あるが、盤面にはない。底面に対して垂直に入っている。南東側の杭穴は掘りすぎ。	〈杭穴〉中央からやや南寄りにある。底面に対して垂直に入る。 (C14年代測定) 5層: 3650±40yrBP【加】

遺構名	G30陥し穴状遺構	G31陥し穴状遺構	H1 陥し穴状遺構
登録遺構	G-SK38	G-SK39	H1-SK01
位置	III A24p~q	III A23q	IV B 7~8 e
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	I b	I b c	WA I a
断面形	b	b	c
規模 開口部径 (cm)	80×75	66×64	242×132
底面径 (cm)	64×61	60×68	199×61
深さ (cm)	93	81	126
長軸方向	—	—	N-18° E
埋土	自然堆積。黒色・黒褐色のシルト、暗褐色シルト及び粘土で構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。	自然堆積。黒色・黒褐色・暗褐色のシルトで構成され、地山崩落の褐色粘土を挟在する。	自然堆積。上部は黄褐色系の土を挟在した黒色シルト及び暗褐色のシルト、下部は黒褐色土を挟在した黄褐色系粘土で構成される。
杭穴数	—	1	4
底面	凹凸あり。	ほぼ平坦。	やや凹凸あり。
図	—	29	29
写真図版	32	33	34
特記事項	〈杭穴〉中央よりやや南東にある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉南側、北側各2箇ある。底面に対して斜方向に入る。

遺構名	H2 陥し穴状遺構	H3 陥し穴状遺構	H4 陥し穴状遺構
登録遺構	H2-SK01	H2-SK02	H3-SK01
位置	IV A 9 ~ 10y	IV A10 a	IV B16f
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。一部擾乱を受けている。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	II 1 a c	IV A 1 d c
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm) 深さ (cm)	209×98 169×26 131	171×113 155×86 68
長軸方向	N - 14° E	N - 4° E	N - 53° W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色シルト、暗褐色粘土質シルト、下部は褐褐色シルトを挟在した黄褐色系粘土で構成される。1 ~ 3層で様態は違うが、灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部は暗褐色シルト、下部は褐色粘土質シルト、明黄褐色粘土。底部は暗褐色シルトで構成される。	自然堆積。上部は黒褐色土を挟在した黄褐色系の土。下部は褐色灰土、底面は黑色土で構成される。1層に灰白色火山灰?が堆積する。
杭穴数	3	0	4
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	若干凹凸あり。
図	30	30	30
写真図版	34	34	35
特記事項	〈杭穴〉全て北東側にある。 底面に対して斜方向に入る。	〈杭穴〉北西側 3つ、南東側 1つ。北西側の 1つは壁際にある。北西の壁際の杭穴と南東側の杭穴は底面に対して斜方向に入る。	
遺構名	H5 陥し穴状遺構	H6 陥し穴状遺構	H7 陥し穴状遺構
登録遺構	H3-SK02	H3-SK03	H4-SK01
位置	IV B15a ~ b	IV A15x ~ y	IV A19y
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	III 1 a c	II d a
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm) 深さ (cm)	219×103 104×36 119	970×29 362×7 99
長軸方向	N - 15° W	N - 50° W	N - 27° W
埋土	自然堆積。黒色・黒褐色・暗褐色のシルトで構成され、黄褐色系の土を挟在する。1、2層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黄褐色系の土で構成される。	自然堆積。暗褐色シルトを主体とし、上部に黒褐色シルト、褐色粘土質シルトの堆積により構成される。
杭穴数	1	0	2
底面	北側が石下あがる。	南東側が石下あがる。北西側の底面は非常に狭い。	ほぼ平坦。
図	31	31	31
写真図版	35	35	35
特記事項	〈杭穴〉南側にある。底面に対して垂直に入るが、浅い。	〈杭穴〉南側、北側各 1 個ある。底面に対して斜方向に入る。	

透構名	II 8 陥し穴状透構	II 9 陥し穴状透構	H10 陥し穴状透構
登録透構	H5-SK01	H5-SK02	H5-SK03
位置	IV A21~22 w ~ x	IV A22 w	IV A24 w
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。北端若干搅乱を受けているか。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	IV A1 a	III 1 a	IV A1 a
断面形	c	e	c
開口部径 (cm)	231×124	234×114	188×125
規模 底部径 (cm)	219×39	195×40	157×61
深さ (cm)		125	151
長軸方向	N 53° W	N 31° W	N-12°-W
埋上	自然堆積。上部は暗褐色・褐色・黄褐色上及びシルト、下部は黒色土を挟在した黄褐色系の粘質土で構成される。1~3層に形状等は異なるが、灰白色火山灰が堆積する。16層は水成堆積の様相を呈する。	自然堆積。上部は黒褐色・褐色のシルト、下部は黒褐色土を挟在した黄褐色系の上で構成される。1層及び底面に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色シルト、下部は黒褐色土を挟在した黄褐色系シルトで構成される。底間に灰白色火山灰が堆積する。
杭穴数	8	3	1
底面	石子南西側が高いか。	南側に石子凹あり。	ほぼ平坦。
図	52	31	32
写真図版	36, 37	36, 37	37
特記事項	〈杭穴〉北西側に2個、南東側に1個ある。底面に対して垂直に入れるが、浅い。 〈遺物〉検出面より石器(53)。	〈杭穴〉北西側に2個、南東側に1個ある。底面に対して垂直に入れるが、浅い。 〈火山灰分析〉 4層：1頭【弘】 底面：3頭【弘】	〈杭穴〉北側にある。底面に対して垂直に入れるが、浅い。 〈火山灰分析〉 底面：2頭【弘】
透構名	II 11 陥し穴状透構	II 12 陥し穴状透構	H13 陥し穴状透構
登録透構	H5-SK04	H6-SK02	H6-SK03
位置	IV A21 x	IV A24~25 v	IV A25 q ~ r
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	I d	III 1 c	IV A1 a
断面形	c	c	d
開口部径 (cm)	80×75	249×116	184×104
規模 底部径 (cm)	41×48	203×58	126×42
深さ (cm)	91	136	132
長軸方向	—	N-70°-W	N 44°-W
埋上	自然堆積。黒褐色シルト及び黄褐色系粘土で構成される。4層は水成堆積の様相を呈する。	自然堆積。上部は黄褐色系の土を挟在した黒褐色及び暗褐色シルト、下部は黄褐色系の粘土質シルトで構成される。全体に炭化物が入る。	自然堆積。黒褐色、暗褐色の粘土質シルト及びシルトで構成され、地山崩落の黄褐色系の土が挟在する。1、2層に灰白色火山灰が堆積する。
杭穴数	0	6	2
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	やや凸凹あり。
図	32	32	32
写真図版	36	38	38
特記事項		〈杭穴〉北側に2個、南側に4個ある。うち、北側1個、南側2個は壁寄りにある。底面に対して斜方向に入る。 〈その他〉西壁面に段差がある。	〈杭穴〉北側に2個ある。底面に対して垂直に入れるが、浅い。

遺構名	H14陥し穴状遺構	H15陥し穴状遺構	H16陥し穴状遺構
登録遺構	H7_SK01	H7_SK02	H7_SK03
位置	VΛ 4 ~ 5 y	VΛ 5 w ~ x	VΛ 4 o
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	IV A 1 a c	II d a
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm)	205×103 147×43	390×62 414×16
深さ (cm)		124	95
長軸方向	N - 77° E	N - 19° E	N - 41° E
埋土	自然堆積。上部は黒褐色、暗褐色のシルト及び土、下部は黄褐色系の土で構成される。1~3層に灰白色火山灰が堆積する。16層は水成堆積の様相を呈する。	自然堆積。黒褐色土、暗褐色土で構成され、地山崩落の黄褐色土が保存する。底面には水成堆積の様相を呈する灰黃褐色土が堆積する。	自然堆積。黄褐色系の土を主とする。底面に水成堆積の様相を呈する褐灰色土がある。黒褐色土は最上面と褐灰色土の上面に堆積する。
杭穴数	4	0	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	やや凹凸あり。
図	33	33	33
写真図版	38	38	39
特記事項	〈杭穴〉東側、西側各2個ある。底面に対して斜方向に入る。		

遺構名	H17陥し穴状遺構	H18陥し穴状遺構	H19陥し穴状遺構
登録遺構	H7_SK04	H7_SK05	H7_SK06
位置	VΛ 2 o	VΛ 4 l	VΛ 5 l
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	IV A 1 a c	II b a
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm)	188×86 160×32	172×110 124×35
深さ (cm)		118	132
長軸方向	N - 82° - W	N - 31° - W	N - 5° - W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色土、下部は黒褐色土を挟在した黄褐色系及び暗褐色の土で構成される。2層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部は黒色・暗褐色のシルト、下部は黄褐色系の土、底面に水成堆積と考えられる褐灰色土で構成される。2~3層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。最上部と底部は黒褐色及び暗褐色の土、下部は黄褐色系の土で構成される。
杭穴数	3	4	1?
底面	ほぼ平坦。	凹凸あり。	やや凹凸あり。
図	33	34	34
写真図版	39	39	39
特記事項	〈杭穴〉西側に2個、東側に1個ある。底面に対して斜方向に入る。	〈杭穴〉北側、南側に各2個ある。底面に対して垂直及び斜方向に入る。垂直に入るのは穴が浅い。 〈遺物〉埋土中位から縄文土器(8)。	〈杭穴〉中央にある。底面に対し、垂直に入る。 〈その他〉濃状の陥し穴状遺構(IIa類)では歴少ない杭穴跡?をもつ。

透構名	H120陥し穴状透構	H21陥し穴状透構	H22陥し穴状透構	
登録透構	H7-SK07	H7-SK09	H8 SK01	
位置	Va5p	Va2~3t	VB7a~b	
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。	
重複関係	なし	なし	なし	
形狀	I d b	III 1b c	III 1a c	
断面形				
開口部径 (cm)	93×92	254×120	224×105	
規模	底部径 (cm) 深さ (cm)	77×74 93	215×71 107	146×49 130
長軸方向		N-59°-E	N-23°-E	
埋土	自然堆積。上部は暗褐色シルト、下部は黄褐色系の土、底部は水成堆積と考えられる褐灰色土で構成される。	自然堆積。上部は黒褐色及び暗褐色のシルト、下部は黄褐色系の土で構成される。14、15層は水成堆積の様相を呈する。	自然堆積。暗褐色シルトを主体とし、底面にグライ化したにぶい黄褐色粘土質シルトが堆積する。1、2層に灰白色火山灰が堆積する。	
杭穴数	0	2	5	
底面	やや凹凸あり。	ほぼ平坦。	やや凹凸あり。	
図	34	34	35	
写真図版	40	40	41	
特記事項		《杭穴》中央付近に2個ある。底面に対して垂直に入る。	《杭穴》北側に3個、南側に2個ある。底面に対して斜方向に入る。	

透構名	H23陥し穴状透構	H24陥し穴状透構	H25陥し穴状透構	
登録透構	H8-SK02	H8-SK03	H8 SK04	
位置	Va8r	Va6p	VΛ7p	
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。	
重複関係	なし	なし	なし	
形狀	IVB1d b	I b b	I b b	
断面形				
開口部径 (cm)	152×96	84×93	73×72	
規模	底部径 (cm) 深さ (cm)	136×71 94	72×61 101	70×63 92
長軸方向	N-55°-W			
埋土	自然堆積。黒褐色の粘土質シルトを主体とし、地山崩落の黄褐色シルトが狹在する。	自然堆積。黒褐色シルトを主体とし、底面に暗褐色シルトが堆積する。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は暗褐色シルトで構成される。	
杭穴数	0	2	1	
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	
図	35	35	35	
写真図版	40	41	40	
特記事項		《杭穴》中央付近及び中央よりやや北側に1個ずつある。底面に対して垂直に入る。	《杭穴》中央よりやや西側にある。底面に対して垂直に入る。	

遺構名	H26陥し穴状遺構	H27陥し穴状遺構	H28陥し穴状遺構
登録遺構	H8-SK05	H8-SK06	H9-SK01
位置	V A 8 n	V A 8 p	V B 10 c
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	I d	I b	IV A 1 a
断面形	b	b	c
開口部径 (cm)	71×70	84×80	195×109
規模 底部径 (cm)	63×62	72×70	171×46
深さ (cm)	113	97	136
長軸方向	—	—	N-10°-W
埋土	自然堆積。黒褐色シルトを主体として構成される。	自然堆積。黒褐色シルトを主体として構成される。	自然堆積。最上部は褐色シルト、中部は黒褐色および暗褐色シルト、下部は黄褐色系の土で構成される。底面付近の黄褐色系の土には、黒褐色の土が挟在する。
杭穴数	0	1	4
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	やや凹凸あり。
図	35	36	36
写真図版	41	42	42
特記事項	〈杭穴〉中央よりやや南側にある。底面に対して垂直に入る。		
遺構名	H29陥し穴状遺構	H30陥し穴状遺構	H31陥し穴状遺構
登録遺構	H9-SK02	H9-SK03	H9-SK04
位置	V A 12 q	V A 12 q	V A 17 n → o
検出状況	Vn 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	I b	I b	I b
断面形	b	b	b
開口部径 (cm)	80×76	87×76	138×112
規模 底部径 (cm)	72×77	71×70	118×96
深さ (cm)	95	95	82
長軸方向	—	—	N-44°-W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色、暗褐色シルト、下部は黒褐色土を挟在した黄褐色系の土で構成される。底面には水成堆積とみられる褐色土が堆積する。	自然堆積。上部は黒褐色、暗褐色のシルト、下部は黒褐色系のシルトで構成される。ほぼ全ての層がシルト質で陥し穴状遺構の埋土とは性質がまったく異なる。底面に水成堆積の褐色土が堆積する。	自然堆積。上部は黒褐色、暗褐色シルト、下部は黄褐色系のシルトで構成される。ほぼ全ての層がシルト質で陥し穴状遺構の埋土とは性質がまったく異なる。底面に水成堆積の褐色土が堆積する。
杭穴数	1	1	1
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	36	36	37
写真図版	42	42	43
特記事項	〈杭穴〉やや南よりにある。底面に対し垂直に入る。	〈杭穴〉中央よりやや南側にある。底面に対し垂直からやや斜方向に入る。	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対し垂直に入る。

遺構名	H32陥し穴状遺構	H33陥し穴状遺構	H34陥し穴状遺構
登録遺構	H10-SK01	H10-SK02	H10-SK03
位置	V B16～17 e	V B15～16 e	V B13 a
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置	IV A 1 a	I b
	断面形	d	b
	開口部径 (cm)	182×120	87×76
規模	底部径 (cm)	166×58	71×70
	深さ (cm)	134	95
長軸方向	N 40° E		N 2° E
埋土	自然堆積。黒色及び黒褐色土を伏せした黄褐色系の土で構成される。上層及び埋土上位に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。地山崩落の明黄色シルトを伏せした暗褐色シルトと休止し、上部に黒色シルトが堆積する。7層に灰白色火山灰が堆積する。8層の明黄褐色シルトは地山ロームを突いたことによってぼそぼそになった層か。	
杭穴数	5	1	3
底面	やや凹凸あり。	ほぼ平坦。	やや凹凸あり。
図	37	37	37
写真図版	43	43	41
特記事項	〈杭穴〉北側に2個、南側に3個ある。底面に対しいずれも斜方向に入る。 〈その他〉工具痕と見られる歯跡がある。 〈火山灰分析〉 1層：1類【弘】 埋土中位：2類【弘】	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対し垂直に入る。 〈遺物〉埋土上部から石器剥片(58)。	〈杭穴〉南側に3個ある。底面に対し斜方向に入る。 〈火山灰分析〉 底面：1類【弘】
遺構名	H35陥し穴状遺構	H36陥し穴状遺構	H37陥し穴状遺構
登録遺構	H110-SK04	H110-SK05	H110-SK06
位置	V A16 y	V A16 y	V A14 a
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置	IV B 1 d	IV B 2 b
	断面形	c	c
	開口部径 (cm)	289×58	122×87
規模	底部径 (cm)	282×10	84×51
	深さ (cm)	121	93
長軸方向	N -60° - E	N -45° - E	N -90° - E
埋土	自然堆積。暗褐色シルトを主体とする。底面及び中位に黒色、黒褐色シルトが入る。	自然堆積。黒褐色シルト及び粘土質シルトを主体とし、最上部に黒色シルト、底面にしまりが疊な地山ブロック層が堆積する。	自然堆積。黒褐色シルトを主体とし、最上部に黒色シルト、底面に暗褐色シルトが堆積する。
杭穴数	0	0	3
底面	凹凸著しい。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	38	38	38
写真図版	43	44	44
特記事項	〈杭穴〉すべて中央付近にある。底面に対し垂直に入る。 〈その他〉東西壁面は抉られる。		

遺構名	H38陥し穴状遺構	H39陥し穴状遺構	H40陥し穴状遺構
登録地構	H10-SK07	H10-SK08	H10-SK09
位置	V A14~15a	V A14~15t	V A15t
検出状況	Va 層で検出。一部擾乱で 切られている。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	IVB 2 b b	III 2 b b c
開口部径 (cm)	110×65	123×60	109×66
規模 底部径 (cm)	132×39	138×34	133×30~50
深さ (cm)	93	96	96
長軸方向	N-75°-W	N-78°-W	N-73°-W
埋土	自然堆積。黒褐色シルト及び粘土質シルトを主体とし、最上部に黒色シルト、底面に暗褐色粘土質シルトが堆積する。	自然堆積。黒褐色シルト及び粘土を主体とし、最上部に黒色シルト、底面に暗褐色粘土質シルトが堆積する。	自然堆積。黒褐色シルト及び粘土を主体とし、最上部に黒色シルト、底面に暗褐色粘土質シルトが堆積する。
杭穴数	3	1	1
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	38	39	39
写真図版	45	45	45
特記事項	〈杭穴〉全て中央付近にある。底面に対し垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対し垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対し垂直に入る。
遺構名	H41陥し穴状遺構	H42陥し穴状遺構	H43陥し穴状遺構
登録地構	H10-SK10	H10-SK11	H11-SK01
位置	V A14p	V A15o	V B17b ~ c
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	I b c	IVB 3 d b
開口部径 (cm)	89×90	83×80	154×95
規模 底部径 (cm)	64×69	68×65	144×74
深さ (cm)	102	105	87
長軸方向	—	—	N-89°-E
埋土	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黄褐色系シルト及び粘土質を主体とする。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黄褐色系シルト及び粘土質を主体とする。底面に水成堆積層がある。	自然堆積。上部は黒褐色、暗褐色シルト、下部は黄褐色系粘土質シルトで構成される。12層より下は水成堆積の様相を呈する。
杭穴数	1	1	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	39	39	40
写真図版	46	45	46
特記事項	〈杭穴〉中央からやや南側にある。底面に対し垂直に入る。	〈杭穴〉中央からやや東側にある。底面に対し垂直に入る。	〈杭穴〉中央からやや東側にある。底面に対し垂直に入る。

遺構名	H44陥し穴状遺構	H45陥し穴状遺構	H46陥し穴状遺構
登録遺構	H11-SK02	H11-SK03	H11-SK04
位置	VB17b	VB17a～b	VB17c
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。

重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	IVB2 b	IVB2 d	IVB2 d
断面形	b	c	b
開口部径 (cm)	146×87	148×102	136×82
規模 底部径 (cm)	128×58	132×42	114×49
深さ (cm)	87	84	77
長軸方向	N-81°-W	N-88°-W	N-14°-E
埋土	自然堆積。上部は黒色、黒褐色シルト、下部は黒褐色土を挟在した黄褐色系の土、底面は水成堆積の褐灰色粘質土で構成される。	自然堆積。上部は黒褐色、暗褐色シルト、下部は黄褐色系の土、底面は褐灰色土で構成される。8層より下は水成堆積の様相を呈する。	自然堆積。上部は黒褐色、暗褐色シルト、下部は黄褐色系土上で構成される。底面の7・8層は水成堆積層とみられる。
杭穴数	1	0	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	北側が若干あがる。
図	40	40	40
写真図版	46	47	47
特記事項	〈杭穴〉中央よりもやや東側にある。底面に対し垂直に入れる。		

遺構名	H47陥し穴状遺構	H48陥し穴状遺構	H49陥し穴状遺構
登録遺構	H11-SK05	H12-SK01	H12-SK02
位置	VB19~20 c~d	VB20d	VB21e
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。

重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	I b	IVa1a	IVB1b
断面形	d	c	c
開口部径 (cm)	154×133	234×133	145×88
規模 底部径 (cm)	151×91	236×61	131×49
深さ (cm)	103	120	84
長軸方向	N-36°-W	N-13°-W	N-24°-E
埋土	自然堆積。上部は黒褐色、暗褐色のシルト、下部は黄褐色系の土、底面は褐灰色土で構成される。底面の16・17層は水成堆積の様相を呈する。	自然堆積。上部から黒褐色シルト、黒色・黒褐色・暗褐色シルトを挟在した黄褐色系の土、黄褐色系の土の上に16層には灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部は黒色、黒褐色シルト、下部は黄褐色系及び暗褐色シルトの土で構成される。
杭穴数	2	5	1
底面	ほぼ平坦。	やや凸凹あり。	ほぼ平坦。南側がテラス状になる。
図	41	41	41
写真図版	47	47	48
特記事項	〈杭穴〉中央付近に2個ある。底面に対し垂直に入る。 〈火山灰分析〉 底面：1類【弘】	〈杭穴〉北側に2個、南側に3個ある。底面に対し斜方向に入る。 〈火山灰分析〉 底面：1類【弘】	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対し垂直に入る。

遺構名	H50陥し穴状遺構	H51陥し穴状遺構	H52陥し穴状遺構
登録遺構	H12-SK03	H13-SK01	H13-SK02
位置	VB23b	VIA25~VIA1w	VIA3n~o
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 IV A 1a c	IV A 1a c	i b c
断面形			
規模	開口部深 (cm) 203×135 底部径 (cm) 163×65 深さ (cm) 123	203×139 152×57 117	123×110 69×59 118
長軸方向	N-1°-W	N-13°-W	-
埋土	自然堆積。上部はにいが黄色色土を挟在した黒褐色、暗褐色上、下部は一部で黒褐色色土を挟在した黄褐色色土で構成される。底面は黄褐色土と黒褐色土が混在している。12及び16層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。黒褐色、暗褐色シルト及び粘土質シルトで構成され、一部に地山崩落による褐色粘土が堆積する。20層に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。黒色、黒褐色、暗褐色シルト及び粘土質シルトで構成され、一部地山崩落による褐色粘土が堆積する。
杭穴数	1	2	1
底面	南側が若干あがる。	ほぼ平坦。	中央がややくぼむ。
岡	41	42	42
写真図版	48	48	48
特記事項	〈杭穴〉南側、北側に各1個ある。底面に対し斜方向に入る。 (C14年代測定) 火山灰直上: 1180±30 【加】 〈火山灰分析〉 埋土中位: 2類【弘】 底面: 1類【弘】	〈杭穴〉南側、北側に各1個ある。底面に対して垂直から斜方向に入る。垂直に入るもののは浅い。	〈杭穴〉中央にある。底面に対して垂直に入る。
遺構名	H53陥し穴状遺構	H54陥し穴状遺構	H55陥し穴状遺構
登録遺構	H14-SK01	H14-SK02	H14-SK03
位置	VIB7b	VIB7~8b	VIB8b
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 IVB2d c	IVB2d b	IVB2d b
断面形			
規模	開口部深 (cm) 138×74 底部径 (cm) 143×57 深さ (cm) 69	127×77 146×54~86 75	135×73 141×56 70
長軸方向	N-22°-W	N-22°-W	N-26°-W
埋土	自然堆積。黒色、黒褐色シルトを主体とし、壁面沿いに崩落した黄褐色粘土、底面に暗褐色粘土質シルトが堆積する。	自然堆積。上部に黒色、黒褐色シルト、その下に崩落した黄褐色粘土、底面に暗褐色粘土質シルトが堆積する。	自然堆積。上部に黒色、黒褐色シルト、その下に崩落した黄褐色粘土、底面に暗褐色粘土質シルトが堆積する。
杭穴数	0	0	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
岡	42	42	42
写真図版	49	49	49
特記事項		(C14年代測定) 6層: 5010±40【加】	

遺構名	H56陥し穴状遺構	H57陥し穴状遺構	H58陥し穴状遺構
登録遺構	H14-SK04	H14-SK05	H14-SK06
位置	VIA 5 x ~ y	VIA 7 x ~ y	VIA 4 p
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし。H59陥し穴状遺構と近接。
形状	平面形・杭穴位置	IVA 1 a	III 1 a
	断面形	c	b
規模	開口部径 (cm)	203×119	220×80
	底部径 (cm)	182×51	194×52
	深さ (cm)	123	110
長軸方向		N-3°-E	N-3°-E
埋土		自然堆積。上部は黒色、黒褐色、暗褐色のシルト、下部は黒褐色、暗褐色の粘土質シルトを挟在した褐色粘土で構成される。II層及び底面直上に灰白色火山灰が堆積する。	自然堆積。上部から黒色、暗褐色のシルト、褐色粘土質シルト、再び黒褐色、暗褐色のシルト、褐色のシルトの順で構成される。8層及びII層に灰白色火山灰が堆積する。
杭穴数	2	3	0
底面	ほぼ平坦。	北側若干下がる。	やや凸凹あり。
図	43	43	43
写真図版	49	50	50
特記事項	〈杭穴〉南側、北側に各1個ある。底面に対して斜方向に入る。 〈火山灰分析〉 底面直上(?)：1類【弘】 8層：2類【弘】 II層：1類【弘】	〈杭穴〉北側に2個、南側に1個ある。底面に対して斜方向に入る。 〈火山灰分析〉 底面直上(?)：1類【弘】 II層：1類【弘】	
遺構名	H59陥し穴状遺構	H60陥し穴状遺構	H61陥し穴状遺構
登録遺構	H14-SK07	H14-SK08	H14-SK09
位置	VIA 4 o ~ p	VIA 6 o	VIA 7 i
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし。H58陥し穴状遺構と近接。	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置	I b	IVB 1 b
	断面形	b	c
規模	開口部径 (cm)	58×72	107×107
	底部径 (cm)	66×56	75×69
	深さ (cm)	109	114
長軸方向			N-8°-W
埋土		自然堆積。地山崩落の褐色粘土を挟在した黒褐色、暗褐色のシルト、粘土質シルトで構成される。	自然堆積。地山崩落の褐色粘土を挟在した黒褐色、暗褐色のシルト、粘土質シルトで構成される。
杭穴数	1	1	5
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	43	44	44
写真図版	50	50	51
特記事項	〈杭穴〉中央付近にある。 底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近にある。 底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近からやや南側にある。底面に対して垂直に入る。

地構名	H62陥し穴状地構	H63陥し穴状地構	H64陥し穴状地構	
登録地構	H14-SK10	H15-P01	H16-SK01	
位置	VIA 5 k	VIA 9 n	VIB16d	
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。	
重複関係	なし	なし	なし	
形状	平面形・杭穴位置 I d	I b	I b	
断面形	d	b	b	
開口部径 (cm)	145×126	67×60	99×96	
規模	底部径 (cm) 深さ (cm)	101×97 70	73×63 72	109×90 73
長軸方向			N - 75° - W	
埋土	自然堆積。黒色及び黒褐色のシルト、粘土質シルトを主体とする。	自然堆積。黒褐色、暗褐色のシルトで構成される。中～下部には途中崩落した地山褐色粘土が堆積する。	自然堆積。褐色粘土を挟みした黒褐色、暗褐色シルトで構成される。15・16層は水成堆積の様相を呈する。	
杭穴数	0	1	1	
底面	中央がくぼむ。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	
図	44	44	45	
写真図版	51	51	52	
特記事項	〈その他〉調査区北端。他のI類(円形)の陥し穴状地構と様相を異なる。	〈杭穴〉中央よりや東に向る。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対して垂直に入る。 〈その他〉15、16層は調査時点では気づかなかったものの、灰白色火山灰であった可能性がある。	
地構名	H65陥し穴状地構	H66陥し穴状地構	H67陥し穴状地構	
登録地構	H16-SK02	H16-SK03	H16-SK04	
位置	VIB16～17c	VIB17a	VIA16y	
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。	
重複関係	なし	なし	なし	
形状	平面形・杭穴位置 I b	IVB 3 b	IVB 3 b	
断面形	b	b	b	
開口部径 (cm)	96×79	128×95	113×85	
規模	底部径 (cm) 深さ (cm)	91×82 79	130×88 73	100×81 62
長軸方向	N - 86° - W	N - 64° - E	N - 72° - E	
埋土	自然堆積。黒褐色、暗褐色シルト、粘土質シルトで構成される。壁面に途中崩落した地山褐色粘土が堆積する。14層は水成堆積の様相を呈する。	自然堆積。上部は黒褐色、暗褐色のシルト及び粘土質シルト、下部は黄褐色粘土及び粘土質シルトを主体として構成される。下部の黄褐色・褐色の層は水成堆積の様相を呈している。	自然堆積。上部は黒色、黒褐色、暗褐色シルト、粘土質シルト、下部は褐色粘土及び粘土質シルトを主体とする。一部に水成堆積の様相を示す層がある。	
杭穴数	1	1	2	
底面	やや凹凸あり。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	
図	45	45	45	
写真図版	52	52	52	
特記事項	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉全て中央付近にある。底面に対して垂直に入る。	

選択名	H68陥し穴状造構	H69陥し穴状造構	H70陥し穴状造構
登録選択	H16-SK05	H16-SK07	H16-SK08
位置	VIA15a ~ u	VIA13a	VIA14n
検出状況	Va層で検出。	Vb層で検出。	Vb層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	IVB 2 b b	I b e
規模	開口部径 (cm) 底面径 (cm)	119×63 129×51	66×68 69×71
深さ (cm)		39	15
長軸方向	N-10°-W	-	-
埋土	自然堆積。褐色粘土を挟在した黒褐色、暗褐色の粘土、粘土質シルト、シルトで構成される。	自然堆積。黒褐色シルトを主体とし、堅面に地山崩落の褐色粘土が堆積する。	自然堆積。黒褐色シルトを主体とし、堅面に地山崩落の褐色粘土が堆積する。
杭穴数	5	1	1
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	46	46	46
写真図版	53	53	53
特記事項	〈杭穴〉全て中央から南側にある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対し垂直に入る。 〈その他〉Vb層での検出のため、残りがわずかである。	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対して垂直に入る。 〈その他〉Vb層での検出のため、残りがわずかである。
造構名	H71陥し穴状造構	H72陥し穴状造構	H73陥し穴状造構
登録選択	H17-SK01	H17-SK02	H17-SK04
位置	VIB18b	VIB19a ~ b	VIA20 a
検出状況	Va層で検出。	Vb層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	I d b	I d b
規模	開口部径 (cm) 底面径 (cm)	110×105 45×47	119×110 55×60
深さ (cm)		146	154
長軸方向	-	-	-
埋土	自然堆積。上部は黒褐色シルト及び粘土質シルト、中部は地山崩落の褐色粘土を挟在した暗褐色粘土、下部は褐色粘土を主体とする。	自然堆積。上部は黑色・黒褐色・暗褐色の粘土、粘土質シルト、下部は互層となつた黒褐色シルトと地山崩落の褐色粘土で構成される。	自然堆積。黑色・黒褐色・暗褐色のシルト、粘土質シルトで構成され、下部に地山崩落に伴う褐色粘土が堆積する。
杭穴数	0	0	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	46	46	47
写真図版	53	54	54
特記事項			

造構名	H74陥し穴状造構	H75陥し穴状造構	H76陥し穴状造構
登録造構	H17-SK05	H18-SK01	H18-SK02
位置	VIA20r～s	VIA22～23 r～s	VIA22r～s
棲山状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし。H76陥し穴状造構に近接。	なし。H75陥し穴状造構に近接。
形状	平面形・杭穴位置 断面形	III 1 a b	IV A 1 a c
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm)	169×82 187×53	195×122 180×39
深さ (cm)	103	120	100
反転方向	N-3° E	N-3° E	N-2° W
埋土	自然堆積。黒色・黒褐色・暗褐色のシルト、粘土質シルトを主体として構成される。20層に灰白色火山灰が堆積し、その直上に地山崩落の褐色粘土が堆積する。	自然堆積。黒色・黒褐色・暗褐色のシルト、粘土質シルトを主体とする。II層に灰白色火山灰が堆積する。灰白色火山灰堆積の前後に地山の崩落がある。	自然堆積。黒色・黒褐色シルトを主体として構成される。
杭穴数	4	6	0
底面	若干の凹凸あり。	若干の凹凸あり。	ほぼ平坦。
図	47	47	47
写真図版	54	54, 55	55
特記事項	〈杭穴〉南側、北側に各2個ある。底面に対し、斜方向に入る。 〈火山灰分析〉 14層：1類【弘】	〈杭穴〉北側に4個、南側に2個ある。底面に対して垂直気味に入る。ただし浅い。 〈火山灰分析〉	
造構名	H77陥し穴状造構	H78陥し穴状造構	H79陥し穴状造構
登録造構	H18-SK03	H19-P1	H20-SK1
位置	VIA22p	IV A 6 o	
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	I d d	I b b
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm)	78×76 52×56	87×85 60×65
深さ (cm)	133	97	48
反転方向	—	—	—
埋土	自然堆積。黒色・黒褐色のシルト、暗褐色粘土質シルトで構成され、地山崩落に伴う褐色粘土が巾～下部に堆積する。	自然堆積。上部は黒色・黒褐色のシルト、下部は黒褐色土を挟むした黄褐色系粘土質土、底面は黒褐色上で構成される。	自然堆積。黒褐色・暗褐色シルトを主体とする。
杭穴数	0	1	0
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	48	48	49
写真図版	55	55	56
特記事項	〈杭穴〉中央よりやや南側にある。底面に対して東側に入る。	〈その他〉平面図とり忘れ。	南西側振り過ぎ。

遺構名	H80陥し穴状遺構	H81陥し穴状遺構	H82陥し穴状遺構
登録遺構	H20-SK02	H20-SK03	H20-P01
位置	IV A13m ~ n	IV A13l	IV A 8 n
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	IV A 1a c	IV A 1a d
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm) 深さ (cm)	190×108 181×61 104	217×123 215×63 108
長軸方向	N-80°-W	N-67°-E	—
埋土	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色シルト、下部は暗褐色粘土質シルトを挟在した褐色粘土及び粘土質シルトで構成される。底面に灰白色火山灰が堆積する。1~6層は堆積過程が7層以下と異なっており、掘り返しの可能性がある。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色のシルト、下部は2枚の黒褐色シルトを挟在した褐色系の粘土で構成される。底面には灰白色火山灰が堆積している。1~8、15~18層は堆積過程が9~14、19層以下と異なっており、掘り返しの可能性がある。	自然堆積。黒褐色・暗褐色シルトを土体に構成される。東側のみに地山崩落の褐色粘土が堆積する。
杭穴数	2	3	2
底面	やや凹凸あり。	凹凸著しい。	ほぼ平坦。
図	48	48	49
写真図版	56	56	57
特記事項	〈杭穴〉全て西側にある。 底面に対し斜方向に入る。 〈火山灰分析〉 底面: 2類【弘】	〈杭穴〉東側に2個、西側に1個ある。底面に対し斜方向に入る。 〈火山灰分析〉 28層: 2類【弘】	〈杭穴〉全て中央から南側にある。底面に対して垂直に入る。
遺構名	H83陥し穴状遺構	H84陥し穴状遺構	H85陥し穴状遺構
登録遺構	H20-P02	H20-P3	H20-P04
位置	IV A12m	IV A14l	IV A19k
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 断面形	I b b	I b b
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm) 深さ (cm)	83×81 63×65 102	83×75 66×65 103
長軸方向	—	—	—
埋土	自然堆積。黒褐色・暗褐色シルトを土体として構成される。下部では地山崩落に伴う褐色粘土が存在している。	自然堆積。黒褐色・暗褐色のシルトを土体として構成される。途中2回石しきはそれ以上の地山崩落に伴う褐色粘土が堆積している。	自然堆積。上部では黒色・黒褐色シルト、下部は褐色粘土を土体とする。底面に暗褐色粘土がある。
杭穴数	2	1	2
底面	ほぼ平坦。	西側がやや下がる。	ほぼ平坦。
図	49	49	49
写真図版	57	57	57
特記事項	〈杭穴〉全て中央から南側に2個ある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央より南側にある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近と中央よりや西北西側に1個ずつある。底面に対して垂直に入る。 〈その他〉埋土上部掘りすぎ。

遺構名	H86陥し穴状遺構	H87陥し穴状遺構	H88陥し穴状遺構
登録遺構	H20-P05	H21-P1	H24-SK01
位置	IV A18p	IV A22~23n	IV A19k
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 I b	I d	III I a
断面形	e	c	b
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm)	80×77 70×60	105×100 64×73
	深さ (cm)	14	99
長軸方向			N-58° W
埋土	自然堆積。黒色、黒褐色シルトを土体とする。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、暗褐色粘質シルト、下部は黄褐色系の土で構成される。全体に色調が淡く、混和物が少ない。底面の灰黄褐色土は水成堆積の様相を呈する。	自然堆積。上部は黒色、黒褐色・暗褐色のシルト、下部は数次の黒褐色土を挟在した黄褐色系の土で構成される。2、3、6層に灰白色火山灰が堆積する。底面の黄褐色土は水成堆積の様相を呈する。
杭穴数	1	0	4
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	南東側がくぼむ。
図	49	50	50
写真図版	58	58	58
特記事項	〈杭穴〉中央付近にある。 底面に對して垂直に入る。 〈その他〉杭穴も浅いため、陥し穴でない可能性もある。	〈杭穴〉北西側、南東側に各2個ある。底面に對し斜方向に入る。	
遺構名	H89陥し穴状遺構	H90陥し穴状遺構	H91陥し穴状遺構
登録遺構	H24-SK02	H24-SK03	H25-SK01
位置	IV A 9 j	V A 8 f	IV A19k
検出状況	Va層で検出。	Va層で検出。	Va層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置 IV A 1 a	IV A 1 a	III I a
断面形	c	c	c
規模	開口部径 (cm) 底部径 (cm)	190×98 159×42	188×98 126×60
	深さ (cm)	118	120
長軸方向	N 66° - W	N 64° - W	N 70° - W
埋土	自然堆積。上部は田褐色、暗褐色土上、下部は黒褐色土上を挟在した黄褐色系の土で構成される。2、3層に灰白色火山灰が堆積する。その下には褐色シルトが堆積している。1~5層は7層以下と堆積過程が異なることから掘り返しの可能性がある。	自然堆積。黒褐色と灰黄褐色土の混合土を挟在した黄褐色系の土で構成される。2層に灰白色火山灰が堆積する。1~4、9、10層は5~8及び11層以下の堆積過程が異なり、掘り返しの可能性がある。	自然堆積。上部は黄褐色系の土を挟在した黒褐色シルト、下部は黒色・黒褐色土を挟在した黄褐色系の土で構成される。
杭穴数	4	3	3
底面	東側が下がる。	やや凹凸あり。	ほぼ平坦。
図	50	50	51
写真図版	58	59	59
特記事項	〈杭穴〉東側、西側各2個ある。底面に對し斜方向に入る。 〈その他〉全体に工具?痕。デコボコ。(表現できるほどの深さはない)。	〈杭穴〉西側に2個、東側に1個ある。底面に對し斜方向に入る。 (遺物) 埋土中位で縄文土器(9)。	〈杭穴〉西側に1個、東側に2個ある。底面に對し垂直から斜方向に入る。垂直に入る穴は深さが浅い。

造構名	I192陥し穴状造構	I93陥し穴状造構	I94陥し穴状造構
登録造構	H26-SK01	H27-SK01	H27-SK02
位置	IV A19 j	V A19 f	IV A19 k
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置	IV B 3 b	IV B 1 b
	断面形	b	b
	開口部深 (cm)	104×80	115×69
規模	底部径 (cm)	94×70	100×72
	深さ (cm)	77	80
長軸方向	N - 61° W	N - 61° W	N - 54° W
埋土	自然堆積。上部は黄褐色系の土を挟在した黒褐色シルト、下部は水成堆積の様相を呈する褐灰色及び黄橙色の土上で構成される。	自然堆積。上部は黒色及び黒褐色のシルト、下部は灰褐色シルト及び水成堆積の様相を呈する明黄褐色粘質シルトで構成される。	自然堆積。上部は黄褐色系の土を挟在した黒褐色・暗褐色のシルト、下部は黄褐色系の土で構成される。底面の灰黄褐色の土は水成堆積の様相を呈する。
杭穴数	1	1	1
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	51	51	51
写真図版	59	59	60
特記事項	〈杭穴〉中央付近からやや西側にある。底面に対し垂直に入る。	〈杭穴〉中央付近からやや北側にある。底面に対し垂直に入る。	〈杭穴〉ほぼ中央にある。底面に対し垂直に入る。
造構名	I 1 陥し穴状造構	I 2 陥し穴状造構	I 3 陥し穴状造構
登録造構	I-SK01	I-SK02	I-SK03
位置	VC14 c	VC14~15 f	VC19 k
検出状況	北西側に擾乱を受ける。	Vn 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形・杭穴位置	IV A 1 a	II d
	断面形	c	a
	開口部深 (cm)	207×129	335×47~65
規模	底部径 (cm)	184×50	306×3~22
	深さ (cm)	161	118
長軸方向	N - 23° W	N - 84° W	N - 67° W
埋土	自然堆積。黒褐色土を挟在した黄褐色系の土を主体として構成される。埋土の状況から、上部はだいぶ削られている可能性がある。	自然堆積。黒褐色土と黄褐色土が互層になって堆積している。底面に灰黄褐色の水成堆積層がある。	自然堆積。灰黄褐色と明黄褐色土を主体とし、最上部に黒褐色を含んだ混合土が埋まっている。
杭穴数	1	0	0
底面	中央に向かうにつれて低くなるとともに凹凸が著しい。	ほぼ平坦。底面両端が広くなり、途中がくぼむ。	西側がやや下がる。
図	52	52	52
写真図版	62	62	62
特記事項	〈杭穴〉北西側にある。底面に対して斜方向に入る。	〈その他〉かつてのほ場整備により東側は削平を受けている。	

遺構名	I 4 陥し穴状遺構	I 5 陥し穴状遺構	I 6 陥し穴状遺構
登録遺構	I-SK04	I-SK05	I-SK06
位置	VC15 i	VC14~15 i	VC20 k
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形狀	平面形・杭穴位置 I b	II d	I b
	断面形 b	a	b
規模	開口部径 (cm) 95×90	330×71	80×65
	底面部径 (cm) 66×66	322×6	65×58
	深さ (cm)	115	144
長軸方向	N-64°-W	N-36°-W	N-70°-W
埋土	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色のシルト、下部は黒色上および黒褐色土を挟在した黄褐色系上、底面は水成堆積の様相を呈する褐灰色土で構成される。	自然堆積。黒色・黒褐色と黄褐色系の土が互層になつた状態で構成される。	自然堆積。上部から黒褐色、黄褐色系、黒褐色、褐灰色の順で構成される。褐灰色の層は水成堆積の様相を呈する。
杭穴数	1	0	1
底面	ほぼ平坦。	南北端が高くテラス状を呈し、中央部がくぼむ。	ほぼ平坦。
図	53	53	53
写真図版	62	63	63
特記事項	〈杭穴〉中央からやや南西寄りにある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央からやや南西寄りにある。底面に対して垂直に入る。	〈杭穴〉中央からやや南西寄りにある。底面に対して垂直に入る。

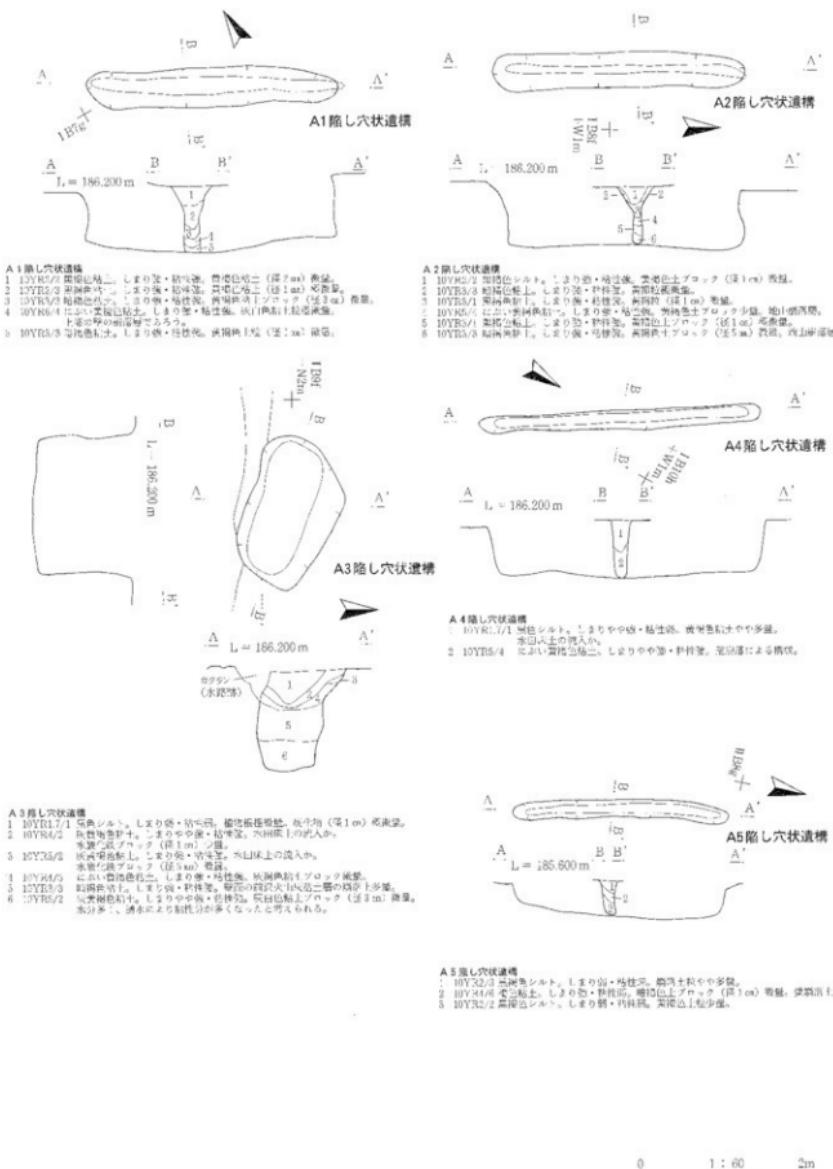
遺構名	I 7 陥し穴状遺構	J 1 陥し穴状遺構	J 2 陥し穴状遺構
登録遺構	I-SK07	J-SK01	J-SK02
位置	VC16 i	VC25j ~ VIC 1 j	VIC 5 g ~ h
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。

重複関係	なし	なし	なし
形狀	平面形・杭穴位置 I b	IVB 1 b	IV A 1 b
	断面形 b	b	b
規模	開口部径 (cm) 66×60	121×94	180×110
	底面部径 (cm) 56×49	96×78	140×76
	深さ (cm)	102	104
長軸方向		N-49°-W	N-14°-W
埋土	自然堆積。地山崩落に伴う黄褐色系の土を夾在した黒色・黒褐色・暗褐色のシルトで構成される。全体的に層の境界があいまいで、根カクランが多い。混和物はない。	自然堆積。上部は黒褐色及び暗褐色土で、下部は黒褐色土を夾在した黄褐色系土で構成される。埋土下位に灰白色火山灰が入る。11-15、20、21層は水成堆積と思われ、全体的にしまりが強い。	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色シルト、下部は黄褐色系の土で構成される。底面に水成堆積の様相を呈する層がある。
杭穴数	1	2	2
底面	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。	ほぼ平坦。
図	53	54	54
写真図版	63	64	64
特記事項	〈杭穴〉中央からやや南西側にある。底面に対して垂直に入る。 〈火山灰分析〉	〈杭穴〉全て中央にある。底面に対して垂直に入る。 〈杭穴〉中央及び中央からやや北寄りに1個ずつある。底面に対して垂直に入る。	埋土下位：1類【弘】

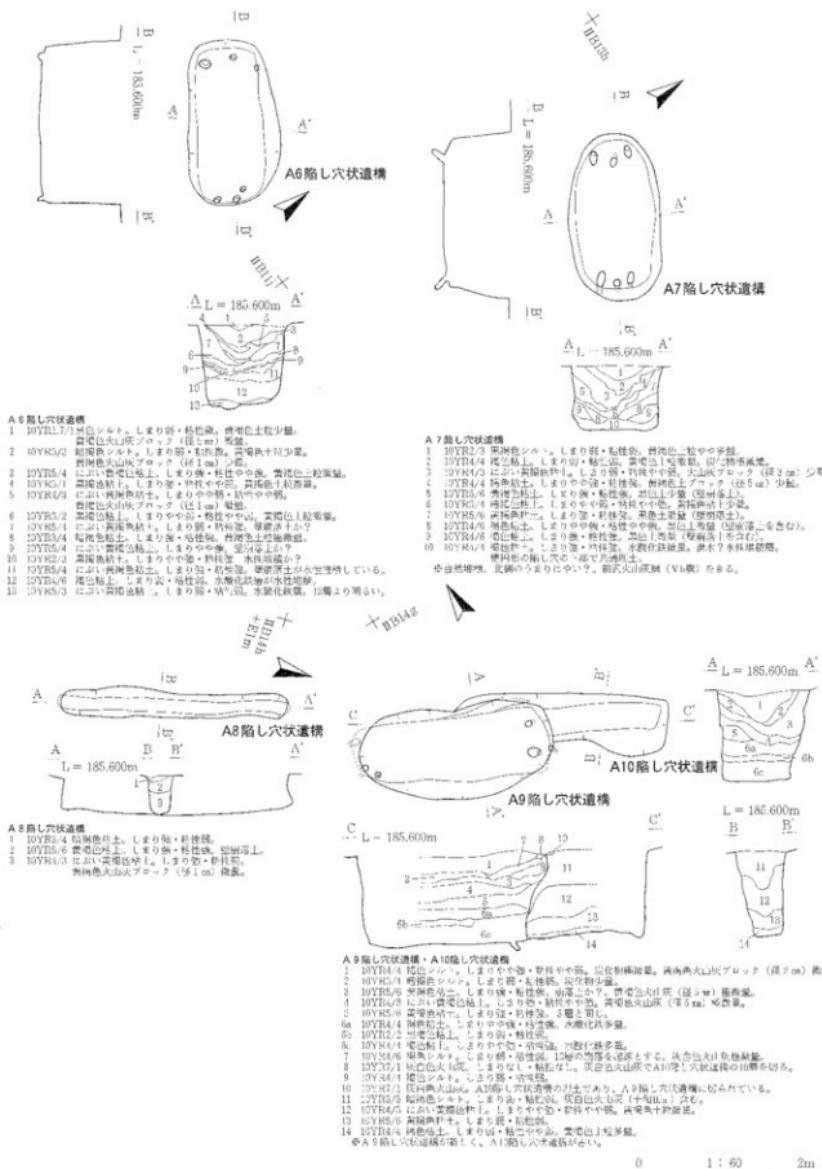
遺構名	J 3 陥し穴状遺構	J 4 陥し穴状遺構	J 5 陥し穴状遺構
登録遺構	J-SK03	J-SK04	J-SK05
位置	VIC 6 k	VIB 3 x	VIC 2 e
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	I d	I b	I b
断面形	b	b	b
開口部径 (cm)	84×81	65×65	96×82
規模 底部径 (cm)	58×55	75×70	86×71
深さ (cm)	93	—	80
丘軸方向	—	—	N-65°-E
埋上	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黒褐色土を挟在した黄褐色系の土、底面は水成堆積の様相を呈する灰黄褐色土で構成される。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黄褐色系土を主体とする。最下部で2枚黒褐色土を挟在する。底面に水成堆積の様相を呈する黒褐色及び灰黄褐色のシルト層がある。	自然堆積。最上部は暗褐色シルト、上部は黄褐色系の土、底面は水成堆積の様相を呈する灰褐色粘質土で構成される。埋上中位に灰白色火山灰が堆積する。
杭穴数	0	1	1
底面	ほぼ平坦。	東側が抉られる。	ほぼ平坦。
図	54	54	54
写真図版	64	65	65
特記事項	—	〈杭穴〉中央付近にある。 底面に対して垂直に入る。 (C14年代測定) 10幅: 322±40yrBP【加】 (火山灰分析) 埋土中位: 1類【弘】	〈杭穴〉中央にある。底面に対して垂直に入る。 (C14年代測定) 10幅: 322±40yrBP【加】 (火山灰分析) 埋土中位: 1類【弘】

遺構名	J 6 陥し穴状遺構	J 7 陥し穴状遺構	J 8 陥し穴状遺構
登録遺構	J-SK06	J-SK07	J-SK08
位置	VIC 2 f	VIC 3 k~l	VIC 2 m
検出状況	Va 層で検出。	Va 層で検出。	Va 層で検出。
重複関係	なし	なし	なし
形状 平面形・杭穴位置	I d	II d	I b
断面形	b	a	b
開口部径 (cm)	86×83	296×46	86×80
規模 底部径 (cm)	66×68	275×12	56×52
深さ (cm)	82	—	110
長軸方向	—	N-13°-W	—
埋土	自然堆積。上部は黒褐色・暗褐色シルト、下部は黄褐色系の土で構成される。底面の黄褐色粘質土は水成堆積の様相を呈する。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黄褐色系の土、底面は黒褐色土で構成される。	自然堆積。上部は黒褐色シルト、下部は黒褐色土を挟在した黄褐色系の土。底面は水成堆積の様相を呈する灰褐色土で構成される。全体として異和物は少なく、層の境界は不明瞭である。
杭穴数	0	0	1
底面	ほぼ平坦。	南へ向かうにつれ、若干あがる。	若干西側に下がる。
図	55	55	55
写真図版	65	65	66
特記事項	—	—	〈杭穴〉中央にある。底面に対して垂直に入る。形状が類似した他の陥し穴状遺構と比べて杭穴の深さが浅い。

遺構名	J 9 陥し穴状遺構	J10陥し穴状遺構
登録遺構	J-SK09	J-SK10
位置	VIC 2 f	VIC 2 h
検出状況	Va 痕で検出。	Va 痕で検出。
重複関係	なし	なし
形狀	平面形・杭穴位置 断面形	1 b b
規模	開口部径 (cm) 底深溝 (cm) 深さ (cm)	102×87 90×81 53
長軸方向	N-83°-E	N-89°-E
理上	自然堆積。灰白色火山灰の上部及び底面は黒褐色シルト、灰白色火山灰の下部は暗褐色シルト及び黄褐色系上を主体として構成される。灰白色火山灰そのものは中位に堆積する。	自然堆積。上部は黒色・黒褐色シルト、下部は黄褐色系上の土を主体にして、底部は水成堆積の様相を呈する褐色土で構成される。下位に灰白色火山灰が堆積する。
杭穴数	1	1
底面	東側が若干下がる。	ほぼ平坦。
図	55	55
写真岡版	66	66
特記事項	〈杭穴〉中央にある。底面に対して垂直に入る。 〈火山灰分析〉 埋土上位：1 頭【弘】	〈杭穴〉中央付近にある。底面に対して垂直に入る。 〈火山灰分析〉 埋土下位：1 頭【弘】

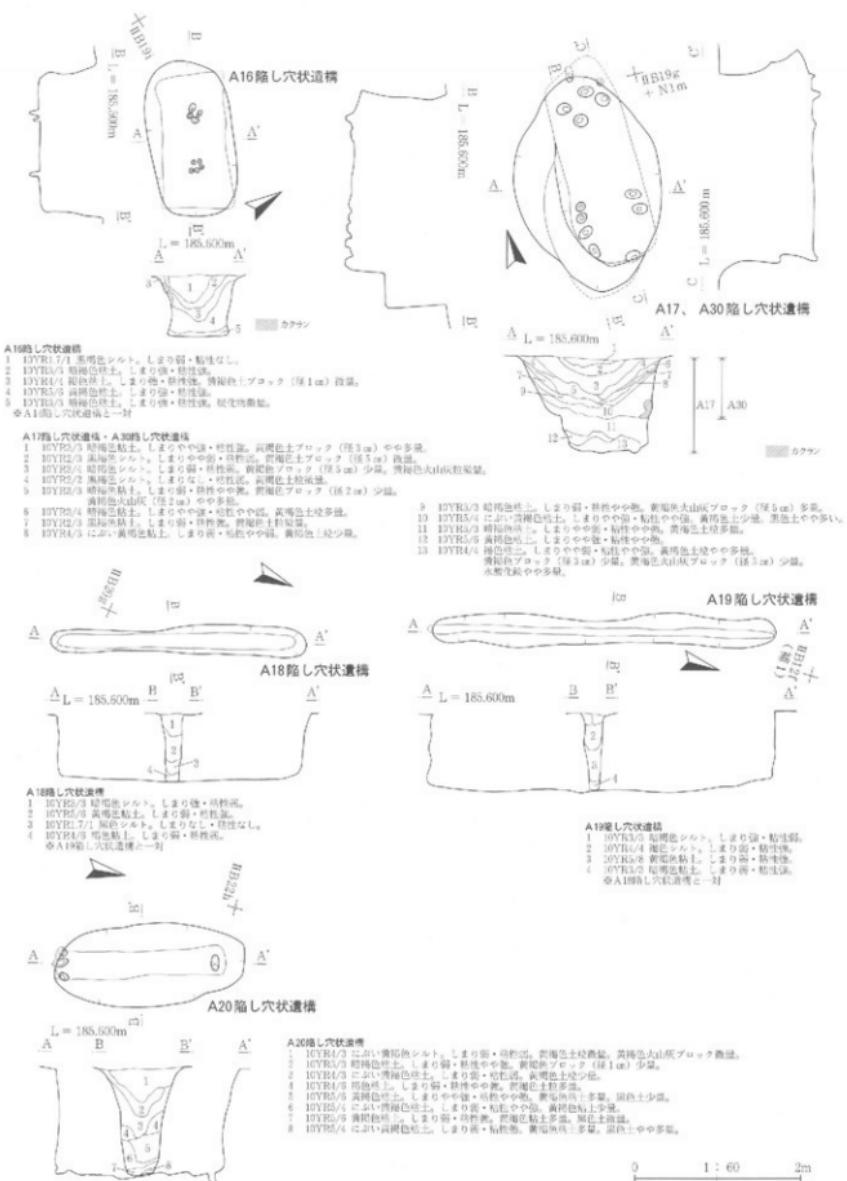


第10図 A区陥し穴状造構 (1)

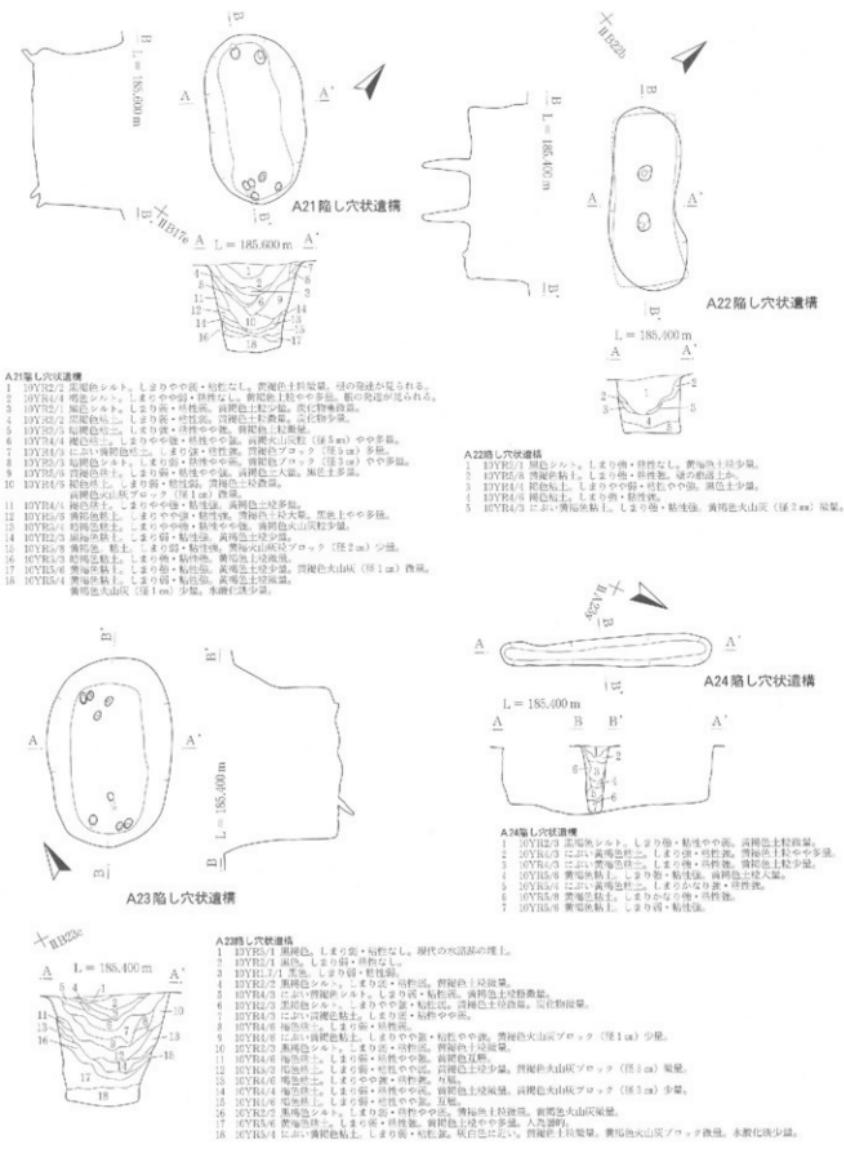


第11図 A区陥し穴状遺構 (2)

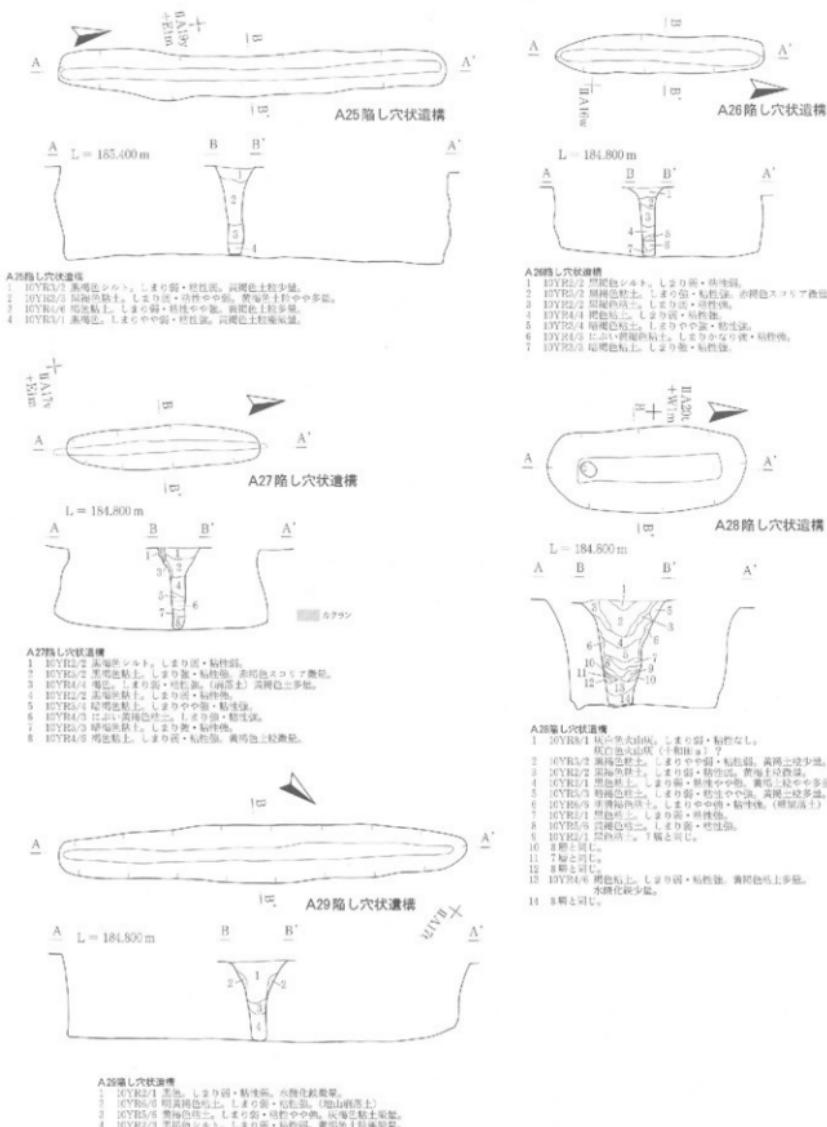




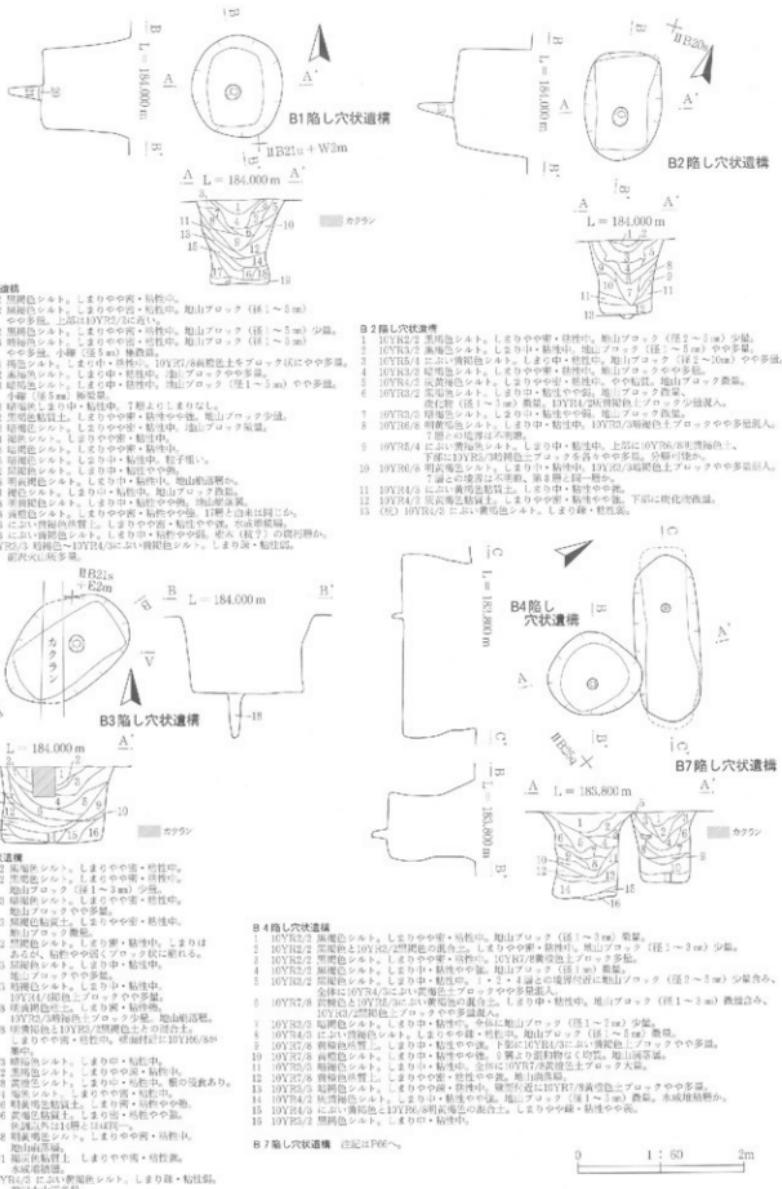
第13図 A区陥し穴状造構（4）



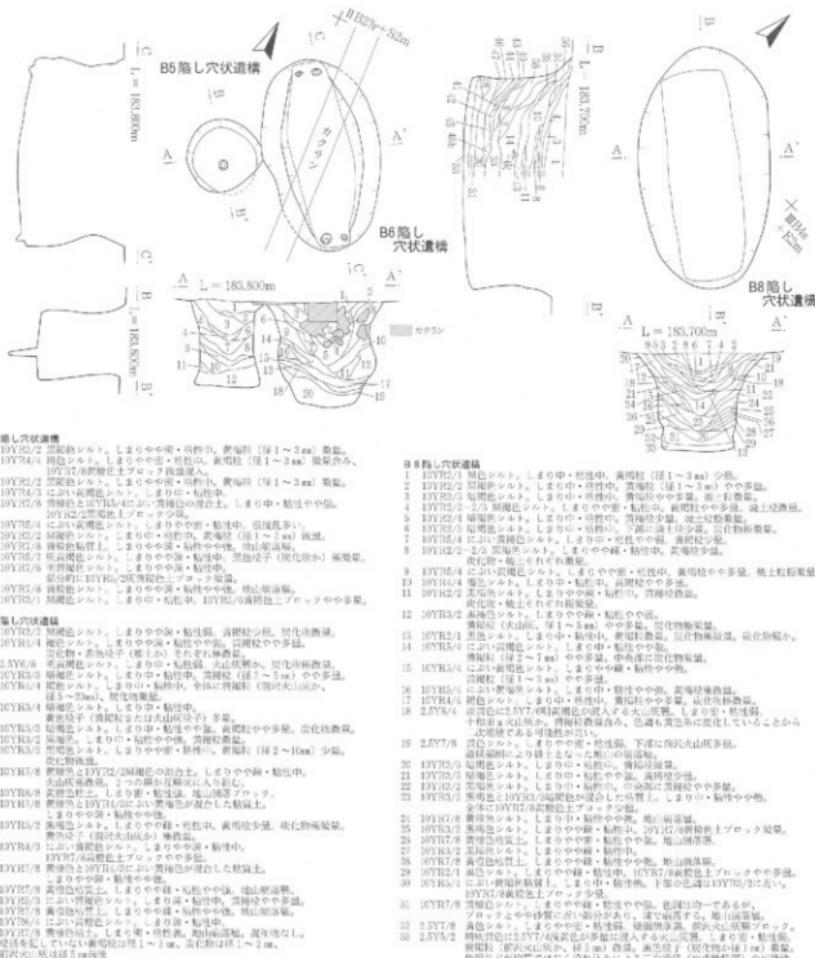
第14圖 A區臨上空狀遭撲（5）



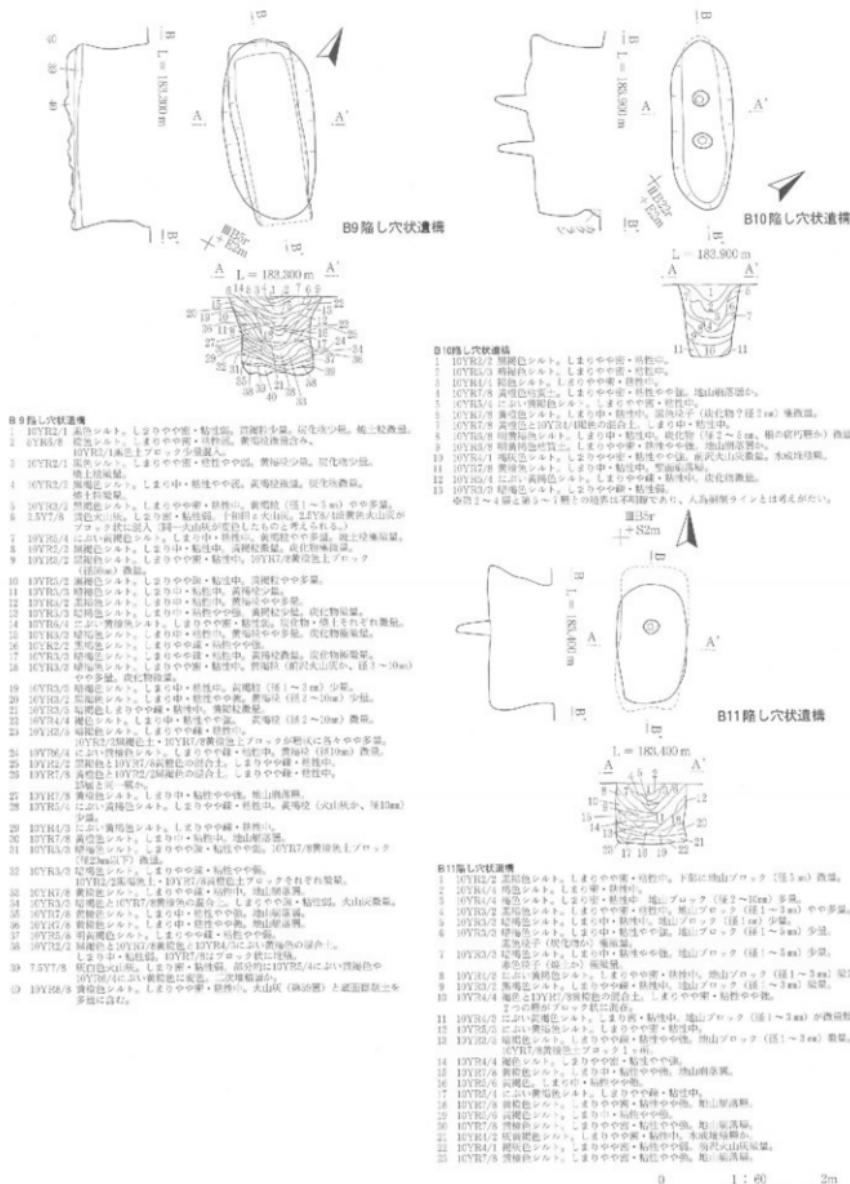
第15図 A区陥し穴状造構 (6)



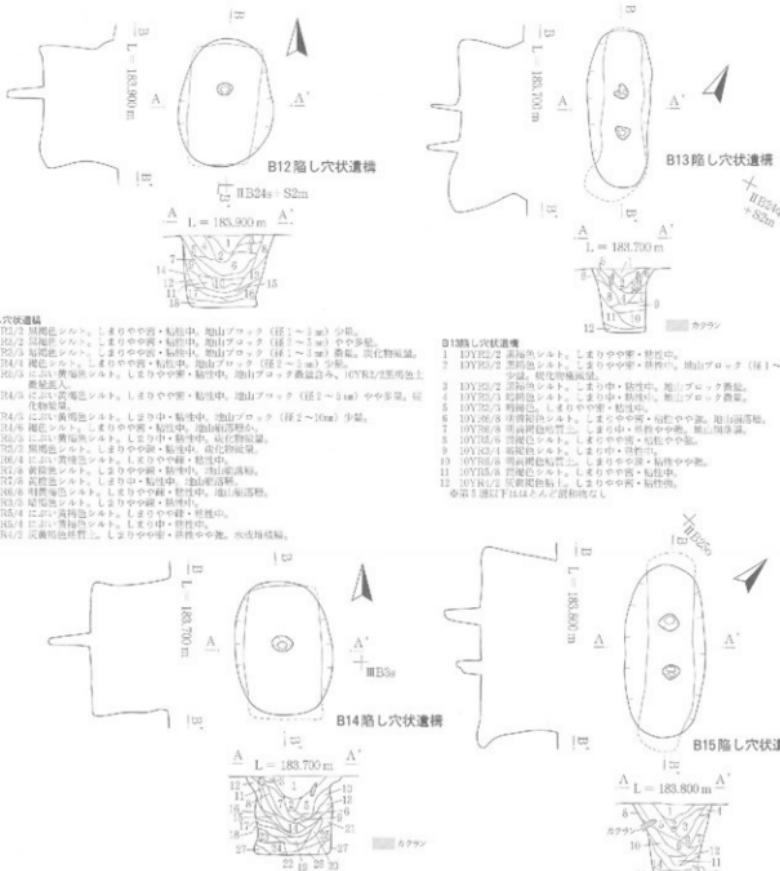
第16図 B区陥上空状遺構(1)



第17図 B区陥し穴状遺構（2）



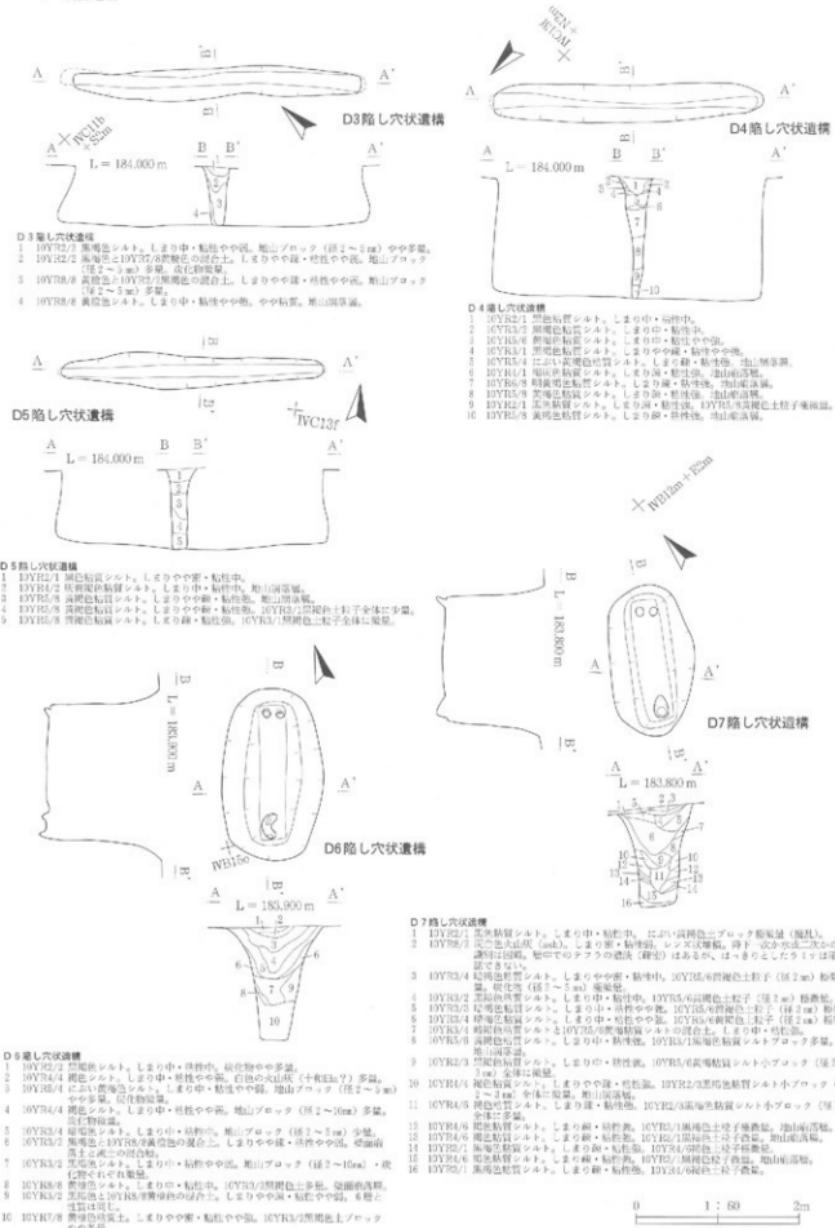
第18圖 B区路上空状遺構（3）



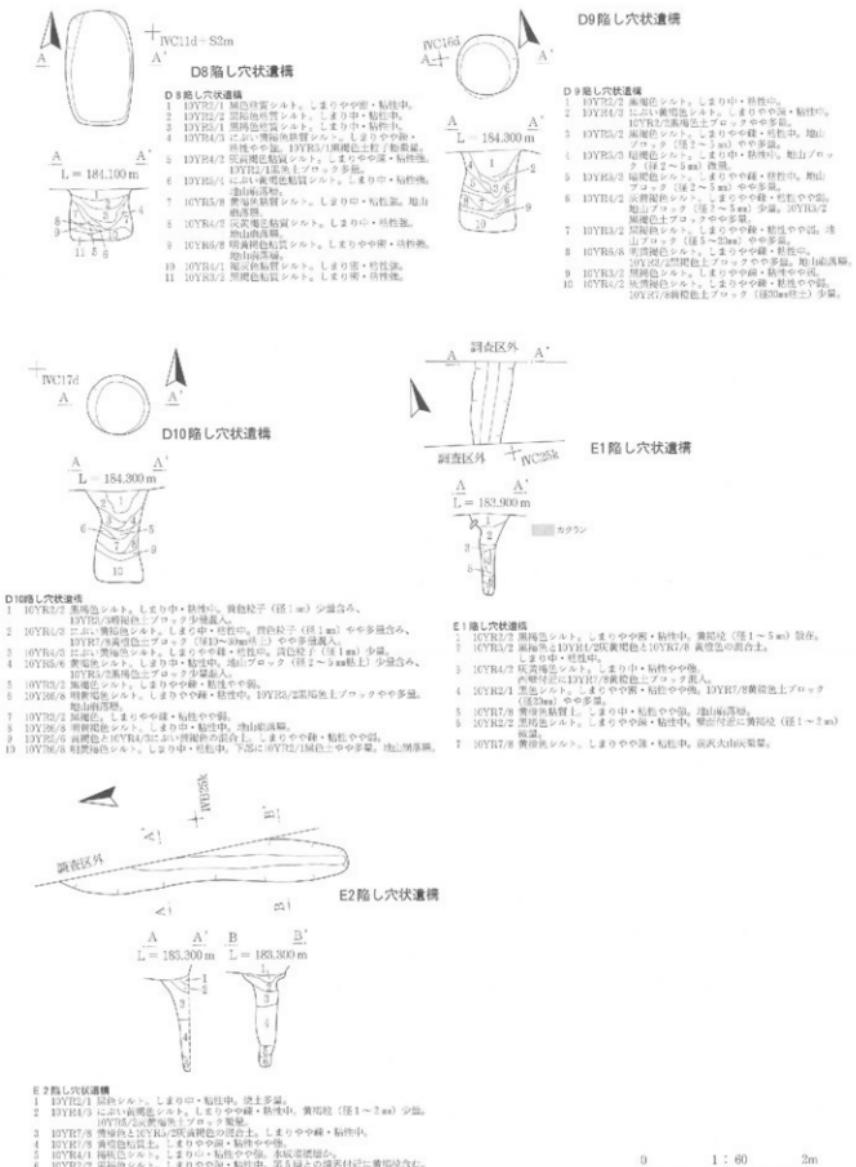
第19図 B区陥し穴状造構(4)



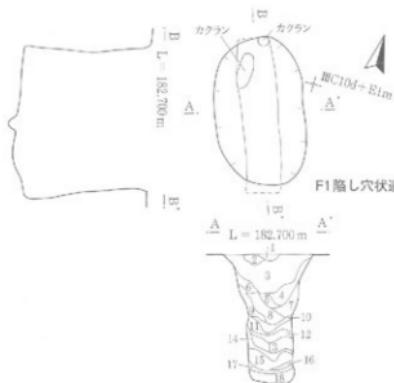
第20図 C区駄久穴状遺構 D区駄久穴状遺構(1)



第21図 D区陥し穴状遺構（2）

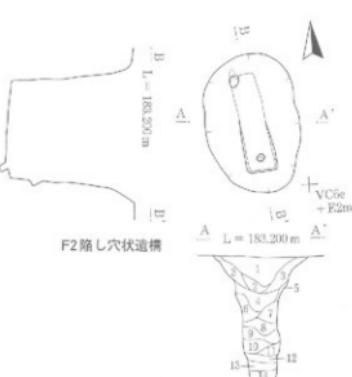


第22図 D区陥し穴状遺構(3), E区陥し穴状遺構



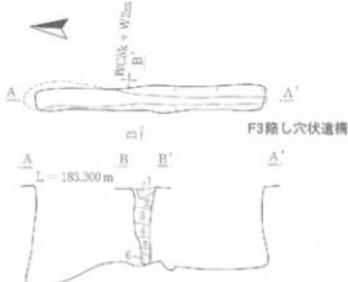
F1 壊し穴状造構

- 1 10YR5/3 に似る青褐色シルト。しまりや軟・粘性やや強。10YR7/8 黄褐色土ブロック
- 2 10YR7/8 黄褐色土ブロック。少量。柱状・塊状・柱状・塊状・柱状・塊状
- 3 10YR5/2 黄褐色土と 10YR4/6 に似る黄褐色の混合土。しまりや軟・粘性やや強。前の大山層 (厚さ 10m) やや厚層。黃褐色 (厚さ 3 ~ 5m)。
- 4 10YR5/3 に似る黄褐色土と 10YR7/8 黄褐色土の混合土。しまりや軟・粘性中。貴緑色土は透視なし。ブロックは埋在。
- 5 10YR2/2 黄褐色シルト。しまりやや強・粘性中。前の大山灰褐色層。
- 6 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや強・粘性中。前の大山灰褐色層。
- 7 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや強・粘性やや強。10YR7/8 に似る青褐色土ブロックを含む。
- 8 10YR4/2 黄褐色土ブロック。しまり中。半透視 (厚さ 5m)。火山灰褐色土ブロックは薄い。
- 9 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや薄・粘性中。樹木と葉を含む小角利物混在。
- 10 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや薄・粘性中。前の大山層 (厚さ 1m)。
- 11 10YR7/8 黄褐色土ブロック。しまりやや厚・粘性中。前の大山層。
- 12 10YR7/8 黄褐色シルト。しまりやや厚・粘性中。前の大山層。
- 13 10YR7/8 黄褐色シルト。しまりやや厚・粘性中。前の大山層。
- 14 10YR7/8 黄褐色シルト。しまりやや厚・粘性中。前の大山層。
- 15 10YR7/8 黄褐色シルト。しまりやや厚・粘性中。前の大山層。
- 16 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや厚・粘性中。前の大山層。
- 17 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや厚・粘性中。前の大山層。
- 18 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや厚・粘性中。前の大山層 (厚さ 1m) 多量。前の大山層 混在または底面混在。



F2 壊し穴状造構

- 1 10YR5/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。前の大山灰褐色土 (厚さ 1 ~ 5m) やや多量。
- 2 10YR5/2 黄褐色土ブロック。少量。柱状・塊状・柱状・塊状・柱状・塊状 (厚さ 1m) 扇層状。
- 3 10YR5/2 黄褐色土と 10YR7/8 黄褐色の混合土。しまり中・粘性やや強・黄褐色 (厚さ 1 ~ 3m) 多量。
- 4 10YR5/2 黄褐色土と 10YR4/6 に似る黄褐色の混合土。しまりや・粘性や中。
- 5 10YR7/8 黄褐色土と 10YR5/2 黄褐色土の混合土。しまりや・粘性や中。
- 6 10YR7/8 黄褐色土と 10YR5/2 黄褐色土の混合土。しまりや・粘性や中。
- 7 10YR5/2 黄褐色土と 10YR7/8 黄褐色土の混合土。しまりやの細・粘性中。10YR7/8 黄褐色土ブロック少量。
- 8 10YR5/2 黄褐色土と 10YR7/8 黄褐色土の混合土。しまりや・粘性や中。
- 9 10YR7/8 黄褐色土と 10YR7/8 黄褐色土の混合土。しまりやや強・粘性中。地山の底層。
- 10 10YR2/2 黄褐色シルト。しまりやや薄・粘性中。前の大山層 (厚さ 1 ~ 3m) 多量。
- 11 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや強・粘性中。10YR2/2 黄褐色土と 10YR7/8 黄褐色土をブロック状に含む少量。
- 12 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや強・粘性中。前の大山層 (厚さ 1 ~ 3m) 多量。
- 13 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや強・粘性中。前の大山層 (厚さ 1 ~ 3m) 多量。
- 14 10YR2/2 黄褐色シルト。しまりや・粘性弱。粒子粗大。発育範囲。

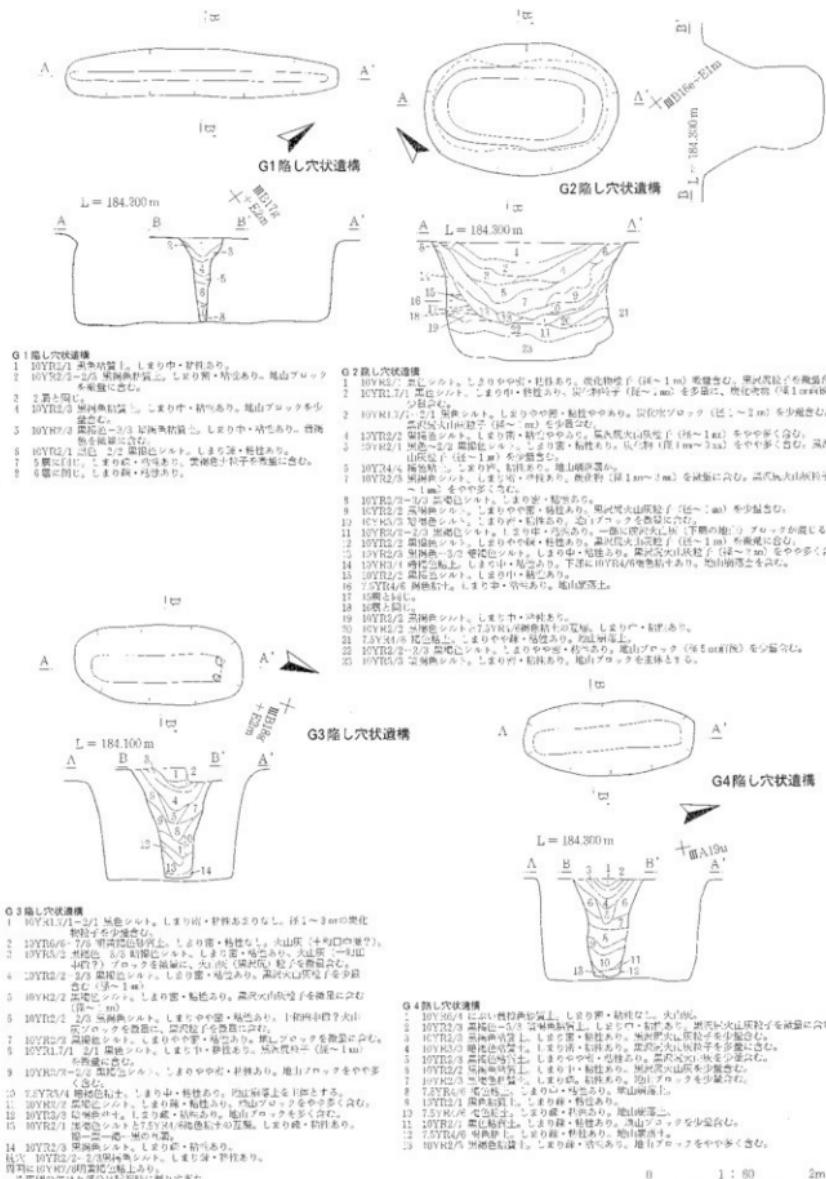


F3 壊し穴状造構

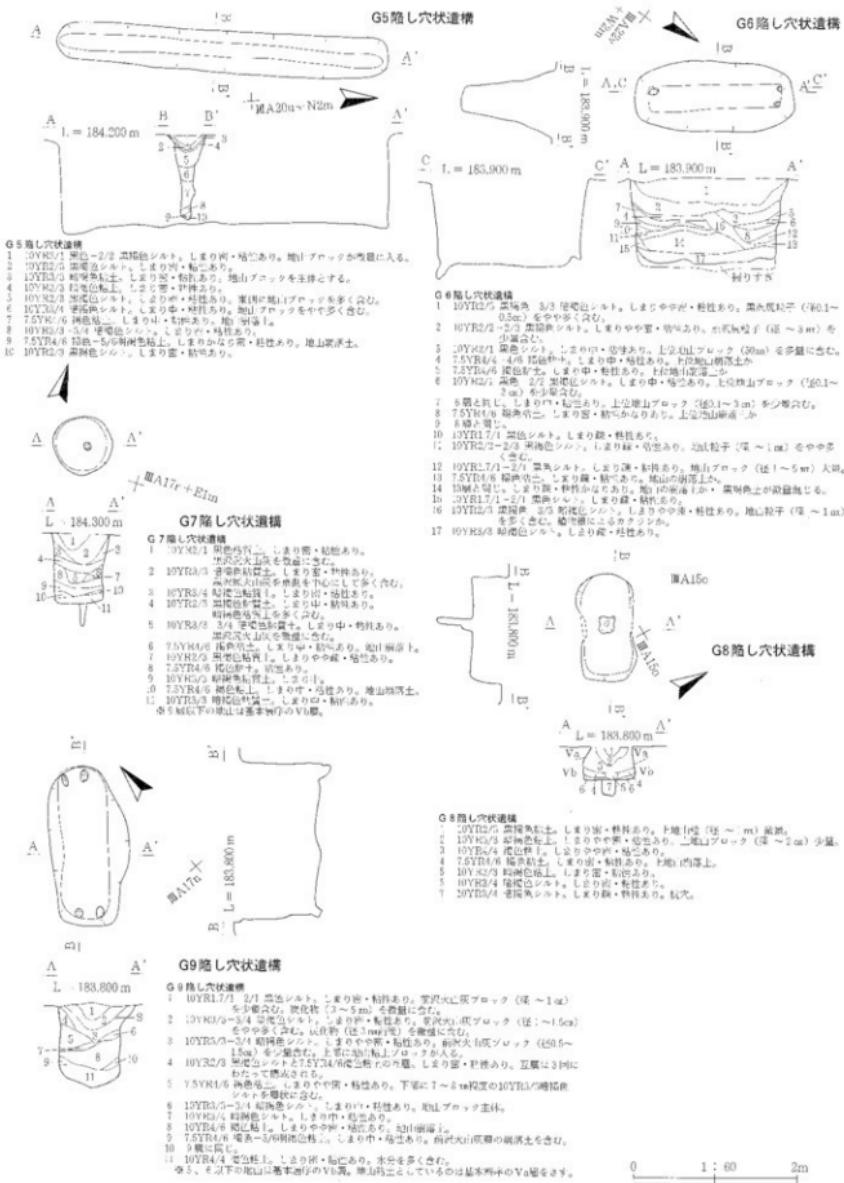
- 1 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや弱・粘性中。前の大山層 (厚さ 1m) 多量。
- 2 10YR5/2 に似る青褐色シルト。しまりや・粘性やや強。前の大山層 (厚さ 1m) 多量。10YR7/8 黄褐色土ブロック多量。
- 3 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや弱・粘性やや強。前の大山層 (厚さ 1m) 多量。
- 4 10YR5/6 明黄色シルト。しまりやや厚・粘性やや強。西側に 10YR4/6 に似る黄褐色土ブロックや多量。油山層。
- 5 10YR5/2 に似る青褐色シルト。しまりやや厚・粘性やや強。前の大山層 (厚さ 1 ~ 3m) 多量。
- 6 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりや・粘性弱。前の大山層。

0 1 : 60 2m

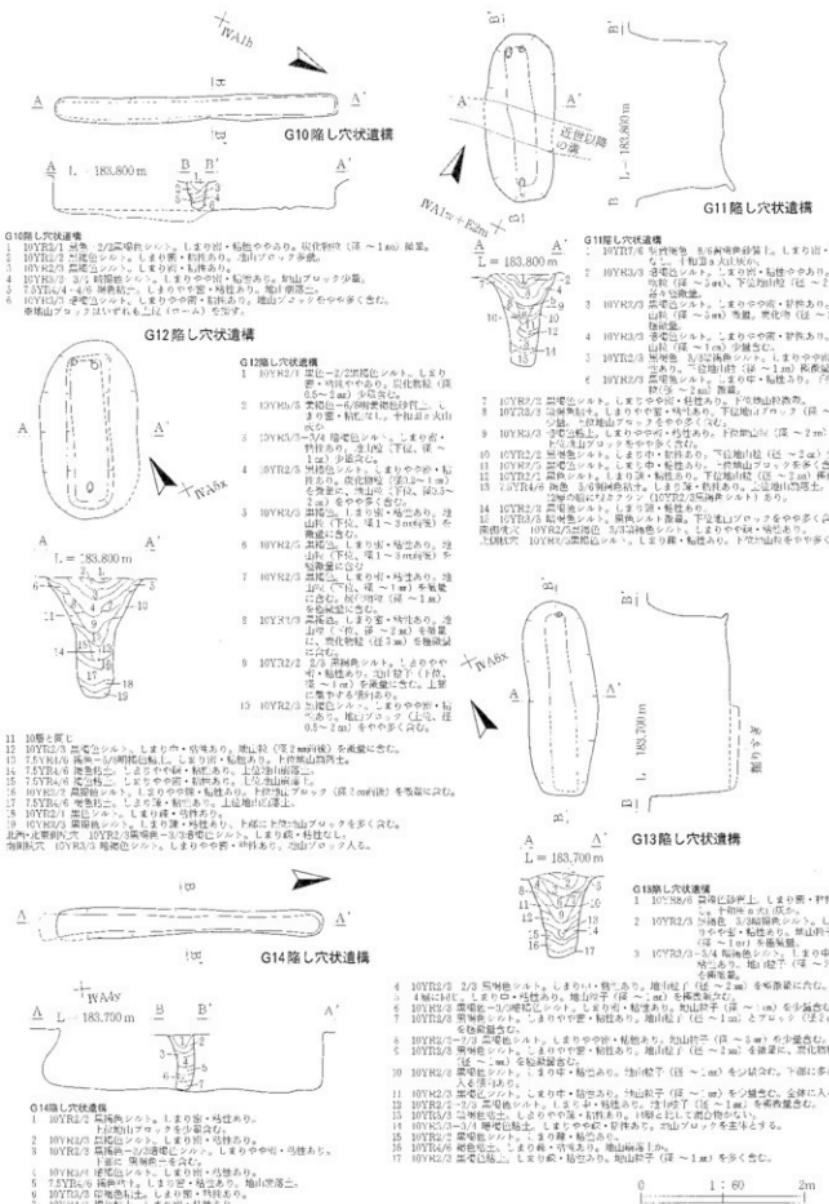
第23図 F 区陥し穴状造構



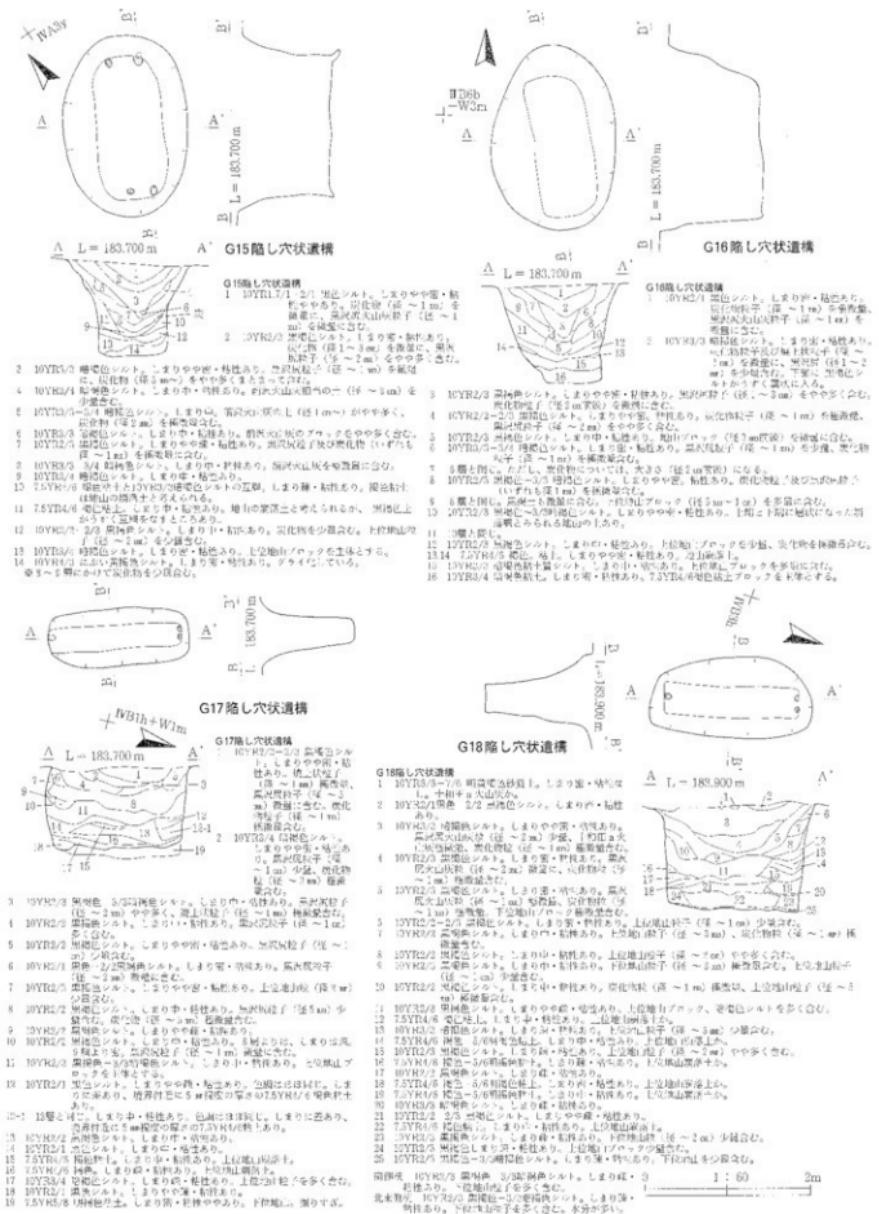
第24図 G区陥し穴状遺構（1）



第25図 G区陥し穴状地構 (2)

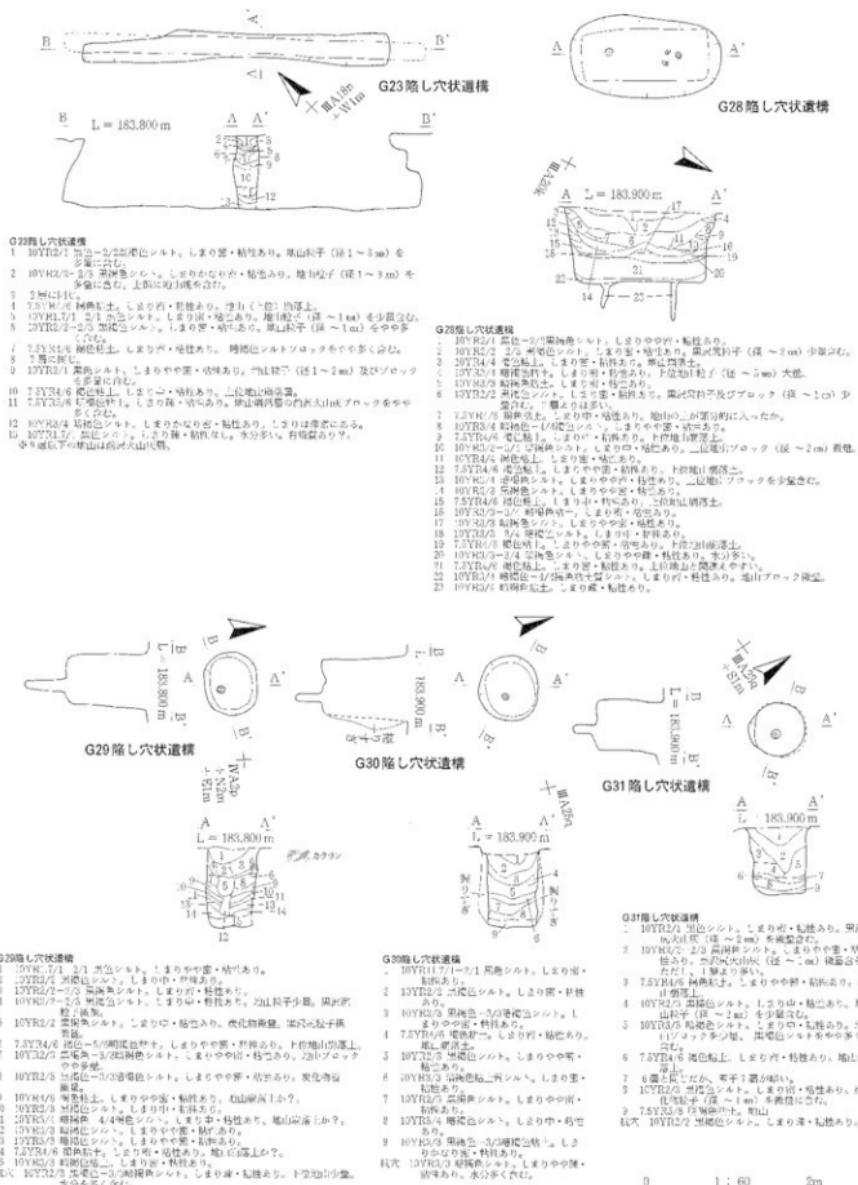


第26図 G区陥し穴状造構（3）

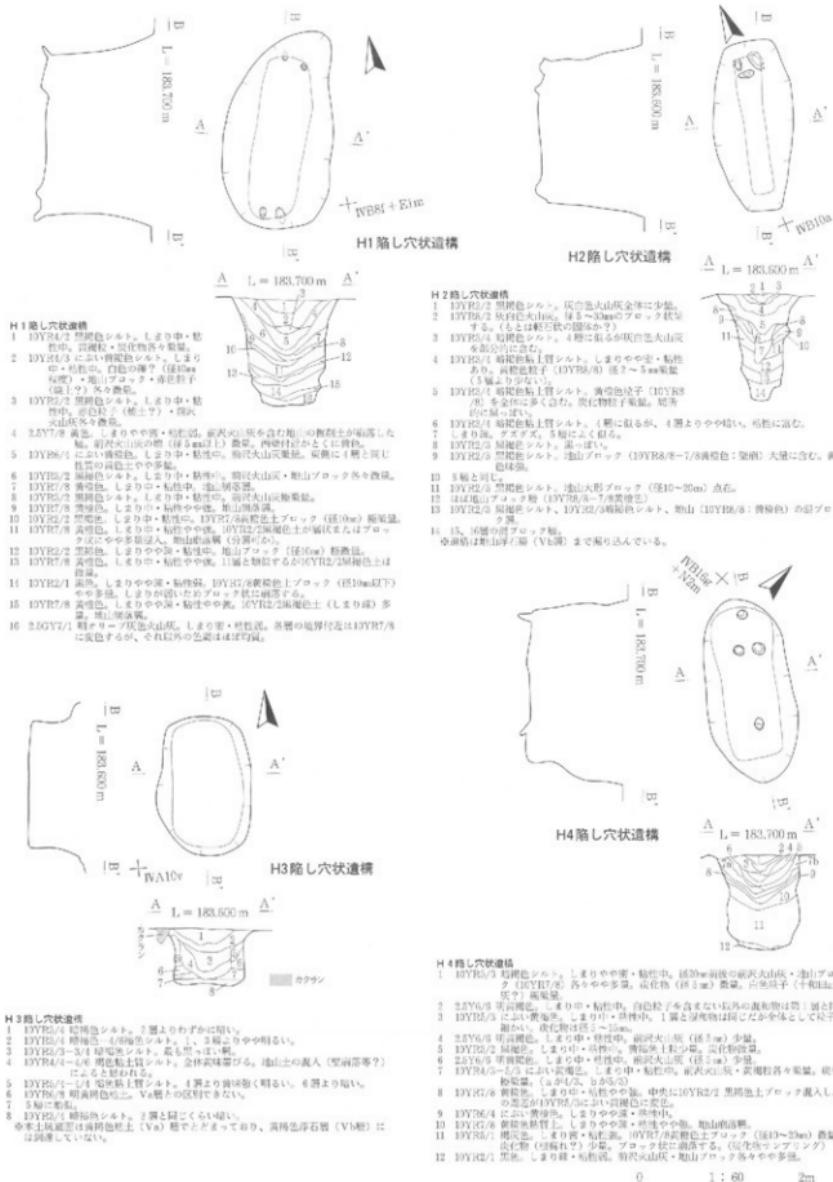


第27図 G区陥し穴状造構（4）





第29図 G区縮し穴状遺構（6）



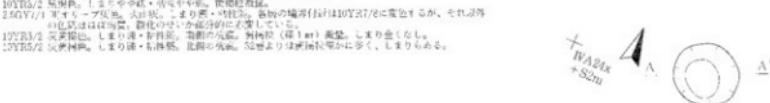
第30図 H区溶陷穴状遺構 (1)



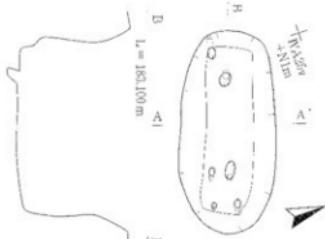
第31図 H区陥し穴状遺構（2）

## H9陥し穴状構造 (つまみ)

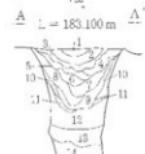
- 10 YET/1 茶色。しまりやや粗。柱状節。ソックリ型に傾斜する。今次山洪甚少。
- 10 YET/2 地下部。しまりやや粗。溶岩やや粗。微細な凝灰。
- 2.5GY/1 オリーブ色。大柱状。つまり質。柱状。各層の礫帶等は10YR57/6に変色するが、それ以外の層は日本標準色である。
- 10 YET/2/2 黄褐色。しまりやや粗。柱状節。溶岩等。地表は（基岩）風化。表面は（基岩）風化。しまりやくない。
- 10 YET/2/2 地下部同上。しまりやく。柱状節。北側に外れ。表面よりは風化等に多く。しまりもある。



H10陥し穴状構造



H12陥し穴状構造



## H12陥し穴状構造

- 10 YET/2/2 基盤同上。基盤やや粗。しまりやや粗。柱状節やや粗。下部に溶岩等。全体に灰白色等。（1回）
- 2 1層。茶色色斑子（厚さ～2m）少角石含む。或下に柱状節。下部に柱状（厚さ1～5m）先端に柱状節等。
- 3 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状角柱（5m以下）全體にやや多く合む。地表付近柱含む。
- 4 10YR5/3 柱状角柱（5m以下）全體にやや多く合む。或下に柱状節等。
- 5 2層より更に層を多く。或柱状。或上部付近で柱状節等。
- 6 10YR5/3 柱状角柱（5m以下）全體にやや多く合む。或下に柱状節等。
- 7 10YR5/3 柱状角柱（5m以下）全體にやや多く合む。或下に柱状節等。
- 8 10YR5/3 柱状角柱（5m以下）全體にやや多く合む。或下に柱状節等。
- 9 10YR5/3 柱状角柱（5m以下）全體にやや多く合む。或下に柱状節等。
- 10 10YR5/3 柱状角柱（5m以下）全體にやや多く合む。或下に柱状節等。
- 11 10YR5/3 柱状角柱（5m以下）全體にやや多く合む。或下に柱状節等。
- 12 10YR5/3 柱状角柱（5m以下）全體にやや多く合む。或下に柱状節等。
- 13 10YR5/3 柱状角柱（5m以下）全體にやや多く合む。或下に柱状節等。
- 14 10YR5/3 2層より2層。或下に柱状節等。

必ず横けたり立てる。或V字型。また割り込んでる。

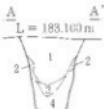
必ず上部へ崩れても被らぬ。

## H11陥し穴状構造



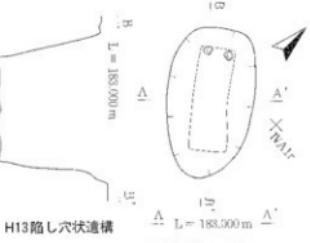
## H11陥し穴状構造

- 1 10YR5/2 地下部色シルト。しまりやや粗。柱状節。黄褐色斑点有。炭化物有。
- 2 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 3 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 4 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。



## H10陥し穴状構造

- 1 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。
- 2 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 3 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 4 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 5 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 6 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 7 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 8 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 9 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 10 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。
- 11 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 12 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 13 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 14 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 15 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 16 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 17 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 18 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 19 2.5GY/1 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。
- 20 2.5GY/1 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節。或下に柱状節等。

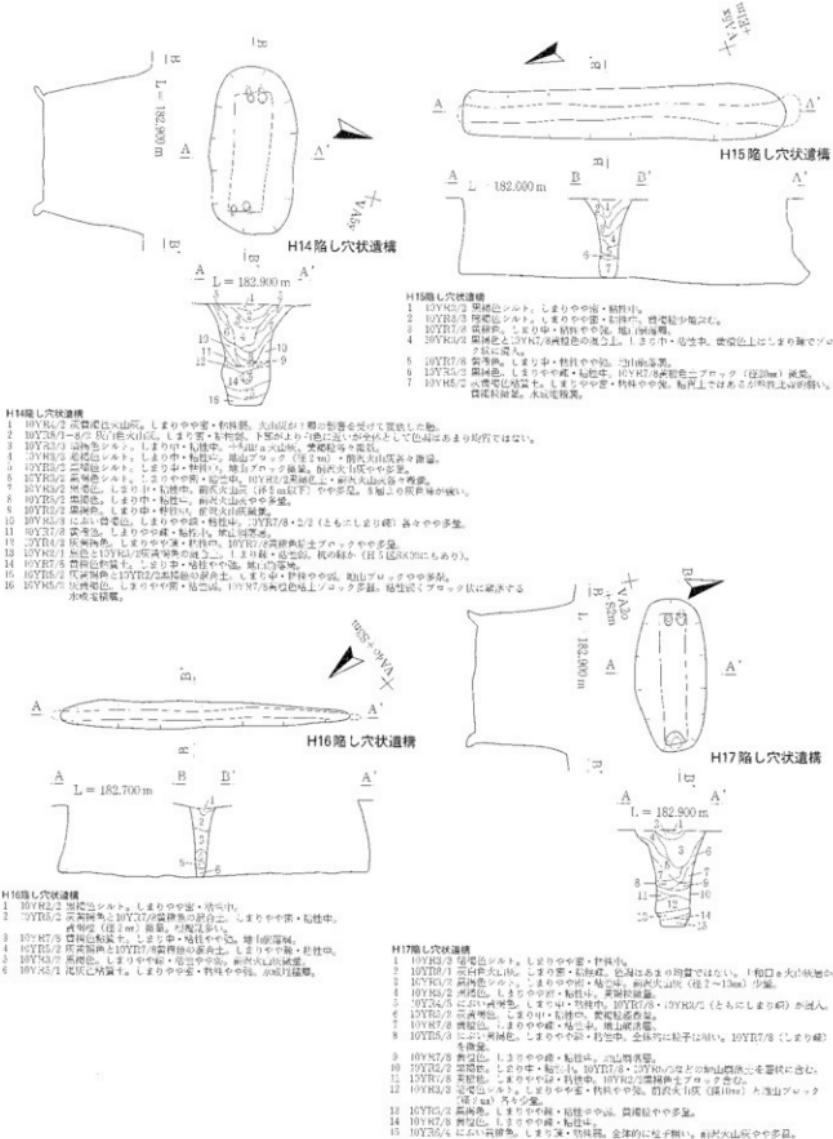


## H13陥し穴状構造

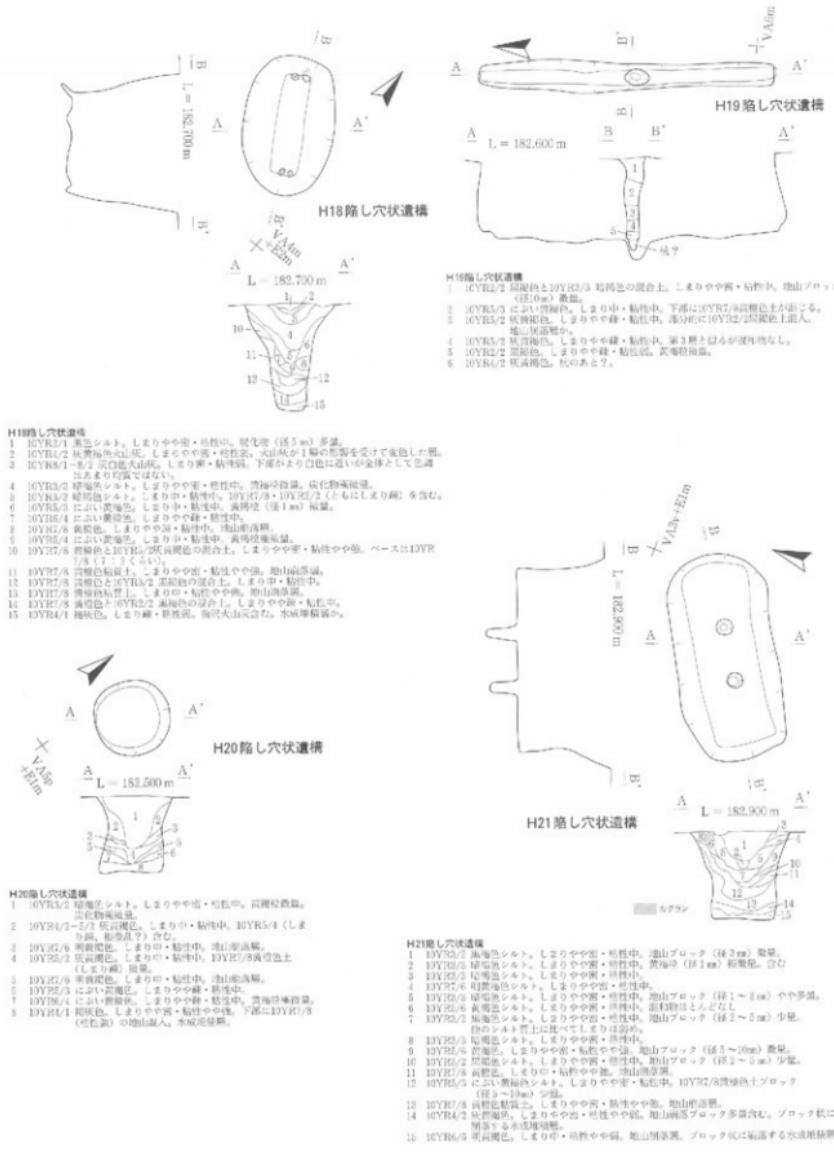
- 1 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。下部に炭化物有。全体に灰白色等。（1回）
- 2 10YR5/2 黄褐色シルト。しまりやや粗。柱状節等。
- 3 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 4 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 5 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 6 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 7 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 8 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 9 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 10 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 11 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 12 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 13 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 14 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 15 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 16 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 17 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 18 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 19 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。
- 20 10YR5/2 黄褐色シルト。柱状節等。



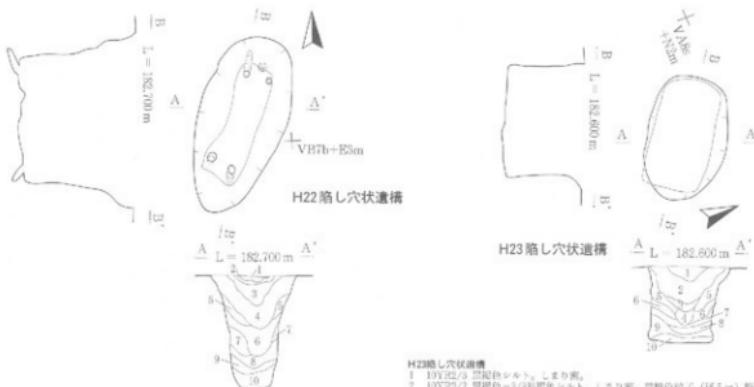
第32図 H区陥し穴状構造(3)



第33図 H区陥し穴状構造 (4)



第34図 H区陥し穴状地構 (5)



H22陥し穴状遺構

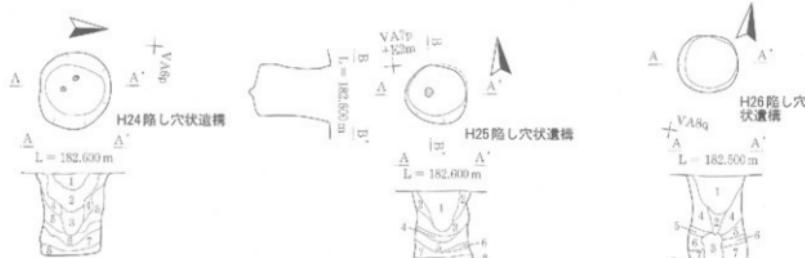
## H22陥し穴状遺構

- 1 10YR8/3 黒白地山灰岩。厚さ5mmのブロックに見える。ガッキと張っている。
- 2 10YR8/4 脱色シルト。しまり室。1期を部分的に含み、向かいあう。
- 3 10YR4/1 黒褐色シルト。しまりやや厚。薄板状層理（厚2~3mm）有り。
- 4 10YR4/2 黄褐色シルト。カクカク。薄板状層理（厚2~3mm）有り。
- 5 10YR4/3 黑褐色上質シルト。しまりやや厚。薄板状層理（厚2~3mm）有り。
- 6 フラット。地山ブロック層（10YR6/6明瞭地帯）有り。
- 7 フラット。地山ブロック層（10YR6/6明瞭地帯）有り。
- 8 フラット。地山ブロック層（10YR6/6明瞭地帯）有り。
- 9 10YR2/3 黑褐色粘土質シルト。カクカク。地山ブロック（Va層）多量。
- 10 10YR2/3 黑褐色粘土質シルト。カクカク。Vb層の小ブロックや多く、グライ化層。陥没層は地山浮石層（Vb層）まで掘り込んでいる。

## H23陥し穴状遺構

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト。しまり室。黄褐色粘土（厚3cm）少量。
- 2 10YR2/3 黑褐色シルト。しまり層（カクカク）。黄褐色粘土（厚2~3mm）少量。
- 3 10YR2/2 黑褐色シルト。しまり層（カクカク）。黄褐色粘土（厚2~3mm）少量。
- 4 10YR2/3 黑褐色シルト。しまり層（カクカク）。黄褐色粘土（厚2~3mm）少量。
- 5 10YR6/6 明瞭地帯。
- 6 10YR6/6 明瞭地帯。
- 7 10YR6/6 明瞭地帯。
- 8 10YR2/3 黑褐色上質シルト。地山ブロック（Vb層）やや多く含む。
- 9 10YR2/3 黑褐色上質シルト。しまり室。
- 10 10YR2/3 黑褐色上質シルト。しまり室。
- 11 10YR2/3 黑褐色上質シルト。しまり室。

陥没層は地山浮石層（Vb層）まで掘り込んでいる。



## H24陥し穴状遺構

- 1 10YR2/3 黑褐色シルト。しまり室。薄板状層理（厚2~3mm）有り。薄板状層理（厚2~3mm）有り。
  - 2 10YR2/3 黑褐色シルト。しまり室。1層に認められ、全体やや厚い。
  - 3 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりやや厚。地山ブロック（Vb層）含み、やや薄い。
  - 4 10YR2/3 黑褐色シルト。しまり室。2層に認められる。
  - 5 10YR2/3 黑褐色シルト。地山ブロック大層。薄板状層理（厚2~3mm）有り。
  - 6 10YR2/3 黑褐色シルト。
  - 7 5層と同じ。
  - 8 10YR2/3 黑褐色シルト。しまり室。
- 陥没層は地山浮石層（Vb層）まで掘り込んでいる。

## H25陥し穴状遺構

- 1 10YR2/2 黑褐色シルト。しまり室。黄褐色粘土（厚2~3mm）少量、地山浮石層。
  - 2 1層に地山ブロック（Vb層）有り。やや薄い。
  - 3 10YR2/3 黑褐色シルト。地山ブロック少量。
  - 4 10YR2/3 黑褐色シルト。
  - 5 3層と同じ。
  - 6 4層と同じ。
  - 7 5層と同じ。
  - 8 10YR2/3 黑褐色シルト。
- 陥没層は地山浮石層（Vb層）まで掘り込んでいる。

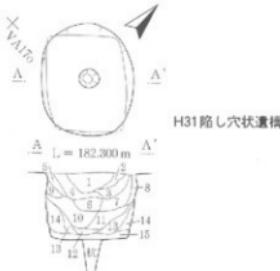
## H26陥し穴状遺構

- 1 10YR2/3 黑褐色シルト。しまり室。黄褐色粘土層（厚2~3mm）有り。
  - 2 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりやや薄。
  - 3 10YR2/3 黑褐色シルト。Vb層ブロック少量。
  - 4 10YR2/3 黑褐色シルト。Vb層ブロック少量。
  - 5 2層と同じ。
  - 6 3層と同じ。
  - 7 4層と同じ。
  - 8 10YR2/3 黑褐色シルト。しまり室。
- 陥没層は地山浮石層（Vb層）まで掘り込んでいる。

0 1 : 60 2m

第35図 H区陥し穴状遺構（6）





## H31陥し穴状遺構

- 1 10YR 5/2 黄褐色シルト。しまりやや中・性状中。黄褐色堅留合む。
- 2 10YR 5/2 黄褐色堅留合む。しまりやや中・性状中。地山ブロック（底付）あり。堅留。
- 3 10YR 5/4 にない黄褐色シルト。しまりやや中・性状中。地山ブロック（底付～10cm）多量。基盤には土壌化・浸透化・溶出化・風化化・腐食化・堆積化・堆積化（底付）等認め。
- 4 10YR 5/2 黄褐色シルト。しまりやや中・性状中。地山ブロック（底付）少量。土壌化（底付）等認め。
- 5 10YR 5/3 にない黄褐色シルト。しまりやや中・性状中。地山堅留合む。
- 6 10YR 5/2 浸透化シルト。しまり中・粘性中。表面土（厚さ～1cm）黄土。
- 7 10YR 5/2 黄褐色堅留合む。しまりやや中・性状中。地山堅留合む。堅留は少量。
- 8 10YR 5/2 黄褐色堅留合む。しまりやや中・性状中。地山堅留合む。
- 9 10YR 5/2 にない黄褐色シルト。しまりやや中・性状中。
- 10 10YR 5/3 黄褐色シルト。しまりやや中・性状中。地山堅留合む。但留との境界付近地盤が不明瞭。
- 11 10YR 5/3 黄褐色シルト。しまりやや中・性状中。地山ブロック（底付～10cm）少量。
- 12 10YR 5/2 黄褐色シルト。しまりやや中・性状中。
- 13 10YR 5/2 黄褐色堅留合む。しまりやや中・性状中。堅留点合む。
- 14 10YR 5/2 黄褐色シルト。しまりやや中・性状中。地山堅留合む。
- 15 10YR 5/2 黄褐色堅留合む。しまりやや中・性状中。地山ブロック（底付）少量。水洗痕認。

中ほど全ての層がシルト質で陥し穴状遺構の土と性状質まったく異なる。

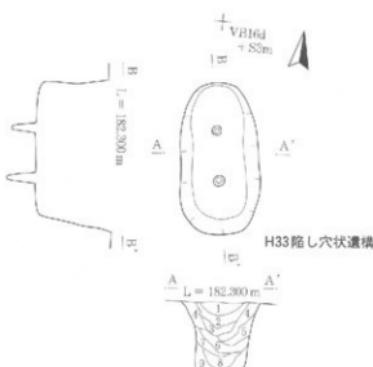
2・3・4層に含まれる地山ブロックは堅留堅物的特徴が混入したもの



## H32陥し穴状遺構

## H32陥し穴体遺構

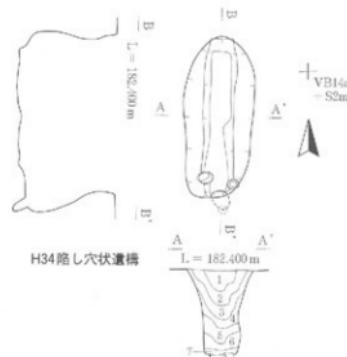
- 1 10YR 5/2 にない黄褐色シルト（ash）。しまりや中・粘性中。レンズ状地帯。頂下一次水成二次かの漂砂は出現。
- 2 10YR 5/2 にない黄褐色シルト。しまり中・性状中。地化物と前段式地に各々観察。
- 3 10YR 5/4 にない黄褐色シルト。しまりやや中・性状中。地山火灰层認。
- 4 10YR 5/3 にない黄褐色シルト。しまり中・性状中。
- 5 10YR 5/2 黄褐色シルト。しまり中・性状中。地山火灰少量。
- 6 10YR 5/2 黄褐色シルト。地盤には土壌化（底付）等認め。
- 7 10YR 5/2 黄褐色。しまり中・性状中。地山火灰（底付）。10YR 5/2 黄褐色（底付）（上層付）中多量。
- 8 10YR 5/2 黄褐色。しまりやや中・粘性中。10YR 5/2 黄褐色（底付）土壌層。地山火灰層。
- 9 10YR 5/2 にない黄褐色シルト。しまりやや中・粘性中。10YR 5/2 黄褐色（底付）等認め。
- 10 10YR 5/2 黄褐色シルト。しまりやや中・粘性中。10YR 5/2 黄褐色（底付）等認め。
- 11 10YR 5/3 にない黄褐色シルトと10YR 5/2 黄褐色の混合層。しまりやや中・粘性中。地山火灰層。10YR 5/2 黄褐色少量。
- 12 10YR 5/2 黄褐色。しまり中・性状中。
- 13 10YR 5/2 黄褐色。しまり中・性状中。地山火灰層。10YR 5/2 黄褐色少量。
- 14 10YR 5/2 黄褐色。しまり中・性状中。地山火灰層。
- 15 10YR 5/2 黄褐色。しまりやや中・性状中。地山火灰を含む地山の崩落層で粒子粗粒的。
- 16 10YR 5/2 黄褐色。しまりやや中・性状中。



## H33陥し穴状遺構

- 1 10YR 5/2 黄褐色シルト。しまり固。
- 2 10YR 5/2 黄褐色堅留合む。しまり固。1層より明るい。
- 3 10YR 5/2 黄褐色堅留合む。しまり固。1層より明るい。
- 4 10YR 5/2 堅留合むシルト。2層に多くなるが、やや堅付。
- 5 10YR 5/2 黄褐色池底泥・堅シルト。V字型の崩落層。
- 6 10YR 5/4 坚留合むシルト。
- 7 10YR 5/2 堅留合む二重シルト。V字型ブロック含み。堅付例。
- 8 10YR 5/2 堅留合む二重シルト。V字型ブロック含み。堅付例。
- 9 7層と同じ。底面は近くは暗い。

幸遺構は地山碎石層（VB層）まで削り込んでいる。

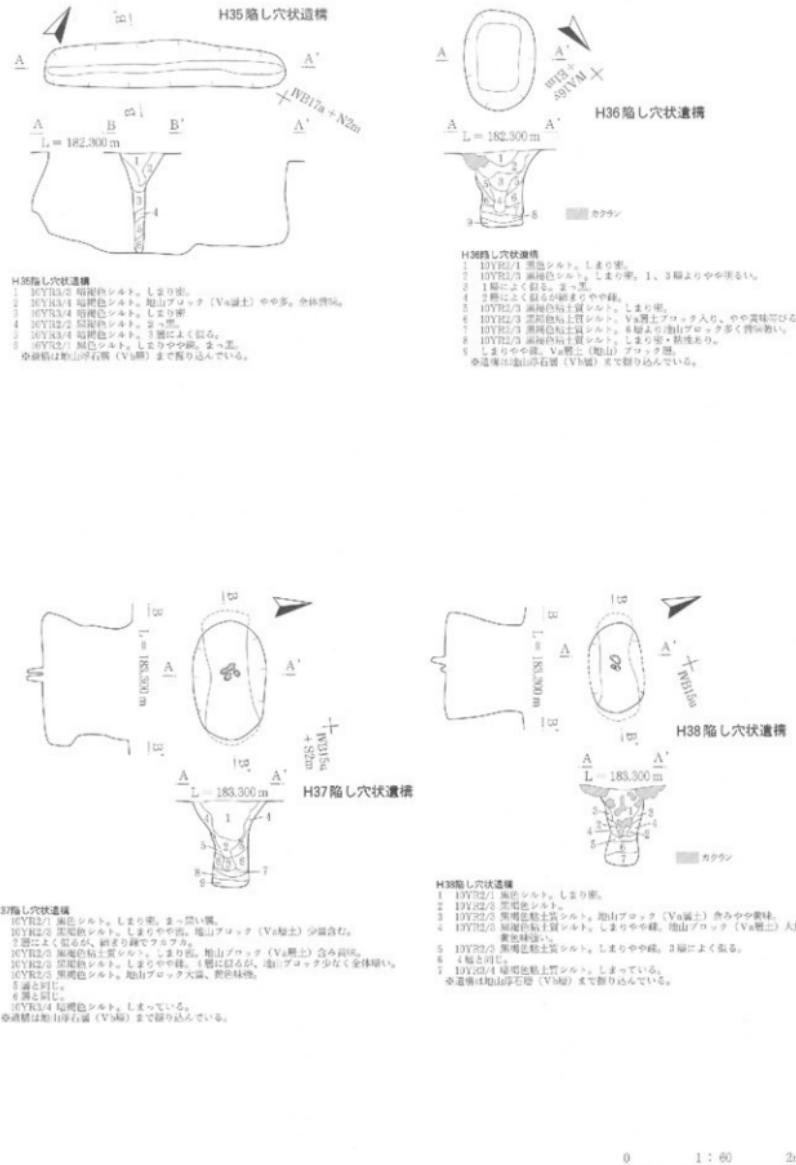


## H34陥し穴状遺構

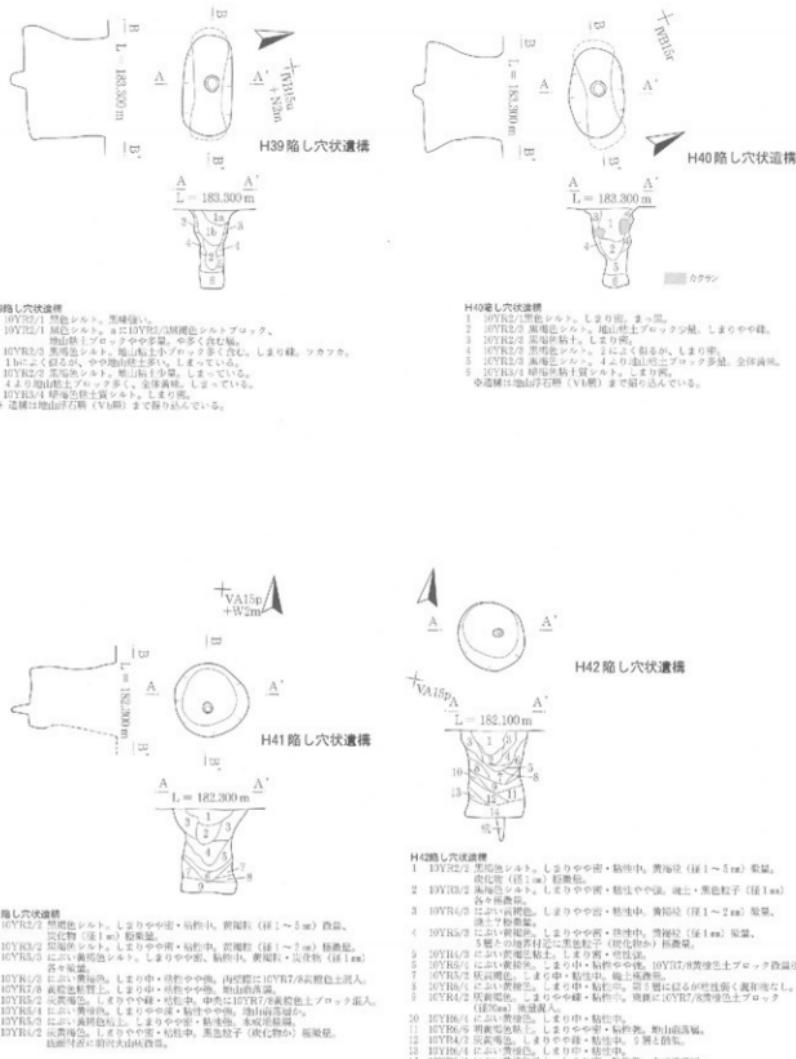
- 1 10YR 5/1 黄褐色シルト。しまり固。斑状やや多く含み、まっ黒、黄褐色兒子（厚さ～5cm）堅留。
- 2 10YR 5/1 黄褐色堅留合む。しまり固。1層より明るい。大層に含み、地山堅留合む。
- 3 10YR 5/4 黄褐色シルト。しまり1、2層より多く。地山ブロック（3層）ごく微量。
- 4 10YR 5/4 黄褐色シルト。地山ブロック多量、全地質層。
- 5 10YR 5/2 ブロック少なく、4、6層より見っぽい。
- 6 1層より明るい。
- 7 10YR 5/1 ～8/2 白色灰。
- 8 10YR 5/6 明黄色魚鱗シルト。しまり中・粘性中。V字形がまさにボソボソになった層。

0 1 : 60 2m

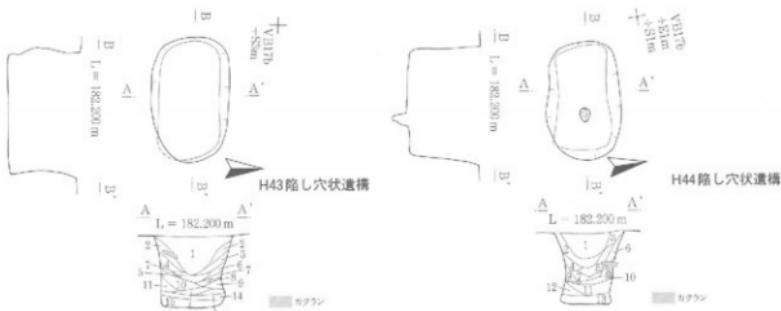
第37図 H区陥し穴状遺構（8）



第38図 H区陥し穴状遺構 (9)

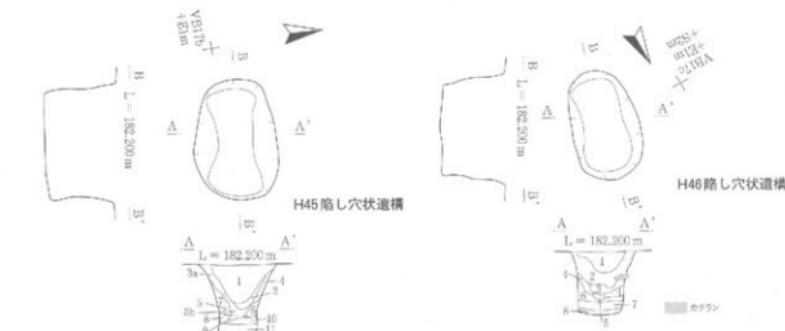


第39図 H区陥し穴状遺構 (10)



- H43陥し穴状造構
- 1 HYR2/2 黄褐色シルト。しまりやや密・粘性中。黄初透西。粗根糸多い。
  - 2 HYR2/2 黄褐色シルト。しまりやや密・粘性中。粗根糸多い。
  - 3 HYR2/2 にかい黄褐色。しまりやや密・粘性中。DYT2/2/黄褐色砂土ブロック (地山透西)。
  - 4 DYT2/6 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。地山透西。
  - 5 DYT2/2 黄褐色砂土。しまり中・粘性中。粗面透葉。1層よりもよりは弱い。
  - 6 DYT2/5 にかい黄褐色。しまり中・粘性中。黄泥透葉。
  - 7 DYT2/6 明黄色透葉土。しまり中・粘性中。地山透葉。
  - 8 DYT2/6 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。地山透葉。
  - 9 DYT2/6 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。地山透葉。
  - 10 DYT2/6 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。地山透葉。
  - 11 DYT2/6 黄褐色砂土。しまり中・粘性中。地山透葉。
  - 12 DYT2/4/2 黄褐色砂土。しまり中・粘性中。地山透葉。
  - 13 DYT2/4/2 黄褐色砂土。しまり中・粘性中。地山透葉。
  - 14 DYT2/4/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。地山透葉。
  - 15 DYT2/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中・や柔。本成透葉。

- H44陥し穴状造構
- 1 HYR2/1 黒褐色シルト。しまり中・粘性中。地山透西。
  - 2 HYR2/3 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。黄泥透 (1層) + 黄透葉。
  - 3 HYR2/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。粗根糸少。
  - 4 HYR2/3 にかい黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。DYT2/6/明黄色砂土 (しまり繊) が部分的に見られる。
  - 5 HYR3/2 黑褐色～DYT2/2/明黄色シルト。しまりや・粘性中。DYT2/6/明黄色砂土 (しまり繊) が見られる。
  - 6 HYR3/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。
  - 7 HYR3/2 黄褐色。しまりやや密・粘性中。
  - 8 DYT2/6 明黄色砂土。しまりやや密・粘性中。地山透葉。
  - 9 DYT2/2 黄褐色砂土。しまり中・粘性中。地山透葉。
  - 10 DYT2/2 にかい黄褐色砂土。しまり中・粘性中。地山透葉。
  - 11 DYT2/6 明黄色透葉土。しまり中・粘性中。地山透葉。
  - 12 DYT2/2 にかい黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中・や柔。本成透葉。
  - 13 DYT2/4/1 黄褐色砂土。しまり中・粘性やや密。大成透葉。

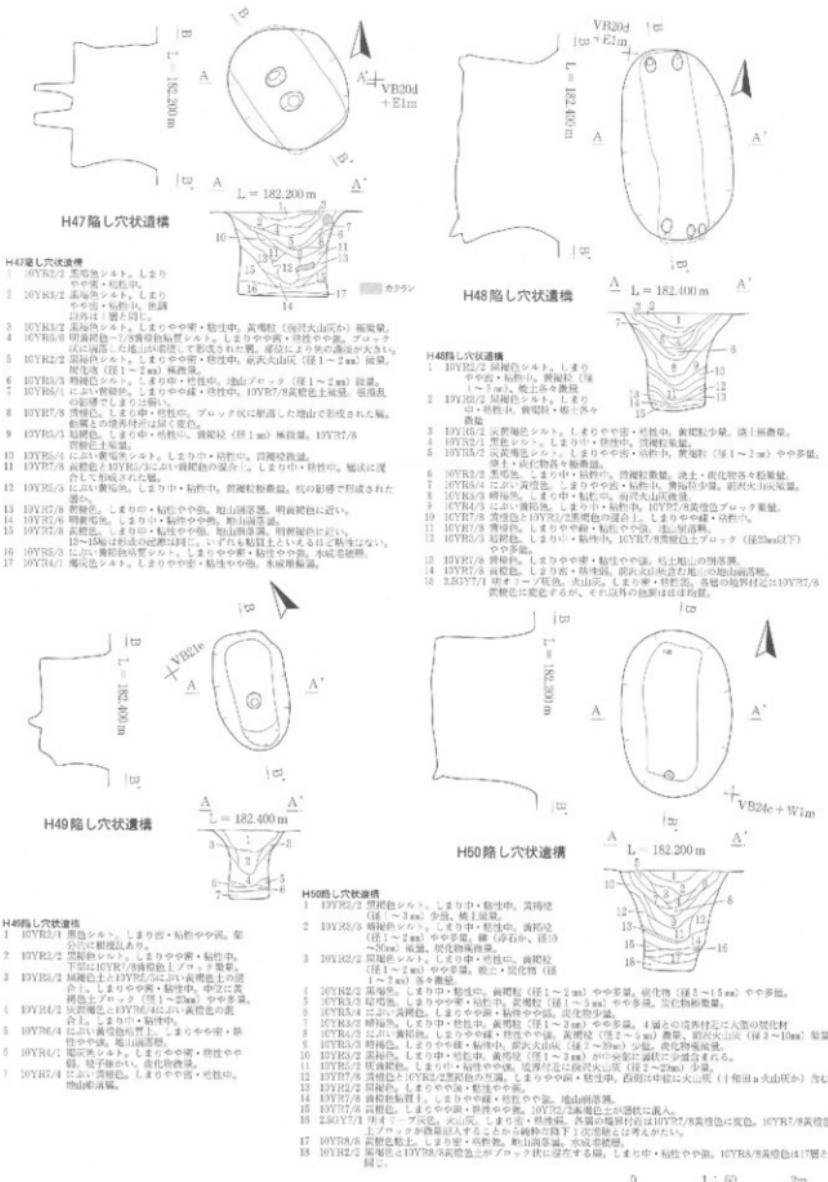


- H45陥し穴状造構
- 1 DYT2/2 黄褐色シルト。しまりやや密・粘性中。黄泥透 (1層) 強量。
  - 2 DYT2/2 黄褐色シルト。しまりやや密・粘性中。黄泥透 (1層) 強量。透葉物などのが感じで1層と変わらないが、色の上で強度で分離可能。
  - 3 HYR2/3 黄褐色砂土。黄泥透 (1層～2層) 強量。しまりやや密・粘性中。地山透葉。
  - 4 HYR2/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。地山透葉。
  - 5 DYT2/2 黄褐色砂土。しまり中・粘性中。地山透葉。
  - 6 DYT2/2 黄褐色砂土。しまり中・粘性中。地山透葉。
  - 7 DYT2/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中・や柔。地山透葉。
  - 8 DYT2/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中・や柔。地山透葉。
  - 9 DYT2/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中・や柔。DYT2/2/黄褐色砂土 (しまり繊) 強量。
  - 10 DYT2/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中・や柔。水成透葉。
  - 11 DYT2/4/1 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中・や柔。水成透葉。

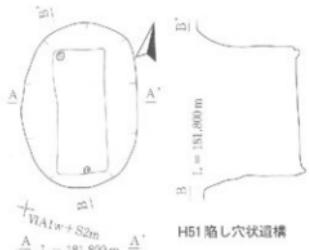
- H46陥し穴状造構
- 1 HYR2/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性中。黄泥透葉強量。
  - 2 HYR2/3 黄褐色シルト。しまりやや密・粘性中。DYT2/6/明黄色砂土ブロック や柔量。その隣には看手DYT2/6/に見認めない。
  - 3 HYR2/3 にかい黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中・や柔。地山透葉。
  - 4 HYR2/3 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。黄泥透葉 (1層) 強量。粗根糸多い。DYT2/2 (1層) 強量。しまり繊。葉含むことから純粋な崩落物ではない。
  - 5 HYR2/2 黄褐色砂土。しまり中・粘性中。黄泥透葉強量。
  - 6 DYT2/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。DYT2/6/明黄色砂土 (1層) 強量。病害が混合する。
  - 7 DYT2/2 にかい黄褐色砂土。しまり中・粘性中・や柔。DYT2/6/明黄色砂土ブロック (1層10～20cm) 強量。水成透葉。
  - 8 DYT2/2 黄褐色砂土。しまりやや密・粘性中。崩落大山系を含まない地山の崩落強度。崩山火成透葉。水成透葉。

0 1 : 60 2m

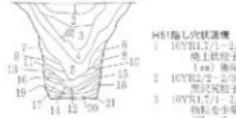
第40図 H区陥し穴状造構 (11)



第41図 H区隔上空状遺構 (12)



H51 脱し穴状遺構



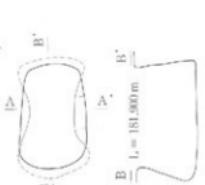
11陽し穴状温療



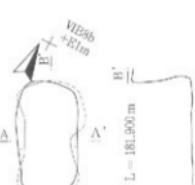
枕穴 10YR5/3-3/4 稍褐色シルト。しまり緻・粘性あり。下位地山部(延々1m)微細に含む。



### 53陥し穴状造構



H54 隋 L 穴狀遺標



H55路上空掠過

第53期 | 2022-06

- H35年六月選舉

  - 1 10YH21 黄色シルト。しまっている。板状クランが多い。
  - 2 10YH23 黒色シルト。しまりやや緩。油けブロック少ない。
  - 3 10YH25 黑褐色シルト。しまり緩。塊状クランや多い。黄味強い。
  - 4 Vn層土 (地山土) ブロック層。黃色い。
  - 5 10YR4/2 浅褐色土質シルト。しまり堅。粘性弱。

\*上選舉は、電山土石組 (Vh組) まで埋り込んである。

※通構は地山浮石層（V<sub>1</sub>H<sub>1</sub>G<sub>1</sub>）まで掘り込んでいる。

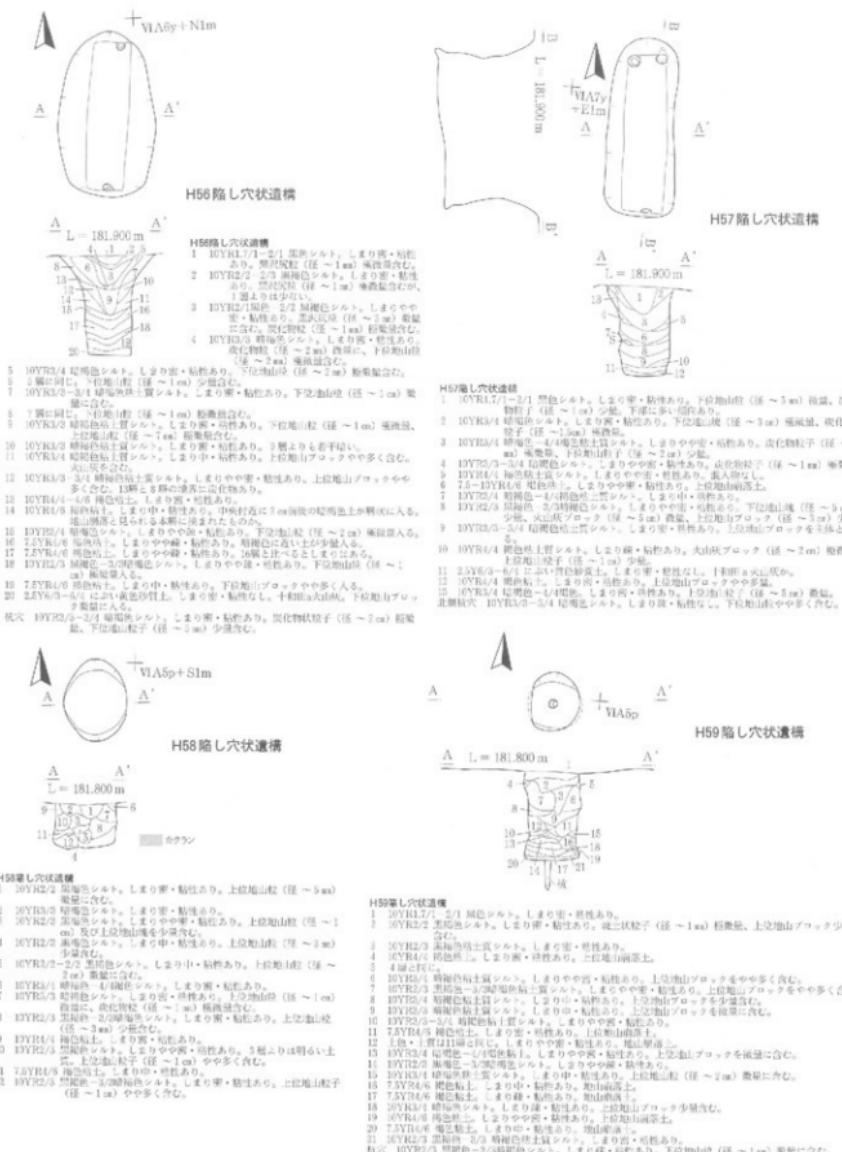
（三）本行通知、本行转人本行通知

- H54筋し穴状遺構・H55筋し穴状遺構  
 1 1CYR2/1 黒色シルト。しまり密。  
 2 1CYR2/2 黑褐色シルト。しまりや難。  
 3 1CYR2/2 黑褐色シルト。しまり密。  
 4 1CYR2/2 黑褐色シルト。地山は土プロック少ない。  
 5 Va層土(地山灰土) プロック無。黃色い。  
 6 1CYR3/1 暗褐色土質上黄土質。  
 お尋ねは地山灰土(1CYR)まで削り込んでいる。

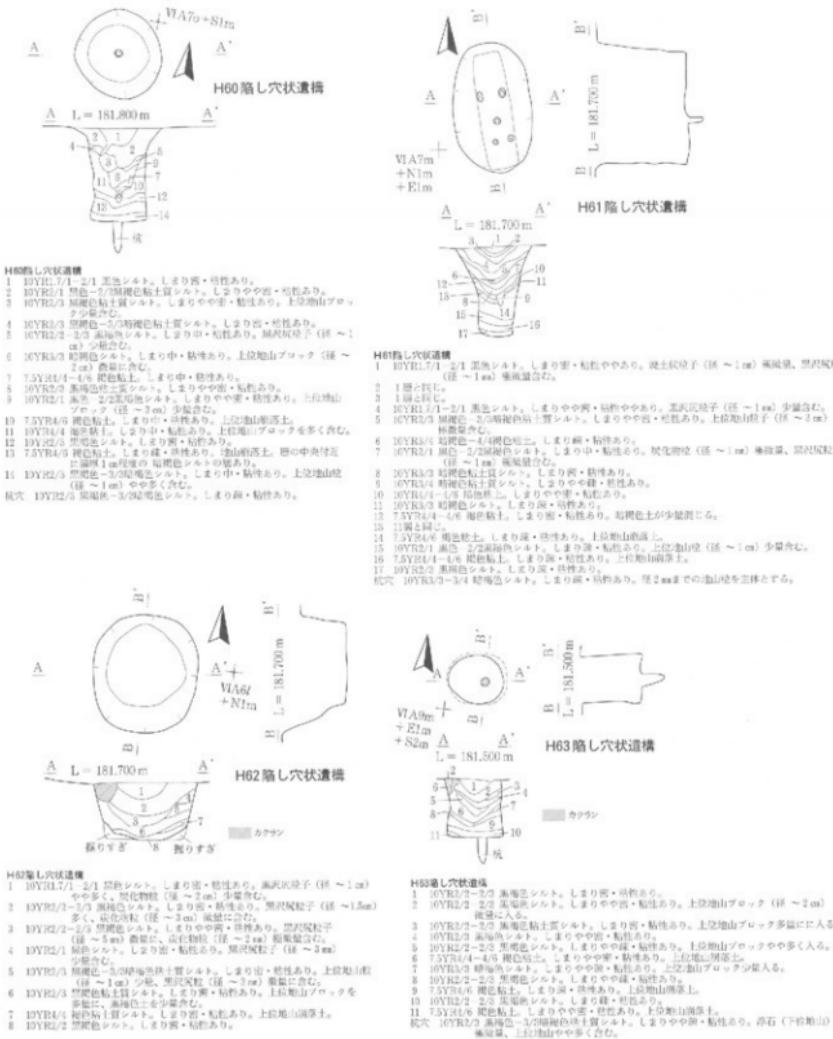
普通種は卵(或石墨(V)鉛)まで詰め込んでいる。

0              1 : 60              2m

第42図 H区路1-空拭遺標 (13)

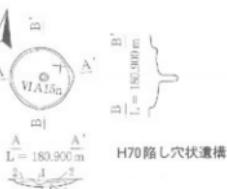
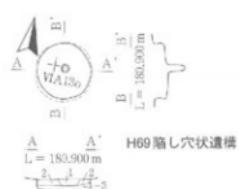
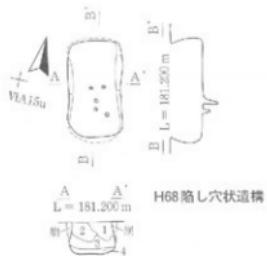


第43図 H区陥上穴状遺構 (14)



第44図 H区陥し穴状造構 (15)





## H陥し穴状造構

- 1 20YR2/2 黒褐色～3/4暗褐色粘土質シルト。しまりや柔・粘性あり。上部は砂質を含む。
- 2 20YR2/4 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。上部は砂質を含む。(厚さ～1m) 分離合分。
- 3 7.5YR5/6 砂質粘土。しまりや柔・粘性あり。地表に含む。
- 4 10YR2/2-2/4 粘褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。
- 5 10YR2/4-1/6 粘土。粘土～粘土質シルト。しまりや柔・粘性あり。

## H66 陥し穴状造構

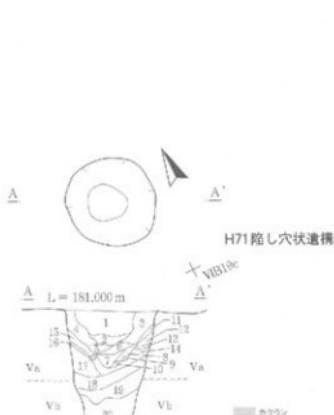
- 1 10YR2/3 黑褐色～3/4暗褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。上部は砂質を含む。
- 2 7.5YR4/3 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。地表に含む。西に一部、暗褐色色あり。
- 3 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。

堆積岩層

## H70 陥し穴状造構

## H70 陥し穴状造構

- 1 10YR2/3 黑褐色～3/4暗褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。浮石及びロームロック含む。
- 2 7.5YR4/6 黑褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。地表に含む。
- 3 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。ワニ形粒子(径1mm) 浮石に含む。



## H72 陥し穴状造構



## H72 陥し穴状造構

- 1 10YR2/1-2/2 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。炭化物粒(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 2 10YR2/1 黑褐色粘土質シルト。しまりや柔・粘性あり。黑泥炭粒子(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 3 10YR2/2-2/3 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。黑泥炭粒子(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 4 10YR2/2-2/3 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。黑泥炭粒子(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 5 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。炭化物粒(径～1mm) 硫酸鉄合分。下部に硫化した炭化物質(厚さ～1cm程度) あり。
- 6 10YR2/4 黑褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。上部地盤にブロックを散布に含む。
- 7 10YR2/4 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。硫化物質(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 8 10YR2/4 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。炭化物粒(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 9 10YR2/4 黑褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。炭化物粒(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 10 10YR2/4 黑褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。炭化物粒(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 11 10YR2/4 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。炭化物粒(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 12 10YR2/4 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。炭化物粒(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 13 10YR2/4 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。
- 14 10YR2/3-3/4 黑褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。上部地盤にブロックを含む。
- 15 10YR2/3 黑褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。上部地盤にブロックを含む。
- 16 10YR2/4 黑褐色粘土質シルト。しまりや柔・粘性あり。炭化物粒(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 17 7.5YR4/5 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。上部地盤に粘土。
- 18 10YR2/3 黑褐色粘土質シルト。しまりや柔・粘性あり。炭化物粒(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 19 10YR2/4 黑褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。上部地盤にブロックを含む。
- 20 10YR2/4 黑褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。炭化物粒(径～1mm) 硫酸鉄合分。
- 21 10YR2/1 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。炭化物質を含む。
- 22 7.5YR4/5 黑褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。上部地盤に粘土。
- 23 7.5-10YR2/4 黑褐色粘土。しまりや柔・粘性あり。中層地盤に割けた10YR2/3-4 黑褐色粘土層の上部があり。上部地盤に粘土。
- 24 10YR2/3-3/4 黑褐色シルト。しまりや柔・粘性あり。

0 1 : 60 2m

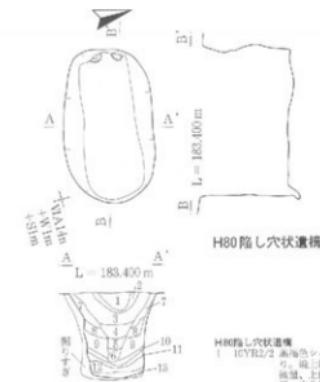
第46図 H区陥し穴状造構 (17)





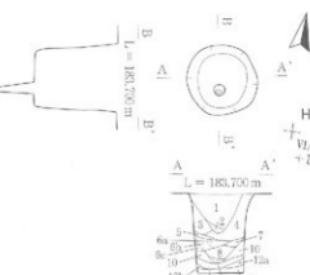
## H77陥し穴状遺構

- 1 17YR1/1 黄褐色～2/2海緑色シルト。しまりやや堅・粘性あり。下位灰岩子（厚～3cm）風化層に含む。
  - 2 17YR1/2 黄褐色～2/2海緑色シルト。しまりや中・堅性あり。上位灰岩子（厚～1cm）風化層に含む。
  - 3 17YR1/2 黒褐色シルト。しまりや中・粘性あり。灰岩物（厚～2cm）風化層、壁上灰岩及び灰岩風化子を含む。
  - 4 17YR1/2 黃褐色シルト。しまりやや堅・粘性あり。灰岩物（厚～2cm）少量、上位地山ブロック（厚～2cm）を多く含む。
  - 5 17YR1/2 黄褐色～4/4灰褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山シルト（厚～3cm）やや多く含む。
  - 6 17YR1/3 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山シルト（厚～5cm）やや多く含む。
  - 7 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。一部は17YR1/3地山土入。上位地山シルト（厚～1cm）を多く含む。
  - 8 17YR1/3 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山ブロック（厚～5cm）やや多く含む。
  - 9 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山シルト（厚～2cm）少量、灰岩物（厚～1cm）を多く含む。
  - 10 17YR1/2 黒褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山シルト（厚～2cm）少量、灰岩物（厚～1cm）を多く含む。
- H4以降は水分が多く含む。



## H80陥し穴状遺構

- 1 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山シルト（厚～5cm）風化、灰岩物（厚～2cm）を多く含む。
- 2 7.5-10YR1/4 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。灰岩物（厚～1cm）少、下位地山シルト（厚～1cm）風化層。
- 3 10YR1/4 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山シルト（厚～1cm）少、下位地山シルト（厚～1cm）風化層。
- 4 10YR1/4 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山シルト（厚～1cm）少、下位地山シルト（厚～1cm）風化層。
- 5 10YR1/4 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山シルト（厚～3cm）少量、下位地山シルト（厚～1cm）風化層。
- 6 10YR1/4 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。下位地山ブロック（厚～7cm）風化層。
- 7 10YR1/4 細砂岩シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山ブロック（厚～1cm）少量、下位地山シルト（厚～1cm）風化層。
- 8 10YR1/4 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山シルト（厚～5cm）風化層。
- 9 10YR1/4 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。下位地山シルト（厚～2cm）少量含む。
- 10 7.5YR1/4 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山シルト（厚～3cm）多、下位地山シルト（厚～1cm）少。
- 11 10YR1/3 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山ブロック（厚～3cm）少、下位地山シルト（厚～1cm）少。
- 12 10YR1/4 黄褐色土質シルト。しまりや中・粘性なし。上位地山ブロック（厚～3cm）多、下位地山シルト（厚～1cm）少。
- 13 2.5YR/4 黄褐色細粒砂岩。しまりや中・粘性なし。下位地山灰岩。



## H78陥し穴状遺構

- 1 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・堅性。薄間層（厚～1cm）風化層。
- 2 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・堅性。薄間層（厚～1cm）風化層。
- 3 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・堅性。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 4 17YR1/2 黑褐色シルト。しまりや中・粘性あり。灰岩物（厚～2cm）風化層、壁上灰岩及び灰岩風化子を含む。
- 5 17YR1/2 黄褐色～4/4灰褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/2薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 6 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 7 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 8 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 9 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 10 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 11 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 12 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。

## H78陥し穴状遺構

- 1 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・堅性。薄間層（厚～1cm）風化層。
- 2 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・堅性。薄間層（厚～1cm）風化層。
- 3 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・堅性。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 4 17YR1/2 黑褐色シルト。しまりや中・粘性あり。灰岩物（厚～2cm）風化層、壁上灰岩及び灰岩風化子を含む。
- 5 17YR1/2 黄褐色～4/4灰褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/2薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 6 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 7 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 8 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 9 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 10 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 11 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。
- 12 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。17YR1/3薄間層（厚～1cm）をプローブで押すと音響が響く。

## H81陥し穴状遺構

- 1 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・堅性。薄間層（厚～1cm）風化層。
- 2 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・堅性。薄間層（厚～1cm）風化層。
- 3 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・堅性。薄間層（厚～1cm）風化層。
- 4 3箇所に同じ。
- 5 17YR1/4 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。下位地山灰岩子（厚～1cm）風化層、下位地山シルト（厚～2cm）風化層。シルトではあるが、伊賀貝群に近いか。
- 6 2.5YR/4 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。下位地山シルト（厚～2cm）風化層。
- 7 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。灰岩物（厚～1cm）風化層、下位地山シルト（ともに厚～1cm）風化層。
- 8 7箇所に同じ。
- 9 17YR1/4 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。下位地山シルト風化層。
- 10 9箇所に同じ。
- 11 2.5YR/4 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山崩落層。
- 12 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山崩落層。
- 13 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山崩落層。
- 14 11-10YR/4 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山崩落層。
- 15 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。下位地山崩落層（厚～5cm）風化層。
- 16 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。下位地山崩落層（厚～5cm）風化層。
- 17 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。下位地山崩落層（厚～5cm）風化層。
- 18 17YR1/3 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。下位地山崩落層（厚～5cm）風化層。
- 19 20 7.5YR1/4 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山崩落層。
- 21 22 10YR/2 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山崩落層。
- 23 24 7.5YR/4 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山崩落層。
- 25 26 7.5YR/4 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山崩落層。
- 27 28 7.5YR/4 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山崩落層。
- 29 30 7.5YR/4 黄褐色シルト。しまりや中・粘性あり。上位地山崩落層。

0 1 : 60 2m

第48図 H区陥し穴状遺構 (19)

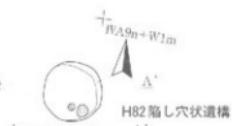
## 2 検出構造



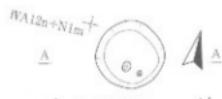
H79 陥し穴状遺構

### H79陥し穴状遺構

- 1 10YR2/2 黒褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山ブロック 程度。
- 2 10YR2/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。薄褐色土粒子（径 ~ 1mm）を含む。
- 3 10YR2/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山 ブロック（径 ~ 3mm）。上位地山を含む。
- 4 10YR2/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山 ブロック（径 ~ 1mm）。上位地山を含む。
- 5 10YR2/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山 ブロック（径 ~ 1mm）。少量含む。
- 6 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。炭化物粒子（径 ~ 1mm）を多く含む。上位地山ブロック含む。
- 7 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。炭化物粒子（径 ~ 1mm）を多く含む。上位地山ブロック含む。
- 8 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。炭化物粒子（径 ~ 1mm）を多く含む。上位地山ブロック含む。
- 9 10YR2/4 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。炭化物粒子（径 ~ 1mm）を多く含む。上位地山土層下部。10選よりも 黒く、崩落土層のボクゴボとはなし。
- 10 10YR2/5 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 11 10YR2/5 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 12 10YR2/5 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 13 10YR2/6 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 14 10YR2/6 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 15 10YR2/2-2/3 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。



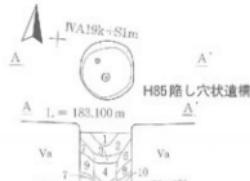
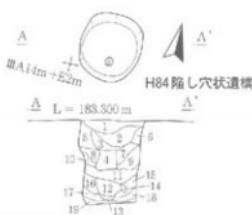
H82 陥し穴状遺構



H83 陥し穴状遺構

### H84 陥し穴状遺構

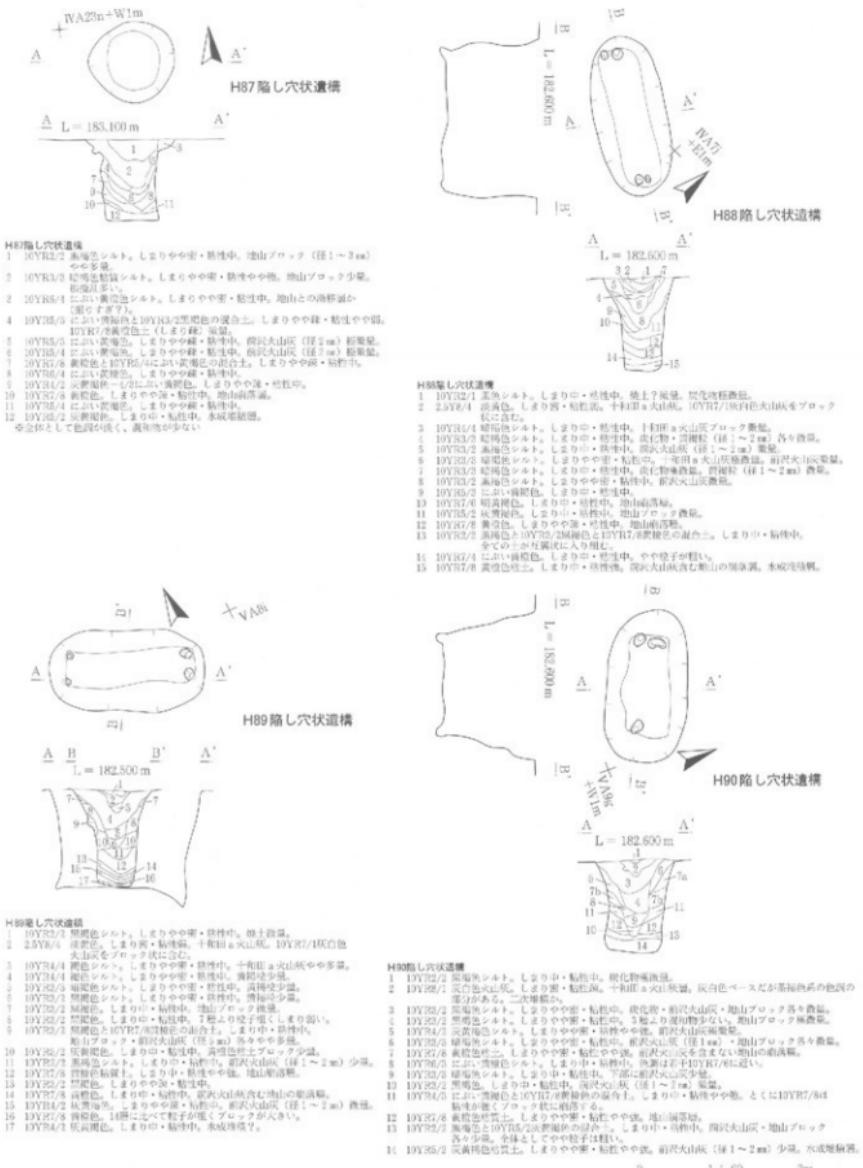
- 1 10YR2/1 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。薄褐色土粒子（径 ~ 1mm）を含む。
- 2 10YR2/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。薄褐色土粒子（径 ~ 1mm）を含む。
- 3 10YR2/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。薄褐色土粒子（径 ~ 1mm）を含む。
- 4 10YR2/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。薄褐色土粒子（径 ~ 1mm）を含む。
- 5 10YR2/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。炭化物粒子（径 ~ 1mm）を含む。
- 6 10YR2/1-1/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。炭化物粒子（径 ~ 1mm）を含む。
- 7 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。炭化物粒子（径 ~ 1mm）を含む。
- 8 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。炭化物粒子（径 ~ 1mm）を含む。
- 9 10YR2/4 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。炭化物粒子（径 ~ 1mm）を含む。
- 10 10YR2/5 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 11 10YR2/5 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 12 10YR2/5 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 13 10YR2/6 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 14 10YR2/6 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 15 10YR2/2-2/3 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。



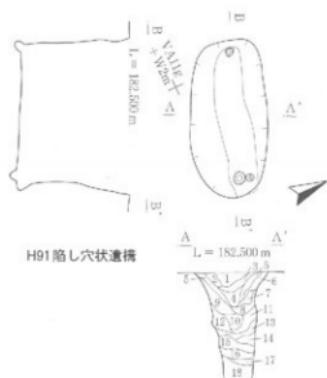
H86 陥し穴状遺構

- 1 10YR1/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 2 10YR2/2-2/3 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 3 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 4 10YR2/3 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 5 10YR2/4 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 6 10YR2/4 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 7 10YR2/5 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 8 7.5YR4/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 9 7.5YR4/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 10 10YR2/5-3/4 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。
- 11 10YR2/5 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。
- 12 7.5YR4/2 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。
- 13 10YR2/5 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。
- 14 10YR2/5 黑褐色シルト。しまりやや密・粘性あり。上位地山土層下部。

0 1 : 60 2m

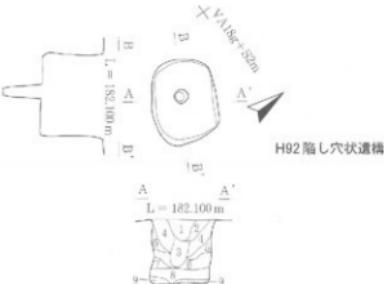


第50図 H区腫瘍と穴状遺構 (2)



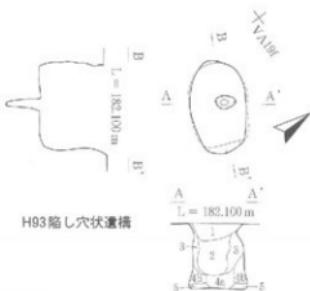
H91陥し穴状遺構

1. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付・表面部(厚さ1cm)各々變色。  
2. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付の部分に土塊を入れて埋められた様。粒子やや粗い。  
3. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。1層より若干茶色が混じて、お。土質・英縫土。(厚さ1cm)各々變色。  
4. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。表面部・表面部・表面部(厚さ1cm)各々變色。  
5. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付の部分が流入して形成された様。  
6. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付の部分が流入して形成された様。  
7. 10YR2/3 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。前山火成岩(厚さ1~10cm)夾雜。  
8. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付の部分が流入して形成された様。  
9. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付の部分が流入して形成された様。  
10. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。前山火成岩。  
11. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付の部分が流入して形成された様。  
12. 10YR7/8 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。10YR2/2 黄褐色土の多量。底付・表面部。  
13. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付の部分が流入して形成された様。(厚さ10cm) 夾雜。  
14. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。10YR2/2 黄褐色土の混合土。しまり中・粘性中。底付の部分が流入して形成された様。  
15. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。10YR2/2 黄褐色土の多量。底付・表面部。  
16. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付の部分が流入して形成された様。  
17. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付の部分が流入して形成された様。  
18. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付の部分が流入して形成された様。



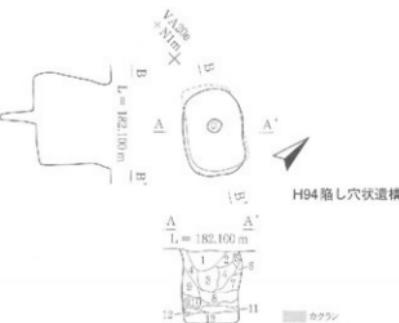
H92陥し穴状遺構

1. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。前山火成岩。  
2. 10YR2/4 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山ブロック  
(厚さ1~3cm) 夾雜。  
3. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山ブロック  
(厚さ1~3cm) 夾雜。  
4. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山ブロック  
部分に10YR2/2(根付乱れ) 夾雜。  
5. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山ブロック  
部分に10YR2/2(根付乱れ) 夾雜。  
6. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山ブロック  
部分に10YR2/2(根付乱れ) 夾雜。  
7. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山ブロック  
部分に10YR2/2(根付乱れ) 夾雜。  
8. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山ブロック  
部分に10YR2/2(根付乱れ) 夾雜。  
9. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山ブロック  
部分に10YR2/2(根付乱れ) 夾雜。



H93陥し穴状遺構

1. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。地付・ロック層変化。  
2. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
3. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
4. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
5. 10YR2/6 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。水成岩層。

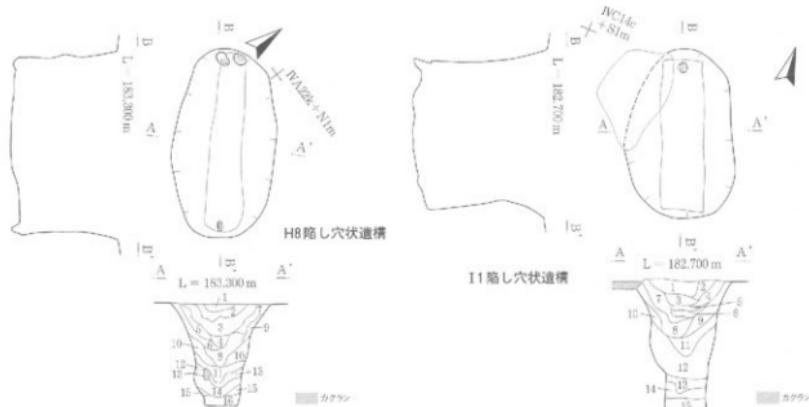


H94陥し穴状遺構

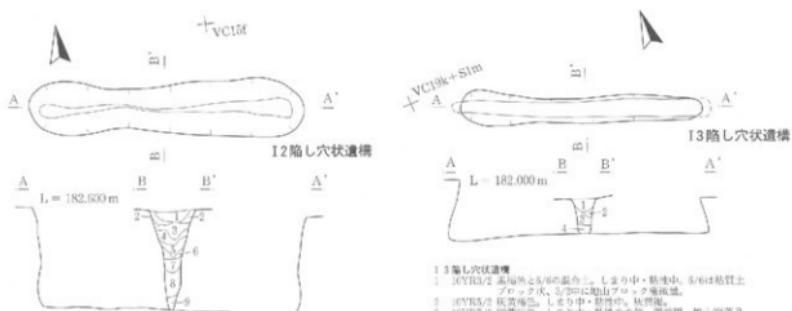
1. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
2. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
3. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
4. 10YR2/3 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山ブロック層。根付岩多い。  
5. 10YR2/7/8 灰岩・粘土層上。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
6. 10YR2/8 灰岩・粘土層上。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
7. 10YR2/8 灰岩・粘土層上。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
8. 10YR2/8 灰岩・粘土層上。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
9. 10YR2/8 灰岩・粘土層上。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
10. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
11. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
12. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。前山火成岩。  
13. 10YR2/2 黄褐色シルト。しまり中・粘性中。底付中。水成岩層。

0 1 : 60 2m

第51図 H区陥し穴状遺構 (22)

**H8 塵し穴状構造**

- 1 BY78/3 黒褐色～灰褐色。土より重・粘性質。一粒田で15kg。塊状鉄錆に付する。外見上はアフカムがねするという感して鉄錆なるラク形状ではない。このため色あざけ的感。
- 2 BY78/4 黒褐色シルト。しまりやや重・粘性質。十面山大穴成は20cm。柱状に塊状、塊状風化(3m×2m)。表面は褐色。底面は白色。底面は白色。底面は白色。
- 3 BY78/4 黒褐色シルト。しまりやや重・粘性質。十面山大穴成は20cm。柱状に塊状、塊状風化(3m×2m)。表面は褐色。底面は白色。底面は白色。
- 4 BY78/4 黒褐色シルト。しまりやや重・粘性質。十面山大穴成は20cm。柱状に塊状、塊状風化(3m×2m)。表面は褐色。底面は白色。底面は白色。
- 5 BY78/1 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 6 BY78/1 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 7 BY78/1 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 8 BY78/1 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 9 BY78/4 黑褐色。十面山大穴成は20cm。
- 10 BY78/4 黑褐色。十面山大穴成は20cm。
- 11 BY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 12 BY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。十面山大穴成は20cm。
- 13 BY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。十面山大穴成は20cm。
- 14 BY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。十面山大穴成は20cm。
- 15 BY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。十面山大穴成は20cm。
- 16 BY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。十面山大穴成は20cm。
- 17 BY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。十面山大穴成は20cm。
- 18 BY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。十面山大穴成は20cm。

**I2 塘し穴状構造**

- 1 CY78/2 黒褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 2 CY78/2 黒褐色シルト。しまりやや重・粘性中。
- 3 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 4 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 5 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 6 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 7 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 8 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 9 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 10 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 11 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 12 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 13 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 14 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 15 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 16 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 17 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 18 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 19 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。柱状ブロック(1m×1m)。底面は白色。

**I1 塘し穴状構造**

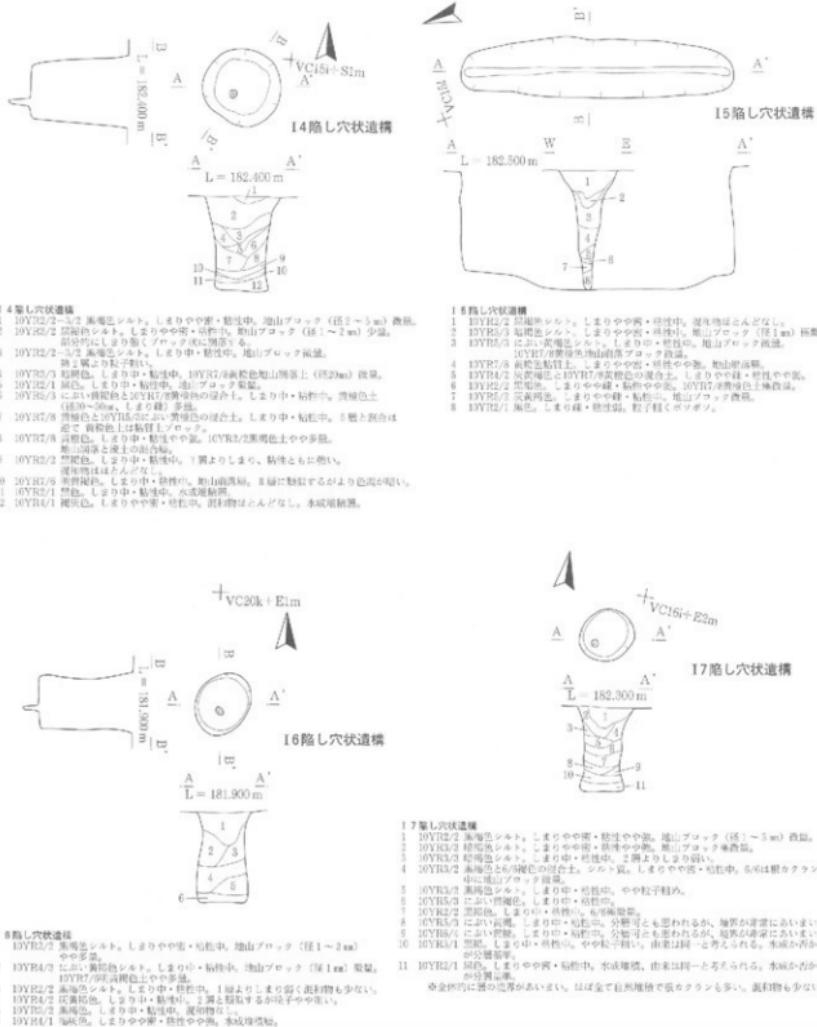
- 1 BY78/3 に似る黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 2 BY78/4 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 3 UV78/2 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 4 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 5 BY78/4 に似る黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 6 BY78/4 に似る黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 7 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 8 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 9 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 10 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 11 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 12 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 13 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 14 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 15 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 16 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 17 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 18 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 19 BY78/6 黄褐色シルト。しまりやや重・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。

**I3 塘し穴状構造**

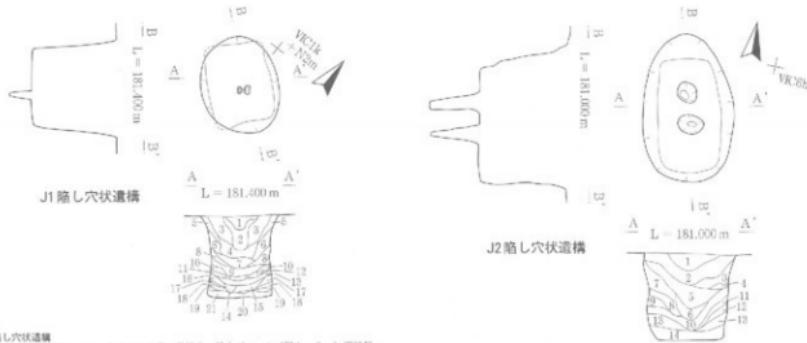
- 1 BY78/2 黑褐色と/orの混合。しまり中・粘性中。5/6は粘土質。
- 2 BY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 3 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 4 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 5 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 6 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 7 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 8 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 9 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 10 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 11 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 12 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 13 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 14 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 15 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 16 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 17 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 18 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。
- 19 CY78/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック(1m×1m)。底面は白色。

0 1 : 60 2m

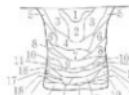
第52図 H区陥し穴状構造(23)、I区陥し穴状構造(1)



第53図 I区案じ穴状造構 (2)

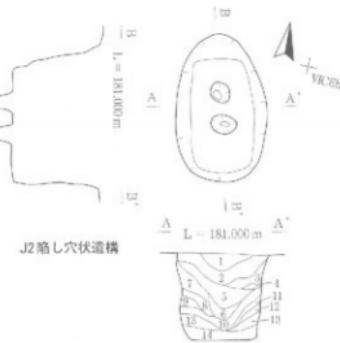


J1 陥し穴状遺構



- J 1 陥し穴状遺構  
 1 3YTR2/2 黒褐色シルト。しまりやや中・粘性中。地山ブロック〔深1~2m〕 壓縮帶。  
 2 3YTR3/2 黒褐色シルト。しまりやや中・粘性中。地山ブロック〔深1~5m〕 少量。↓層よりしまり弱。  
 3 3YTR5/5 黒褐色シルト。しまりやや中・粘性中。地山以外は下層と同様。  
 4 3YTR7/2 黒褐色シルト。しまりやや中・粘性中。地山ブロック〔深1~5m〕 少量。  
 5 3YTR8/2 黒褐色シルト。しまりやや中・粘性中。地山ブロック〔深1~5m〕 面が良い。西側ややしまり強。  
 6 3YTR8/6/8/9/10/11/12/13/14/15/16/17 黒褐色シルト。しまり中・粘性中。↓屈曲部。  
 7 3YTR2/2 黒褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック〔地盤〕。  
 8 3YTR2/2 黒褐色。しまり中・粘性中。地山ブロック〔地盤〕。  
 9 3YTR7/2 黒褐色。しまりやや中・粘性中。↓屈曲部。層間に分離。↓層に分離。  
 10 3YTR7/2 黒褐色。しまり中・粘性やや強。地山由来。  
 11 3YTR6/3 ないし黄褐色。しまりやや中・粘性中。地山ブロック〔前段は山灰風化〕 残根巣。後半は灰くままである。火成岩の変成岩か。↓層と接する。↓層は岩盤なし。↓層は岩盤。  
 12 3YTR7/6 黒褐色。しまりやや中・粘性中。↓層と接する。↓層は岩盤なし。↓層は岩盤。  
 13 しまり中・粘性中。3YTR7/6多量。カクカ。↓層より下層は複数のチフツと隣接である。地山が不規則。↓層には火成岩変成岩のブロック状に剥落する。  
 14 3YTR6/2 黄褐色。しまりやや中・粘性中。溶けた時に多くなる。山脈は、↓層に近いか。  
 15 3YTR7/2 黄褐色。しまりやや中・粘性中。溶けた時に多くなる。↓層は山灰風化で複数に剥落する。↓層は火成岩といえども岩盤はない。  
 16 3YTR7/8 黄褐色。しまり中・粘性中。溶けた時に多くなる。  
 17 3YTR3/2 黑褐色。しまり中・粘性中。  
 18 16番と同じ。  
 19 3YTR7/2 黑褐色。しまりやや中・粘性中。溶けた時に多くなる。  
 20 3YTR2/2 黑褐色。しまりやや中・粘性中。溶けた時に多くなる。  
 21 3YTR4/2 黑褐色土質4%。しまりやや中・粘性やや強。水成岩風化。

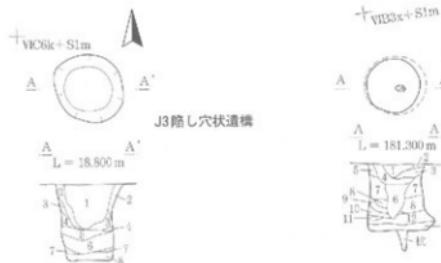
◆H1~15、20、21層は水成岩層と思われる。全体的にしまりやや。



J2 陥し穴状遺構



- J 2 陥し穴状遺構  
 1 3YTR2/2 黒褐色シルト。しまりやや中・粘性中。  
 2 3YTR5/5 黒褐色シルト。しまりやや中・粘性中。地山ブロック〔深1~2m〕 少量。↓層よりしまり強。  
 3 3YTR5/4 黒褐色シルト。しまりやや中・粘性中。根根巣があり。しまりの↓層に弱くなる。  
 4 3YTR6/6 黒褐色シルト。しまりやや中・粘性中。溶けた時に多くなる。部分的に3YTR5/4と重複する。  
 5 3YTR3/3 黑褐色シルト。しまりやや中・粘性中。地山ブロック〔地盤〕。  
 6 3YTR7/7 黑褐色。しまり中・粘性やや強。地山由来。3YTR2/2 黑褐色土質より多くある。地山と風化層と民土の境界。  
 7 3YTR7/7 黑褐色。しまり中・粘性中。↓層と接する。地山ブロック〔地盤〕。  
 8 3YTR7/7 黑褐色。しまり中・粘性中。溶けた時に多くなる。3YTR2/2 黑褐色土質より多くある。地山由来。  
 9 3YTR7/7 黑褐色。しまり中・粘性中。溶けた時に多くなる。3YTR2/2 黑褐色土質より多くある。地山由来。  
 10 3YTR7/7 黑褐色。しまり中・粘性中。溶けた時に多くなる。3YTR2/2 黑褐色土質より多くある。地山由来。  
 11 3YTR5/5 黑褐色。しまり中・粘性中。溶けた時に多くなる。3YTR2/2 黑褐色土質より多くある。地山由来。  
 12 3YTR7/7 黑褐色。しまり中・粘性中。溶けた時に多くなる。3YTR2/2 黑褐色土質より多くある。地山由来。  
 13 3YTR7/7 黑褐色。しまり中・粘性中。溶けた時に多くなる。3YTR2/2 黑褐色土質より多くある。地山由来。  
 14 3YTR5/5 黑褐色。しまり中・粘性中。溶けた時に多くなる。3YTR2/2 黑褐色土質より多くある。地山由来。

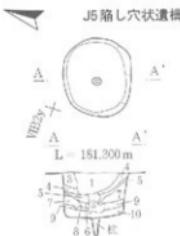


J3 陥し穴状遺構



- J 3 陥し穴状遺構  
 1 10YR2/2-3/2 黑褐色シルト。しまりやや中・粘性中。やや強。3YTR2/2ないし黄褐色土質上より多くある。↓層より多くある。↓層は岩盤。  
 2 10YR5/3 ないし黄褐色シルト。しまりやや中・粘性中。地山由来。  
 3 10YR5/2 黑褐色シルト。しまり中・粘性中。地山由来。  
 4 10YR7/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 5 10YR7/6 黑褐色。しまりやや中・粘性中。地山由来。  
 6 10YR7/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 7 10YR7/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 8 10YR7/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 9 10YR7/6 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 10 10YR3/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 11 10YR4/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 12 10YR2/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 13 10YR4/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。

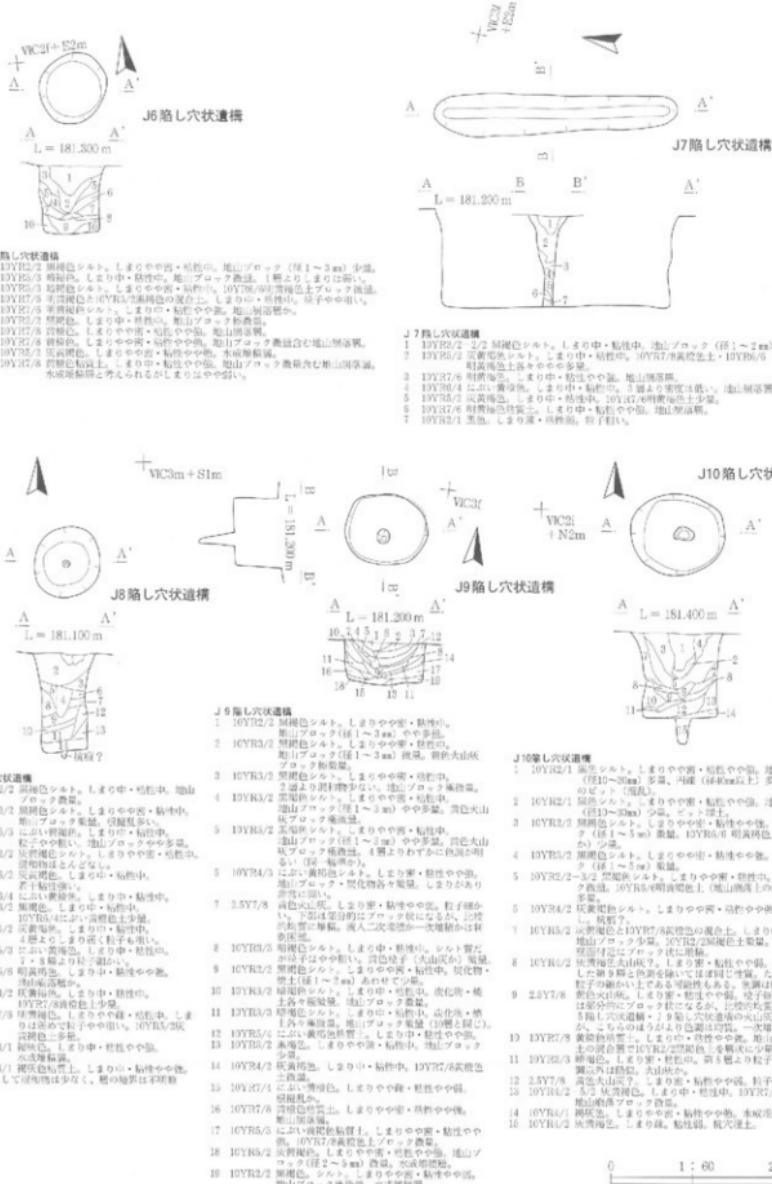
- J 4 陥し穴状遺構  
 1 10YR2/2 黑褐色シルト。しまりやや中・粘性中。  
 2 10YR2/2 黑褐色シルト。しまり中・粘性中。地山ブロック少量化。  
 3 10YR5/3 黑褐色シルト。しまり中・粘性中。10YR7/6 黑褐色シルト。しまりやや中・粘性中。  
 4 10YR7/2 黑褐色シルト。しまり中・粘性中。地山由来。  
 5 10YR7/5 黑褐色。しまりやや中・粘性中。地山由来。  
 6 10YR5/5 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 7 10YR7/7 黑褐色シルト。しまりやや中・粘性中。↓層より多くある。↓層は岩盤。  
 8 2.5YTR7/8 黑褐色シルト。しまりやや中・粘性中。↓層より多くある。↓層は岩盤細かいが、部分的に3YTR5/5と重複する。↓層の岩盤付近はやや灰褐色に変色。  
 9 10YR5/5 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 10 10YR5/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 11 10YR7/8 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 12 10YR7/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 13 10YR4/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 14 10YR5/3 黑褐色シルト。しまりやや中・粘性中。地山由来。



J5 陥し穴状遺構

- J 5 陥し穴状遺構  
 1 10YR5/3 黑褐色シルト。しまりやや中・粘性中。粒子細かい。地山ブロック。後に削る。地山。  
 2 10YR5/7 ないし黄褐色シルト。しまりやや中・粘性中。全体に10YR7/6 黑褐色土質上より多くある。↓層より多くある。↓層は岩盤。  
 3 10YR5/7 地山由来。10YR7/6 黑褐色土質上より多くある。↓層より多くある。↓層は岩盤。  
 4 10YR5/5 黑褐色シルト。しまり中・粘性中。地山由来。  
 5 2.5YTR7/8 黑褐色シルト。しまりやや中・粘性中。↓層より多くある。↓層は岩盤細かいが、部分的に3YTR5/5と重複する。↓層の岩盤付近はやや灰褐色に変色。  
 6 10YR5/5 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 7 10YR7/8 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 8 10YR5/5 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 9 10YR7/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 10 10YR4/2 黑褐色。しまり中・粘性中。地山由来。  
 11 10YR5/3 黑褐色シルト。しまりやや中・粘性中。地山由来。

第54図 J区陥し穴状遺構(1)



第55図 J 区陥し穴状遺構 (2)

## V 出 土 遺 物 (第56図、写真図版68)

今回は58,700m<sup>2</sup>という広大な面積の調査を行ったにもかかわらず、出土した遺物は非常に少なく、上器・石器合わせて小コンテナ(42×32×10cm)約1箱である。以下でその内容について述べる。

### 1 土 器

全て破片であるが9点登録した。7のみが上師器と考えられ、その他は全て縄文土器である。

1はA19陥し穴状造構の底面から出土した。地紋は単節RLである。特徴的な文様等がないので、縄文時代どの時期になるかについてははっきりしない。

2はA25陥し穴状造構の底面から出土した。地紋はLR RLの結束羽状縄文である。胎土中に纖維が含まれている。縄文時代前期のものと考えられる。

3はA25陥し穴状造構の底面から出土した。地紋は単節RLの横回転である。特徴的な文様等がないので、縄文時代どの時期になるかについてははっきりしない。

4は△×I B14aグリッドの耕作土中(I層)から出土した。磨耗が著しいが、沈線が施されている。縄文時代後期前葉のものと考えられる。掲載資料のはかに同一の個体になると思われる破片が多く出土しているが、小片が多く接合できなかったため、一番特徴を示している当該部分を掲載した。

5はC区黒褐色土上面から出土した。磨耗が著しいが、地紋は単節LRである。胎土中に纖維を含んでいる。縄文時代前期のものと考えられる。

6はC区耕作土中で出土した鉢とみられる口縁部である。縄文時代晩期のものと考えられる。

7はC区トレチ壁面の1層耕作土中から出土した壺の体部である。小片なので、時期についてははっきりしない。

8はH18陥し穴状造構の埋土中位から出土した。深鉢と考えられるものの口縁部である。地紋は単節LRの横回転である。胎土の特徴及び施紋方法から、縄文時代晩期の大洞A'式のものと考えられる。

9はII90陥し穴状造構の埋土中位から出土した。深鉢とみられるものの口縁部である。波状の口縁を持つ。器形及び製作技法などから、縄文時代晩期の大洞A'式のものと考えられる。

### 2 石 器

9点を登録した。うち、実測図を掲載したものは51~55の5点である。陥し穴状造構という造構の性格、表採および検出面からという出土状況等を考慮すると、遺物の時期がそのまま造構の時期とならないと思われるため、時期については言及しない。

51はD2陥し穴状造構の1層上面(検出面)から出土した凹基無茎の石鏸である。破損品と考えられ、先端部及び基部の片側が欠損している。材質は赤色頁岩である。

52はG区III A18Wグリッド検出面から出土した凹基無茎の石鏸である。片側の基部が僅かに欠損している。51と比べると基部の抉りが少なく、平基無茎のものと間違える可能性がある。材質は石英である。

53はH8陥し穴状造構の検出面で出土した有茎の石鏸である。尖頭部より基部が短い。材質は石英である。

54はH区で表採した石箇である。材質は頁岩である。

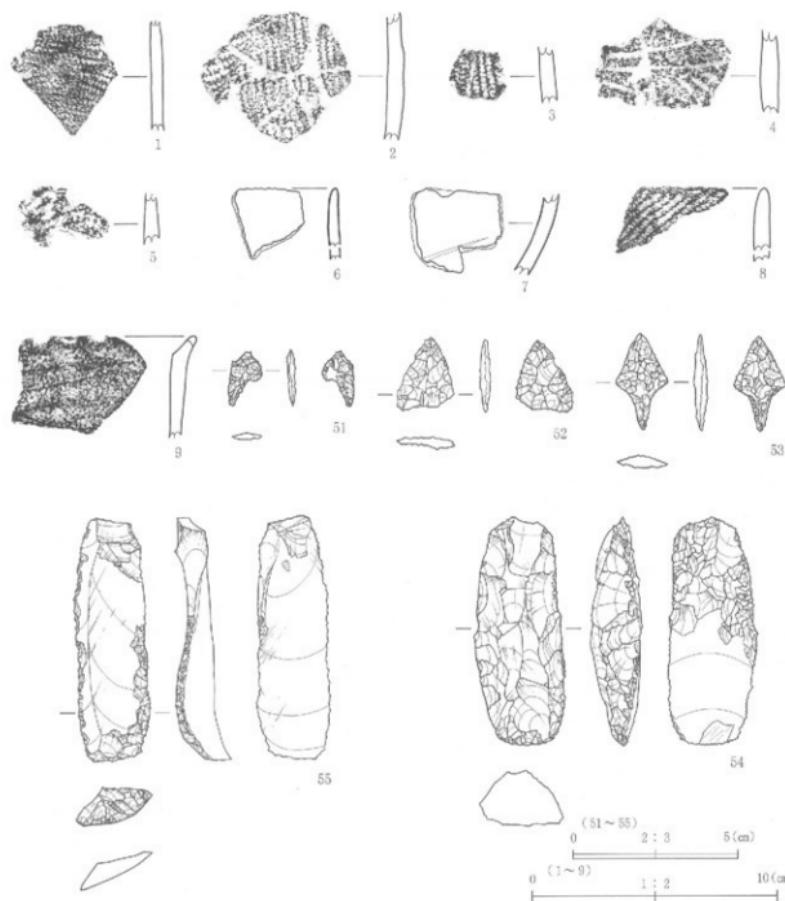
55は排土中に見つかったスクレイパーである。材質は頁岩である。面設打面の石刃核から製作された石刃を素材とする。素材を正位に用いている。両側縁及び先端部に刃部を作り出している。先端部刃角は平均66度、刃縁には逆三角形・台形の微小剥離痕が連続する。

56はB1陥し穴状遺構の底面で見つかった礫である。材質は花崗閃緑岩である。

57はC区③南コーナー部のⅠ層耕作土中で見つかった剥片である。材質は頁岩である。

58はII33陥し穴状遺構の埋土上部で見つかった剥片である。材質は頁岩である。

59はVA2m～nグリッドの検出面で見つかった礫である。材質は安山岩である。



第56図 出土遺物

第5表 出土石器観察表

名前 No.	新古名	登録番号	置位等	器種	残存 部位	文様等	地紋原体	内面 調査	胎上	時期	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考	図版 番号	写真 番号
1	A18g1穴式遺傳	A1SK20	底面	縄文土器	体部	単面RL	楕円形	無	不明	不明	56	68	56	68	56	68
2	A25g1穴式遺傳	A1SK26	底面	縄文土器	体部	単面RL	楕円形	無	不明	不明	56	68	56	68	56	68
3	A35g1穴式遺傳	A1SK26	底面	縄文土器	体部	複数あり	単面RL	楕円形	無	後期前葉	56	68	56	68	56	68
4	I B14a (A1K)	I B14a	耕作土・粘土器	体部	複数あり	単面RL	楕円形	無	後期	前期	56	68	56	68	56	68
5	C1K毛刷色十中	C1SK05	沖十型丸底面	縄文土器	体部	複数あり	単面RL	楕円形	無	後期?	2.5<	68	56	68	56	68
6	C1K <sup>レ</sup> 研作土中	C1SK05	CS研磨ヒート	輪出面	縄文土器	口縁	無	無	不明	不明	56	68	56	68	56	68
7	C1K <sup>レ</sup> レンジ卓面	C1SK05	CS研磨ヒート	輪出面	縄文土器	口縁	無	無	不明	不明	56	68	56	68	56	68
8	H18g1穴式遺傳	H17SK05	四土巾位	縄文土器	体部	複数あり	単面RL	楕円形	無	後期	3.5<	68	56	68	56	68
9	H30g1穴式遺傳	H24SK05	四土巾位	縄文土器	体部	複数あり	複数あり	無	石器・母石を含む。	石器・母石を含む。	4.2<	68	56	68	56	68

第6表 出土石器類觀察表

名前 No.	新古名	登録番号	置位等	器種	材質	生出地跡	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	図版 番号	写真 番号
51	D2筋し穴式遺傳	D-SK02	1層上面(餘山面)	石器	赤色頁岩	奥羽山脈 新生代第三紀	1.7	1.0	0.2	0.2	凹面無。破打品。先端部 及び基部無。底部の片側壁か に欠損。	56	68
52	III A18wグリッド	III A18wグリッド	椚出面	石器	石英	奥羽山脈 新生代第三紀	2.2	1.8	0.3	1.1	凹面無。底部の片側壁か に欠損。	56	68
53	H8筋し穴式遺傳	H5-SK01	檢山面	石器	石英	奥羽山脈 新生代第三紀	2.9	1.6	0.4	1.0	有溝。尖頭部より基部が短 い。	56	68
54	H1K	H1K	衣採	石器	石英	奥羽山脈 新生代第三紀	7	2.8	1.6	29.7		56	68
55	拂十中	拂十中	衣採	石器	スクレイバー	奥羽山脈 新生代第三紀	7.5	2.3	0.7	17.1	前腹頭は右側に溝らしい。 山に打点がある。	56	68
36	B1筋し穴式遺傳	B1SK01	底面	石器	花崗閃绿岩	奥羽山脈基盤 新生代第三紀	—	—	—	2,100.0	写真のみ	56	68
57	G23袖コーン一郎	G23袖コーン一郎	1号	耕作土巾	石器剥片	頁岩	奥羽山脈 新生代第三紀	—	—	0.4	左側のみ	68	—
58	H33筋し穴式遺傳	H10SK02	埋土巾	石器剥片	頁岩	奥羽山脈 新生代第三紀	—	—	—	14.8	写真のみ	68	—
59	V A2m~n	V A2m~n	椚出面	石器	安山岩	奥羽山脈 新生代第三紀	—	—	—	39.2	写真のみ	68	—

## VI 考 察

### 1 火山灰を含む陥し穴状遺構について

岩手県における陥し穴状遺構の研究では、溝状が縄文時代中期前後、円形が縄文時代前期、楕円形が縄文時代晚期から平安時代までの間に捉えられている（田村 1987ほか）。

このうち、楕円形の陥し穴状遺構には、西暦915年頃に降下したとされる十和田a火山灰が含まれていることがある。楕円形の陥し穴状遺構が縄文時代晚期から平安時代までの間に捉えられているのはこのためである。

今までに岩手県内で確認されている十和田a火山灰を埋土に含んだ陥し穴状遺構は、八幡平市水神遺跡や荒屋II遺跡、盛岡市上八木田I遺跡、北上市岩崎台地遺跡群など28遺跡で確認されている。これらの遺跡で見つかった十和田a火山灰を埋土に含んだ陥し穴状遺構の堆積時期を見ると、十和田a火山灰降下以前の記述がいくつかはあるものの、大部分は縄文時代後晩期とされている。陥し穴状遺構は縄文時代に使われたという前提があったために、このように考えられていたものと思われる。

今回の宮沢原下遺跡では十和田a火山灰とみられる灰白色火山灰を含んだ陥し穴状遺構が47基確認された。平面の形態別に見ると、開口部が楕円形もしくは幅広溝状でかつ底面が方形状を呈するもの（A類）が43基、開口部が円形に近いもの（B類）が4基である。ここでは、陥し穴状遺構の形状及び火山灰の堆積等から、陥し穴状遺構の年代について検討を加えてみたい。

#### （1）火山灰の堆積状況について

本遺跡で確認された十和田a火山灰を含む陥し穴状遺構47基を火山灰が堆積した部位で分けると第7表のようになる。圧倒的に埋土の上～中部に堆積しているものが多いが、なかには埋土の下部及び底部に堆積しているものも複数認められる。上部～中部に十和田a火山灰が堆積しているものの場合、少なくとも火山灰が降下した頃にはすでに陥し穴状遺構の機能は停止し、放棄されていたということはできよう。だが、下位及び底面で確認されたものの場合、火山灰が降下した時点では使用されていたもしくは放棄されても日が浅い状態であったと推測される。

第7表 宮沢原下遺跡における十和田a火山灰を含む陥し穴状遺構一覧

埋土上～中部に堆積するもの			埋土下部に堆積するもの		底面に堆積するもの
A 9◎	B14	G18	H13	H50◎	H34※
A 10	D 6	G19	H114	H88	H51
A 13◎	D 7	H 2	H117	H89	H57◎
A 28	G 3	H 4	H118	H90	H74
B 6 ◎	G 4	H 5	H22	J 5◎< B類 >	H75◎
B 8※◎	G12	H 8	H132◎	J 9◎< B類 >	J 1◎< B類 >
B 9※◎	G13	H 9◎	H134※◎		J 10◎< B類 >

※は2層以上で確認されているもの。

◎は十和田aと分析されたもの。

## (2) 火山灰を含んだ陥し穴状遺構の形態について

では、埋土における火山灰の堆積位置別に、陥し穴状遺構の形態を見ることとする。

### ①底部に火山灰が確認されるもの

全部で7基確認される。平均は開口部222×125cm、底部206×65cm、深さ110cmである。平面形態は、上記A類のみで、B類のものはない。断面形態は漏斗状ないしはビーカー状である。ただし、今回確認された断面はビーカー状であっても、本来は漏斗状であった可能性もある。削平のために、漏斗の上部が削られ、下部のみ残ったものを今回の調査で確認しているものもあるためである。底面は凹凸がみられることが多い。杭穴は、短軸側の壁面に1～数個設けられるが、まれに見つからないものもある。底面の中央や長軸側の壁面に設けられることはない。

### ②埋上下部に火山灰が確認されるもの

A類、B類両方認められる。A類5基、B類2基が確認されている。平均は、A類が、開口部197×97cm、底部178×45cm、深さ113cm、B類が開口部119×97cm、底部91×83cmである。断面形態は、A類は漏斗状ないしはビーカー状、B類はビーカー状である。ただし、上記①と同様に今回確認された断面はビーカー状であっても、本来は漏斗状であった可能性もある。削平のために、漏斗の上部が削られ、下部のみ残ったものを今回の調査で確認しているものもあるためである。底面はA類には凹凸がみられることが多いが、B類はほぼ平坦である。杭穴は、A類は上記①と同様、短軸側の壁面に1～数個設けられるが、まれに見つからないものもある。底面の中央や長軸側の壁面に設けられるることは少ない。B類はほぼ中央に1～2個設けられている。

### ③埋土上～中間に火山灰が確認されるもの

上記②同様、形態によりA類、B類両方見つかっている。A類29基、B類2基が確認された。平均は、A類が、開口部203×109cm、底部156×48cm、深さ124cm、B類が開口部99×85cm、底部88×76cm、深さ54cmである。断面形態は、A類は漏斗状ないしはビーカー状、B類はビーカー状である。ただし、上記①②と同様に今回確認された断面はビーカー状であっても、本来は漏斗状であった可能性もある。削平のために、漏斗の上部が削られ、下部のみ残ったものを今回の調査で確認しているものもあるためである。底面は、A類には凹凸がみられることが多いが、B類はほぼ平坦である。杭穴は、A類では上記①②と同様、短軸側の壁面に1～数個設けられるが、まれに見つからないものもある。底面の中央や長軸側の壁面に設けられることは少ない。B類も上記②同様、ほぼ中央に1～2個設けられている。ただし、埋土の性状が柄状になっているか、ブロック、粒状になっているかは、時間差を示す上では大きな要素になるが、形態で見た場合、有意な差は認められなかった。

### ④小結

十和田a火山灰の堆積位置に着目して陥し穴状遺構の形態変化の有無を見ていくと、埋土のどの位置に十和田a火山灰が埋まっていても基本的な形態は変わっていないということが分かる。

すなわち、①底面の形態は隅丸を含むにしろ、方形状を呈していること、②底面に杭穴があるが、穴の方向が底面に対して垂直ではなく、斜めに入っていること、③杭穴の位置は短軸の壁際にあることが多いこと、などの特徴が見いだされる陥し穴状遺構は、十和田a火山灰が降下する頃の陥し穴状遺構の形態の典型例であるということができるようである。

## (3) 年代について

年代については、今までの研究で十和田a火山灰の降下は西暦915年頃とされている。すなわち

一次堆積により堆積した火山灰であれば、年代はおおよそ特定される。宮沢原下遺跡では多くの陥し穴状遺構埋土から火山灰が見つかったが、火山灰と同様に炭化物も多く見つかっている。炭化物も一定量以上あれば放射性炭素年代測定により年代の推定が可能である。そこで、埋土中から出土した炭化物によって、放射性炭素年代測定を実施し火山灰との関係について比較した。A類3点、B類1点の計4点である（第8表）。

第8表 火山灰を含んだ陥し穴状遺構における放射性炭素年代測定結果

遺構名	登録遺構	火山灰層位置	炭化物採取層位 (火山灰確認層との上下関係)	年代(yrBP)
B 8 陥し穴状遺構	B-08 (a類)	中位・底面	6層(上)	1110±30
			23層(中位より下・底面より上)	1140-33
B 9 陥し穴状遺構	B-09 (a類)	下位	中央(上)	1070±40
			底面(下)	2780±40
H 50 陥し穴状遺構	H12-03 (a類)	下位	火山灰層上(上)	1180±30
J 5 陥し穴状遺構	J-05 (b類)	中位	10層(下)	5220-40
A 23 陥し穴状遺構	A-24 (a類)	【参考】	6層	1130±30

このようにみると、火山灰の上から見つかる炭化物の年代は十和田a火山灰が降下した後になるが、火山灰の下の炭化物の年代はかなり古く出る傾向がある。だからといって古く出た年代が陥し穴の構築年代にはならない。埋没する過程で古い土壤が埋まっている可能性も考えられるからである。しかし、火山灰よりも上で見つかる炭化物の年代が古代のものであるということを示すデータは貴重である。このことは火山灰降下年代の前後があるにせよ、古代の段階では開口していたということを示そう。

ただし、B 9 陥し穴状遺構やJ 5 陥し穴状遺構のように、火山灰の下から見つかる炭化物には十和田a火山灰の降下年代よりはるかに古い結果が出ているものもある。この年代の差については陥し穴状遺構の埋没過程を考える上で今後検討しなくてはならない課題と思われる。

#### （4）結論

上記（1）～（3）を通してみてゆくと、少なくとも、開口部が幅広溝状あるいは楕円形を呈し、かつ底面が方形形状を呈している陥し穴状遺構の年代は、十和田a火山灰の年代、放射性炭素年代測定等の結果を勘案しても、平安時代を中心とした古代の段階ものであるということができそうである。仮に放棄されていたとしても、平安時代にかなり近いところで年代の上限は設定できるのではなかろうか。

また、B類とした開口部が円形に近いものにも、十和田a火山灰が入ってくるものが出てきており、古代の陥し穴状遺構として使用されていた可能性があるものが出てきた。特に埋土下部に入っているものが2基ある。現段階ではまだ類例が少ない<sup>(1)</sup>ため、可能性の域を脱してはいないが、今後注意を要するものと考えられる。

註 (1) 埋土の上～中部であるが、開口部が円形に近い陥し穴状遺構で十和田a火山灰が入っている可能性がある例として、北上市本郷遺跡II C-1、2号陥穴の例がある((財)岩手県文振センター 1992)。

## 2 工具痕について

宮沢原下遺跡では、H32及びH90陥し穴状造構で壁面に工具痕と思われる痕跡を確認している。形状は、開口部は楕円形、底面は方形を呈し、杭穴をもつ。杭穴は短軸側の壁際にあり、底面に対して斜方向に杭は打たれている。底面の凹凸が著しい。埋土上～中位で十和田aとみられる灰白色火山灰が確認される。

同形態の陥し穴状造構で、工具痕の認められる例が同じ奥州市で見つかっているので紹介する。

見つかっているのは、奥州市前沢区古城地内に所在する明後沢遺跡群である。平成13年度に実施した10次調査の10SK-174と10SK-184、平成14年度に実施した15次調査の15SK-212の3基である。これらの造構は、前沢町教委は、埋土の状況、遺物の出土状況等から、積極的根拠に乏しいものの、弥生時代の造構としている（前沢町教委ほか 2005）。

10SK-174は、形状は開口部、底面ともに方形を呈し、短軸壁際に底面に対して斜方向に入る杭穴がある。北西側が調査区域外のため、全体規模ははっきりしないが、規模は長辺140cm×短辺52cm、確認面からの深さは95cmである。バミス層で工具痕が観察されている。

10SK-184は、形状は開口部、底面ともに隅丸方形を呈し、短軸壁際に底面に対して斜方向に入る杭穴がある。174同様北西側は調査区域外のため、全体規模ははっきりしないが、規模は長辺125cm×短辺67cm、確認面からの深さは68cmである。壁面に鋲先状の工具痕が明瞭に観察されている。

15SK-212は、形状は、開口部は楕円形、底面は隅丸方形を呈する。杭穴は認められない。規模は長辺205cm×短辺110cm、確認面からの深さは133cmである。平安時代の堅穴住跡15SI-139の床面直下で検出されており、平安時代以前であることは確かである。壁面の団い部分で工具痕が観察されている。

上記3つの陥し穴状造構の形態は、いずれも宮沢原下遺跡で確認されたH32及びH90陥し穴状造構と類似している。また、工具痕は観察されなかったものの、類似形態の陥し穴状造構には十和田a火山灰が埋土上部で観察されているようである。とすれば、工具痕と十和田aは方形の陥し穴状造構には共通要素になる可能性があるということができるよう。

## 3 文献にみられる陥し穴について

今回の調査では平安時代に構築・使用されたと考えられる陥し穴状造構が見つかっている。とすれば、陥し穴についての記述が古文献にあることが想定される。そこで、文献上にみられる陥し穴について、触ることにする。

陥し穴は史料では「(坑) 痴」と記されるが、文献上の初出は『日本書紀』天武4（675）年4月庚寅条である。そこでは、かごいや陥し穴、ハネ仕掛けの檜などの狩獵を禁じている。その後の『養老令』雜令第10では、陥し穴等の罠を作ったり、弓矢を使う時は、道を塞いだり、人に危害を与えないようにすることと記されている。また、『統日本紀』天平2（730）年9月庚辰条では、無許可で檜を使用し、兵馬人民を使ってのイノシシ・シカの駆除を禁じている。さらに、『統日本後紀』大長10（833）年6月丙辰条では、山城、近江、丹波等の都に近い山での陥し穴等の罠を作ることを禁じている。

上記のように、幾度となく陥し穴等の罠に関する記述があるということは、陥し穴を使った狩獵が古代においても確実に存在していたことを示そう。

特にこの頃は仏教隆盛の時期である。仏教では殺生を戒めており、信者の間では肉食を忌むようになっていた。このため、仏教に帰依していた支配者階級は、陥し穴ばかりでなく、梁や機槍、鷹や狗を使った狩猟及び殺生の禁令<sup>(1)</sup>を相次いで発している。場合によっては肉食そのものや、1年中殺生を禁じる<sup>(2)</sup>こともあった。一方、仏教があまり普及していなかった地方の民衆にとっては引き続いた狩猟が行われており、陥し穴猟が狩猟の方法の1つとして行われてきたということができよう。

註 (1) 天武天皇や聖武天皇のはかに、称徳天皇などがこの毎の禁令を出している。

(2) 孝謙天皇は天平寶寧4年の大仏開眼の年の記述に、「1年中天下の殺生を禁じ、生計を立てるのが困難なものには糧を給する」(『続日本紀』)がある。

## 引用・参考文献

- II 岩手県教育委員会 2005 『岩手県遺跡台帳』
- 胆沢町 1981 『胆沢町史1 原始・古代』
- 大上和良・吉田 充 1984 「北上川中流域、胆沢原状地における火山灰層序」『岩手大学工学部研究報告』第37巻 1 pp. 69-81
- 渡辺満久 1991 「北上低地帯にありする河成段丘面の編年および後期更新世における岩屑供給」『第四紀研究』第30巻 1号 pp.19-42
- 岩手県教育委員会 2001 「岩手県内遠跡発掘調査報告書(平成12年度)」(岩手県文化財調査報告書第112集)
- (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2002 『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成13年度)』(岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第397集)
- (以下刊行機関は(財) 岩手県文振埋文センター、シリーズ名は文振埋文報告書第●集とする。)
- (財) 岩手県文振埋文センター 2003 『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成14年度)』(文振埋文報告書第423集)
- (財) 岩手県文振埋文センター 2004 『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成15年度)』(文振埋文報告書第455集)
- (財) 岩手県文振埋文センター 2005 『中平入跡第4次発掘調査報告書』(文振埋文報告書第465集)
- V 足立 勇 1999(新装版)「古代・中世日本食文化」『日本食文化史〈上〉古代から中世』
- 田口洋美 2004 「日本列島における狩猟の歴史的展開と技術適応」シカ・イノシシ資源の持续的利用に関する歴史動態論的研究(平成13~15年科学研究費補助金基盤研究(B) (2) 研究成果報告書 研究代表者 佐藤宏之)』
- 田村社一 1987 「陥し穴状構造の形態と時期について 岩手県北地方を中心として」『紀要』VII (財) 岩手県埋文センター
- 丸山浩治・丸山直美・西澤正晴 2004 「ト和田アテラ(To-a)堆積確認追跡の集成(1) 岩手県北部地域における様相」『紀要』XXIII (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 丸山浩治・丸山直美・西澤正晴 2005 「ト和田アテラ(To-a)堆積確認追跡の集成(2) 岩手県央・南部地域における様相」『紀要』XXIV (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 渡辺 寛 1999(1964) 「日本食生活史」
- (財) 岩手県文振埋文センター 1992 「本郷跡発掘調査報告書」文振埋文報告書第164集
- 前沢町教育委員会・岩手県水沢地方振興局農政部農村整備室 2005 「明後沢追跡群第7・10・15次発掘調査報告書」(岩手県前沢町文化財調査報告書第18集)
- (財) 岩手県埋蔵文化財センター・岩手県教育委員会 1983 「餘山遺跡第2次調査発掘調査報告書」(岩手県埋文センター文化財調査報告書第65集)

## VII まとめ

今回、遺跡範囲の約1/3にあたる58,700m<sup>2</sup>を調査し、その結果、多くの陥し穴状遺構が検出された。岩手県内におけるこれまでの陥し穴状遺構研究では、放射性炭素年代測定や遺構の重複関係によって、円筒形は縄文時代早～前期、溝状は縄文時代中期末から後期、脩円形、特に十和田aを含むものは縄文時代晚期から平安時代までの間というように、形態別におおよその年代が推定されてきていた。今回の調査結果は、上記の前提の再検討を迫るものといえよう。

底面に火山灰が堆積していることにより、開口部が梢円または幅が広い溝形で、底面の形態が隅丸を含めた方形状を呈した陥し穴状遺構の年代は「十和田a」火山灰降下の前後であることが明らかになった。すなわち平安時代の遺構であることが確定したといえよう。

また、火山灰の堆積状況を比べた時に、底面に火山灰があった場合でも、上～中位に火山灰があつた場合でも、陥し穴状遺構の基本的な形態に変化が認められないということは、類似した形態のものは時期的に近い可能性が出てきたことを示そう。

また、今回の調査では工具痕とみられる痕跡を残した陥し穴状遺構も見つかっている。類例としてあげた奥州市前沢区明後沢遺跡群の陥し穴状遺構も、工具痕のある陥し穴状遺構の形態は酷似している。ということは、平安時代の陥し穴状遺構を構築する際には工具類を使っている可能性が高いといえよう。使っていた工具は何かとなると、今回の調査では工具として使われたとみられる遺物が出土していないことから詳細は不明である。しかし、掘削等に使うということを考えると、鋤状のものが想定されよう。

さらに、これまで円筒形の陥し穴状遺構は岩手県内では縄文時代早～前期で捉えてきていたが、今回の調査で円筒形陥し穴状遺構にも平安時代に開口していたものがある可能性が出てきた。これについては、把握している類例が少ないため、確実なことはいえないが、今後注意していく必要があるう。

今までの、形態によりおおよその時期を推定する方法は、なかなか遺物が出土しないことが多い陥し穴状遺構の場合、ある程度役に立っていたわけだが、今回の調査を通じて、やはり、埋土の堆積状況の詳しい観察や火山灰、放射性炭素年代測定を中心とした自然科学分析等により、年代の推定はなされるべきであると感じている。

## 附 編

### 1 宮沢原下遺跡における土坑出土炭化物の放射性炭素年代測定および火山灰の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

岩手県奥州市胆沢区宮沢原下遺跡は、胆沢扁状地を構成する段丘上に位置する。今回の発掘調査では、土坑を中心とする遺構や繩文土器・土師器などの遺物が検出されている。それらの中でも、土坑については、併存する遺物が乏しいために、その年代観が課題とされている。

今回の分析調査では、発掘調査時に上坑覆土から検出された炭化物について放射性炭素年代測定を行い、さらに土坑覆土中に認められた火山灰（テフラ）とされる堆積物の性状を明らかにし、それがテフラである場合には噴出年代の明らかにされている指標テフラとの対比を行う。これらの分析結果から、土坑の年代に関する資料を作成するものである。

#### （1）試 料

試料は、宮沢原下遺跡B8陥り穴状造構の覆土より採取された炭化物1点と火山灰試料1点である。炭化物は、微細な炭化物の小片が数片からなるものであり、電子顕微鏡による炭化物の組織観察から樹種はエゴノキ属に同定された。また、火山灰試料の外観は、灰黄褐色を呈する粘土混じりの砂である。

#### （2）分 析 方 法

##### ①放射性炭素年代測定

測定はAMS法で実施する。放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5,568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma）に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差（One Sigma）を用いる。

##### ②テフラ分析

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破碎片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた纖維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤（1995）のMAIOTを使用した温度変化法を用いた。

### (3) 結 果

#### ①放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果は $1140 \pm 30$ BPであった。曆年校正に関しては、本米10年単位で表すのが通例であるが、将来的に曆年校正プログラムや曆年校正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。また、北半球の大気中炭素に由来する校正曲線を用いる。測定誤差を $\sigma$ として計算させた結果、その年代はcalAD877-972である。

#### ②テフラ分析

処理後に得られた砂分は、多量の軽石と少量の細砂～極細砂径の火山ガラスとから構成される。軽石は、最大径約0.7mmで粒径の淘汰は非常に良好、白色を呈し、発泡はやや良好である。火山ガラスは無色透明の塊状の軽石型であり、纖維束状のものも混在する。

火山ガラスの屈折率測定結果を図1に示す。n1.503～1.509のレンジに入り、n1.505～1.506にモードがある。

### (4) 考 察

上坑覆土中の炭化材は、較正された曆年ではおよそ9世紀後半から10世紀後半に至る範囲の年代幅を示した。一方、火山灰試料は、細粒の軽石および火山ガラスを主体とするテフラである。このテフラは、上述した碎屑物の特徴および宮沢原下遺跡の地理的位置と、これまでに研究された東北地方におけるテフラの歴史（町田ほか（1981;1984）、Arai et al. (1986)、町田・新井（2003）など）との比較から、十和田テフラ（To-a）の降下堆積物に由来すると考えられる。

To-aは、平安時代に十和田カルデラから噴出したテフラであり、給源周辺では火碎流堆積物と降下軽石からなるテフラとして、火碎流の及ばなかった地域では軽石質テフラとして、さらに給源から離れた地域では細粒の火山ガラス質テフラとして、東北地方のほぼ全域で確認されている（町田ほか、1981）。また、その噴出年代については、早川・小山（1998）による詳細な調査によれば、西暦915年とされている。なお、町田・新井（2003）に記載されたTo-aの火山ガラスの屈折率は、n1.496～1.508の広いレンジを示す。ただし、n1.502以下の低い屈折率の火山ガラスを主体とする火山灰層は、南方へは広がらず、十和田周辺とその東方地域に分布が限られるとしている（町田ほか、1981）。おそらく、今回検出されたテフラは、低屈折率の火山ガラスを含まないTo-aに相当するものと考えられる。

以上のことから、今回の試料は、炭化材とテフラのいずれもほぼ同時期の年代を示していると言つて良い。土坑の構築年代については、この結果と覆土中ににおけるこれら試料の堆積あるいは包含状況を合わせて考慮することにより判断されるべきであると考える。

なお、分析所見としては、今回のテフラ試料では、テフラの本質物質である軽石や火山ガラスの量比に対して、テフラの構成物質ではない石英粒や岩石片などの碎屑物が非常に少ないとから、テフラ試料が採取された堆積物は、土坑の埋積が進行している時期に降下堆積したテフラである可能性が高いといえる。その場合、土坑はTo-aの噴出した10世紀初め頃より以前に構築されていたことになるが、これは上述した年代の炭化材がその覆土中に混入することと矛盾しないといえる。

#### 引用文献

- Arai,F. • Machida,H. • Okumura,K. • Miyauchi,T. • Soda,T. • Yamagata,K.1986,Catalog for late quaternary marker-tephras in Japan II -Tephras occurring in Northeast Honshu and Hokkaido-.Geographical reports of Tokyo Metropolitan University No.21,223-250.

古澤 明,1995,火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的解析に基づくテフラの識別,地質学雑誌,101,123-133.  
早川山紀夫・小山真人,1998,日本海をはさんで10世紀に相次いで起きた二つの大噴火の年月日—十和田湖と白頭山—,火山,43,403-407.

町田 洋・新井房夫,2003,新編 火山灰アトラス,東京大学出版会,336p.

町田 洋・新井房夫・森脇 広,1981,日本海を渡ってきたテフラ,科学,51,562-569.

町田 洋・新井房夫・杉原重夫・小田静夫・遠藤邦彦,1984,テフラと日本考古学—考古学研究と関連するテフラのカタログー,渡辺直經(編)古文化財に関する保存科学と人文・自然科学,同朋舎,865-928.

表1. 放射性炭素年代測定結果

試料名	種類	樹種	補正年代BP	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	測定年代BP	Code.No.
B 8 陥し穴状遺構 23層炭化物	炭化材	エゴノキ属	1140±30	-25.42±0.91	1150±30	IAAA-50535

1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。

2) BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$  (測定値の68%が入る範囲) を年代値に換算した値。

表2. 厳年較正結果

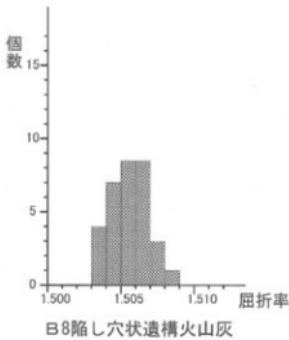
試料名	補正年代 (BP)	曆年較正年代 (cal)						相対比	Code No.
		$\sigma$	cal AD 877 — cal AD 972	cal BP 1,073 — 978	1.000	cal AD 781 — cal AD 790	cal BP 1,169 — 1,160	0.027	
B 8 陥し穴状遺構 炭化物	1140±33	$2\sigma$	cal AD 807 — cal AD 983	cal BP 1,143 — 967	0.973				IAAA-50535

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.0(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用

2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。

3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、曆年較正曲線や曆年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。

図版1 テフラ



1. To-aの軽石・火山ガラス (B8陥し穴状遺構火山灰)

図1 火山ガラスの屈折率測定結果

## 2 放射性炭素年代測定の結果

株式会社加速器分析研究所

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用しています。
- 2) BP年代値は、1950年からさかのぼること何年前かを表しています。
- 3) 付記した誤差は、次のように算出しています。  
複数回（通常は4回）の測定値についてX<sup>2</sup>検定を行い、通常報告する誤差は測定値の統計誤差から求めた値を用い、測定値が1つの母集団とみなせない場合には標準誤差を用いています。
- 4) δ<sup>13</sup>Cの値は、通常は質量分析計を用いて測定しますが、AMS測定の場合に同時に測定されるδ<sup>15</sup>Cの値を用いることもあります。
- δ<sup>13</sup>C補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載しておきます。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表したものです。

$$\delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{As} - ^{14}\text{Ar}) / ^{14}\text{Ar}] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = [(^{13}\text{As} - ^{13}\text{Ar}_{\text{PDB}}) / ^{13}\text{Ar}_{\text{PDB}}] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、<sup>14</sup>As：試料炭素の<sup>14</sup>C濃度：(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>s</sub> または(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>g</sub>

<sup>14</sup>Ar：標準現代炭素の<sup>14</sup>C濃度：(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>h</sub> または(<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C)<sub>e</sub>

δ<sup>15</sup>Cは、質量分析計を用いて試料炭素の<sup>15</sup>C濃度（<sup>15</sup>As = <sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C）を測定し、PDB（白亜紀のペレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算します。

但し、IAEAでは加速器により測定中に同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cも測定していますので、標準試料の測定値との比較から算出したδ<sup>13</sup>Cを用いることもあります。この場合には表中に「加速器」と注記します。

また、Δ<sup>14</sup>Cは、試料炭素がδ<sup>13</sup>C = -25.0 (‰)であるとしたときの<sup>14</sup>C濃度（<sup>14</sup>As）に換算した上で計算した値です。（1）式の<sup>14</sup>C濃度を、δ<sup>13</sup>Cの測定値をもとに次式のように換算します。

$$^{14}\text{Ar}_s = ^{14}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000))^2 \quad (^{14}\text{As} \text{として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$= ^{14}\text{As} \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C} / 1000)) \quad (^{14}\text{As} \text{として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{As} - ^{14}\text{Ar}) / ^{14}\text{As}] \times 1000 \quad (\%)$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気の炭酸ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行なった年代値は実際の年代との差が大きくなります。多くの場合、同位体補正をしないδ<sup>14</sup>Cに相当するBP年代値が比較的よくその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致します。

<sup>14</sup>C濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、Δ<sup>14</sup>Cとの関係は次のようになります。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC} / 100 - 1) \times 1000 \quad (\%)$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C} / 10 + 100 \quad (\%)$$

国際的な取り決めにより、このΔ<sup>14</sup>CあるいはpMCにより、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age; yrBP) が次のように計算されます。

$$T = -8033 \times \ln [(\Delta^{14}\text{C} / 1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln (\text{pMC} / 100)$$

## 2 放射性炭素年代測定の結果

IAAA-51003 #1026-1	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-A7 A2階上穴状遺構 6層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	Libby Age (yrBP)	: 1,130 ± 30
		δ¹³C (‰)、(加速器)	= -24.53 ± 0.91
IAAA-51004 #1026-2	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-B10 B3階上穴状遺構 8層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)	= -181.0 ± 3.3
		pMC (%)	= 86.90 ± 0.33
IAAA-51006 #1026-3	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G17 G2階上穴状遺構 5層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)	= -139.2 ± 2.8
		pMC (%)	= 86.98 ± 0.28
IAAA-51007 #1026-5	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-H5 H5階上穴状遺構 火山灰層上 (参考) δ¹⁴C の補正無し	Age (yrBP)	: 1,120 ± 30
		Libby Age (yrBP)	: 5,650 ± 40
IAAA-51008 #1026-6	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-H12 H5階上穴状遺構 6層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)、(加速器)	= -27.79 ± 0.92
		δ¹³C (%)	= -504.9 ± 2.2
IAAA-51059 #1092-1	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-J1 J 5階上穴状遺構 10層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	pMC (%)	= 49.51 ± 0.22
		δ¹³C (%)	= 507.7 ± 2.0
IAAA-51060 #1092-2	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-B12 B 5階上穴状遺構 16~18層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	pMC (%)	= 49.23 ± 0.20
		Age (yrBP)	: 5,890 ± 30
IAAA-51061 #1092-3	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-B13 B 9階上穴状遺構 庭面 (参考) δ¹⁴C の補正無し	Libby Age (yrBP)	: 1,180 ± 30
		δ¹³C (%)、(加速器)	= -24.14 ± 0.95
IAAA-51062 #1092-4	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)	= -136.5 ± 3.6
		pMC (%)	= 86.35 ± 0.35
IAAA-51062 #1092-5	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)	= -135.0 ± 3.1
		pMC (%)	= 86.50 ± 0.31
IAAA-51062 #1092-6	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	Age (yrBP)	: 1,160 ± 30
		Libby Age (yrBP)	: 5,010 ± 40
IAAA-51062 #1092-7	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)、(加速器)	= -30.12 ± 0.98
		δ¹³C (%)	= 464.3 ± 2.6
IAAA-51062 #1092-8	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	pMC (%)	= 53.57 ± 0.26
		δ¹³C (%)	= -469.9 ± 2.3
IAAA-51062 #1092-9	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	pMC (%)	= 53.31 ± 0.23
		Age (yrBP)	: 5,109 ± 40
IAAA-51062 #1092-10	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	Libby Age (yrBP)	: 5,220 ± 40
		δ¹³C (%)、(加速器)	= -27.63 ± 0.87
IAAA-51062 #1092-11	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)	= -477.8 ± 2.7
		pMC (%)	= 52.22 ± 0.27
IAAA-51062 #1092-12	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)	= -480.6 ± 2.5
		pMC (%)	= 51.94 ± 0.25
IAAA-51062 #1092-13	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	Age (yrBP)	: 5,200 ± 40
		Libby Age (yrBP)	: 1,070 ± 40
IAAA-51062 #1092-14	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)、(加速器)	= -17.54 ± 0.88
		δ¹³C (%)	= 124.4 ± 4.1
IAAA-51062 #1092-15	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	pMC (%)	= 87.56 ± 0.41
		δ¹³C (%)	= -110.9 ± 3.8
IAAA-51062 #1092-16	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	pMC (%)	= 88.91 ± 0.38
		Age (yrBP)	: 940 ± 40
IAAA-51062 #1092-17	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	Libby Age (yrBP)	: 2,780 ± 40
		δ¹³C (%)、(加速器)	= -21.22 ± 0.91
IAAA-51062 #1092-18	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)	= -292.6 ± 3.7
		pMC (%)	= 70.74 ± 0.37
IAAA-51062 #1092-19	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)	= -287.1 ± 3.5
		pMC (%)	= 71.29 ± 0.35
IAAA-51062 #1092-20	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	Age (yrBP)	: 2,720 ± 40
		Libby Age (yrBP)	: 3,870 ± 40
IAAA-51062 #1092-21	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	δ¹³C (%)	= -19.79 ± 0.82
		δ¹³C (%)	= -382.1 ± 2.8
IAAA-51062 #1092-22	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	pMC (%)	= 61.79 ± 0.28
		δ¹³C (%)	= -375.4 ± 2.6
IAAA-51062 #1092-23	試料採取場所：岩手県奥州市胆沢区 宮沢原下遺跡 試料形態：炭化物 試料名(番号)：MHS-G16 G2階上穴状遺構 13層 (参考) δ¹⁴C の補正無し	pMC (%)	= 62.46 ± 0.26
		Age (yrBP)	: 3,780 ± 30

参考 IAAA-51062に関しては、上を処理し測定した結果になります。

### 3 宮沢原下遺跡出土の火山灰について

弘前大学理工学部地球環境学科 柴 正敏

宮沢原下遺跡より採集された、火山灰サンプル（33試料）について、以下の観察・分析を行った。これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメートル以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。その結果を表1に示した。火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成、共存鉱物などにより給源火山を推定することができる（町田・新井、2003）。火山ガラスの化学組成を決定する方法として、近年、電子プローブマイクロアナライザ（以下EPMA）が用いられるようになってきた。本報告では、4試料（試料2、8、11及び55）の火山ガラスについてEPMA分析を行った。使用したEPMAは弘前大学・機器分析センター所属の日本電子製JXA-8800RL、使用条件は加速電圧15kV、試料電流 $3 \times 10^{-9}$ アンペアである。補正計算はZAF法に従った。

33個の試料は、偏光顕微鏡観察より、以下の3つのタイプに分けられる（表1）：

(1) 主にTo-aテフラからなる試料；構成鉱物は、斜長石、單斜輝石、斜方輝石、石英、鉄鉱からなる。ガラスの形態は「軽石型」を主とし、「バブルウォール型」を含む。褐色ガラス（オブシディアン）が普通に観察される。これらの試料は、試料2、8、23、25、26、33、34、40、45、49、54、55、56及び57の14試料。

試料2、8及び55についてEPMA分析を行った（表2）。既存の十和田aテフラのガラス組成データと良く一致する（青木・新井、2000；柴ほか、2001）。

(2) To-aテフラと下層（基盤）の混合物；(1)の構成鉱物およびガラスのはかに、粗粒で変質の進んだ斜長石、單斜輝石、斜方輝石、ホルンブレンド（長柱状～針状）、黒雲母、鉄鉱を含む。粗粒な石英を含むことが一般的で、形態は高温石英であることが多い。ガラスの形態は「軽石型」で、発泡度は普通である。下層（基盤）を構成する岩石は、珪長質火碎岩の可能性がある。

これらの試料は、試料3、6、7、9、10、11、12、13、15、22、29、32、35、48及び51の15試料。

(3) To-aを殆ど含まない下層（基盤）；構成鉱物は、粗粒で変質の進んだ斜長石、單斜輝石、斜方輝石、ホルンブレンド（針状のものも含む）、黒雲母、鉄鉱からなる。粗粒な石英を含むことが一般的で、形態は高温石英であることが多い。ガラスの形態は「軽石型」で、発泡度は普通である。これらの試料は、1、39、43及び53の4試料。下層（基盤）を構成する岩石は、珪長質火碎岩の可能性がある。

#### 引用文献

- 青木かおり・新井房大（2000）、三陸沖海底コアKH94-3、LM-8の後期更新世テフラ層序、第四紀研究、第39巻、107-120。  
 町田一洋・新井房大（2003）、新畿火山灰アトラス－日本列島とその周辺－、東京大学出版会、pp.336。  
 柴 正敏・中道哲郎・佐々木 実（2001）、十和田火山、降下巖石の化学組成変化－宇樽部の一露頭を例として－、弘前大学理工学部研究報告、第4号、第1号、11-17。

宮沢原下遺跡・火山灰試料

表2 宮沢原下遺跡、火山ガラスのEPMAデータ  
十和田アラフ

	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO <sup>a</sup>	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	Li	Total	EPMA
試料番号2 A 9 鑿し穴状遺構 8層火山灰	最小	76.04	0.21	11.83	1.93	0.00	0.33	1.87	4.27	1.18		
	最大	76.97	0.32	12.89	2.27	0.21	0.54	2.21	4.95	1.51		
	平均	76.54	0.35	12.50	2.04	0.09	0.45	2.07	4.62	1.34	11	100.58
	標準偏差	0.52	0.08	0.27	0.10	0.07	0.06	0.11	0.22	0.11		
試料番号8 B 7 鑿し穴状遺構 埋土1位火山灰	最小	77.20	0.33	11.61	1.54	0.00	0.27	1.97	3.05	1.27		
	最大	78.75	0.52	13.03	2.14	0.11	0.46	2.46	4.03	1.85		
	平均	77.87	0.40	12.45	1.70	0.05	0.34	2.13	3.55	1.53	9	95.70
	標準偏差	0.52	0.07	0.48	0.19	0.04	0.07	0.14	0.30	0.17		
試料番号11 B 8 鑿し穴状遺構 埋土(63層)	最小	75.91	0.19	12.18	1.56	0.00	0.30	1.84	4.03	1.25		
	最大	77.04	0.51	13.48	2.42	0.24	0.49	2.25	4.62	1.57		
	平均	76.33	0.37	12.96	2.00	0.08	0.39	2.08	4.36	1.43	20	99.50
	標準偏差	0.32	0.09	0.31	0.18	0.06	0.06	0.11	0.19	0.08		
試料番号55 J 5 鑿し穴状遺構 埋土1位黄色火山灰	最小	76.10	0.28	12.04	1.71	0.00	0.34	2.03	4.43	1.27		
	最大	76.39	0.48	13.26	1.98	0.14	0.61	2.30	4.91	1.57		
	平均	76.52	0.36	12.41	2.08	0.10	0.44	2.05	4.61	1.35	7	99.84
	標準偏差	0.36	0.06	0.33	0.15	0.05	0.09	0.11	0.16	0.12		
古木・新井(2000)		77.75	0.36	12.73	1.62	0.09	0.38	1.81	3.90	1.37	19	98.41
測定値は無水で100%にならるようFeO全鉄をFeOとして計算した。nは分析の点数を表す。												
WDSは、液長分液型EPMAを表す。												

— 121 —



# 写 真 図 版





宮沢原下遺跡遠景（西上空から 矢印が調査地点）



調査区全景（南上空から）

写真図版1 航空写真



A区（西から）



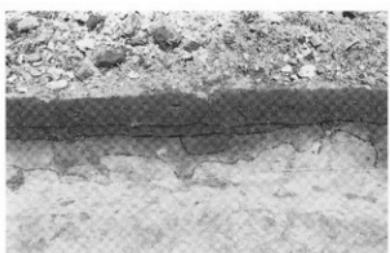
B区（西から）



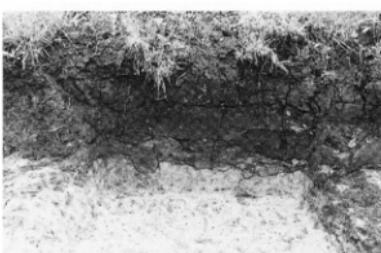
D区①（西から）



D区②（西から）



F区（西から）



G区①（東から）

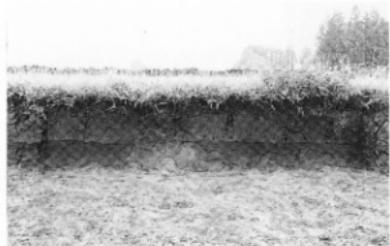


G区②（北から）

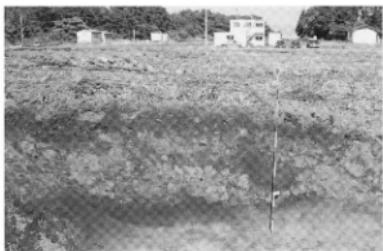


G区③（西から）

写真図版2 基本層序（1）



G区④（西から）



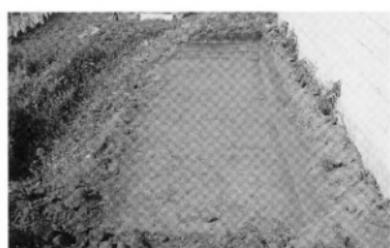
H区①（西から）



H区②（東から）



J区（西から）



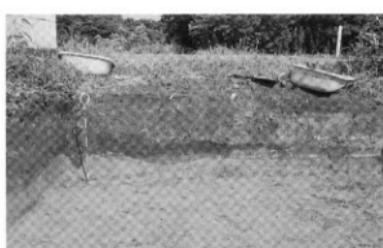
8/29 T1 検出状況（南から）



同左 断面（西から）



8/29 T2 検出状況（西から）



同左 断面（西から）

### 写真図版3 基本層序(2)、8/29確認調査状況



調査前状況（1）（南東から）



調査前状況（2）（南西から）



確認調査状況（南から）



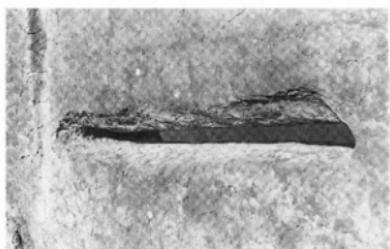
作業風景



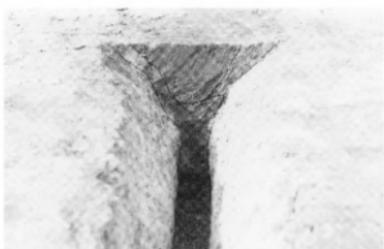
A1 陥し穴状遺構 完掘



同左 断面（東から）

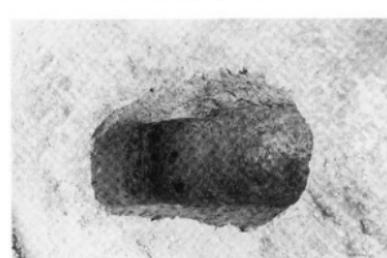
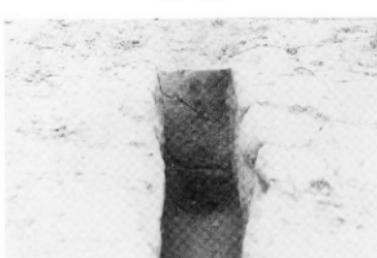
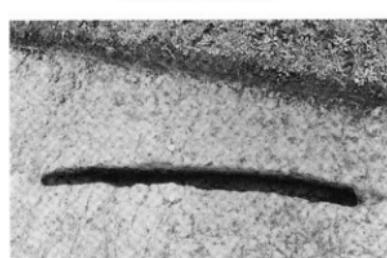
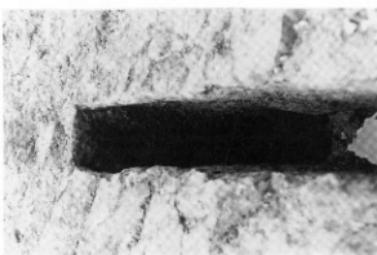


A2 陥し穴状遺構 完掘

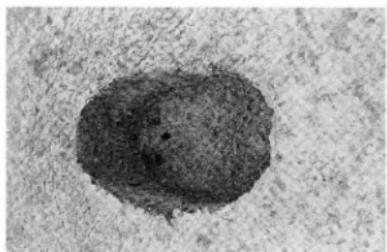


同左 断面（南から）

写真図版 4 A区 調査前状況・確認調査状況・陥し穴状遺構（1）



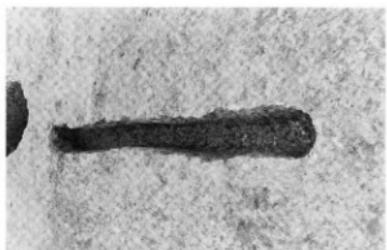
写真図版 5 A区 陥し穴状遺構 (2)



A7 陥し穴状遺構 完組



同左 断面（南から）



A8 陥し穴状遺構 完組



同左 断面（南から）



A11 陥し穴状遺構 完組



同左 断面（南から）



A12 陥し穴状遺構 完組



同左 断面（南から）

写真図版 6 A区 陥し穴状遺構（3）



A9 A10 陥し穴状遺構 完掘（北から）



同左 完掘（南から）



A9 陥し穴状遺構 断面（西から）



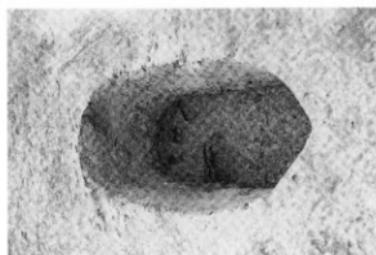
A10 陥し穴状遺構 断面（南から）



A9 A10 陥し穴状遺構 長軸断面（南から）



作業風景

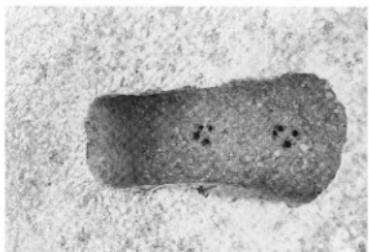


A13 陥し穴状遺構 完掘

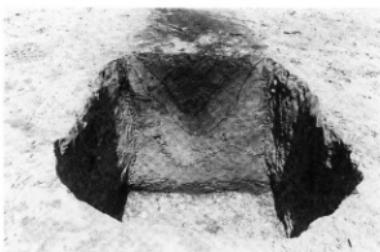


同左 断面（南から）

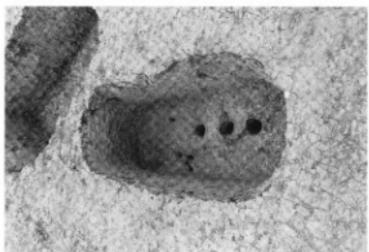
#### 写真図版 7 A区 陥し穴状遺構（4）



A14 質し穴状遺構 完整



同左 断面（南から）



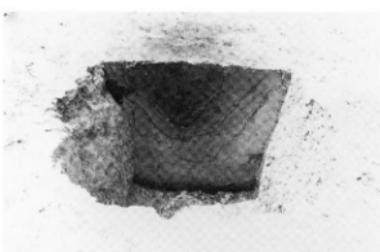
A15 質し穴状遺構 完整



同左 断面（南から）



A16 質し穴状遺構 完整



同左 断面（南から）

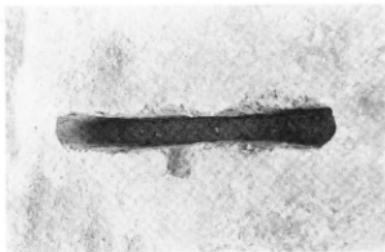


A17 A30 質し穴状遺構 完整



同左 断面（南から）

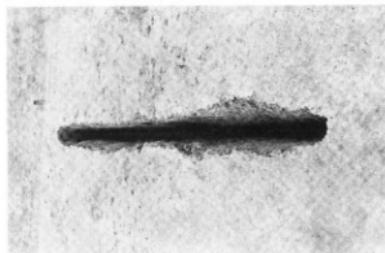
写真図版 8 A区 質し穴状遺構 (5)



A18 陥し穴状遺構 完整



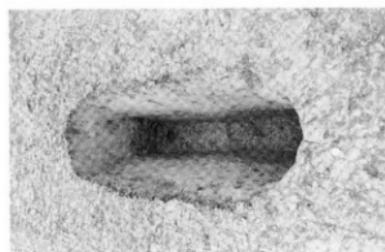
同左 断面（南から）



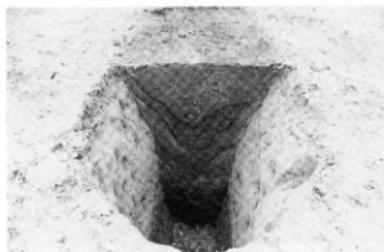
A19 陥し穴状遺構 完整



同左 断面（南から）



A20 陥し穴状遺構 完整



同左 断面（南から）

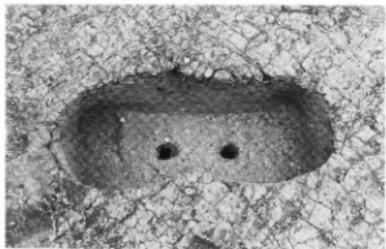


A21 陥し穴状遺構 完整



同左 断面（南から）

写真図版 9 A区 陥し穴状遺構 (6)



A22 脱し穴状遺構 完掘



同左 断面（南から）



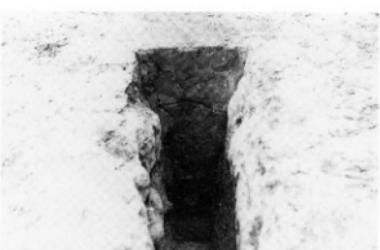
A23 脱し穴状遺構 完掘



同左 断面（西から）



A24 脱し穴状遺構 完掘



同左 断面（南から）



A25 脱し穴状遺構 完掘



同左 断面（南から）

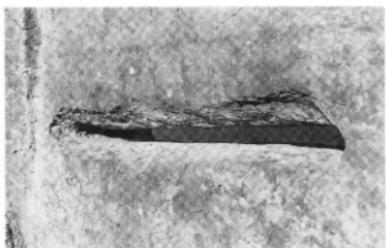
写真図版10 A区 脱し穴状遺構（7）



A26 陥し穴状遺構 完掘



同左 断面（南から）



A27 陥し穴状遺構 完掘



同左 断面（南から）



A28 陥し穴状遺構 完掘



同左 断面（南から）



A29 陥し穴状遺構 完掘



同左 断面（南から）

写真図版11 A区 陥し穴状遺構（8）



調査終了状況1（南から）



調査終了状況2（北東から）



調査終了状況3（北から）



馬頭観音碑



調査終了状況4（北から）

#### 写真図版12 A区 調査終了状況



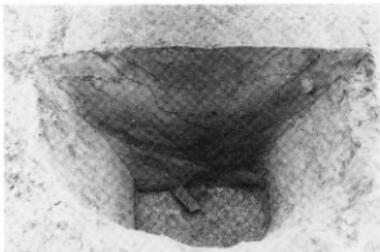
調査前状況（北東から）



B1 陥し穴状遺構 確出土状況（南から）



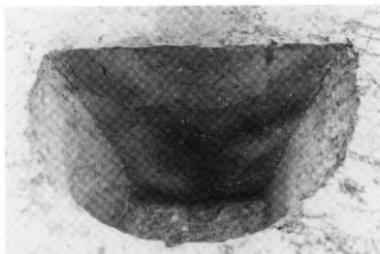
B1 陥し穴状遺構 完掘（南から）



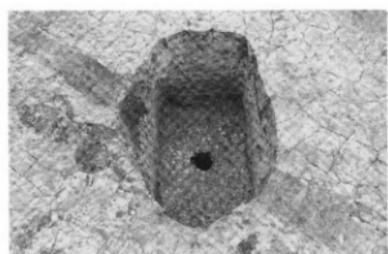
同左 断面（南から）



B2 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



B3 陥し穴状遺構 完掘（南から）

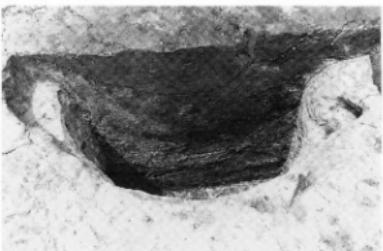


同左 断面（南から）

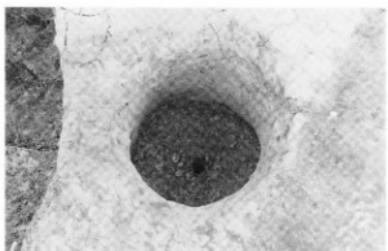
写真図版13 B区 調査前状況・陥し穴状遺構（1）



B4 陥し穴状遺構 完掘（北西から）



同左 断面（南東から）



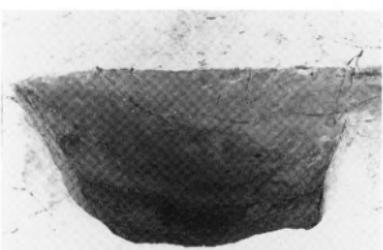
B5 陥し穴状遺構 完掘（北から）



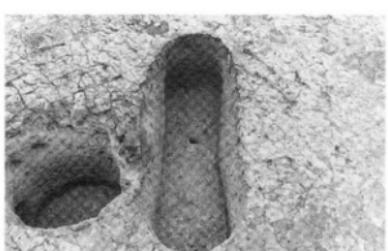
同左 断面（南から）



B6 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



B7 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南東から）

#### 写真図版14 B区 陥し穴状遺構（2）



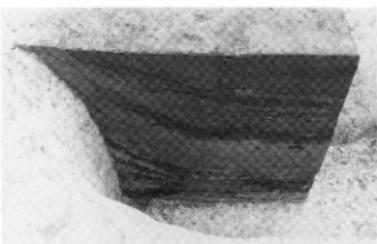
B8 陷し穴状造構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）



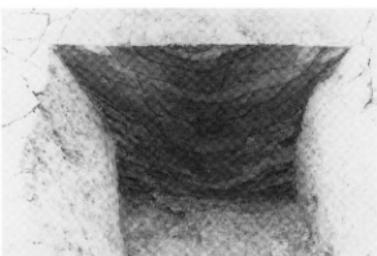
B8 陷し穴状造構 底面状況完掘（南東から）



同左 断面（西から）



B9 陷し穴状造構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



B9 陷し穴状造構 底面火山灰検出状況（南から）

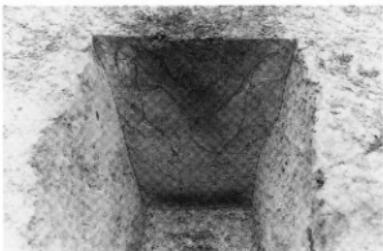


B9 陷し穴状造構 検出状況（南から）

写真図版15 B区 陷し穴状造構（3）



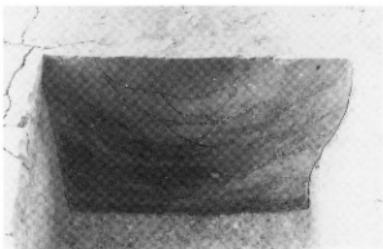
B10 脱し穴状遺構 完掘（南東から）



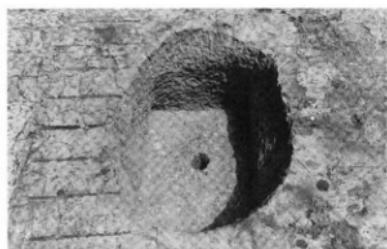
同左 断面（南東から）



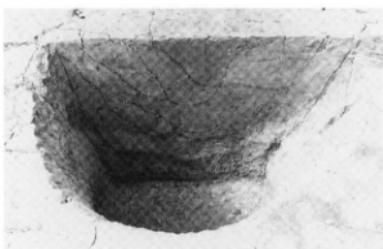
B11 脱し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



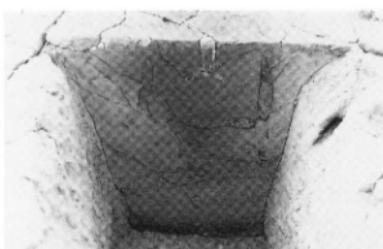
B12 脱し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

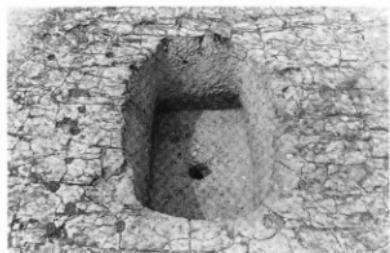


B13 脱し穴状遺構 完掘（南から）

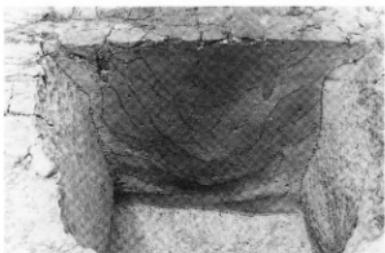


同左 断面（南から）

#### 写真図版16 B区 脱し穴状遺構（4）



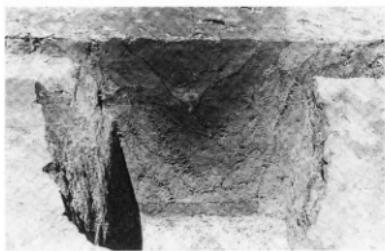
B14 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



B15 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



調査終了状況（北西から）

写真図版17 B区 陥し穴状遺構（5）・調査終了状況



C1 陥し穴状遺構 完掘・断面（西から）



土器出土状況（西から）



C2 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（西から）



C4 陥し穴状遺構 完掘（北西から）



同左 断面（北西から）



C3 陥し穴状遺構 完掘（南から）

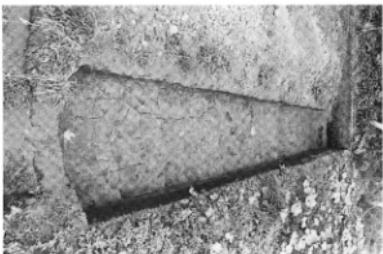


同左 断面（南から）

#### 写真図版18 C区 陥し穴状遺構（1）



C3 陥し穴状遺構 検出状況（南から）



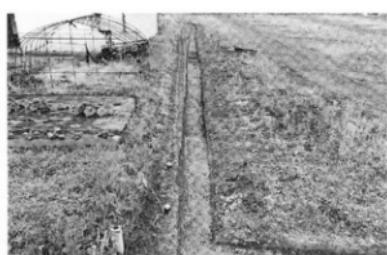
調査終了状況 1



調査終了状況 2（北から）



調査終了状況 3（東から）



調査終了状況 4（南から）



調査終了状況 5（東から）



作業風景



作業風景

写真図版19 C区 陥し穴状遺構（2）・調査終了状況



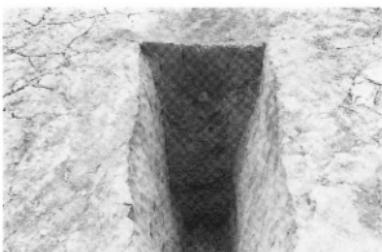
調査前状況（南東から）



作業風景



D1 陥し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面（東から）



D2 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



D3 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（東から）

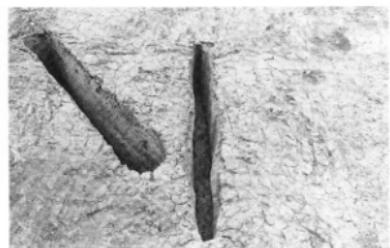
#### 写真図版20 D区 調査前状況・陥し穴状遺構（1）



D4 陥し穴状造構 完掘（西から）



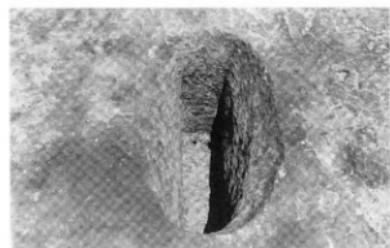
同左 断面（南西から）



D5 陥し穴状造構 完掘（西から）



同左 断面（西から）



D6 陥し穴状造構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



D7 陥し穴状造構 完掘（南西から）

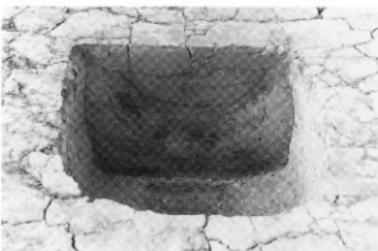


同左 断面（南から）

写真図版21 D区 陥し穴状造構（2）



D8 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



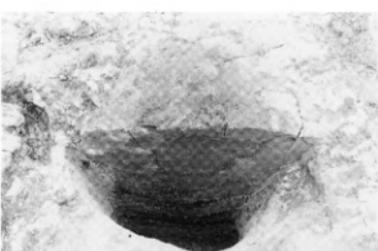
D9 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



D10 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



調査終了状況（北東から）



作業風景

写真図版22 D区 陥し穴状遺構（3）・調査終了状況



E1 陥し穴状遺構 完掘・断面（南から）



同左 検出状況（南から）



E2 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面 1（南から）



同上 断面 2（南から）



同左 検出状況（南から）



調査終了状況 1（東から）



調査終了状況 2（北から）

#### 写真図版23 E区 陥し穴状遺構・調査終了状況



調査前状況（南東から）



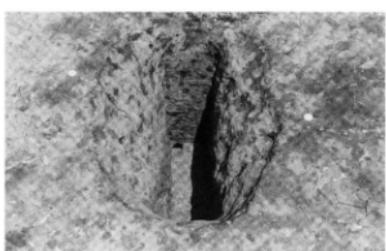
調査終了状況（西から）



F1 陥し穴状遺構 完掘（南から）



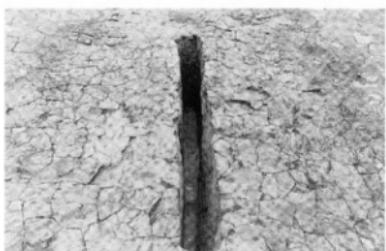
同左 断面（南から）



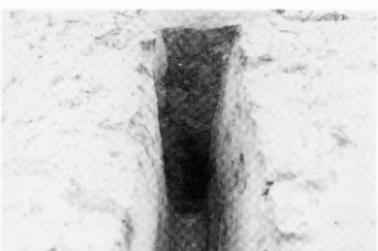
F2 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



F3 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

写真図版24 F区 調査前状況・調査終了状況・陥し穴状遺構



調査前状況（南西から）



作業風景



G1 陥し穴状遺構 完掘（南西から）



同左 断面（南西から）



G2 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（北東から）



G3 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

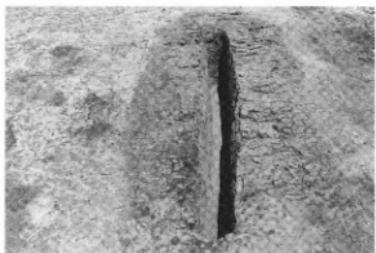
#### 写真図版25 G区 調査前状況・陥し穴状遺構（1）



G4 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



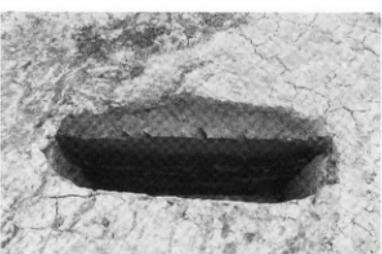
G5 陥し穴状遺構 完掘（南から）



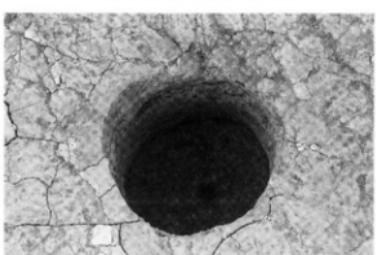
同左 断面（南から）



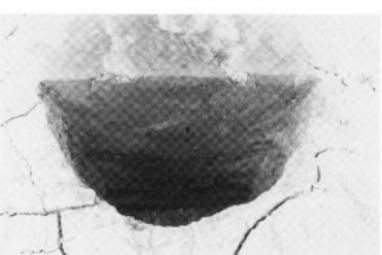
G6 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（北東から）



G7 陥し穴状遺構 完掘（南から）

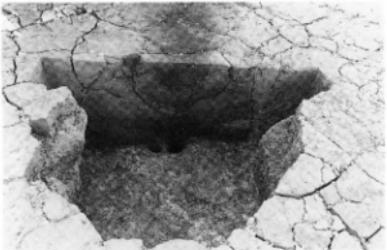


同左 断面（南から）

写真図版26 G区 陥し穴状遺構（2）



G8 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）



G9 陥し穴状遺構 完掘（南西から）



同左 断面（南西から）



G10 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



G11 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

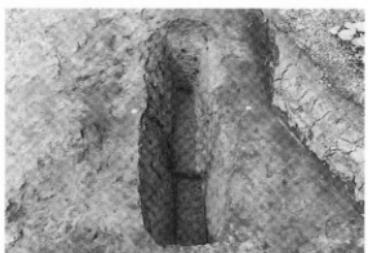
写真図版27 G区 陥し穴状遺構（3）



G12 陥し穴状遺構 完掘（南西から）



同左 断面（南から）



G13 陥し穴状遺構 完掘（南西から）



同左 断面（南西から）



G14 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



G14 陥し穴状遺構 断面2（北から）

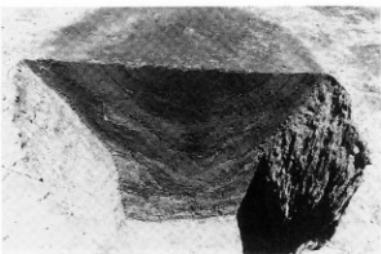


作業風景

写真図版28 G区 陥し穴状遺構（4）



G15 脱し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



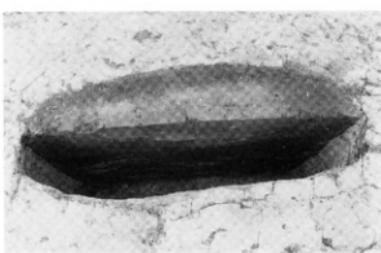
G16 脱し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（北から）



G17 脱し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面（東から）

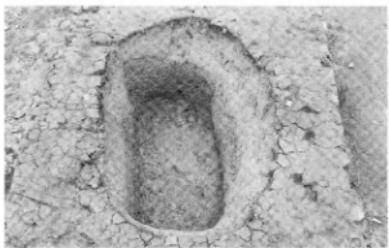


G18 脱し穴状遺構 完掘（南から）

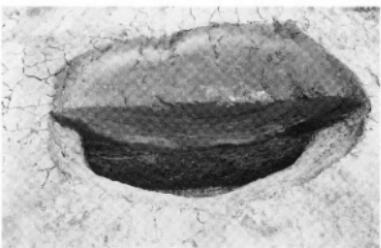


作業風景

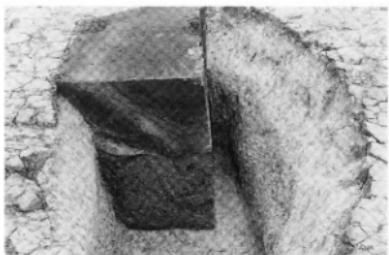
写真図版29 G区 脱し穴状遺構（5）



G19 跪し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（東から）



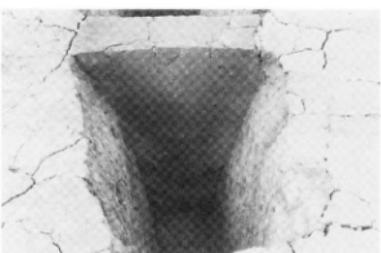
同上 断面（南から）



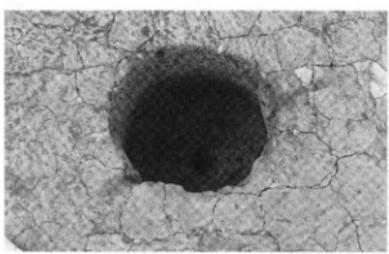
作業風景



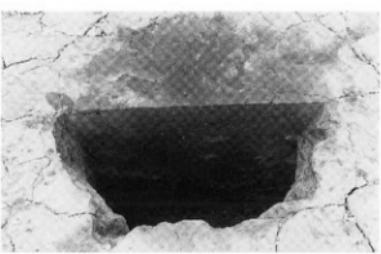
G20 跪し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



G21 跪し穴状遺構 完掘（南から）

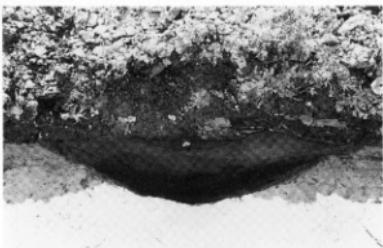


同左 断面（南から）

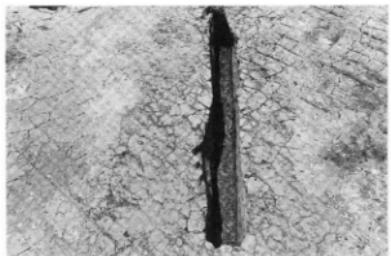
#### 写真図版30 G区 跪し穴状遺構（6）



G22 陥し穴状遺構 完掘（東から）



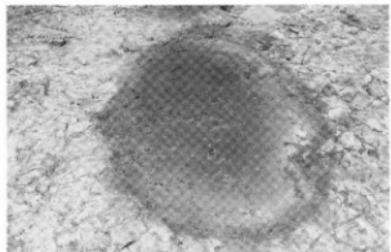
同左 断面（東から）



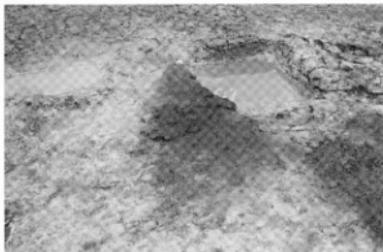
G23 陥し穴状遺構 完掘（南から）



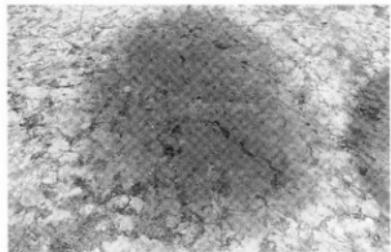
同左 断面（南から）



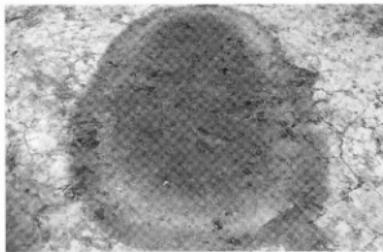
G24 陥し穴状遺構 検出（南東から）



G25 陥し穴状遺構 検出（南から）



G26 陥し穴状遺構 検出（東から）

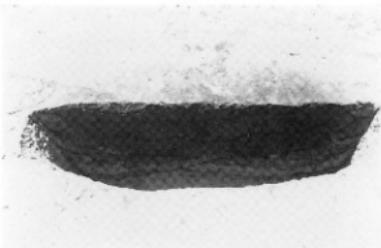


G27 陥し穴状遺構 検出（南東から）

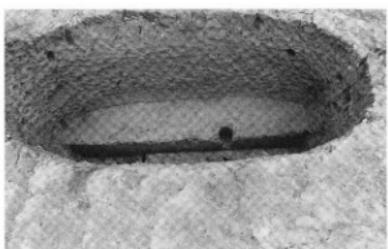
写真図版31 G区 陥し穴状遺構（7）



G28 陥し穴状遺構 完掘（南から）



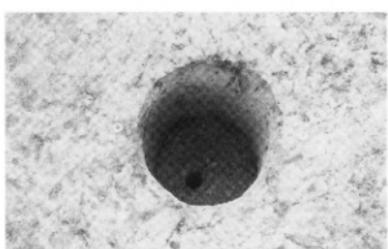
同左 断面1 (東から)



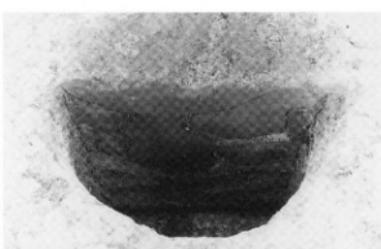
同上 断面2 (東から)



作業風景



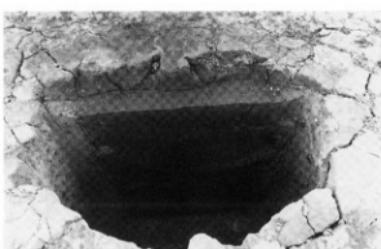
G29 陥し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面 (東から)

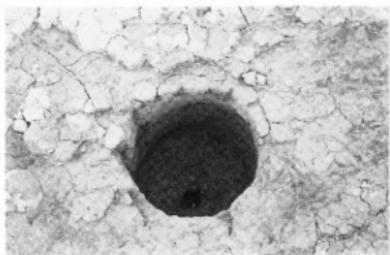


G30 陥し穴状遺構 完掘（南から）

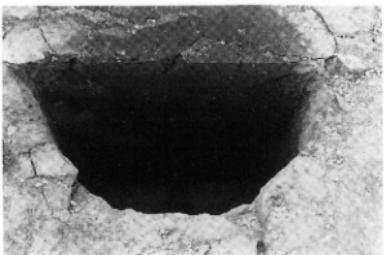


同左 断面 (東から)

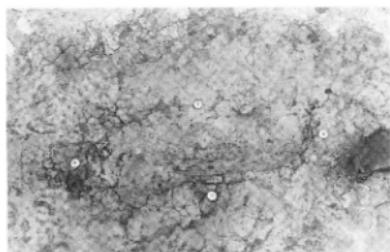
#### 写真図版32 G区 陥し穴状遺構 (8)



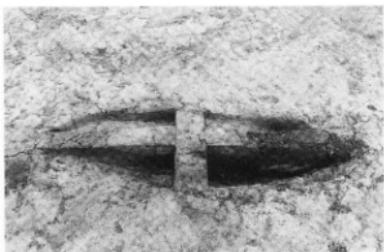
G31 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）



G区 焼土遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



同上 断面（東から）



調査終了状況 1（南東から）



調査終了状況 2（東から）



調査終了状況 3（南から）

写真図版33 G区 陥し穴状遺構（9）・焼土遺構・調査終了状況



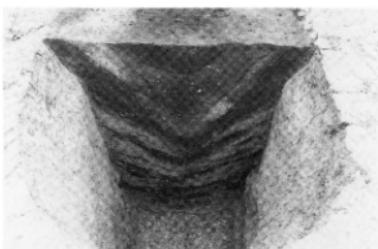
調査前状況 1 (東から)



調査前状況 2 (南東から)



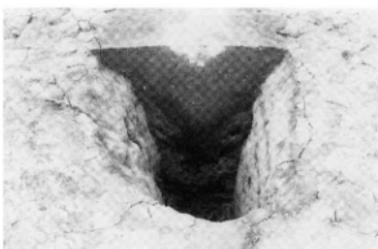
H1 脱し穴状遺構 完掘 (南から)



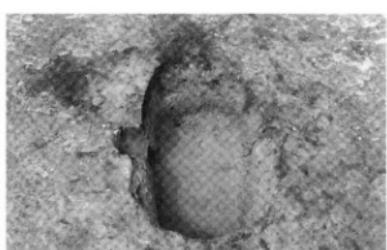
同左 断面 (南から)



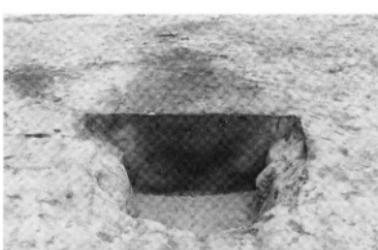
H2 脱し穴状遺構 完掘 (南から)



同左 断面 (南から)



H3 脱し穴状遺構 完掘 (南から)

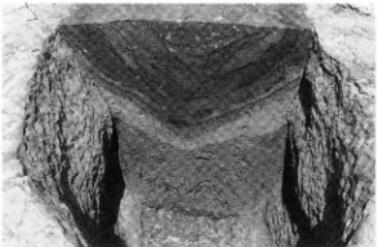


同左 断面 (南から)

写真図版34 H区 調査前状況・脱し穴状遺構 (1)



H4 陥し穴状遺構 完掘（南から）



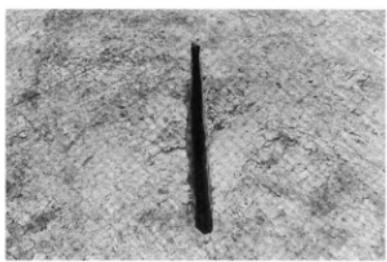
同左 断面（南から）



H5 陥し穴状遺構 完掘（南から）



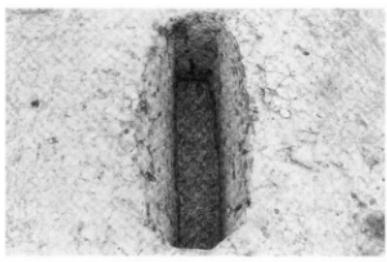
同左 断面（南から）



H6 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



H7 陥し穴状遺構 完掘（南から）

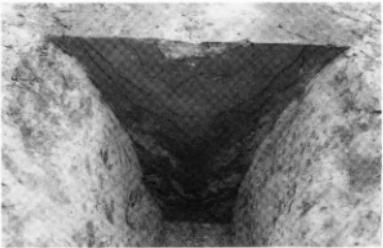


同左 断面（南から）

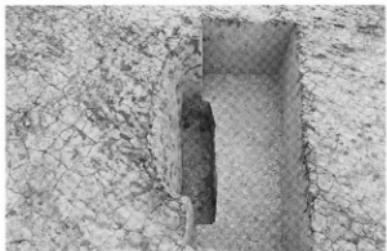
写真図版35 H区 陥し穴状遺構（2）



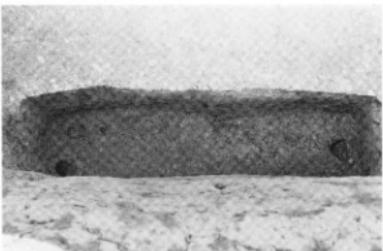
H8 陥し穴状遺構 完掘（南から）



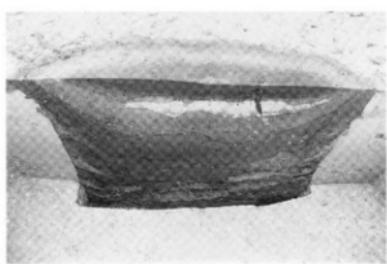
同左 断面（南から）



H9 陥し穴状遺構 完掘（南から）



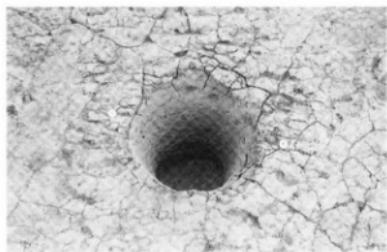
同左 底面状況（南西から）



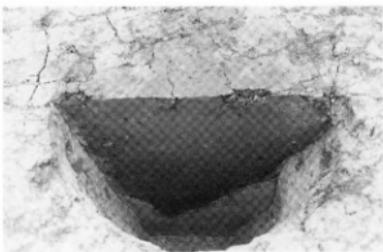
同上 断面1（東から）



同左 断面2（南東から）

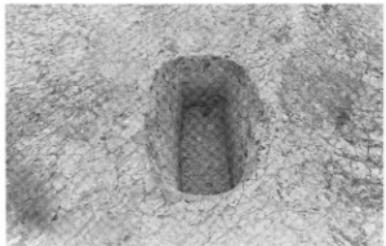


H11 陥し穴状遺構 完掘（南から）

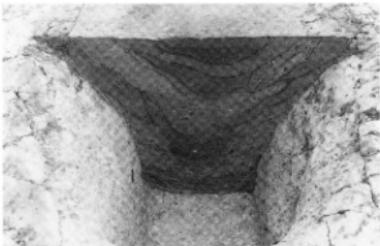


同左 断面（南から）

### 写真図版36 H区 陥し穴状遺構（3）



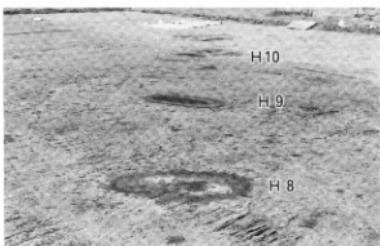
H10 賽し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



同上底部火山灰状況（東から）



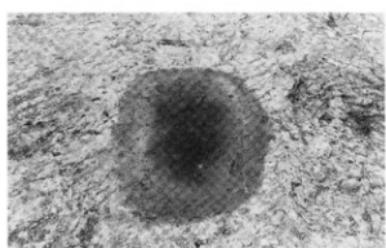
H 8～H 10 検出状況断面（南西から）



H8 賽し穴状遺構 検出（南から）



H9 賽し穴状遺構 検出（南から）



H10 賽し穴状遺構 検出（南から）

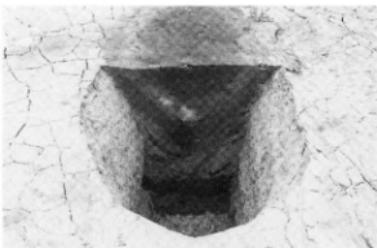


作業風景

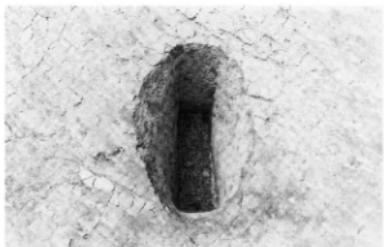
写真図版37 H区 賽し穴状遺構（4）



H12 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）



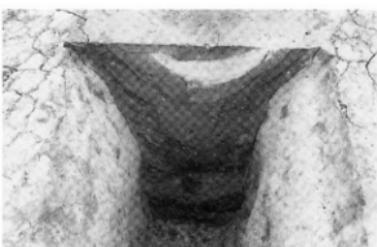
H13 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



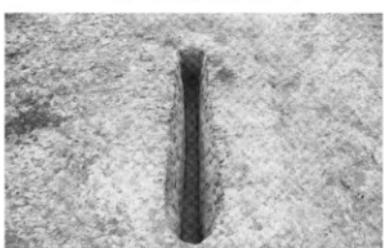
同左 断面（南東から）



H14 陥し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面（東から）



H15 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

写真図版38 H区 陥し穴状遺構（5）



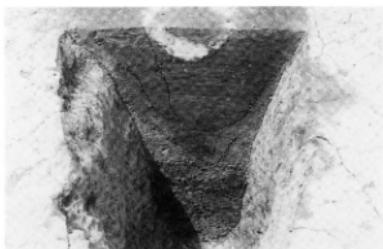
H16 脱し穴状造構 完掘（南西から）



同左 断面（南西から）



H17 脱し穴状造構 完掘（東から）



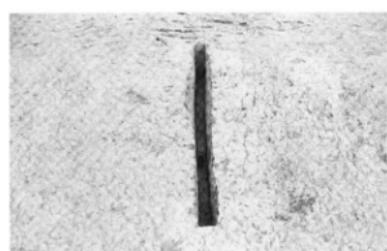
同左 断面（東から）



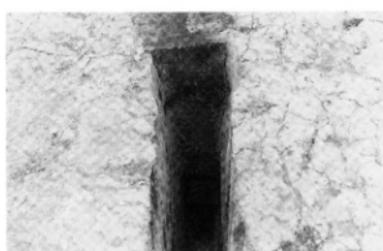
H18 脱し穴状造構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



H19 脱し穴状造構 完掘（南から）

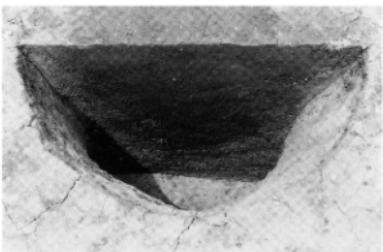


同左 断面（南から）

写真図版39 H区 脱し穴状造構（6）



H20 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



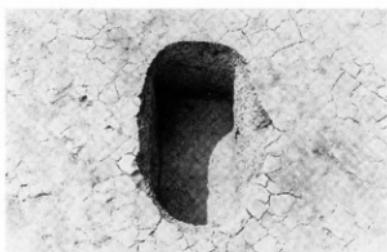
同左 断面（南東から）



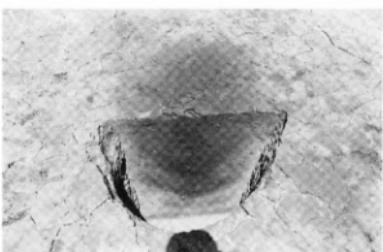
H21 陥し穴状遺構 完掘（西から）



同左 断面（西から）



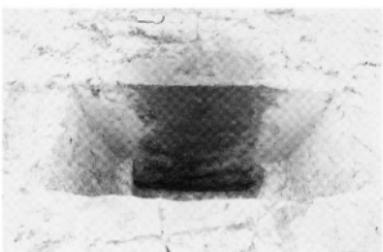
H23 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）



H25 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

写真図版40 H区 陥し穴状遺構（7）



H22 陥し穴状遺構 完掘（南から）



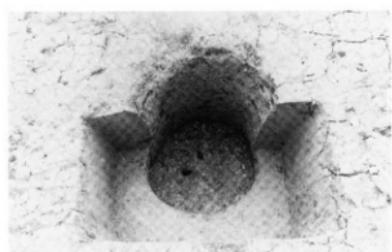
同左 断面（南から）



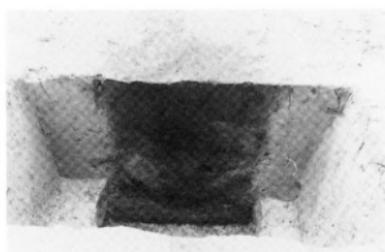
同上 底面状況（南から）



H24 陥し穴状遺構 底部炭化材検出状況（東から）



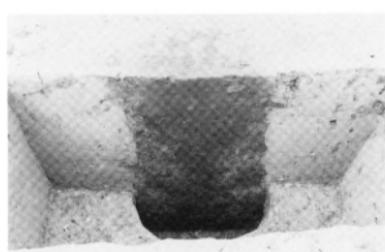
H24 陥し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面（東から）



H26 陥し穴状遺構 完掘（南から）

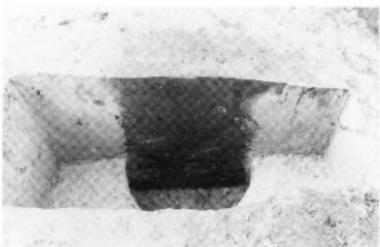


同左 断面（南から）

写真図版41 H区 陥し穴状遺構（8）



H27 陥し穴状遺構 完掘（南から）



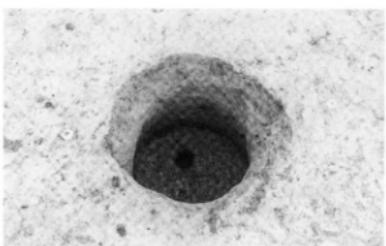
同左 断面（南から）



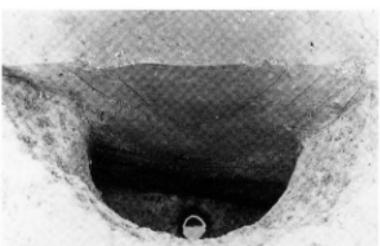
H28 陥し穴状遺構 完掘（南から）



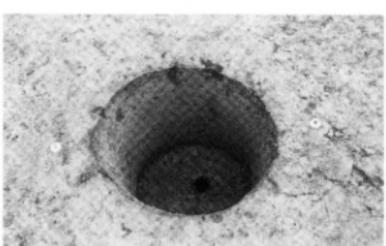
同左 断面（南から）



H29 陥し穴状遺構 完掘（北から）



同左 断面（南から）

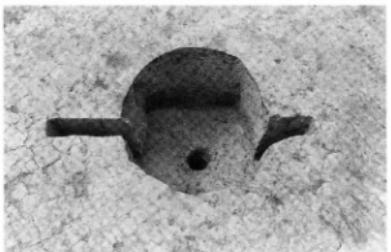


H30 陥し穴状遺構 完掘（北から）

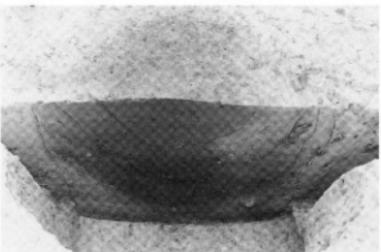


同左 断面（南から）

写真図版42 H区 陥し穴状遺構（9）



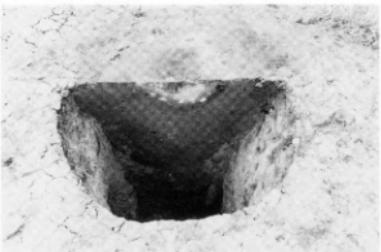
H31 陥し穴状遺構 完掘（南から）



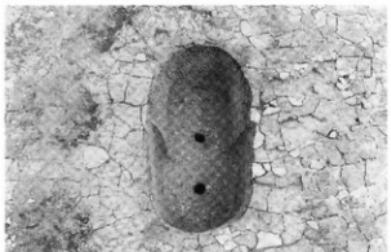
同左 断面（南から）



H32 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



H33 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

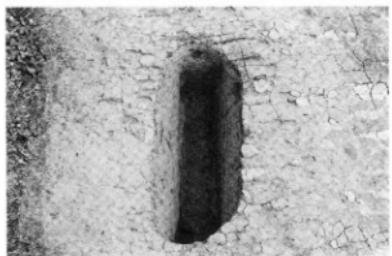


H35 陥し穴状遺構 完掘（東から）

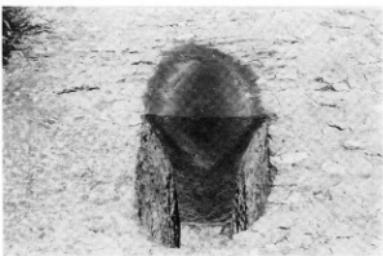


同左 断面（東から）

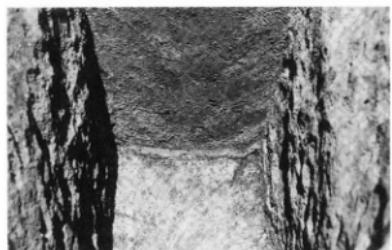
写真図版43 H区 陥し穴状遺構（10）



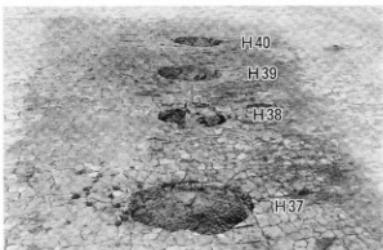
H34 埋し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



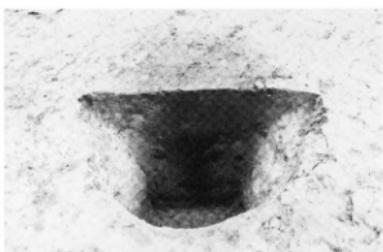
同上 底部火山灰堆積状況（南から）



H37~H40 完掘状況（南から）



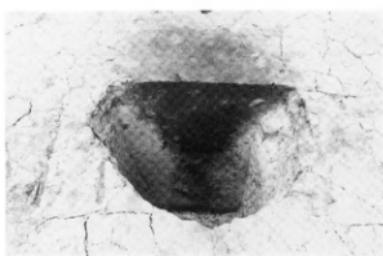
H36 埋し穴状遺構 完掘（南西から）



同左 断面（北東から）



H37 埋し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面（東から）

写真図版44 H区 埋し穴状遺構 (11)



H38 窓し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面（東から）



H39 窓し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面（東から）



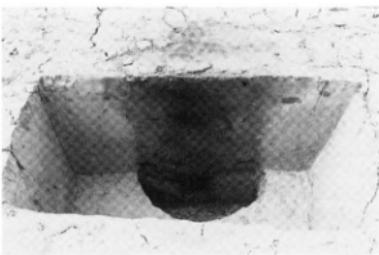
H40 窓し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面（東から）

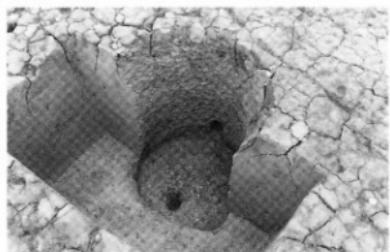


H42 窓し穴状遺構 完掘（南東から）

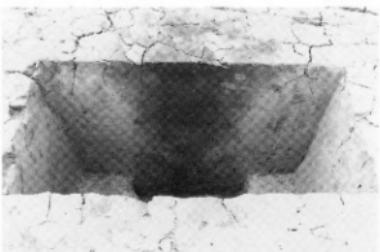


同左 断面（南東から）

写真図版45 H区 窓し穴状遺構 (12)



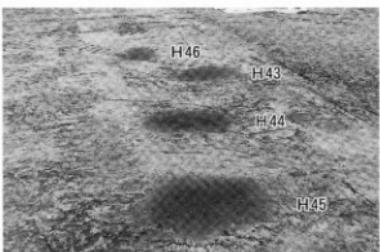
H41 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



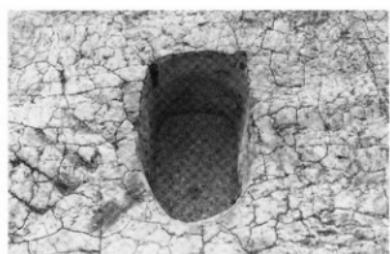
同左 断面（南から）



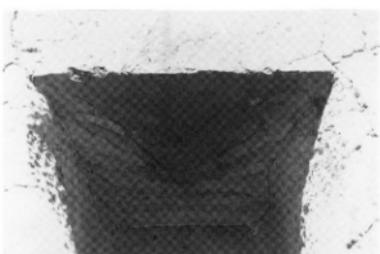
同上 底面炭化材検出状況（南から）



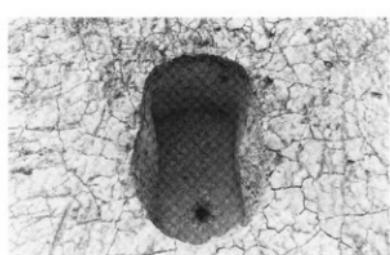
H43～H46 陥し穴状遺構 検出状況（北から）



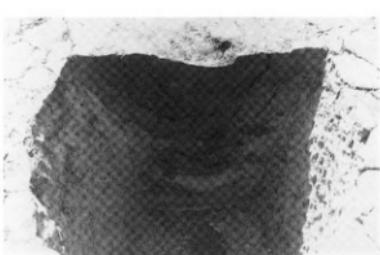
H43 陥し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面（東から）

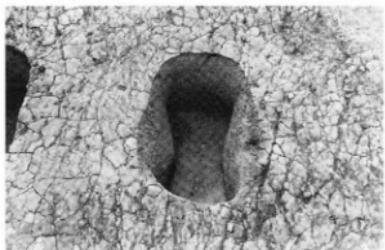


H44 陥し穴状遺構 完掘（東から）

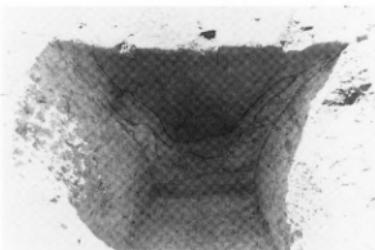


同左 断面（東から）

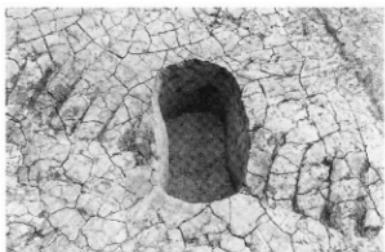
#### 写真図版46 H区 陥し穴状遺構 (13)



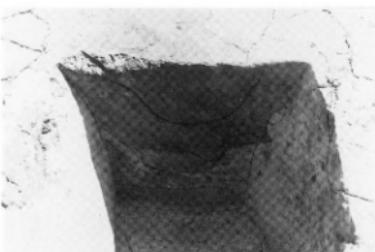
H45 陥し穴状遺構 完掘（東から）



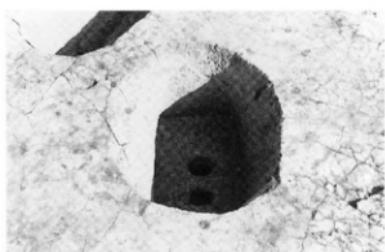
同左 断面（東から）



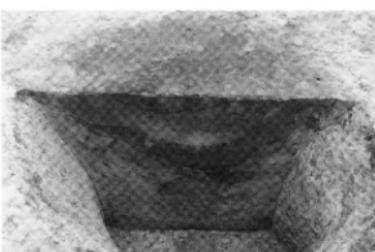
H46 陥し穴状遺構 完掘（北から）



同左 断面（北から）



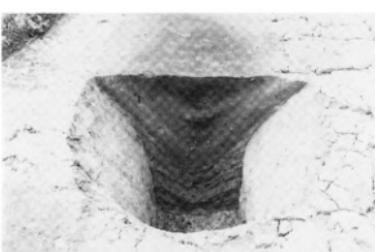
H47 陥し穴状遺構 完掘（北から）



同左 断面（南から）



H48 陥し穴状遺構 完掘（南から）

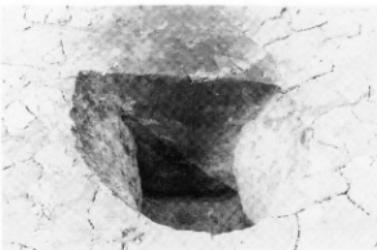


同左 断面（南から）

写真図版47 H区 陥し穴状遺構（14）



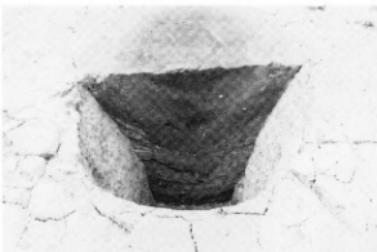
H49 陥し穴状遺構 完掘（南西から）



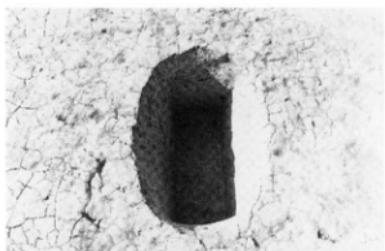
同左 断面（南西から）



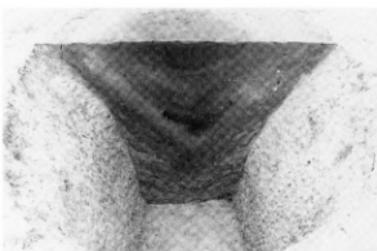
H50 陥し穴状遺構 完掘（南から）



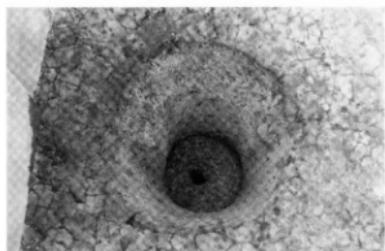
同左 断面（南から）



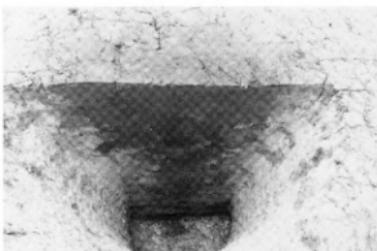
H51 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



H52 陥し穴状遺構 完掘（南から）

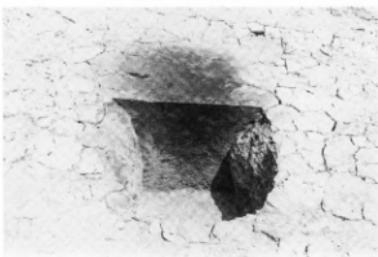


同左 断面（南から）

写真図版48 H区 陥し穴状遺構 (15)



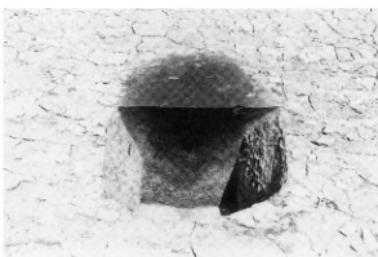
H53 脱し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



H54 脱し穴状遺構 完掘（南から）



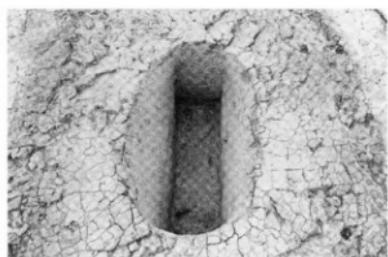
同左 断面（南から）



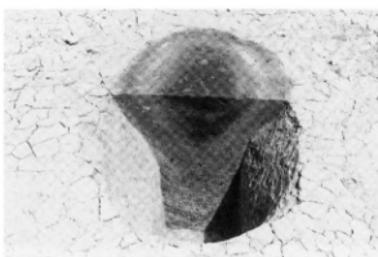
H55 脱し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

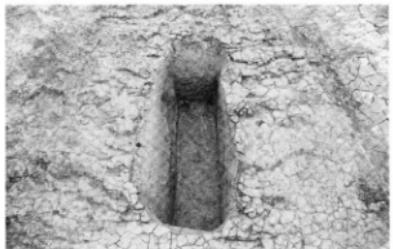


H56 脱し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

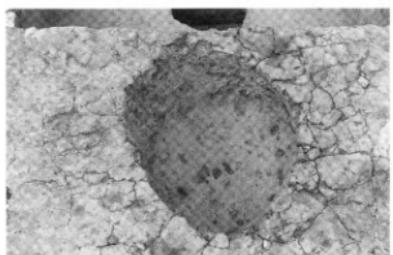
写真図版49 H区 脱し穴状遺構 (16)



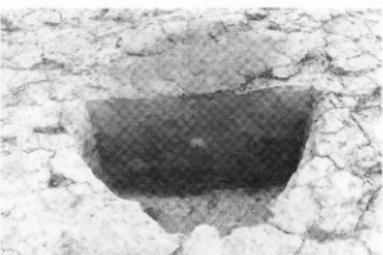
H57 陥し穴状造構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



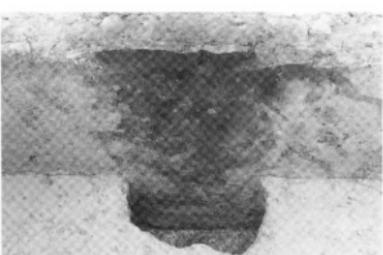
H58 陥し穴状造構 完掘（南から）



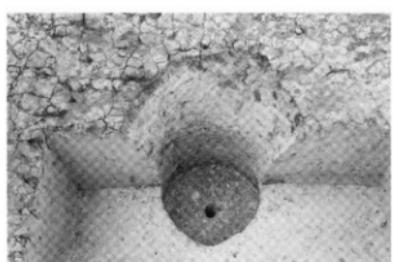
同左 断面（南から）



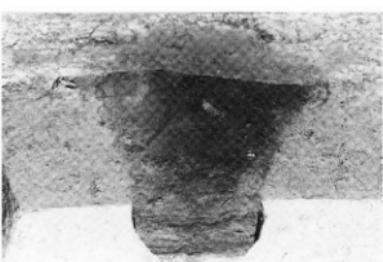
H59 陥し穴状造構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



H60 陥し穴状造構 完掘（南から）

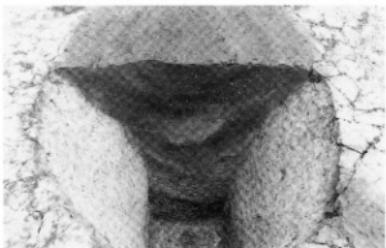


同左 断面（南から）

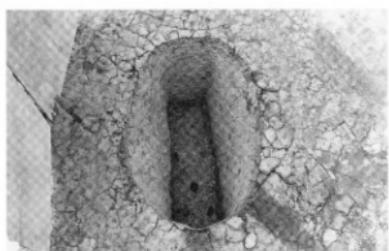
写真図版50 H区 陥し穴状造構 (17)



H61 陷し穴状遺構 完掘（南から）



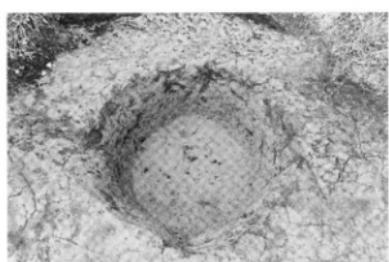
同左 断面（南から）



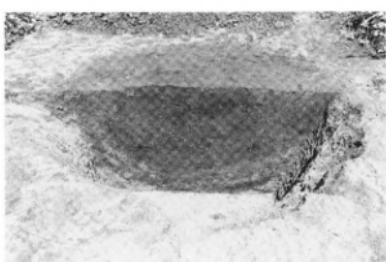
同上 副穴分布状況（南から）



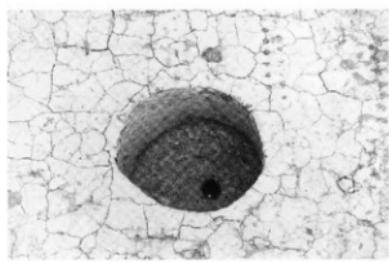
表土除去状況



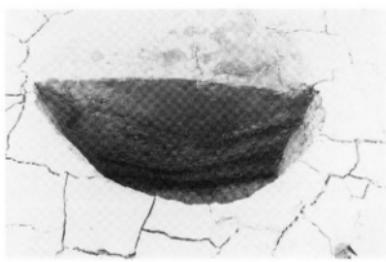
H62 陷し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

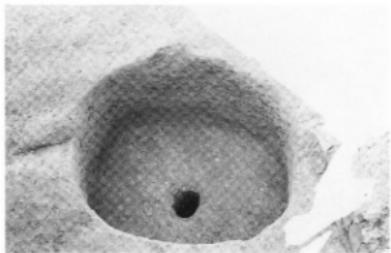


H63 陷し穴状遺構 完掘（南から）

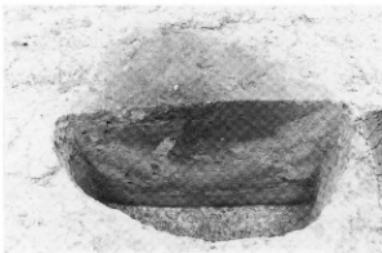


同左 断面（南から）

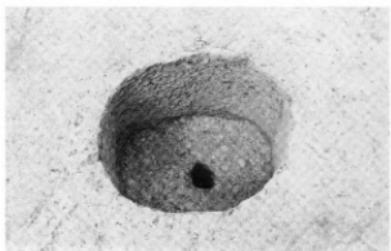
#### 写真図版51 H区 陷し穴状遺構 (18)



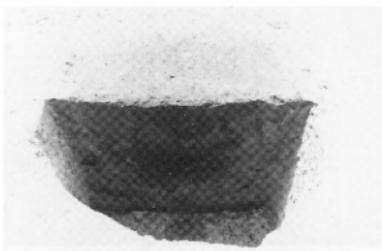
H64 陥し穴状遺構 完掘（南から）



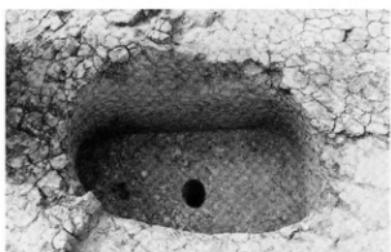
同左 断面（南から）



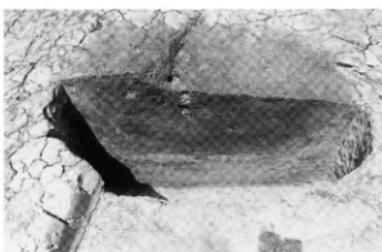
H65 陥し穴状遺構 完掘（南から）



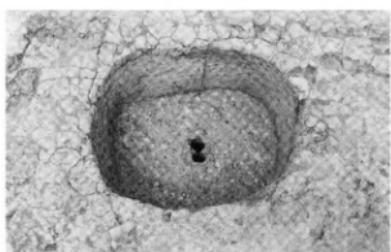
同左 断面（東から）



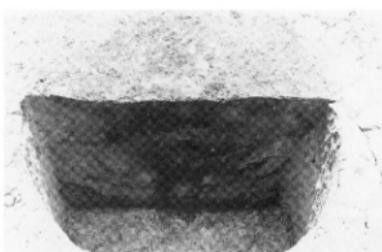
H66 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

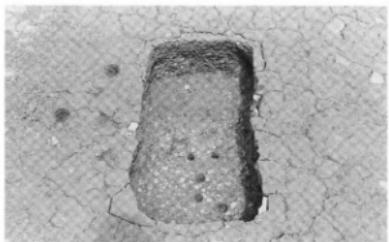


H67 陥し穴状遺構 完掘（南から）

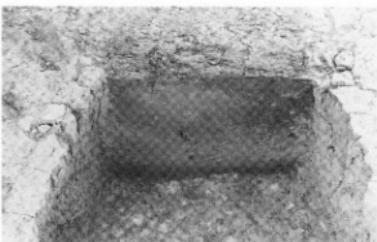


同左 断面（東から）

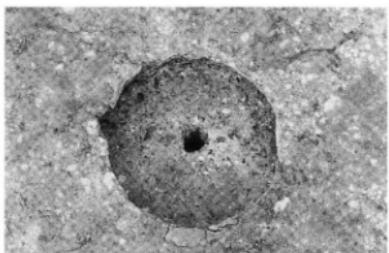
写真図版52 H区 陥し穴状遺構 (19)



H68 陥し穴状遺構 完掘（南から）



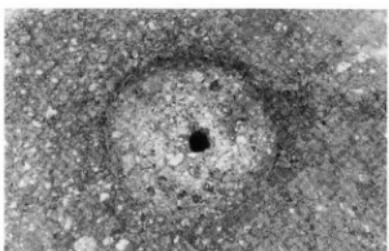
同左 断面（南から）



H69 陥し穴状遺構 完掘（南から）



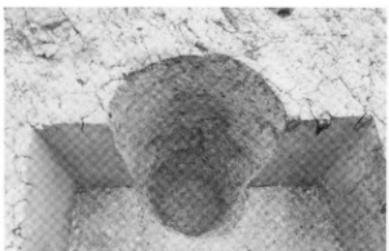
同左 断面（南から）



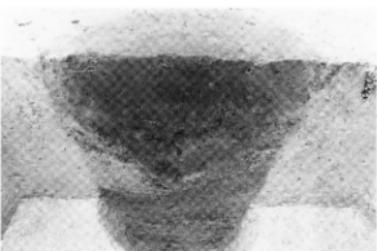
H70 陥し穴状遺構 完掘（南から）



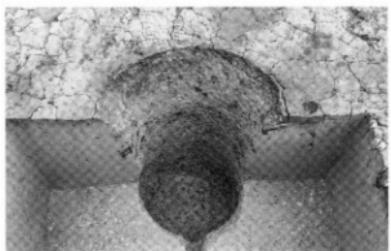
同左 断面（南から）



H71 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



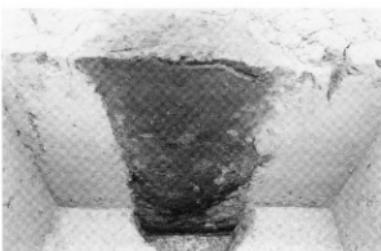
H72 脱し穴状遺構 完掘（南から）



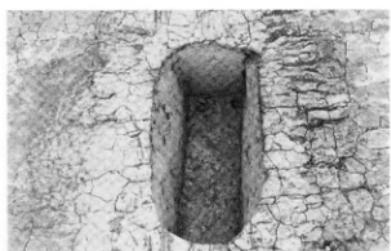
同左 断面（南から）



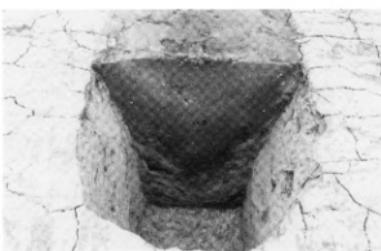
H73 脱し穴状遺構 完掘（南から）



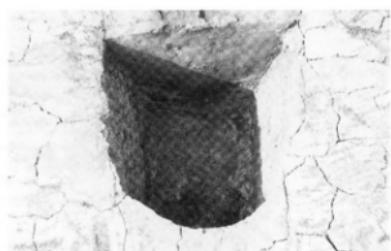
同左 断面（南から）



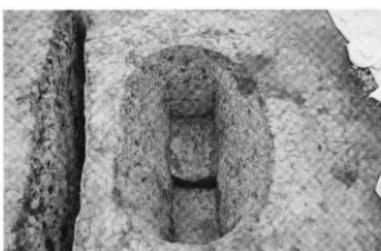
H74 脱し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

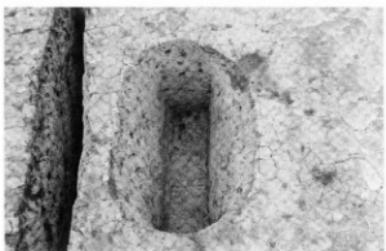


同上 火山灰確認状況（南から）



H75 脱し穴状遺構 火山灰確認状況（南から）

写真図版54 H区 脱し穴状遺構 (21)



H75 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



H76 陥し穴状遺構 完掘（南から）



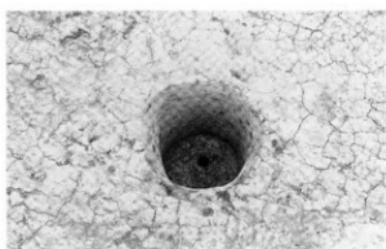
同左 断面（南から）



H77 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



H78 陥し穴状遺構 完掘（北から）



同左 断面（南から）



H79 脱し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）



H80 脱し穴状遺構 完掘（東から）



同左 断面（東から）



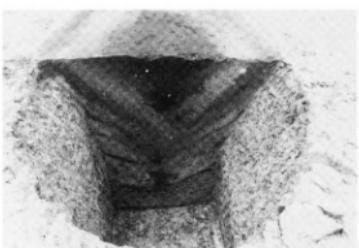
同上 底部火山灰検出状況（東から）



H81 脱し穴状遺構 底部火山灰検出状況（南から）

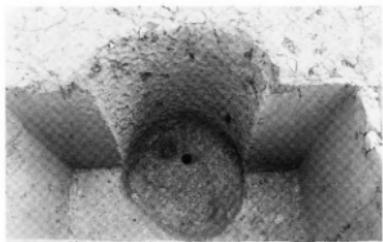


H81 脱し穴状遺構 完掘

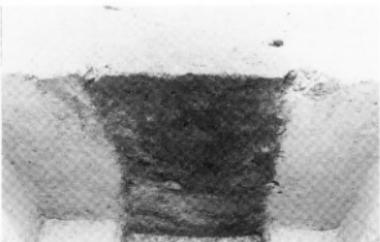


同左 断面（東から）

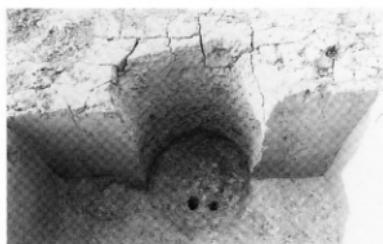
写真図版56 H区 脱し穴状遺構 (23)



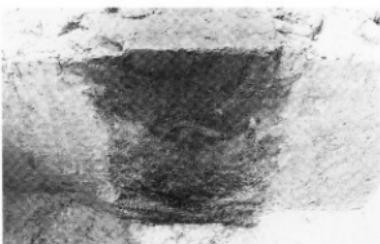
H82 陥し穴状遺構 完掘（北から）



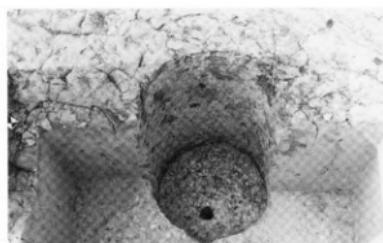
同左 断面（北から）



H83 陥し穴状遺構 完掘（南から）



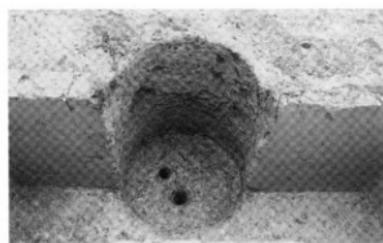
同左 断面（南から）



H84 陥し穴状遺構 完掘（南から）



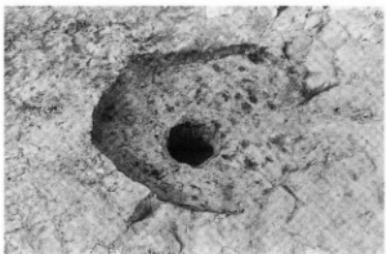
同左 断面（南から）



H85 陥し穴状遺構 完掘（南から）



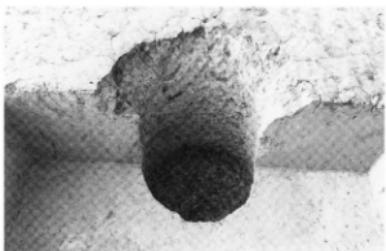
同左 断面（南から）



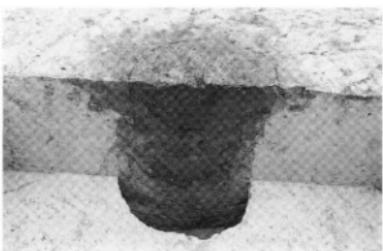
H86 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



H87 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



H88 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）



H89 陥し穴状遺構 完掘（南東から）

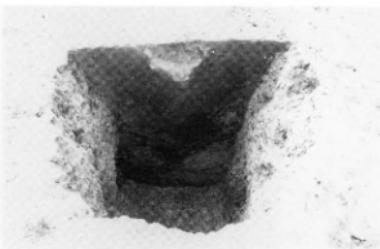


同左 断面（南東から）

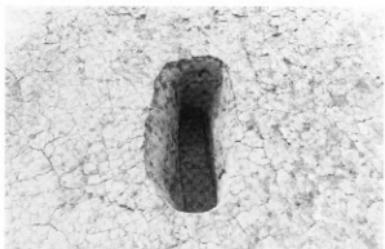
写真図版58 H区 陥し穴状遺構 (25)



H90 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）



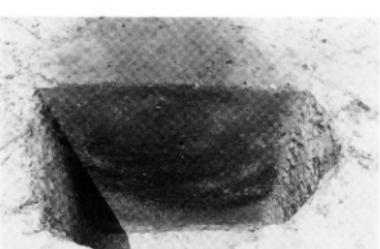
H91 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



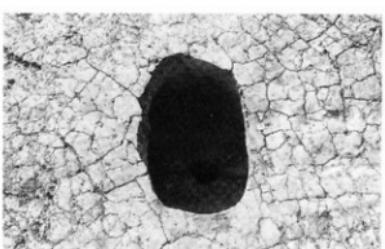
同左 断面（南東から）



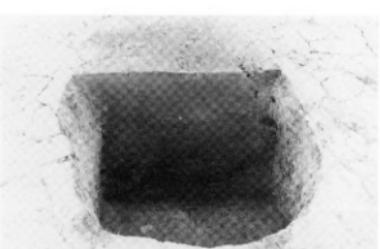
H92 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）

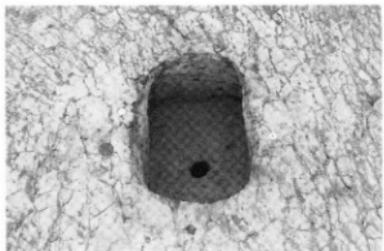


H93 陥し穴状遺構 完掘（南東から）

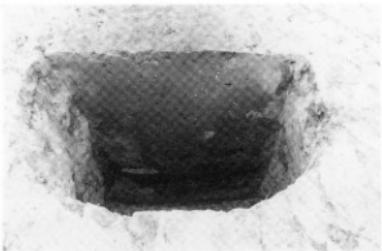


同左 断面（南東から）

写真図版59 H区 陥し穴状遺構 (26)



H94 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）



調査終了状況 1（南西から）



調査終了状況 2（西から）



調査終了状況 3（南から）



調査終了状況 4（南西から）

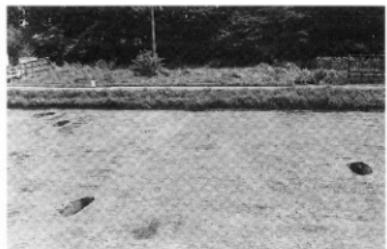


調査終了状況 5（西から）



調査終了状況 6（北西から）

写真図版60 H区 陥し穴状遺構 (27)・調査終了状況 (1)



調査終了状況7（北から）



調査終了状況8（北西から）



調査終了状況9（東から）



調査終了状況10（南東から）



調査終了状況11（南東から）



調査終了状況12（南から）

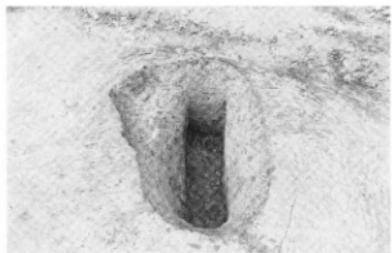


調査終了状況13（東から）



作業風景

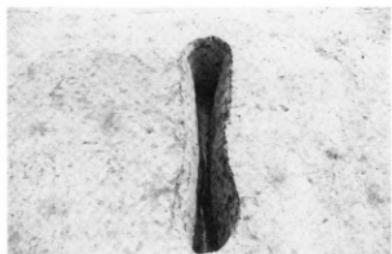
#### 写真図版61 H区 調査終了状況（2）



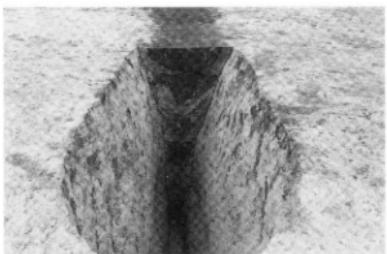
I-1 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



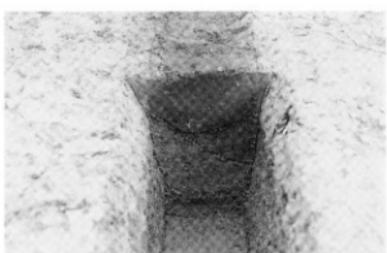
I-2 陥し穴状遺構 完掘（西から）



同左 断面（東から）



I-3 陥し穴状遺構 完掘（南東から）



同左 断面（南東から）



I-4 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

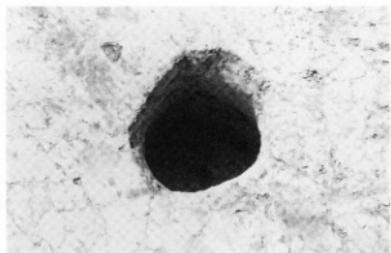
写真図版62 1区 陥し穴状遺構（1）



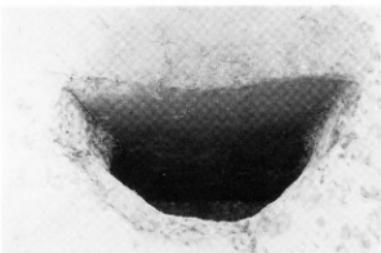
I 5 陥し穴状造構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



I 6 陥し穴状造構 完掘（北から）



同左 断面（南から）



I 7 陥し穴状造構 完掘（南東から）



同左 断面（南から）

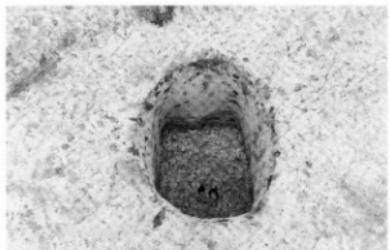


現地説明会の様子

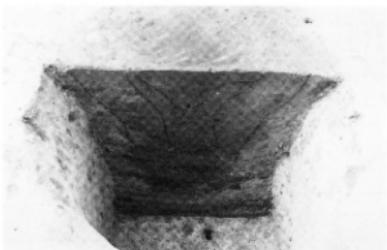


現地説明会の様子

写真図版63 I区 陥し穴状造構（2）



J1 脱し穴状造構 完掘（南から）



同左 断面（南から）



同上 底面火山灰堆積状況（南西から）



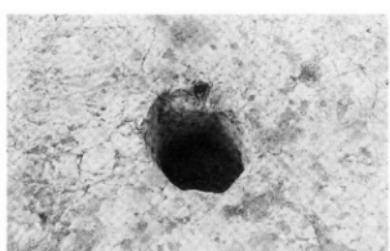
作業風景



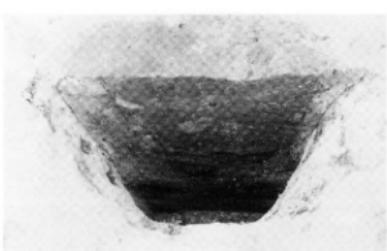
J2 脱し穴状造構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

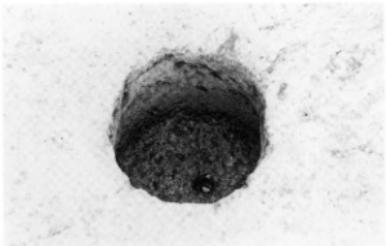


J3 脱し穴状造構 完掘（南から）

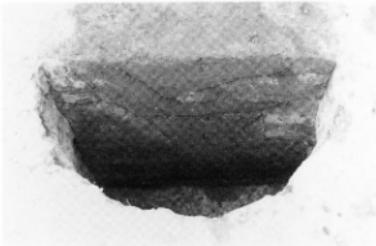


同左 断面（南から）

写真図版64 J区 脱し穴状造構（1）



J4 陥し穴状遺構 完掘（南から）



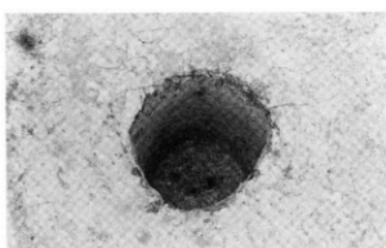
同左 断面（南から）



J5 陥し穴状遺構 完掘（西から）



同左 断面（西から）



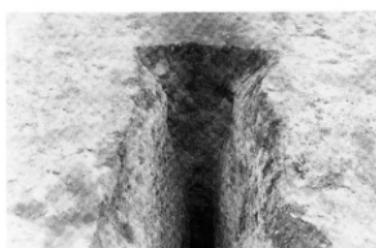
J6 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

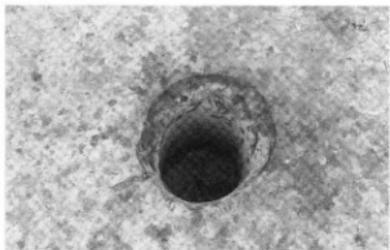


J7 陥し穴状遺構 完掘（南から）

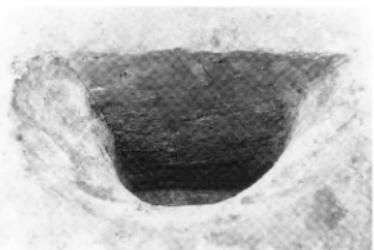


同左 断面（南から）

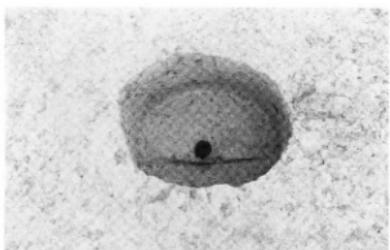
写真図版65 J区 陥し穴状遺構（2）



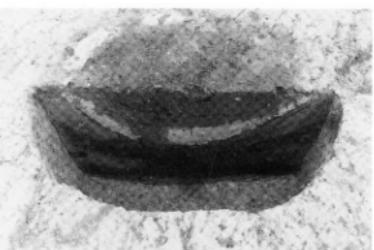
J 8 陥し穴状遺構 完掘（北から）



同左 断面（南から）



J 9 陥し穴状遺構 完掘（南から）



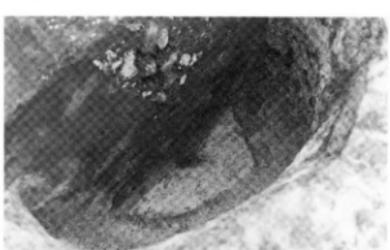
同左 断面（南から）



J 10 陥し穴状遺構 完掘（南から）



同左 断面（南から）

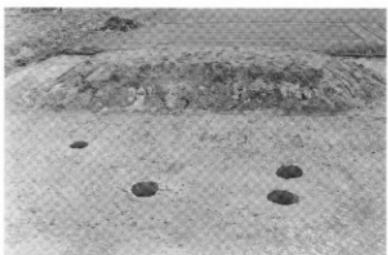


同上 底部火山灰堆積状況（南から）



作業風景

写真図版66 J区 陥し穴状遺構（3）



J区 調査終了状況 1 (西から)



J区 調査終了状況 2 (北西から)



J区 調査終了状況 3 (北西から)



I区 調査終了状況 1 (北から)



I区 調査終了状況 2 (北東から)

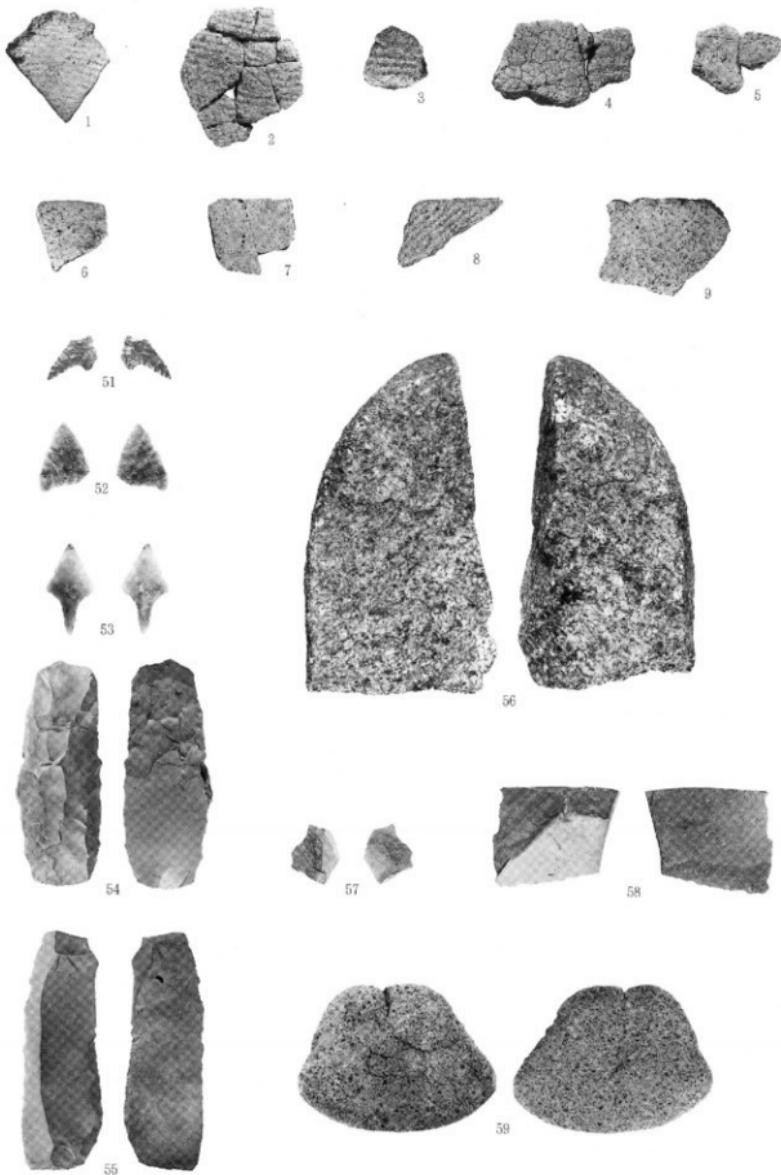


I区 調査終了状況 3 (東から)



調査関係者集合写真

写真図版67 I・J区 調査終了状況



写真図版68 出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	みやざわはらしたいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	宮沢原下遺跡発掘調査報告書
副書名	平成17年度国営いさわ南部農地整備事業関連調査
卷次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第495集
編著者名	戸根貴之
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001
発行年月日	2007年1月23日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ○○○	東経 ○○○	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
宮沢原下遺跡	岩手県奥州市南陽区宮沢原地内	03215	NE23-2347	39度6分57秒	141度0分41秒	2005.04.13 ~ 2005.08.31	58,700m <sup>2</sup>	国営いさわ南部農地整備事業に伴う事前調査
所収遺跡名		種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
宮沢原下遺跡		狩場跡	縄文時代 平安時代 時期不明	陥し穴状遺構 焼土遺構	206基 1基	繩文上器・土師器・石器(石磯・スクレイバー・石窓)		
要約	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縄文時代及び平安時代の陥し穴状遺構が多数検出された。</li> <li>・「和田a火山灰を含む陥し穴状遺構の特徴が見出され、平安時代を中心とした古代の陥し穴状遺構の形態の一端が特定された。</li> </ul>							

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第195集

## 宮沢原下遺跡発掘調査報告書

平成17年度国営いさわ南部農地整備事業関連調査

印 刷 平成19年1月20日

発 行 平成19年1月29日

発 行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下巣岡11地割185番地

電話 (019) 638-9001

FAX (019) 638-8563

印 刷 株式会社 五六堂印刷  
〒020-0021 岩手県盛岡市中央通3丁目16番15号  
電話 (019) 654-5610

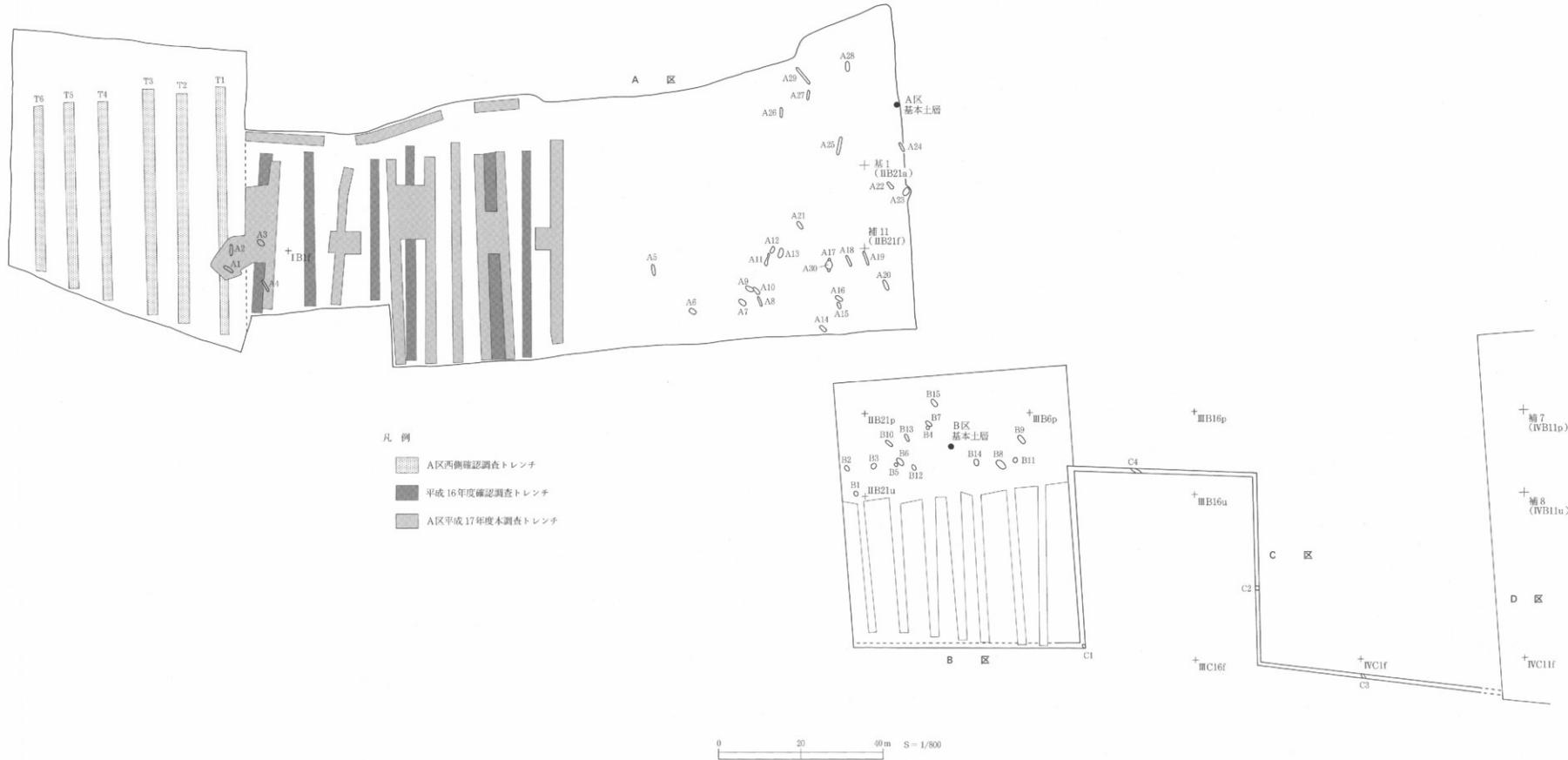
---

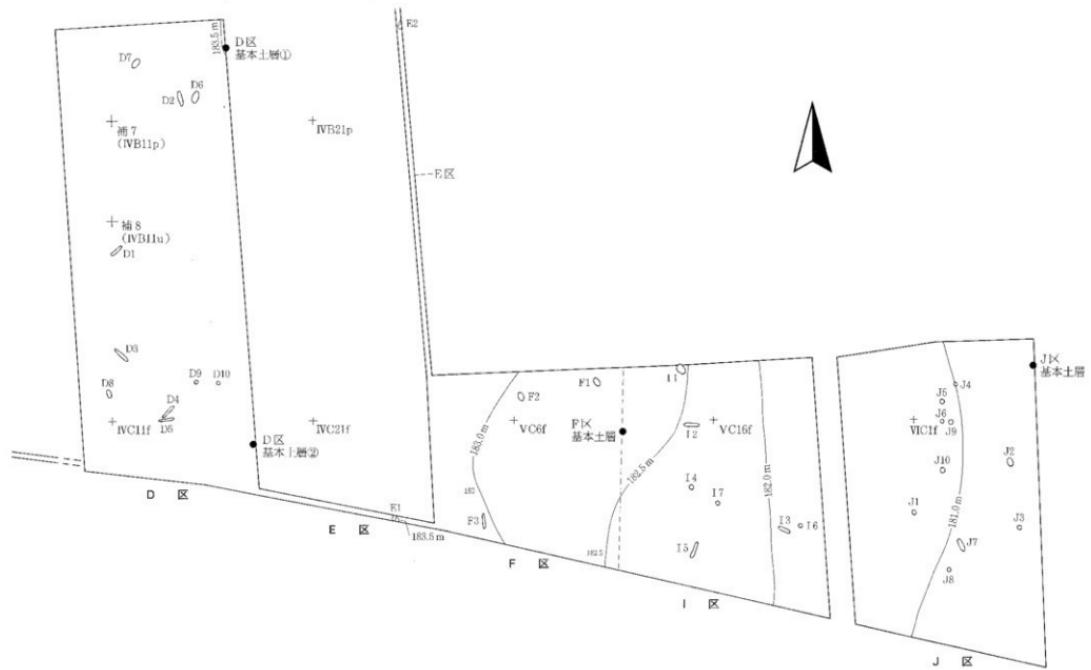
© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2007

付図1 宮沢原下遺跡遺構配置図1  
(A～C区)

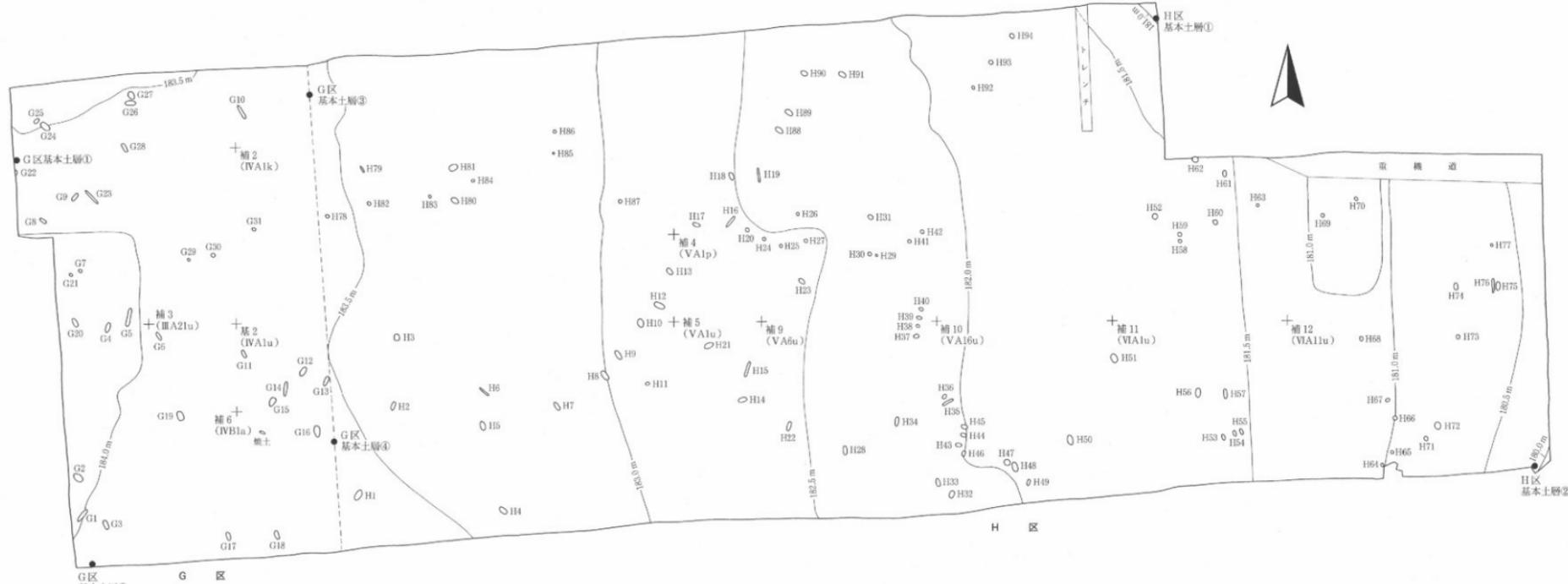
付図2 宮沢原下遺跡遺構配置図2  
(D～F、I～J区)

付図3 宮沢原下遺跡遺構配置図3  
(G、H区)





付図2 宮沢原下遺跡遺構配置図2（D～F、I～J区）



付図3 宮沢原下遺跡遺構配置図3 (G、H区)

